平成２７年度

講 義 計 画 書

（シラバス）

鹿児島県立短期大学

総　　目　　次

1　教養科目（人文，社会，自然，総合）……1

2　教養科目（外国語科目）……12

3　教養科目（スポーツ・健康科目）……42

4　教養科目（情報科目）……45

5　日本語日本文学専攻専門科目……51

6　英語英文学専攻専門科目……76

7　生活科学科共通科目……111

8　食物栄養専攻専門科目……113

9　生活科学専攻専門科目……134

10　第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）……158

11　経済専攻専門科目……170

12　経営情報専攻専門科目……180

13　第二部商経学科教養科目（教養一般）……190

14　第二部商経学科教養科目（外国語科目）……197

15　第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）……202

16　第二部商経学科教養科目（情報科目）……203

17　第二部商経学科専門科目……205

18　商経学科の演習・実習科目……233

19　教職に関する科目……236

20　司書教諭に関する科目……249

文学科　日本語日本文学専攻

【教養科目】

（人文）

日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 8

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 10
企業研修 …… 11

（外国語科目）

英語Ⅰ（A）…… 12
英語Ⅰ（A）…… 12
英語Ⅱ（A）…… 17
英語Ⅱ（A）…… 17
英語Ⅲ（D）…… 23
英語Ⅲ（E）…… 24
英語Ⅲ（F）…… 24
英語Ⅲ（G）…… 25
英語Ⅲ（H）…… 25
英語Ⅳ（A）…… 26
英語Ⅳ（B）…… 26
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
中国語Ⅰ（A）…… 32
中国語Ⅰ（B）…… 33
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（A）…… 36
中国語Ⅱ（B）…… 37
中国語Ⅱ（H）…… 40
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 41

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（A）…… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（A）…… 44

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（A）…… 45
情報リテラシーⅡ（A）…… 48

【専門科目】

（専門基礎科目群）

日本文学概論 …… 51
言語学概論 …… 51

（日本語学科目群）

日本語学概論 …… 52
日本語教育概論 …… 52
日本語史 …… 53
日本文法論 …… 53
日本語学講義 …… 54
日本語学講読Ⅰ …… 54
日本語学講読Ⅱ …… 55
日本語学演習Ⅰ …… 55
日本語学演習Ⅱ …… 56
日本語学演習Ⅲ …… 55
日本語学演習Ⅳ …… 56
日本語学演習Ⅴ …… 57
日本語学演習Ⅵ …… 56
日本語表現法 …… 57
日本語表現法演習 …… 58
対照言語学 …… 58

（日本文学「古典」科目群）

日本文学講義Ⅰ …… 59
日本文学講読Ⅰ …… 59
日本文学講読Ⅱ …… 60
日本文学講読Ⅲ …… 60
日本文学演習Ⅰ …… 61
日本文学演習Ⅱ …… 61
日本文学演習Ⅲ …… 61

（日本文学「近代」科目群）

日本文学史・近代Ⅰ …… 62
日本文学史・近代Ⅱ …… 62
日本文学講義Ⅱ …… 63
日本文学講読Ⅳ …… 63
日本文学講読Ⅴ …… 64
日本文学講読Ⅵ …… 64
日本文学講読Ⅶ …… 65
日本文学演習Ⅳ …… 65
日本文学演習Ⅴ …… 66
日本文学演習Ⅵ …… 65

（地域文学・中国文学科目群）

南九州の文学 …… 66
中国文学史Ⅰ …… 67
中国文学史Ⅱ …… 67
中国文学講読Ⅰ …… 68
中国文学講読Ⅱ …… 68
中国文学演習Ⅰ …… 69
中国文学演習Ⅱ …… 69
中国文学演習Ⅲ …… 70

（卒業研究）

卒業研究Ⅰ …… 70
卒業研究Ⅱ …… 70

（関連科目群）

比較文化 …… 71
英文学史 …… 71
米文学史 …… 72
読書と豊かな人間性 …… 72
情報メディアの活用 …… 73
書道Ⅰ …… 73
書道Ⅱ …… 74
書道Ⅲ …… 74
書道Ⅳ …… 75

【教職に関する科目】

教職入門 …… 236
教育原理 …… 237
教育心理学 …… 238
教育行政学概論 …… 238
教育課程論 …… 239
国語科教育法 …… 239
道徳教育の研究 …… 241
特別活動の研究 …… 242
教育方法学概論 …… 243
教育相談 …… 243
生徒指導論 …… 244
教職実践演習（中）…… 245
教育実習 …… 247

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館 …… 249
学習指導と学校図書館 …… 249
読書と豊かな人間性 …… 250
情報メディアの活用 …… 250

文学科　英語英文学専攻

【教養科目】

（人文）

日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 8

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 10
企業研修 …… 11

（外国語科目）

英語Ⅲ（A）…… 22
英語Ⅲ（B）…… 22
英語Ⅲ（C）…… 23
英語Ⅲ（D）…… 23
英語Ⅲ（E）…… 24
英語Ⅲ（F）…… 24
英語Ⅲ（G）…… 25
英語Ⅲ（H）…… 25
英語Ⅳ（A）…… 26
英語Ⅳ（B）…… 26
英語Ⅳ（C）…… 27
英語Ⅳ（D）…… 27
英語Ⅳ（E）…… 28
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
ドイツ語Ⅰ …… 30
ドイツ語Ⅱ …… 31
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 32
中国語Ⅰ（B）…… 33
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（B）…… 37
中国語Ⅱ（H）…… 40
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 41

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（B）…… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（B）…… 44

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（B）…… 45
情報リテラシーⅡ（B）…… 48

【専門科目】

（専門基礎科目群）

スタディスキルズ …… 76
言語学概論 …… 76
比較文学 …… 77

（コミュニケーション科目群）

オーラルコミュニケーションⅠ …… 78～79
オーラルコミュニケーションⅡ …… 80～81
オーラルコミュニケーションⅢ …… 82～83
オーラルコミュニケーションⅣ …… 83～84
ＬＬ演習Ⅰ …… 84
ＬＬ演習Ⅱ …… 85
ＬＬ演習Ⅲ …… 85
コミュニケーション概論 …… 86
ビジネス英語 …… 86
通訳入門 …… 87

（英語学科目群）

英語学概論 …… 87
英文法 …… 88
英語史 …… 88
英語音声学 …… 89
英語表現法Ⅰ …… 89～90
英語表現法Ⅱ …… 90～91
英語表現法Ⅲ …… 91～92
講読演習Ⅰ …… 92
基礎演習Ⅰ …… 93
英語学演習 …… 94

（英米文学科目群）

英文学概論 …… 95
英文学史 …… 95
米文学史 …… 96
英米文学講読Ⅰ …… 96
英米文学講読Ⅱ …… 97
英米文学講読Ⅲ …… 97
講読演習Ⅱ …… 98
基礎演習Ⅱ …… 98～99
英米文学演習 …… 99～100

（比較文化科目群）

比較文化（新）…… 100
イギリス事情 …… 101
アメリカ事情 …… 101
ヨーロッパ事情 …… 102
講読演習Ⅲ …… 102
基礎演習Ⅲ …… 103
比較文化演習 …… 103

（関連科目群）

対照言語学 …… 104
日本語学概論 …… 104
日本文学史Ⅰ …… 105
日本文学史Ⅱ …… 105
日本語教育概論 …… 106
国際経済論 …… 106
国際関係論 …… 107
検定対策講座Ⅰ …… 107
検定対策講座Ⅱ …… 108

（卒業研究）

卒業研究 …… 108～110

【教職に関する科目】

教職入門 …… 236
教育原理 …… 237
教育心理学 …… 238
教育行政学概論 …… 238
教育課程論 …… 239
英語科教育法 …… 240
道徳教育の研究 …… 241
特別活動の研究 …… 242
教育方法学概論 …… 243
教育相談 …… 243
生徒指導論 …… 244
教職実践演習（中）…… 245
教育実習 …… 247

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館 …… 249
学習指導と学校図書館 …… 249
読書と豊かな人間性 …… 250
情報メディアの活用 …… 250

生活科学科　食物栄養専攻

【教養科目】

（人文）

文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 6
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 8

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 10
企業研修 …… 11

（外国語科目）

英語Ⅰ（C） …… 14
英語Ⅰ（C） …… 14
英語Ⅱ（C） …… 19
英語Ⅱ（C） …… 19
英語Ⅲ（A） …… 22
英語Ⅲ（B） …… 22
英語Ⅲ（C） …… 23
英語Ⅳ（A） …… 26
英語Ⅳ（B） …… 26
英語Ⅳ（F） …… 28
英語Ⅳ（G） …… 29
異文化コミュニケーション（英語） …… 29
異文化コミュニケーション（中国語） …… 30
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 32
中国語Ⅰ（F） …… 35
中国語Ⅰ（H） …… 36
中国語Ⅱ（F） …… 39
中国語Ⅱ（H） …… 40

（スポーツ・健康科目）

生涯スポーツ実習Ⅰ（C） …… 43
生涯スポーツ実習Ⅱ（C） …… 44

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（C） …… 46
情報リテラシーⅡ（C） …… 49

【専門科目】

（生活科学科目）

生活科学概論 …… 111
生活経営学 …… 111
人間関係論 …… 112
社会福祉論 …… 112

（基礎科目）

〈食物に関する科目〉

食品学Ⅰ …… 113
食品学Ⅱ …… 113
食品学実験 …… 114
食品衛生学 …… 114
食品衛生学実験 …… 115
食品加工学 …… 115
調理学 …… 116
調理学実習Ⅰ …… 116
調理学実習Ⅱ …… 117
調理学実習Ⅲ …… 117

〈消化・吸収・代謝に関する科目〉

栄養学総論 …… 118
栄養学各論 …… 118～119
栄養学実習 …… 119
解剖生理学 …… 120
解剖生理学実験 …… 120
生化学Ⅰ …… 121
生化学Ⅱ …… 121
生化学実験 …… 122

〈健康と運動に関する科目〉

健康と運動 …… 122
健康管理概論 …… 123
公衆衛生学 …… 123
運動生理学 …… 124

（応用科目）

〈給食の管理に関する科目〉

給食管理 …… 124
給食管理実習Ⅰ …… 125
給食管理実習Ⅱ …… 125
給食管理実習Ⅲ …… 126

〈栄養の指導〉

栄養教育論 …… 126
栄養指導論Ⅰ …… 127
栄養指導論Ⅱ …… 127
栄養指導論実習Ⅰ …… 128
栄養指導論実習Ⅱ …… 128
公衆栄養学 …… 129
栄養情報処理 …… 129

〈臨床関連科目〉

臨床栄養学Ⅰ …… 130
臨床栄養学Ⅱ …… 130
臨床栄養学実習 …… 131
病理学 …… 131

〈栄養教諭関連科目〉

学校栄養教育論 …… 132

（その他）

有機化学概論 …… 132
生物概論 …… 133

【教職に関する科目】

教職入門 …… 236
教育原理 …… 237
教育心理学 …… 238
教育行政学概論 …… 238
教育課程論 …… 239
道徳教育論 …… 241
特別活動論 …… 242
教育方法学概論 …… 243
教育相談 …… 243
生徒指導原論 …… 244
教職実践演習（栄養教諭） …… 246
栄養教育実習 …… 248
栄養教育実習の事前事後の指導 …… 248

生活科学科　生活科学専攻

【教養科目】

（人文）
文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 5

（自然）
数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 6
生物の科学 ……
食生活と健康 …… 8

（総合）
平和論 …… 8
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 10
企業研修 …… 11

（外国語科目）
英語Ⅰ（B）…… 13
英語Ⅰ（B）…… 13
英語Ⅱ（B）…… 18
英語Ⅱ（B）…… 18
英語Ⅲ（A）…… 22
英語Ⅲ（B）…… 22
英語Ⅲ（C）…… 23
英語Ⅳ（A）…… 26
英語Ⅳ（B）…… 26
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 32
中国語Ⅰ（G）…… 35
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（G）…… 39
中国語Ⅱ（H）…… 40

（スポーツ・健康科目）
スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（D）…… 43
生涯スポーツ実習Ⅱ（D）…… 44

（情報科目）
情報リテラシーⅠ（D）…… 46
情報リテラシーⅡ（D）…… 49

【専門科目】

（生活科学科目）
生活科学概論 …… 111
生活経営学 …… 111
人間関係論 …… 112
社会福祉論 …… 112

（専門基礎系）
生活環境学 …… 134
生活化学 …… 134
生活化学実験 …… 135
色彩学 …… 135
コンポジション …… 136
デジタル造形基礎 …… 136
テキスタイルサイエンス …… 137
ファッション造形基礎 …… 137

（ライフデザイン系）
生活文化 …… 138
衣生活学 …… 138
生活コロイド学 …… 139
食物と栄養 …… 139
調理学 …… 140
調理実習 …… 140
保育学 …… 141
卒業研究Ａ …… 141～142

（ビジュアル・ファッションデザイン系）
造形史 …… 142
ビジュアルデザイン論 …… 143
ビジュアルデザインⅠ …… 143
ビジュアルデザインⅡ …… 144
ファッションデザイン論 …… 144
ファッション造形Ⅰ …… 145
ファッション造形Ⅱ …… 145
ファッション造形Ⅲ …… 146
ファッションビジネス …… 146
デジタルデザイン論 …… 147
デジタルデザイン …… 147
卒業研究Ｂ …… 148

（建築デザイン系）
住生活学 …… 149
住居史 …… 149
住居・インテリア設計学 …… 150
設計製図Ⅰ …… 150
設計製図Ⅱ …… 151
住居構造学Ⅰ …… 151
住居構造学Ⅱ …… 152
住居環境学 …… 152
住居環境学演習 …… 153
建築材料学 …… 153
建築生産 …… 154
建築法規 …… 154
ＣＡＤ設計 …… 155
建築史 …… 155
ＣＡＤ設計特講 …… 156
設計製図Ⅲ …… 156
設計製図Ⅳ …… 157

【教職に関する科目】
教職入門 …… 236
教育原理 …… 237
教育心理学 …… 238
教育行政学概論 …… 238
教育課程論 …… 239
家庭科教育法 …… 240
道徳教育の研究 …… 241
特別活動の研究 …… 242
教育方法学概論 …… 243
教育相談 …… 243
生徒指導論 …… 244
教職実践演習（中）…… 245
教育実習 …… 247

【司書教諭に関する科目】
学校経営と学校図書館 …… 249
学習指導と学校図書館 …… 249
読書と豊かな人間性 …… 250
情報メディアの活用 …… 250

商経学科　経済専攻

【教養科目】
（人文）
文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3
（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 5
（自然）
数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 8
（総合）
平和論 …… 8
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 10
（外国語科目）
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅲ（D）…… 23
英語Ⅲ（E）…… 24
英語Ⅲ（F）…… 24
英語Ⅲ（G）…… 25
英語Ⅲ（H）…… 25
英語Ⅳ（C）…… 27
英語Ⅳ（D）…… 27
英語Ⅳ（E）…… 28
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
中国語Ⅰ（C）…… 33
中国語Ⅰ（E）…… 34
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（C）…… 37
中国語Ⅱ（E）…… 38
中国語Ⅱ（H）…… 40
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 41
（スポーツ・健康科目）
スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（E）…… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（E）…… 43
（情報科目）
情報リテラシーⅠ（E）…… 47
情報リテラシーⅡ（E）…… 50
【専門科目】
（専門基礎科目）
〈基礎理論〉
情報社会論 …… 158
現代社会論 …… 158
社会哲学 …… 159
経済学 …… 159
経済情報論 …… 160
消費者問題 …… 160
行政法 …… 161
経済政策 …… 161
社会政策 …… 162
社会思想 …… 162
民法 …… 163
商法 …… 163
産業心理学 …… 164
簿記論Ⅰ …… 164
経営学総論 …… 165
〈情報基礎〉
情報科学概論 …… 165
文書作成実習 …… 166
統計学 …… 166
応用文書処理 …… 167
ＰＣデータ活用 …… 167
ＰＣデータ活用実習 …… 168
ＰＣアプリケーション実習 …… 169
（専攻専門科目）
〈経済理論〉
日本経済論 …… 170
財政学 …… 170
農業経済論 …… 171
金融論 …… 171
経済学史 …… 172
経済学特講Ⅰ …… 172
簿記論Ⅱ …… 173
〈国際環境〉
国際経済論 …… 173
アジア経済論 …… 174
国際関係論 …… 174
比較文化…… 100
アジア事情 …… 175
ヨーロッパ事情 …… 175
国際経済特講 …… 176
〈地域政策〉
地域経済論 …… 176
地域産業政策 …… 177
地方自治論 …… 177
高齢者福祉 …… 178
労働法 …… 178
地域研究特講 …… 179
地方自治法 …… 179
〈演習・実習〉
基礎演習 …… 234
演習Ⅰ …… 234
演習Ⅱ …… 234
卒業研究 …… 234
社会活動 …… 235
企業研修 …… 235

商経学科　経営情報専攻

【教養科目】

（人文）

文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 8

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 10

（外国語科目）

英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅲ（D）…… 23
英語Ⅲ（E）…… 24
英語Ⅲ（F）…… 24
英語Ⅲ（G）…… 25
英語Ⅲ（H）…… 25
英語Ⅳ（C）…… 27
英語Ⅳ（D）…… 27
英語Ⅳ（E）…… 28
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
中国語Ⅰ（D）…… 34
中国語Ⅰ（E）…… 34
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（D）…… 38
中国語Ⅱ（E）…… 38
中国語Ⅱ（H）…… 40
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 41

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（F）…… 43
生涯スポーツ実習Ⅱ（F）…… 44

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（F）…… 47
情報リテラシーⅡ（F）…… 50

【専門科目】

（専門基礎科目）

〈基礎理論〉

情報社会論 …… 158
現代社会論 …… 158
社会哲学 …… 159
経済学 …… 159
経済情報論 …… 160
消費者問題 …… 160
行政法 …… 161
経済政策 …… 161
社会政策 …… 162
社会思想 …… 162
民法 …… 163
商法 …… 163
産業心理学 …… 164
簿記論Ⅰ …… 164
経営学総論 …… 165

〈情報基礎〉

情報科学概論 …… 165
文書作成実習 …… 166
統計学 …… 166
応用文書処理 …… 167
ＰＣデータ活用 …… 168
ＰＣデータ活用実習 …… 169
ＰＣアプリケーション実習 …… 169

（専攻専門科目）

〈経営理論〉

簿記論Ⅱ …… 180
経営管理論 …… 180
経営組織論 …… 181
管理会計論 …… 181
原価計算 …… 182
国際経営論 …… 182
経営学特講Ⅰ …… 183

〈情報分析〉

比較経営論 …… 183
経営分析 …… 184
企業行動科学 …… 184
経営戦略論 …… 185
企業論 …… 185
財務会計論 …… 186
マーケティング論 …… 186

〈情報活用〉

経営工学 …… 187
コンピュータ会計 …… 187
応用データ活用 …… 188
プログラミング …… 188
情報論特講 …… 189

〈演習・実習〉

基礎演習 …… 234
演習Ⅰ …… 234
演習Ⅱ …… 234
卒業研究 …… 234
社会活動 …… 235
企業研修 …… 235

第二部商経学科

【教養科目】
（教養一般）
人間と文化 …… 190
日本の歴史 …… 190
日本文学 …… 191
こころの科学 …… 191
比較文化 …… 192
アジア文化論 …… 192
日本国憲法 …… 193
数学の世界 …… 193
環境問題 …… 194
かごしまカレッジ教育 …… 194
かごしま教養プログラム …… 195
かごしまフィールドスクール …… 195
キャリアデザイン …… 196
（外国語科目）
英語Ⅰ（A） …… 197
英語Ⅰ（B） …… 197
英語Ⅱ（A） …… 198
英語Ⅱ（B） …… 198
異文化コミュニケーション（英語） …… 199
異文化コミュニケーション（中国語） …… 199
中国語Ⅰ（A） …… 200
中国語Ⅰ（B） …… 200
中国語Ⅱ（A） …… 201
中国語Ⅱ（B） …… 201
（スポーツ・健康科目）
生涯スポーツ実習Ⅰ …… 202
生涯スポーツ実習Ⅱ …… 202
（情報科目）
情報リテラシーⅠ（A） …… 203
情報リテラシーⅠ（B） …… 203
情報リテラシーⅡ（A） …… 204
情報リテラシーⅡ（B） …… 204
【専門科目】
（専門基礎科目）
〈基礎理論〉
情報社会論 …… 205
社会哲学 …… 205
経済学 …… 206
行政法 …… 206
経済政策 …… 207
社会政策 …… 207
社会思想 …… 208
民法 …… 208
商法 …… 209
産業心理学 …… 209
簿記論Ⅰ …… 210
経営学総論 …… 210
〈情報基礎〉
情報科学概論 …… 211
文書作成実習 …… 211
統計学 …… 212
応用文書処理 …… 212
ＰＣデータ活用 …… 213
ＰＣデータ活用実習 …… 213
ＰＣアプリケーション実習（A） …… 214
ＰＣアプリケーション実習（B） …… 214
（専門応用科目）
〈経済理論〉
日本経済論 …… 215
財政学 …… 215
農業経済論 …… 216
金融論 …… 216
経済学史 …… 217
経済学特講 …… 217
〈地域と国際〉
国際経済論 …… 218
アジア経済論 …… 218
国際関係論 …… 219
アジア事情 …… 219
ヨーロッパ事情 …… 220
地域経済論 …… 220
地域産業政策 …… 221
地方自治論 …… 221
高齢者福祉 …… 222
労働法 …… 222
国際経済特講 …… 223
地域研究特講 …… 223
地方自治法 …… 224
〈経営理論〉
簿記論Ⅱ …… 224
経営管理論 …… 225
経営組織論 …… 225
管理会計講 …… 226
原価計算 …… 226
国際経営論 …… 227
〈情報分析・活用〉
比較経営論 …… 227
経営分析 …… 228
企業行動科学 …… 228
経営戦略論 …… 229
企業論 …… 229
経営工学 …… 230
コンピュータ会計 …… 230
応用データ活用 …… 231
プログラミング …… 231
情報論特講 …… 232
マーケティング論 …… 232
〈演習・実習〉
基礎演習 …… 234
演習Ⅰ …… 234
演習Ⅱ …… 234
卒業研究 …… 234
社会活動 …… 235
企業研修 …… 235

１　教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	**文学の世界**	担当者	土肥克己，竹本寛秋，轟義昭，木戸裕子
	〔履修年次〕 1，2年いずれでも履修可	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】古今東西 詩の世界 【概要】日頃本をあまり読まないので，「文学」なんて自分の生活とは無関係だと思っていませんか。また，「文学」には興味はあるけれど，なんだか難しそうだと思っていませんか。とくに詩なんて訳がわからないと思っている人，もちろん詩は大好きだという人も，そんな皆さんを，担当教員４名が古今東西，時間を超え空間を超え、さまざまな詩の世界にご案内します。 【到達目標】さまざまな詩作品を読み解き，「文学」とくに詩に親しみをもってもらう。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 各教員が必要に応じて教室で指示します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 中国文学における「詩の世界」(1)：中国伝統劇の紹介 第 3回 中国文学における「詩の世界」(2)：現代の歌劇 第 4回 中国文学における「詩の世界」(3)：13 世紀の歌劇 第 5回 宮沢賢治の詩と科学：『春と修羅』 第 6回 中原中也の詩と音楽：『山羊の歌』 第 7回 萩原恭次郎の詩と機械：『死刑宣告』 第 8回 インターネットと詩の現在 第 9回 英詩と映画(1)：イギリスの詩人ブレイクと彼の詩「無心のまえぶれ」の解説 第 10 回 英詩と映画(2)：『博士の愛した数式』の映画鑑賞 第 11 回 英詩と映画(3)：映画に見られるブレイクの詩の役割と意味の分析 第 12 回 万葉集の挽歌と相聞：古代人の死生観と恋愛観 第 13 回 古今和歌集の恋の歌：宮廷詩としての和歌 第 14 回 平安朝の漢詩：漢詩に託した心情 第 15 回 梁塵秘抄の今様：民衆の心を歌う，まとめ		
成績評価の方法	レポートの提出（７０点）および講義に関する毎回の感想・意見等（３０点）で評価します。レポートは４名が課したものから２つを選ぶかたちになります。		

(注) 文学科を除く
(注) 受講生が 100 人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	**日本の歴史**	担当者	下原美保
	〔履修年次〕 1，2年いずれでも履修可	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 日本の歴史を、美術史－特に、絵画、仏像、暮らしと美術－を中心に概観する。 【概要】 絵画はやまと絵や、狩野派、土佐派の絵画を、仏像は時代ごとの様式変遷を、暮らしと美術は茶の湯と美術を中心に紹介する。 【到達目標】 日本美術における特徴や、様式変遷、時代背景を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『すぐわかる日本の美術 絵画・仏像・やきもの&暮らしと美術』 （田中日佐夫編 東京美術 平成 26 年４月） (2)		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス 第 2回 絵画－やまと絵について－ 第 3回 絵画－絵巻の特徴について－ 第 4回 絵画－土佐派について－ 第 5回 絵画－狩野派についてⅠ－ 第 6回 絵画－狩野派についてⅡ－ 第 7回 仏像－仏の世界について－ 第 8回 仏像－飛鳥～白鳳時代の仏像について－ 第 9回 仏像－天平～藤原時代の仏像について－ 第 10 回 仏像－鎌倉時代の仏像について－ 第 11 回 仏像－古代寺院の荘厳について 第 12 回 暮らしと美術－住まいのなかの芸術鑑賞の場所－ 第 13 回 暮らしと美術－侘び茶の美学－ 第 14 回 暮らしと美術－薩摩焼について－ 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（40%）授業ごとの小論文（60%）		

(注) 受講生が 100 人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	こころの科学	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】「科学としての心理学」について，学生の自己理解，他者理解に役立つような知識，研究例を紹介するとともに，その研究方法を学ぶ。 【概要】心理学領域のうち，社会心理学，カウンセリング心理学，青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また，心理学的研究の理解を深めるために，実際に質問紙調査，実験等を体験してもらう実習も取り入れる。 【到達目標】①心理学という学問領域の多様性について理解し，心理学的なものの見方・考え方を養うことを目標とする。 ②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎時プリントによる資料を配布します。 (2)　参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：心理学とは？ 第　2回　心理学の基礎知識 第　3回　心理学の対象と研究方法 第　4回　社会心理学①：　対人認知 第　5回　社会心理学②：自己開示と自己呈示 第　6回　社会心理学③：　様々な対人関係 第　7回　社会心理学④：集団の影響 第　8回　カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？ 第　9回　カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリングⅠ 第10回　カウンセリング心理学③：自己理解のためのカウンセリングⅡ 第11回　カウンセリング心理学④：　ストレスへの対処 第12回　青年心理学①：青年期の特徴 第13回　青年心理学②：青年期の対人関係 第14回　青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分 第15回　まとめ		
成績評価の方法	「レポート（70%）＋リアクションペーパー（30%）」		

（注）受講生が100人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	芸術論	担当者	丸山　容爾
	[履修年次]　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】普段，鑑賞することの少ない芸術作品に触れ，芸術を味わう楽しさを経験する。 【概要】映像表現された作品を中心に，一般的に馴染み深い作品（デザインのジャンルも含めて）を引用し，様々な視点からその芸術性を探っていく。 【到達目標】何気なく眺めていた芸術作品の美しさを再認識し，モノを観る真の目を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　必要に応じてプリント配布。テキストは使用しない。 (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　「導入」：講義方式の説明　クエイ兄弟ムービー「Street of Crocodiles」 第　2回　「草間彌生」：作品と制作風景 第　3回　「ショートフィルム　1」 第　4回　「造形作家　制作風景」 第　5回　「日本の伝統芸能・落語」：歴史と小道具 第　6回　「チャップリン　1」：人と作品 第　7回　「舞妓」：歴史、衣装・髪型・小物・芸 第　8回　「錯視」：錯視作品と身の周りの錯視 第　9回　「日本の伝統芸能・歌舞伎」：歴史と小道具 第10回　「コマーシャルフィルム」：正解各国のコマーシャルの比較 第11回　「日本の伝統芸能・文楽」：太夫・三味線弾き・人形遣いの役割 第12回　「シャネル　K・ラガーフェルド」 第13回　「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」：その流行と時代背景 第14回　「チャップリン　2」　「キース・ヘリング」 第15回　まとめ		
成績評価の方法	出席と授業態度（70%），レポート（30%）で評価。		

（注）受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**かごしまカレッジ教育**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年次	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する。 【概要】 「書く力」では，レポートの構成要素と表現を知り，データ・資料に基づいた論証型のレポートを作成する力を，「話す力」では，少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。 【到達目標】 (1) 「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方･聞き方を学び，実際の話し合いの場で実践できる。 (2) グループの話し合いの結果を，簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。 (3) レポートの構成要素を理解し，組み立てにそって論理的なレポートが書ける。 (4) レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し，レポートの中で使うことができる。 (5) 事実と意見を区別し，データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 導入：「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介，自己紹介 第 2回 地図：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く 第 3回 漢字：地図の解答確認，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題 第 4回 ネット利用：漢字課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料をOPACで 第 5回 調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査 第 6回 調査開始 ：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告 第 7回 調査実施：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告 第 8回 図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方 第 9回 ポスター作成：発表用資料を模造紙に 第10回 中間報告：口頭発表と質疑 第11回 レポート：文型・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成 第12回 レポート：第1回提出 第13回 レポート：わかりやすく書くには 第14回 レポート：補充調査 第15回 レポート：第2回提出とまとめ		
成績評価の方法	課題レポートの成績(50%)，中間報告の口頭発表(30%)に，随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。		

（注）受講者数は35名が上限。希望者多数で抽選となる場合は，「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	**日本国憲法**	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1，2年いずれでも履修可	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義を体系的に理解した上で，日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。 【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに，基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年，その価値が問い直されている一方，新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では，国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権，平和に崇高な価値をおき，その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義，個人の尊厳の原理に基づき，個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として，人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。 【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し，政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 井上正仁他編，ポケット六法，有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 憲法概論 ・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，権力分立主義の理念 第 2回 基本権総論 ・私人間の人権保障，基本権の享有主体性，二重の基準の理論 第 3回 包括的権利 ・幸福追求権，プライバシーの権利，法の下の平等 第 4回 精神的自由権(1) ・思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則 第 5回 精神的自由権(2) ・表現の自由，知る権利，検閲の禁止，通信の秘密，報道の自由 第 6回 精神的自由権(3) ・明白かつ現在の危険の基準，LRAの基準，学問の自由，大学の自治 第 7回 経済的自由権 ・職業選択の自由，居住・移転の自由，国籍離脱の自由，財産権 第 8回 受益権 ・裁判を受ける権利，請願権，国家賠償請求権，刑事補償請求権 第 9回 社会権(1) ・生存権，環境権，教育を受ける権利 第10回 社会権(2) ・勤労権，労働基本権，団結権，団体交渉権，争議権 第11回 国会(1) ・国権の最高機関，唯一の立法機関，衆議院の優越 第12回 国会(2) ・国会議員の地位，議員の特権，国会の活動，国会と議院の権能 第13回 内閣 ・内閣の地位，内閣総理大臣の権限，国務大臣の権限，内閣の責任 第14回 裁判所 ・最高裁判所の権限，統治行為論，違憲審査制 第15回 財政 ・財政民主主義，租税法律主義，国費支出議決主義，予算		
成績評価の方法	筆記試験(90%)，授業での発言の記録(10%)により評価する。		

（注）教職必修

（注）受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**法学概論**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】シネマで法学入門 【概要】科学技術の進歩とグローバル化が進むなかで、どのようなグローバル・スタンダードが形成されようとしているのか。その中で法制度や法文化はどう変容してくのか。映画を題材に、現代が直面している法の新たな難問と、求められるべき制度的変革や法理論を紹介する。 【到達目標】様々な角度から法的な事象に触れることによって、日常生活の中にある紛争にどう対処すればよいか、その基本的な判断力を磨く。 具体的な紛争を、権利と義務の関係として法的に捉える法的思考力を身に着ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布 (2)　野村進・松井茂記『新・シネマで法学』(有斐閣)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：シネマで法を学ぶ 第　2回　法とは何か：力を備えた言語の世界 第　3回　法の世界の登場人物：日本の法廷とアメリカの法廷はどう違うか 第　4回　最終的な決着は法廷で：権利を実現するということ 第　5回　企業相手に戦う方法：日本の裁判とアメリカの裁判はどうちがう？ 第　6回　冤罪はなぜ起こるのか：刑事裁判における真実 第　7回　死刑存置論と死刑制度の問題生：刑罰という名の殺人 第　8回　裁判員制度とその誕生秘話：日本で三度目の司法改革 第　9回　合意しているとは必ずしも言えないのに契約が成立する場合：約款 第10回　借金を返せない場合はどうなるのか：自己破産と免責 第11回　結婚という約束：結婚の条件と離婚の種類 第12回　誰が親か？：法的親子関係と生物学的親子関係 第13回　所有するということ：所有権の制限とその限界 第14回　労働は商品か？：労働の法と労働者派遣 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート		

(注) 受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**社会学**	担当者	西原　誠司
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】Love　&　Peace の社会学――ベルリンの壁崩壊後の社会現象を科学する 【概要】　ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊によって、米ソ冷戦体制は終結し、多くの人々が平和な世界の到来を予想した。だが、現実には、湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、9.11 同時多発テロを契機としたアフガン・イラク侵略戦争、ウクライナ紛争、イスラム国、アフリカにおける部族紛争、米国における黒人青年射殺等々、むしろ平和な世界から遠ざかっているように思える。この講義では、このような国際的な社会現象がおこる諸原因を科学的に分析・解明し、その解決の方向性を探る。 【到達目標】世界の様々な人間と社会にかかわる諸現象をみずみずしい感性でとらえ、科学的に分析する能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』(文理閣、2015 年) (2)　講義のなかで紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　はじめに――日・中・韓の緊張とヘイトスピーチを考える 第　2回　ベルリンの壁崩壊と米・ソ冷戦体制の終結の世界史的意味を考える 第　3回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　① 第　4回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　② 第　5回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　③ 第　6回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　④ 第　7回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　⑤ 第　8回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　① 第　9回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　② 第10回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　③ 第11回　EU 加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩　① 第12回　EU 加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩　② 第13回　非暴力主義の系譜と世界平和①　ガンジー／キング牧師／ネルソンマンデラ 第14回　非暴力主義の系譜と世界平和②　チャップリン／ジョンレノン 第15回　おわりに――東アジア共同体・北東アジア共同体の可能性をさぐる		
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験		

(注) 受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**生活と経済**	担当者	篠田　剛		
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可	〔学期〕	後期		
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】岐路に立つ日本経済と私たちの暮らし 【概要】1980年代には「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と称された日本経済はバブル崩壊を契機に長期の経済低迷にはいり、既に20年あまりを経過している。その間に日本経済が解決しなければならない課題は山積した。なぜ日本だけが長期のデフレ経済に陥ったのか、なぜ少子化が続いてきたのか、財政赤字は未曽有の規模に達したのか、なぜ経済格差は拡大したのか。一見こうした問題は私たちの日々の生活と遠いものに見えるかもしれないが、就職氷河期や将来に対する漠然とした不安とも無関係ではない。岐路に立つ日本経済と私たちの日常生活との関係を考える。 【到達目標】日本経済の抱える諸課題と自分たちの生活を結び付けて理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業の中で指示する				
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　日本経済の歩み（1） 第　3回　日本経済の歩み（2） 第　4回　グローバル化と国際競争（1） 第　5回　グローバル化と国際競争（2） 第　6回　雇用と労働の変容（1） 第　7回　雇用と労働の変容（2） 第　8回　少子化と結婚・出産（1） 第　9回　少子化と結婚・出産（2） 第 10回　格差・貧困と社会保障（1） 第11回　格差・貧困と社会保障（2） 第12回　教育から仕事へのトランジション（1） 第13回　教育から仕事へのトランジション（2） 第14回　戦後日本社会の構造変化を捉える 第15回　まとめ				
成績評価の方法	小レポート（30%）、筆記試験（70%）				

（注）商経学科を除く。
（注）受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**キャリアデザイン**	担当者	担当教員		
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	通年		
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式及びワークショップ
テーマ及び概要	【テーマ】1年生を対象に，卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること 【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中，本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが，自分の興味だけで考えている場合，キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し，社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。 短期的な就職活動だけのためではなく，社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。 【到達目標】本講義を通じて，県短生をとりまく就業環境，社会の中で働くことの意味，就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業スケジュール	〔講師陣は平成26年度実績〕 ・第1期（7月23日）　社会人になる（就職する）ことはなぜ必要なのか，県短を取り巻く就職状況はどうなのかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師：有村恵美（生活科学科助教），内田昌廣（商経学科教授），西村道子（株式会社 昴） 川村美鈴（KTS鹿児島テレビ） ・第2期（9月24,25日）地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き，働くことの意味，会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師：前田幸一（㈱浜島印刷），神前明浩（神前司法書士事務所） 田原武志（㈱アシップ），丸田真悟（NPO法人かごしまｱｰﾄﾈｯﾄﾜｰｸ） 小林陸夫（大学生協九州事業連合） ・第3期(12月17日)　県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているＯＢ・ＯＧから話を聞き，進路イメージを具体化させる。 講師：佐野有沙　（㈱健康家族），北川隆巳（京セラ㈱）， 綾部敏郎（㈱フォーバル），秋葉重登（鹿児島相互信用金庫），本学卒業生５人（中学校教員など） ・第4期（2月6日）　いよいよ実際の就職活動を目前に控えて，労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに，具体的な就職準備作業を行う。 講師：疋田京子（商経学科准教授），学生部学生課職員 ※26年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。				
成績評価の方法	レポート提出２回（100%）				

授業科目	**数学の世界**	担当者	和田信哉
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 数学を愉しむ 【概要】小学校の算数や中学校・高等学校の数学で学習した知識等を活用し，数学のよさや美しさなどを実感することによって，数学を愉しむことを目的とする。 【到達目標】・基礎的な数学的知識を理解する。 ・数学的に考えることを愉しむことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　n進法 第　3回　九九表 第　4回　ロッカー問題 第　5回　ハノイの塔 第　6回　黄金比 第　7回　敷き詰め 第　8回　はと目返し 第　9回　ポリオミノ 第10回　正三角形を折る 第11回　正三角形を折る 第12回　一裁ち折り紙 第13回　一筆書き 第14回　結び目 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（60%）＋　授業ごとに実施する小テスト（40%）		

（注）受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**物理の世界**	担当者	藤井伸平
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】　身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。 【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが，きれいな色がついていたことを覚えていますか?　覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてシャボン玉にはきれいな色がつくのでしょうか?　このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。 【到達目標】物理学を身近に感じる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし（適宜プリントを配布） (2)　適宜授業中に紹介		
授業スケジュール	第　1回　講義の概要、基本的な量について 第　2回　身近な現象1・・・大気圧を感じる 第　3回　身近な現象2・・・地球の大きさ・丸さを感じる 第　4回　身近な現象3 ・・・水の特異な性質について 第　5回　身近な現象4 ・・・ろうそくの炎について 第　6回　力学1・・・釣り合いとてこの原理を感じる 第　7回　力学2・・・無重量状態を感じる 第　8回　力学3・・・慣性を感じる 第　9回　熱学1・・・焚き火について 第10回　熱学2・・・断熱膨張を感じる 第11回　熱学3・・・気化熱を感じる 第12回　電磁気学1・・・分極を感じる 第13回　電磁気学2・・・磁場を感じる 第14回　振動・波動1・・・光の屈折を感じる 第15回　まとめ　（注意事項：理解の度合いにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。）		
成績評価の方法	(A)授業ごとの小レポート（40%）、(B)レポート（60%）（Aは授業中の提出で15回、Bは2回を予定）		

（注）受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**生物の科学**	担当者	塔筋　弘章
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】細胞・遺伝・進化 【概要】生物は細胞からできていて，その特徴として、代謝・自己複製（増殖）・成長などがあげられます。 それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったりすることです。 生殖とは、固有の設計図（遺伝子）をもとにして、子孫を作ることですが、それはまた代謝など一連の作業のくり返しになります。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、これが進化を引き起こします。 本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、、細胞・遺伝・進化について学びます。 【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　資料プリントを配布します。 (2)　必要に応じて講義中に紹介します。		
授業スケジュール	第　１回　生物の基本構造：化学成分と細胞 第　２回　代謝：エネルギー産生のしくみ 第　３回　DNA からタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節 第　４回　バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素 第　５回　細胞分裂（1）：細胞分裂と細胞周期 第　６回　細胞分裂（2）：減数分裂と受精、発生 第　７回　遺伝の基礎：メンデルの法則 第　８回　染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図 第　９回　突然変異：変異原、遺伝子の修復 第 10 回　環境ホルモン：内分泌攪乱因子と遺伝子の発現 第 11 回　進化論：ラマルクとダーウィン 第 12 回　生物の進化：単細胞から多細胞へ 第 13 回　生物の進化：単細胞から多細胞へ 第 14 回　恐竜：恐竜から鳥へ 第 15 回　人類の進化：類人猿からヒトへ		
成績評価の方法	筆記試験		

（注）受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**化学の世界**	担当者	井余田秀美・釜田忠
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近なものや現象を通して，私たちの生活の中で，化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。 【概要】物質の科学である化学は，自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により，私たちの暮らしを豊かにしている。一方で，化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており，化学を学ぶことは，身の回りの物質についての知識を得，理解を深めるだけでなく，私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から，身の回りの物質や現象，食べ物や食品中の色素について，講義を行う。 【到達目標】化学的視点から，課題を探求し，解決していくための基本的な能力を培う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	**１　身近な物質**　（井余田） 第 1 回　自然の恩恵（暮らしと化学物質　天然資源の利用） 第 2 回　化学の基礎（自然と生命の物質―無機物と有機物　物質の成り立ち，状態や性質，変化） 第 3 回　生活と化学（1 日の生活　衣食住） **２　身近な現象**　（井余田） 第 4 回　物質の変化（溶ける、煮る・焼く、洗う、染める、さびる） 第 5 回　洗濯の科学（界面化学　洗剤の働き） 第 6 回　光と色（染料と染色　シャボン玉　花火） **３　食べ物の化学**　（釜田） 第 7 回　食品中の水の化学 第 8 回　炭水化物の化学 第 9 回　タンパク質の化学（1） 第 10 回　タンパク質の化学（2） 第 11 回　脂質の化学 第 12 回　ビタミンの化学 第 13 回　食品中の色素 第 14 回　食品中の色素 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	レポート		

（注）生活科学科生活科学専攻を除く

（注）受講登録が 100 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**食生活と健康**	担当者	有村恵美・倉元綾子・多田司・(未定)
	〔履修年次〕 1.2年いずれでも履修可	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。 【概要】バランスの取れた栄養，運動や休養・睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日，健康や栄養についての情報はあふれるほど存在し，私たちの関心を喚起し，生活に大きな影響を与えている。しかし，それらのなかには十分に検証されないまま提供される有害なものも少なくない。本科目では、健康で，安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて，各種の活動を取り入れて，実践的に学ぶ。 【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 健康な食生活：健康とは何か？食生活が健康に及ぼす影響（有村） 第 2回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素（有村） 第 3回 健康な食生活：食品の特性（未定） 第 4回 健康な食生活：食の安全（未定） 第 5回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方１（多田） 第 6回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方２（多田） 第 7回 私たちの食生活トピックス１；ワークショップ（倉元） 第 8回 私たちの食生活トピックス２；ワークショップ（倉元） 第 9回 私たちの食生活トピックス３；ワークショップ（倉元） 第10回 健康な食生活：あなたの食生活チェック（有村） 第11回 健康な食生活：食事のバランス・食品選択の方法（有村） 第12回 健康な食生活：ダイエット（有村） 第13回 健康な食生活：生活習慣病（有村） 第14回 健康な食生活：休養・睡眠・運動（有村） 第15回 まとめ：健康な食生活とは（有村）		
成績評価の方法	試験，レポート，授業ごとの小論文，発表内容によって総合的に評価する 各担当者の成績を集計して，加重平均。		

(注) 受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**平和論**	担当者	福田忠弘 森田豊子 船津潤 疋田京子
	〔履修年次〕 1，2いずれでも履修可	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは、日本国内や国際社会で生起する諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。 【概要】現在の世界では、国家間の戦争だけでなく、民族・宗教対立による紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力など、到底平和とは呼べない状態が続いている。本講義ではそうした問題を分析するための視角を提供する。特に焦点をあてるのは、暴力の様々な形態、「他者」への理解（特にイスラーム社会）、スリランカを事例にした国家建設の光と陰、様々な人権侵害についてである。 【到達目標】グローバル社会でおきている紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力などについての現状を認識し、その原因について説明できることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 平和論の方法：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田） 第 2回 暴力の多様性（1）：暴力という概念について（福田） 第 3回 暴力の多様性（2）：国際社会における紛争について視聴覚資料を使用（福田） 第 4回 武器の規制：地雷およびクラスター爆弾（福田） 第 5回 パレスチナ問題：パレスチナ問題の歴史について（森田） 第 6回 パレスチナ問題：パレスチナ問題の現状について（森田） 第 7回 イスラーム原理主義：イスラーム原理主義の成り立ちと現状について （森田） 第 8回 イスラームと女性：イスラーム世界における女性をめぐる問題（森田） 第 9回 世界の中のイスラーム教徒：欧州、米国、日本におけるイスラーム教徒の問題について（森田） 第10回 スリランカの民族紛争(1)：その国内的・国際的背景について（船津） 第11回 スリランカの民族紛争(2)：国際的な動向を踏まえた歴史的推移について（船津） 第12回 ノーベル平和賞を受賞した12人の女性たち：人権問題と平和の概念（疋田） 第13回 ノーベル平和賞を受賞した日本人：憲法9条と日米安保条約（疋田） 第14回 日本国憲法「平和主義」の歴史的意味：グローバリズムと平和的生存権（疋田） 第15回 まとめ：平和の多様性について（福田）		
成績評価の方法	学期末に行なう試験（１００％）で評価する。		

(注) 受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**環境問題**	担当者	相場　慎一郎・井余田　秀美・田中　史朗・則久　雅司
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概要】環境問題を，森林（相場），化学(井余田)，地球環境問題の諸相（田中），環境保護行政（則久）の四つの視点から考える 【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回　総論：環境問題の複眼的考察 第　2回　森林（1）：森林の役割 第　3回　森林（2）：森林と環境 第　4回　化学（1）：生活環境と公害 第　5回　化学（2）：地球環境汚染 第　6回　化学（3）：環境に配慮した生活 第　7回　地球環境問題の諸相（1）熱帯林の破壊と砂漠化の進行 第　8回　地球環境問題の諸相（2）酸性雨による被害と地球温暖化 第　9回　地球環境問題の諸相（3）オゾン層の破壊と有害物質の移動 第10回　環境保全への国際的な取り組みと自然保護運動 第11回　環境保護行政（1）：総論 第12回　環境保護行政（2）：屋久島 第13回　環境保護行政（3）：奄美 第14回　環境保護行政（4）：まとめ 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

（注）受講生が１００人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**かごしま教養プログラム**	担当者	県内１１大学の担当教員
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期集中 選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
	【概要】この講義では，鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた，鹿児島を素材にした授業を持ち寄り，「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき，リベラルアーツ教育を行います。３日間の夏期集中授業で，講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ，学生間でよく話し合い，切磋琢磨しながら学習します。 【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化，自然，社会，産業などのテーマについて，内容をよく理解し，自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により，テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い，グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ，それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について，受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　未定		
授業スケジュール	第　1回　平成２６年度実施概要（平成２７年度については未定。若干の変更の予定があります。） 日程　：　平成２６年８月２０日（水）～２２日（金） 場所　：　鹿児島大学 定員　：　県内１２大学等の学生　１５０人程度		
成績評価の方法	未定		

（注）「かごしまカレッジ教育」または「日本語表現法」（日本語日本文学専攻のみ）の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内１１大学の担当教員
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期集中 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
	【概要】地場産業，農業，商業，文化，観光，環境，暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし，そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし，今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し，今後，地域を活性化していくための方策について考察し，若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。 この活動により，鹿児島の本質と問題点を理解し，国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけ，あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には，実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し，考察・ 討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに，発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより，日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。 【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して，同地区の住民生活，商業活動，文化活動等の特徴を把握し，選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。 ②同地区等のさらなる活性化のために，今後どのような展望が望ましいか，どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え，グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③実地調査，討論，発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて，これらの３つの学習目標を達成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　未定		
授業スケジュール	第　１回　平成２６年度実施概要（平成２７年度は未定。若干の変更の予定があります。） 日程・場所：　①平成２６年８月２５日（月）～２８日（水）　霧島市牧園地区 ②平成２６年８月２５日（月）～２８日（水）　鹿児島市紫原地区 ③平成２６年８月２５日（月）～２８日（水）　南さつま市大浦地区 定員　：　県内１１大学等の学生　１５０人程度		
成績評価の方法	未定		

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕　年次指定なし 〔単位〕　２～４単位	〔学期〕　通年 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は，非営利組織を中心とした研修先において，実際の現場での体験を得ることにより，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて，社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定（事前指導のなかで指示する） (2)　未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	第　１回　事前指導：主に前期を中心に研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研　　修：主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	**企業研修**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　通年 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】この科目は，一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は，民間企業を中心に県庁，病院などの研修先において，現場で就業体験を行い，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて，社会人としての課題，企業運営，職務遂行に必要な知識・技術を理解し，働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定（事前指導のなかで指示する） (2)		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義，研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研　　修：主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

（注）県短独自分は２年生も履修可

２　教養科目（外国語科目）

授業科目	英語Ⅰ（A）	担当者	
	〔履修年次〕	〔学期〕	
	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】有識者 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅰ（A）		担当者	加塩　里美		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期		
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	必修（注）	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】リスニング，文法，リーディングのバランスのとれた英語力を養成する。イギリスの文化について書かれたテキストを読むことによって，日本文化との比較や異文化理解の手掛りとする。 【概要】各ユニットに設けられたテーマをもとに，段階的にCDによるリスニング力の強化，英文法力の定着，文の主・述関係を正しく押さえた訳を意識づけながら読むことなどを通して，英語の総合力の向上を目指します。 【到達目標】英語による内容の充実した発話や記述ができる。日常会話の基礎を習得する。					
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Terry O'Brien, Kei Mihara, Miwa Uhara, Hiroshi Kimura,『Gateway to Britain』,　Nan'un-do (南雲堂) (2)　必要があれば，適宜指示します。					
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，今後の授業の進め方についての解説					
	第　2回　Check In and Work Out 第　3回　What Will the Weather Be Like? 第　4回　A London without Red Buses? 第　5回　Back to the Future 第　6回　Shop-'n'- Chat 第　7回　More Than Just a Post Office 第　8回　Off the Beaten Path 第　9回　Pubs in Decline 第10回　Dining Out Diversity 第11回　Afternoon Tea 第12回　The Beatles Are Forever 第13回　Football: Sport or Business? 第14回　The Royal Family or TV Melodrama? 第15回　Preserving Britain					
成績評価の方法	期末試験（７０％），授業への取り組み態度（３０％）で評価する。					

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅰ(B)	担当者	太田　一郎
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)　シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。 【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し，情報を伝えることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　NEW HEADWAY VIDEO（Elementary）John Murphy 著（Oxford University Press） (2)　授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	だいたい２回でテキスト１ユニットずつ進む予定です。また，ビデオと音読を組み合わせて授業を進めます。 ビデオの進度は以下のとおり。 第　1回　ガイダンスおよび練習法（シャドーイングなど）の解説〃 第　2回　A New Neighbour 第　3回　〃 第　4回　To the Rescue 第　5回　〃 第　6回　Dinner for Two 第　7回　〃 第　8回　Change of a Dress 第　9回　〃 第10回　A Long Weekend 第11回　〃 第12回　復習 第13回　復習　〃 第14回　まとめ 第15回　【注意】LL 教室を使っての授業なので，遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	期末試験（70%）+授業中の小テスト（30%）		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ(B)	担当者	あべ松　伸二
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】様々な日常会話を通して、基本的な英語運用能力を養成する。 【概要】様々な場面での会話を聞いて、リスニング力を高めるとともに、有用表現を学ぶ。　またロールプレイを通してスピーキング力を高める。 【到達目標】コミュニケーション力をつけるために、リスニング力とスピーキング力を向上させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　金子光茂 , Richard H. Simpson　/　A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED　(南雲堂) (2)　随時プリント資料		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　Booking Accommodation　(宿泊の予約) 第　3回　Taking Photos　(写真を撮る) 第　4回　At a Restaurant　(レストランで) 第　5回　Let's Stay Healthy　(健康や体調) 第　6回　Television　(テレビ) 第　7回　Sports　(スポーツ) 第　8回　Confirmation　(確認する) 第　9回　Taking a Taxi　(タクシーに乗る) 第10回　On the Plane　(機内で) 第11回　Meeting at the Airport　(空港での出迎え) 第12回　Impressions　(感想を聞く) 第13回　Giving Advice　(忠告する) 第14回　Asking for Permission　(許可を求める) 第15回　Inviting People　(招待する)　/　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(60%)　＋　小テスト・提出物等(40%)		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ(C)	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語を使う本質的意味の理解を深めながら，英語で自己発信するスキルを向上させる。 【概要】本授業では，各自が興味を持つテーマに関するプロジェクトに取り組む。プロジェクトに関するプレゼンテーションを段階的に準備し発表することを通して，英語の自己発信力を高める。英語のスキル向上だけでなく，何のために英語を使うのか，何のために英語を学ぶのかについて再考し，自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考える。 【到達目標】①各自が興味を持つテーマに関して，積極的に英語で表現することができる。②英語で発表の司会や内容に関する質疑応答ができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Suzuki, Y. (2013). *Do Your Own Project in English. Volume 1.* Nan'un-do. (¥1,800) (2)　適宜授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　Course introduction, Unit 1 Introducing yourself and others 第　2回　Unit 2 Self-appeal 第　3回　Unit 3 What is research? 第　4回　Unit 4 An outline/overview of research 第　5回　Unit 5 Organizing ideas and data 第　6回　Unit 6 The diversity/range of research methods 第　7回　Unit 7 Writing a script for an oral presentation 第　8回　Unit 8 Mid-term presentation (1) 第　9回　Unit 9 Mid-term presentation (2) 第10回　Unit 10 Responding to questions, interrupting and repeating 第11回　Unit 11 Responding to questions, confirming and explaining 第12回　Unit 12 Preparing for final mini-presentation - Written presentation 第13回　Unit 13 Final mini-presentation (1) 第14回　Unit 14 Final mini-presentation (2) 第15回　Unit 15 Final mini-presentation (3) and course review		
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)，中間発表(20%)，最終発表(30%)，レポート課題(30%)で評価する。		

（注）教職必修，食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅰ（C）	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕　〔授業形態〕	
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

（注）教職必修，食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅰ（D）	担当者	太田　一郎
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)　シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。 【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し，情報を伝えることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　NEW HEADWAY VIDEO（Elementary）John Murphy 著（Oxford University Press） (2)　授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	だいたい２回でテキスト１ユニットずつ進む予定です。また，ビデオと音読を組み合わせて授業を進めます。 ビデオの進度は以下のとおり。 第　1回　ガイダンスおよび練習法（シャドーイングなど）の解説 第　2回　A New Neighbour 第　3回　〃 第　4回　To the Rescue 第　5回　〃 第　6回　Dinner for Two 第　7回　〃 第　8回　Change of a Dress 第　9回　〃 第10回　A Long Weekend 第11回　〃 第12回　復習 第13回　復習　〃 第14回　まとめ 第15回　【注意】LL 教室を使っての授業なので，遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	期末試験（70%）+授業中の小テスト（30%）		

（注）教職必修，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ　(D)　火曜日４限	担当者	加塩　里美
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】基本的な文法力強化とリスニング，英文読解習得に力点を置き，英語を理解する上での核となる基礎力を養成する。 【概要】ユニットごとに定められた文法事項について学習するとともに，CD によるリスニング力の強化，英文読解力強化を目指します。 【到達目標】英語の総合的な運用力を養成する。異文化理解と地球市民としての考え方を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　JACET リスニング研究会著，『Power-Up English<Basic> 総合英語パワーアップ<基礎編>　』，NAN'UN-DO（南雲堂）刊 (2)　必要があれば，適宜指示します。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，今後の授業の進め方についての解説 第　2回　Personal Correspondence（現在形・現在進行形） 第　3回　Biography（過去形・過去進行形） 第　4回　Events & Festivals（未来形） 第　5回　Directions &Locations（前置詞） 第　6回　Occupations　（代名詞） 第　7回　Instructions（命令文） 第　8回　Health & Physical Condition（疑問文） 第　9回　Service Requests（現在完了） 第10回　Money（疑問詞を用いた疑問文） 第11回　Public Signs（助動詞１） 第12回　Sports（助動詞２） 第13回　History（受動態） 第14回　Sightseeing（比較） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（７０%），授業への取り組み態度（３０%）で評価する。		

（注）教職必修，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ (D)	担当者	加塩　里美
	〔履修年次〕　1年　〔学期〕　前期 〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】基本的な文法力強化とリスニング，英文読解習得に力点を置き，英語を理解する上での核となる基礎力を養成する。 【概要】ユニットごとに定められた文法事項について学習するとともに，CD によるリスニング力の強化，英文読解力強化を目指します。 【到達目標】英語の総合的な運用力を養成する。異文化理解と地球市民としての考え方を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　JACET リスニング研究会著,『Power-Up English<Basic> 総合英語パワーアップ<基礎編>　』, NAN'UN-DO (南雲堂)刊 (2)　必要があれば，適宜指示します。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，今後の授業の進め方についての解説 第　2回　Personal Correspondence（現在形・現在進行形） 第　3回　Biography（過去形・過去進行形） 第　4回　Events & Festivals（未来形） 第　5回　Directions &Locations（前置詞） 第　6回　Occupations　（代名詞） 第　7回　Instructions（命令文） 第　8回　Health & Physical Condition（疑問文） 第　9回　Service Requests（現在完了） 第10回　Money（疑問詞を用いた疑問文） 第11回　Public Signs（助動詞１） 第12回　Sports（助動詞２） 第13回　History（受動態） 第14回　Sightseeing（比較） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（７０%），授業への取り組み態度（３０%）で評価する。		

（注）教職必修，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ（D)	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　1年　〔学期〕　前期 〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、リスニングのコツを学びながら、ナチュラルスピードの口語英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現やフレーズを身につけていくことです。 【概要】授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、音声変化についての学習、リピーティングなどの発話練習で、英語の音声変化やリズムに慣れ、「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半ではアメリカ旅行と留学を題材としたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話で使われる英語表現やフレーズを場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として、映画を利用したリスニング演習に取り組んでいきます。 【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, *Viva! San Francisco*.　出版社: マクミラン・ランゲージハウス (2)		
授業スケジュール	＜毎回、LL 教室を使用＞ 第　1回　オリエンテーション：　授業内容と進め方について　/　ナチュラル英語の聞き取り 第　2回　Do You Have a Reservation, Ma'am?：　ホテルでのチェックインに使う表現 第　3回　Would You Like Soup or Salad?：　レストランでの食事の注文に使う表現 第　4回　Could you Repeat That ?:　道順を尋ねる時に使う表現 第　5回　Where's the Fitting Room?：　ショッピングに使う表現 第　6回　Good to See You!：　挨拶に使う表現 第　7回　I Enjoyed My Stay：　ホテルでのチェックアウトに使う表現 第　8回　You Are One of the Family Now：　ホームスティ先での会話表現 第　9回　I Want to Help!：　申し出る・申し出を受ける表現 第10回　Would You Like to Join Us?：　人を誘う・誘いに応じる際の表現 第11回　Let's Keep in Touch, OK?：　別れに使う表現 第12回　映画を利用したリスニング演習：　その（1） 第13回　映画を利用したリスニング演習：　その（2） 第14回　映画を利用したリスニング演習：　その（3） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業フィードバックシート（20%）＋　復習のための小テスト（30%）＋　定期試験（50%）		

（注）教職必修，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	霧 島　S. 怜
	〔履修年次〕　1 年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　1 単位	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話) 【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、大学で比較人間学の当面諸問題について完璧なポーランド語で講義した者はいない !! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、インドネシア語も簡単さ)という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !! 【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) (2)　又、必要に応じて習熟資料を配布する		
授業スケジュール	第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第　2回　U20 Why Learning？　英和訳、読解、聞き取り等 第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　4回　U 4 Beauty Contest　英和訳、読解、聞き取り等 第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　6回　U 5 Who Pays？　英和訳、読解、聞き取り等 第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　8回　U 6 Saying "I love you"　英和訳、読解、聞き取り等 第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第 10 回　U 8 Cyber Love　英和訳、読解、聞き取り等 第 11 回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第 12 回　U 10 Fan Worship　英和訳、読解、聞き取り等 第 13 回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第 14 回　St. Valentine's　Day　読解、聞き取り等 第 15 回　受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	**予習** 40%、**演習参加** 40%、**期末** Test 20% **の合計**		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	James　Scott
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	必修（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Talking about one's own ideas and feelings. 【概要】Students will share their ideas regarding a wide range of topics. 【到達目標】To improve students'skills in communicating their ideas and feelings in English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)　Active Skills for Communication Intro by Chuck Sandy and Curtis Kelly. Publisher:Heinle(Cengage Learning)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回　Students will choose the units from the book that they will study 第　9回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
成績評価の方法	Class participation, Oral Examination		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	English Ⅱ(B)	担当者	Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Everyday English conversations and vocabulary, to create confidence, competency and enjoyment. 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Time to communicate Eric Bray Publisher： Nan'Un-Do (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to class – outline; grades , text etc 第 2回 Classmates / Classes 第 3回 Classmates/Classes 第 4回 Daily Life 第 5回 Daily Life 第 6回 Foods / Recipes 第 7回 Foods/Recipes 第 8回 Review 第 9回 Last Weekend / Movies,Music 第10回 Last Weekend / Movies ,Music 第11回 Hometown 第12回 Hometown 第13回 Travel 第14回 Travel 第15回 Review		
成績評価の方法	Grades are based on class participation; homework and quizzes.		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)	担当者	Brian Pedersen
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】The theme of this course is to provide students a grounding in natural, communicative English in a variety of situations. 【概要】By using a student centered oral communication text specifically designed for Japanese learners this class will get students motivated and help them progress where they need it most, listening and speaking. 【到達目標】A successful outcome for the completion of this course would be for students to overcome any reluctance they might have to use English to communicate in a variety of everyday situations.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Outfront English Education Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Classroom language/ Personal information 第 2回 Family and home. Describing one's home and community 第 3回 Hobbies and preferences. Expressing opinions. Disagreeing politely. 第 4回 Times and dates. Discussing schedules 第 5回 Shopping. Working and dealing with large numbers. 第 6回 Routines. Discussing frequency of activities. 第 7回 One's neighborhood. One's family 第 8回 Vacations. Discussing past experiences. 第 9回 Locating buildings. Following / giving simple directions 第10回 Phone talk. Making requests. Taking leaving phone messages. 第11回 Inviting. Accepting and refusing invitations. 第12回 Ordering food in a restaurant. Talking about eating habits. 第13回 Health Describing the body. Illness. Offering suggestions. 第14回 Speaking naturally. 第15回 Final review and oral presentation preparation.		
成績評価の方法	Class participation 45% Written work 20% Final oral Presentation 35%		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語で鹿児島の生活を紹介し、国際的なコミュニケーション力の養成。 Using English to introduce familiar aspects of life in Kagoshima and to enhance international communication skills. 【概要】学生は日本とその文化、特に鹿児島での生活について学びたがっているアメリカ人ペンパルとの会話をノートに書き留めていきます。 Students maintain notebooks as they develop a dialogue with an American pen pal who seeks to learn about Japan, its customs, and specifically life in Kagoshima. 【到達目標】日常生活の様々な場面において，同世代のペンパルとのやりとりによって、意思疎通をスムーズに出来るようにする。情報や考えを理解でき，会話を続行させる方略（言い換え，繰り返し，強調等）をうまく用いて，沈黙をせずに相手と話し続けられる。To practice non-academic English and basic writing skills by developing a sustained dialogue with an English speaker of a similar age and interests. Grammar is studied in the context of a cultural exchange.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) スティックのり、無印良品ノート (21×14.5 cm), ノートは教員が準備します。ノートの代金（５０円）を最初の授業で集めるので準備しておいてください。 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 紹介・ Introduction 第 2回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第 3回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第 4回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第 5回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第 6回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第 7回 小テスト（文法問題や内容把握等） 第 8回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第 9回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第10回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第11回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第12回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第13回 リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第14回 小テスト（文法問題や内容把握等） 第15回 まとめ ・Prospects & Review		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合（３５%） Quizzes / in-class presentations クイズ／授業での発表（３５%） Final evaluation 最終のテスト／レポート／プレゼンテイション（３０%）		

（注）教職必修，食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業 【概要】リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。 【到達目標】会話展開が予測可能な場面，または馴染みのあるコンテキストにおいて，相手の情報や考えを理解でき，つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)，不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 会話展開が予測可能な場面，または馴染みのあるコンテキストにおいて，相手の情報や考えを理解でき，つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)，不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。 (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction 第 2回 Unit 1 第 3回 Unit 2 第 4回 Unit 3 第 5回 Unit 4 第 6回 Unit 5 第 7回 Unit Destination: The U.S.A 第 8回 Quiz 1-5 第 9回 Unit 6 第10回 Unit 7 第11回 Unit 8 第12回 Unit 9 第13回 Unit 10 第14回 Unit Destination: Canada 第15回 Review		
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合（３５%）、 クイズ／授業での発表（６５%）		

（注）教職必修，食物栄養専攻

授業科目	English Ⅱ(D)	担当者	Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】Everyday English to build confidence, competency and enjoyment. 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (New) Time to Communicate Eric Brady Publisher – Nan'Un-Do (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to class – outline, grades, text etc. 第 2回 Classmates/Classes 第 3回 Classmates/classes 第 4回 Daily Life 第 5回 Daily Life 第 6回 Food / Recipes 第 7回 Food /Recipes 第 8回 Review 第 9回 Last weekend / Movies,Music 第10回 Last weekend / Movies, Music 第11回 Hometown 第12回 Hometown 第13回 Travel 第14回 Travel 第15回 Review		
成績評価の方法	Grades are based on class participation; homework ; quizzes		

（注）教職必修，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ （D）	担当者	Brian Pedersen
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】The theme of this course is to provide students with a base of key phrases that they can drill in class and practice regularly to help them master simple, natural English. 【概要】With clear examples and visual reinforcement students will be able to use drills to improve the retention of key phrases used every day. 【到達目標】A successful outcome for the completion of this course would be for students to show a solid grounding in basic grammar and vocabulary that they can produce in a variety of everyday situations.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Side by side Third edition 2A with workbook Longman (2)		
授業スケジュール	第 1回 Classroom language. Review of tenses Self introduction 第 2回 Paying compliments. Family members/ 第 3回 Daily routines. Time expressions.. 第 4回 Indirect object pronouns. Buying food. 第 5回 Buying food. Describing food preferences 第 6回 Review of past lessons. Practice oral communication. 第 7回 Telling about the future. Probability 第 8回 Possibility. Warnings 第 9回 Comparatives. Advice. Expressing opinions 第10回 Agreement and disagreement. 第11回 Describing people, places, things. Superlatives. 第12回 Imperatives. Getting around town. 第13回 Directions. Public transport. 第14回 Health and fitness. Lifestyles. 第15回 Review of lessons and oral presentation practice.		
成績評価の方法	Classroom participation 45% Written work 20% Final oral presentation 35%		

（注）教職必修，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	霧 島　S. 怜
	〔履修年次〕　1 年 〔単位〕　1 単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation.（正しい理解と意味のあるミニ会話） 【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte"（素晴しいローマは一夜にしてならず）という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、大学で比較人間学の当面諸問題について完璧なポーランド語で講義した者はいない !! 外国語を学ぶ具体的な目標（例えば、将来の仕事）や動機（例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、インドネシア語も簡単さ）という志は極めて効果的である。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !! 【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること（詳細は演習の冒頭に説明する）。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) (2)　又、必要に応じて習熟資料を配布する		
授業スケジュール	第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第　2回　U20 Why Learning？　英和訳、読解、聞き取り等 第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　4回　U 4 Beauty Contest　英和訳、読解、聞き取り等 第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　6回　U 5 Who Pays？　英和訳、読解、聞き取り等 第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　8回　U 6 Saying "I love you"　英和訳、読解、聞き取り等 第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第10回　U 8 Cyber Love　英和訳、読解、聞き取り等 第11回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第12回　U 10 Fan Worship　英和訳、読解、聞き取り等 第13回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第14回　St. Valentine's　Day　読解、聞き取り等 第15回　受講生が選択したテーマの学習（X）前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	**予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計**		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	English II (D)	担当者	Andrew Daniels
	〔履修年次〕　1st year 〔単位〕　1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions. 【概要】Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios. 【到達目標】Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Talk Time (Student Book 2)　by Susan Stempleski　(Oxford University Press) (2)		
授業スケジュール	第　1回　Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations 第　2回　〃 第　3回　〃 第　4回　〃 第　5回　〃 第　6回　〃 第　7回　〃 第　8回　Review Quiz 第　9回　Key topics from later chapters of the textbook　Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town 第10回　〃 第11回　〃 第12回　〃 第13回　〃 第14回　〃 第15回　Final Oral Review Practice		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(A)	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 1、2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業 【概要】前期のつづきで，リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。 【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素（文法能力，社会言語能力，談話能力，方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく．		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Angela Buckingham & Lewis Lansford, *Passport 2, Second Edition* Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction 第 2回 Unit 1 第 3回 Unit 2 第 4回 Unit 3 第 5回 Unit 4 第 6回 Unit 5 第 7回 Unit Destination: The U.S.A 第 8回 Quiz 1-5 第 9回 Unit 6 第10回 Unit 7 第11回 Unit 8 第12回 Unit 9 第13回 Unit 10 第14回 Unit Destination: Canada 第15回 Review		
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合（３５%）、 クイズ／授業での発表（６５%）		

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	English Ⅲ(B)	担当者	Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Everyday English – building on the foundation of 1st semester to increase competency, vocabulary etc 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Time to Communicate Eric Brady Publisher – Nan'Un-Do (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to this semester's class 第 2回 Vacations 第 3回 Vacations 第 4回 Describing objects /locations 第 5回 Describing Objects/locations 第 6回 Going out on the Town 第 7回 Going out on the Town 第 8回 Review 第 9回 People's appearance / Fashion 第10回 People's appearance / Fashion 第11回 People's Personality 第12回 Opinions 第13回 Opinions 第14回 Future Plans 第15回 Review		
成績評価の方法	Grades are based on class participation; homework and quizzes		

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	鞍掛　哲治
	〔履修年次〕　1　年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】さまざまな題材の英文を読むことを通じて、日本語訳に頼った英文読解から脱却し、英文そのものを楽しむ力を養う。また、英語を読む際に必要なストラテジーを段階的に身につける。さらに、英文読解の最も基礎的な力である語彙力増強のトレーニングも随時行う。 【概要】主に、パラグラフの構造を理解し、英文読解に必要なストラテジーを習得する。また、わからない単語の意味を辞書に頼ることなく文脈や前後関係から推測するなどのスキルを練習する。 【到達目標】英文を読む楽しさを味わうことができる。 英文のパラグラフ構造を理解し、概要・要点を大まかに把握することができる。 わからない単語の意味を、文脈や前後関係から推測するスキルを修得できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　卯城祐司／中川知佳子／Mari Le Pavoux 著 /　*Reader's Ark Basic*　(金星堂) (2)　特になし		
授業スケジュール	第　1回　Unit 01　Check Your Level: 語彙力・速読力のチェック 第　2回　Unit 02　Experience Pre-Reading Activities: visual aids, title, background information etc. 第　3回　Unit 03　Identifying the Main Idea <1>: topic sentence (top) 第　4回　Unit 04　Identifying the Main Idea <2>: topic sentence (bottom) 第　5回　Unit 05　Identifying the Main Idea <3>: topic sentence (middle) 第　6回　Unit 06　Understanding Supporting Details 第　7回　Unit 07　Using Signal Words to Predict Ideas <1>: sentence to sentence 第　8回　Unit 08　Using Signal Words to Predict Ideas <2>: discourse 第　9回　Unit 09　Using Reference Words to Follow Ideas <1>: pronoun 第10回　Unit 10　Using Reference Words to Follow Ideas <2>: pro-verb 第11回　Unit 11　Paragraph Organization <1>:comparison and contrast 第12回　Paragraph Organization <2>: cause and effect 第13回　Unit 13　Paragraph Organization <3>: time order and process, problem-solution 第14回　Unit 19　Reading as a Guessing Game 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（７０%）＋授業ごとに実施する小テスト・レポート等（３０%）」		

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	太田　一郎
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 【概要】 (1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)　シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。 【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し，情報を伝えることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　NEW HEADWAY VIDEO（Pre-Intermidiate）John Murphy 著　(Oxford University Press) (2)　(2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	だいたい２回でテキスト１ユニットずつ進む予定です。また，ビデオと音読を組み合わせて授業を進めます。ビデオの進度は以下のとおり（前期の英語Ⅰのひとつレベルが上のテキストを使いますので，内容は少しだけ難しくなります)。 第　1回　ガイダンスおよび練習法(シャドーイングなど)の解説 第　2回　〃 第　3回　A Clean Sweep 第　4回　〃 第　5回　A perfect Day 第　6回　〃 第　7回　Not Working Out 第　8回　〃 第　9回　A Dogs Tale 第10回　〃 第11回　A Brief Encounter 第12回　〃 第13回　復習 第14回　復習 第15回　まとめ 【注意】LL 教室を使っての授業なので，遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	期末試験（70%）+授業中の小テスト（30%）		

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン・デイビッド
	〔履修年次〕 1年，２年いずれでも履修可 〔単位〕 1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English. 【概要】アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主に行う。このコースでは，生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように，興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより，リスニングスキルを向上させる。 【到達目標】４つのコミュニケイティブ・スキル（reading，writing，listening，speaking）を上達させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第 1回 Interests and Hobbies 第 2回 Health 第 3回 Holidays 第 4回 Shopping 第 5回 Movies 第 6回 Sports 第 7回 Travel 第 8回 Hotel 第 9回 Social Issues 第10回 Culture 第11回 Appearances 第12回 Work 第13回 Memories 第14回 Restaurant 第15回 まとめ ※トピックは変わる可能性がある。		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス（80%）＋宿題，授業中に行う小テストの成績（20%）		

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	English Ⅲ(F)	担当者	Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Everyday English – building on English learned in the first semester to increase competency, vocabulary etc. 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Time to Communicate Eric Brady Publisher – Nan'Un-Do (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to this semester's class 第 2回 Vacations 第 3回 Vacations 第 4回 Describing Objects/locations 第 5回 Describing Objects / locations 第 6回 Going out on the Town 第 7回 Going out on the town 第 8回 Review 第 9回 People's Appearance / Fashion 第10回 People's Appearance / Fashion 第11回 People's Personality 第12回 Opinions 第13回 Opinions 第14回 Future Plans 第15回 Future Plans		
成績評価の方法	Grades are based on class participation; homework and quizzes		

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	James　Scott
	〔履修年次〕　1年，2年いずれでも履修可 〔単位〕　1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Everyday Conversation. 【概要】Students will practice everyday conversation and the basic grammar needed to engage in those conversation. 【到達目標】To improve students' conversational skills.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Communicate by David Poul (2)　Publisher:Compass		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回　The class will proceed at a pace matched to the students ability levels. 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語 III (H)	担当者	
	〔履修年次〕　1　年 〔単位〕　1　単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ（A）	担当者	James　Scott
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，中級程度（レベルで言えば，TOEIC 500～650 英検２級）のコミュニケーション能力の育成にある。 【概要】　このコースでは，英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために，受講生は自分自身の意見を英語で表明したり，英語で述べられる他者の意見を尊重したりして，大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。 【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素（**文法能力**，**社会言語能力**，**談話能力**，**方略的能力**）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al.　Publisher: Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第　1回　Introduction to the Course--Discussing course objectives　(導入ーコースの目標についての説明) 第　2回　"Do you remember when?" --Talking about the past (1)　(いつか覚えているかー過去についての話し合い(1)) 第　3回　"Do you remember when?" --Talking about the past (2)　(いつか覚えているかー過去についての話し合い(2)) 第　4回　"Making plans"--Planning to do something (1)　(計画の作成ー物事をするための計画(1)) 第　5回　"Making plans"--Planning to do something (2)　(計画の作成ー物事をするための計画(2)) 第　6回　"What should I do?" --Asking for and giving advice (1)　(何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1)) 第　7回　"What should I do?" --Asking for and giving advice (2)　(何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2)) 第　8回　"Tell me a story"--Storytelling (1)　(物語の語り方ーその方法(1)) 第　9回　"Tell me a story"--Storytelling (2)　(物語の語り方ーその方法(2)) 第 10 回　"In my opinion"--Expressing opinions (1)　(私の意見ではー意見の表明の仕方(1)) 第 11 回　"In my opinion"--Expressing opinions (2)　(私の意見ではー意見の表明の仕方(2)) 第 12 回　"Looking ahead"--Talking about the future (1)　(将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1)) 第 13 回　"Looking ahead"--Talking about the future (2)　(将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2)) 第 14 回　"Looking ahead"--Talking about the future (3)　(将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3)) 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋クラス活動への参加（30%）を基準に，総合的に評価する。		

（注）日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ（B）	担当者	霧 島　S. 怜
	〔履修年次〕　2 年 〔単位〕　1 単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】An Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話) 【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、完璧なウクライナ語や英語で専門的な討論に成功した者はいない !! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガロ語も簡単さ)という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !! 【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　城 由紀子他、"Business Talk" (やさしいオフィス英語)、成美堂。(ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082 (2)		
授業スケジュール	第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第　2回　Unit 2.　Application Letter　英和訳、読解、聞き取り等 第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　4回　Unit 4.　A Job Interview　英和訳、読解、聞き取り等 第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　6回　Unit 5　Job Offer　英和訳、読解、聞き取り等 第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　8回　Unit 8　Answering Phone Calls　英和訳、読解、聞き取り等 第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第 10 回　Unit 9　Taking A Message　英和訳、読解、聞き取り等 第 11 回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第 12 回　Unit 16. Sightseeing in Kyoto　英和訳、読解、聞き取り等 第 13 回　Unit 21. A Presentation at International Seminar 読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第 14 回　Xmas Day !　読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第 15 回　受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	**予習** 40%、**演習参加** 40%、**期末** Test 20% **の合計**		

（注）日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ（C）	担当者	James　Scott
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，中級程度（レベルで言えば，TOEIC 500～650 英検２級）のコミュニケーション能力の育成にある。 【概要】このコースでは，英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために，受講生は自分自身の意見を英語で表明したり，英語で述べられる他者の意見を尊重したりして，大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。 【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素（**文法能力**，**社会言語能力**，**談話能力**，**方略的能力**）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al.　Publisher: Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第　1回　Introduction to the Course--Discussing course objectives　(導入－コースの目標についての説明) 第　2回　"Do you remember when?" --Talking about the past (1)　(いつか覚えているか－過去についての話し合い(1)) 第　3回　"Do you remember when?" --Talking about the past (2)　(いつか覚えているか－過去についての話し合い(2)) 第　4回　"Making plans"--Planning to do something (1)　(計画の作成－物事をするための計画(1)) 第　5回　"Making plans"--Planning to do something (2)　(計画の作成－物事をするための計画(2)) 第　6回　"What should I do?" --Asking for and giving advice (1)　(何をすべきか－忠告を求め尋ねる方法(1)) 第　7回　"What should I do?" --Asking for and giving advice (2)　(何をすべきか－忠告を求める方法と尋ねる方法(2)) 第　8回　"Tell me a story"--Storytelling (1)　(物語の語り方－その方法(1)) 第　9回　"Tell me a story"--Storytelling (2)　(物語の語り方－その方法(2)) 第 10 回　"In my opinion"--Expressing opinions (1)　(私の意見では－意見の表明の仕方(1)) 第 11 回　"In my opinion"--Expressing opinions (2)　(私の意見では－意見の表明の仕方(2)) 第 12 回　"Looking ahead"--Talking about the future (1)　(将来の出来事や状況を判断－将来についての話し合い(1)) 第 13 回　"Looking ahead"--Talking about the future (2)　(将来の出来事や状況を判断－将来についての話し合い(2)) 第 14 回　"Looking ahead"--Talking about the future (3)　(将来の出来事や状況を判断－将来についての話し合い(3)) 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋クラス活動への参加（30%）を基準に，総合的に評価する。		

（注）経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 IV(D)	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」にふれながら、リスニングとスピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。 【概要】映画を使った英語学習には、（1）ストーリーを楽しみながら英語を学べる、(2) オーセンティックな（本物の）英語のシャワーを受けながら英語学習ができる、（3）会話表現・フレーズとそれを使う場面・状況をセットで学習できる、などの利点があり、楽しみながら英語力を高めることのできる理想的教材だと言えます。 授業では、映画『ゴースト』(サスペンス・ラブストーリー）を教材として使用し、毎回ストーリーを楽しみながら、ナチュラルスピードの英語の聞き取り演習に取り組むとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに、日・英セリフの対比や、日本語セリフ作成演習で、口語表現力を高めていきます。 また、この授業では各自「ポートフォリオ」(「学習ファイル」と「自己学習の記録（リフレクションシート)」）を毎回作成し、自分の取り組み具合をモニターしながら、自律的に英語力の向上を目指していきます。 【到達目標】日常生活のなじみのある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる／自分の意思を表現できる英語力の習得を目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　教師作成のプリントを毎回使用します。 (2)		
授業スケジュール	＜毎回、LL 教室を使用します＞ 第　1回　オリエンテーション：　映画を使った英語学習　/　映画の英語　/　授業内容と進め方について 第　2回　The Loft：　友人同士の会話（新居） 第　3回　Unchained Melody：　同僚との会話（オフィス） 第　4回　Propose：　恋人同士の会話（路上） 第　5回　Eternal Good-bye：　友人同士の会話（自宅） 第　6回　Spiritual Adviser：　初対面の相手との会話（店内） 第　7回　The Truth：　初対面の相手との会話（店内） 第　8回　At Molly's Apartment：　知人との会話（自宅） 第　9回　The Police Station　：　警察官との会話（警察） 第 10 回　Rita Miller：　顧客との会話（銀行） 第 11 回　Revenge：　友人との会話（自宅） 第 12 回　The Penny：　知人との会話（自宅） 第 13 回　With All my Heart：　知人との会話（自宅） 第 14 回　Last Chance：　恋人との会話 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	学習ファイル（10%）＋　リフレクションシート（20%）＋　復習のための小テスト（30%）＋　定期試験（40%）		

（注）経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 Ⅳ（E）	担当者	霧 島　S. 怜
	〔履修年次〕　2 年 〔単位〕　1 単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】An Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話) 【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、完璧なウクライナ語や英語で専門的な討論に成功した者はいない !! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガロ語も簡単さ)という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !! 【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　城 由紀子他、"Business Talk" (やさしいオフィス英語)、成美堂。(ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082 (2)		
授業スケジュール	第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第　2回　Unit 2.　Application Letter　英和訳、読解、聞き取り等 第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　4回　Unit 4.　A Job Interview　英和訳、読解、聞き取り等 第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　6回　Unit 5　Job Offer　英和訳、読解、聞き取り等 第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　8回　Unit 8　Answering Phone Calls　英和訳、読解、聞き取り等 第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第 10 回　Unit 9　Taking A Message　英和訳、読解、聞き取り等 第 11 回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第 12 回　Unit 16. Sightseeing in Kyoto　英和訳、読解、聞き取り等 第 13 回　Unit 21. A Presentation at International Seminar 読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第 14 回　Xmas Day !　読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第 15 回　受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	**予習** 40%、**演習参加** 40%、**期末** Test 20% **の合計**		

（注）経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ（F）	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　2 年 〔単位〕　1 単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，英検２級取得を目指せるように，学生の語彙力を増やし，英文法を再確認させ，長文読解のコツを身に付けさせて，英語学習への意欲を高める。 【概要】授業では，高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回１章ずつ進むので，予習が必要となる。担当者が解説を試み，間違った箇所をチェックさせることで，受講生の英語力のアップをはかり，学習意欲が高まるような工夫を凝らす。リスニング問題にも取り組めるように LL 教室を使用する。 【到達目標】受講生が英検２級の取得を目指せるような英語力を身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　坂部俊行，岡島徳昭，W.ノエル『英検２級　合格への道』南雲堂　　適宜，プリントによる問題も配布する。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の進め方の説明，プリント学習（受講生のレベルを確認） 第　2回　Lesson 1：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択 第　3回　Lesson 2：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の内容一致選択 第　4回　Lesson 3：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択 第　5回　Lesson 4：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択 第　6回　Lesson 5：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の応答文選択 第　7回　Lesson 6：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択 第　8回　Lesson 7：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択 第　9回　Lesson 8：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の内容一致選択 第 10 回　Lesson 9：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択 第 11 回　Lesson 10：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択 第 12 回　Lesson 11：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択 第 13 回　Lesson 12：短文の語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択 第 14 回　実践形式の練習（その一）：筆記とリスニング 第 15 回　実践形式の練習（その二）＋まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60%），予習を含む授業への取り組み（40%）		

（注）全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G)(注)	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】４年生大学編入試験に対応できる英文読解力と語彙力の養成 【概要】「フィーリング」ではなく，構文と論理の組み立てを追いながら，英文を正確に読む練習をする。具体的には，実用英語技能検定試験２級程度の読解問題を正しく解ける力を養成することを目標とする。 【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　初回の授業で指示する。 (2)　World in motion: Life in the 21st century, Michael Hood, Takako, Mori, 金星堂 Reading Fusion 1, Andrew Bennet, Nan'un-do Thoughts and Feelings, Jim Knudsen, Takaichi Okada, Nan'un-do Skills for Better Reading, Yumiko Ishitani 他, Nan'un-do Reading Pass 2, Andrew Bennett, Nan'un-do		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　英文読解演習 (1) 第　3回　英文読解演習 (2) 第　4回　小テスト(1) 第　5回　英文読解演習 (3) 第　6回　英文読解演習 (4) 第　7回　英文読解演習 (5) 第　8回　英文読解演習 (6) 第　9回　小テスト(2) 第 10 回　英文読解演習 (7) 第 11 回　英文読解演習 (8) 第 12 回　英文読解演習 (9) 第 13 回　英文読解演習 (10) 第 14 回　英文読解演習 (11) 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	試験（30%）＋ 課題（60%）＋ 授業への参加状況（10%）		

（注）全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　通年 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。 【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち，滞在期間中，基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2014 年度の実績 日程：10 月 4 日（土）～10 月 11 日（土） 参加者：28 名 研修費用：約 30 万円（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等） 【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)		
授業スケジュール	事前ガイダンス： 特設時間を利用して受講希望者に３～４回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。 海外研修： 9 月を予定（約２週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC 学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。 事後指導：帰国後に総括。		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）　とハワイでの研修状況（50%）で評価する。		

授業科目	**異文化コミュニケーション（中国語）**	担当者	中国語担当教員全員
	〔履修年次〕 1，2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位	〔学期〕 通年 〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生きた中国語を学び、運用能力を高める。 【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は，わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は，中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中，基礎的な実用中国語を習得し，さらに，南京農業大学の学生と交流し，中国の文化習慣などについて直接体験します。 ※2014年度中国研修の実績 ・日程：8月27日（水）～9月10日（水）［15日間］ ・参加者：3名（商経学科経営情報専攻1名，第二部商経学科2名） ・費用：約18万円（授業料，往復航空券，滞在費，南京市内・市外の見学費用） 【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。 ［1］南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明， ［2］海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明， ［3］課題（レポート作成）の指示などです。 海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて，中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。 事後指導 帰国後に総括します。		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%），および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。		

授業科目	**ドイツ語Ⅰ**	担当者	竹内　宏
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修／選択〕 選択（注）	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は1億2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。ちなみに、2015年はドイツ（再）統一25周年です。関連する報道に注意しておきましょう。 【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】1年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 荻野蔵平／Tobias Bauer『青春はうるわし』朝日出版社 (2) 在間進　他『アクセス独和辞典　第3版』三修社		
授業スケジュール	第　1回 ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット 第　2回 発音と綴り字 第　3回 第1課 第　4回 〃 第　5回 〃 第　6回 第2課 第　7回 〃 第　8回 〃 第　9回 第3課 第10回 〃 第11回 第3課，第4課 第12回 第4課 第13回 〃 第14回 復習と試験の説明 第15回 定期試験		
成績評価の方法	筆記試験80%，授業への参加状況20%		

（注）英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内　宏
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は１億2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。 【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】１年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　荻野蔵平／Tobias Bauer『青春はうるわし』朝日出版社 (2)　在間進　他『アクセス独和辞典　第３版』三修社		
授業スケジュール	第　１回　前期の復習 第　２回　第５課 第　３回　〃 第　４回　〃 第　５回　第６課 第　６回　〃 第　７回　〃 第　８回　第７課 第　９回　〃 第 10 回　第８課 第 11 回　〃 第 12 回　〃 第 13 回　復習と試験の説明 第 14 回　〃 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 80%，授業への参加状況 20%		

（注）英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	梁川　英俊
	〔履修年次〕　英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎をじっくりと学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず，ベルギー，スイス，カナダ，中東，アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及びますし，国連や EU などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。その国際的通用性は欧米系の言語の中では英語に次ぐと言えるでしょう。同じラテン語から派生したスペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとは共通点も多く，これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語にも多くの語彙を提供し，英語の語彙の３分の１はフランス語に由来すると言われています。もちろん，ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で，簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。語学に「魔法の杖」はありません！　こつこつやる習慣を身につけましょう！		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　藤田裕二他『新・東京 - パリ，初飛行（ＣＤ付新装改訂板）』(駿河台出版社) (2)　適宜指示する		
授業スケジュール	第　１回　授業全体の説明，アルファベットの発音など 第　２回　Leçon 1 第　３回　〃 第　４回　Leçon 2 第　５回　〃 第　６回　Leçon 3 第　７回　〃 第　８回　Leçon 4 第　９回　〃 第 10 回　Leçon 5 第 11 回　〃 第 12 回　Leçon 6 第 13 回　〃 第 14 回　まとめ 第 15 回　〃		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）		

（注）英語英文学専攻は１年次，生活科学専攻は２年次

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	梁川　英俊
	〔履修年次〕　英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択　〔学期〕　後期　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎をしっかりと学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず，ベルギー，スイス，カナダ，中東，アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及びますし，国連や EU などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。その国際的通用性は欧米系の言語の中では英語に次ぐと言えるでしょう。同じラテン語から派生したスペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとは共通点も多く，これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語にも多くの語彙を提供し，英語の語彙の３分の１はフランス語に由来すると言われています。もちろん，ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずフランス語Ⅰで習った発音の基礎をしっかりと身につけるように努めましょう。街のお店の名前がフランス語であることに気づく程度にフランス語に慣れ親しんだらしめたものです。フランス語を楽しんで勉強できるようになることを，とりあえずの到達目標としておきましょう。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　藤田裕二他『新・東京 - パリ，初飛行（ＣＤ付新装改訂板）』(駿河台出版社) (2)　適宜指示する		
授業スケジュール	第　1回　Leçon 7 第　2回　〃 第　3回　Leçon 8 第　4回　〃 第　5回　Leçon 9 第　6回　〃 第　7回　Leçon 10 第　8回　〃 第　9回　Leçon 11 第 10 回　〃 第 11 回　Leçon 12 第 12 回　〃 第 13 回　Leçon 13 第 14 回　〃 第 15 回　まとめ 授業の最後には毎回小テストをします。		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）		

(注) 英語英文学専攻は１年次，生活科学専攻は２年次

授業科目	中国語Ⅰ(A)	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　前期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語に親しむ 【概要】この授業では，中国語の発音を身につけ，ロールプレイ，ゲームなど様々な教室活動を通して，中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり，簡単な日常あいさつ，自己紹介ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　遠藤光暁監修『はじめての中国語すくすく』朝日出版社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第　2回　発音（1）：単母音と声調の導入，練習 第　3回　発音（2）：複母音の導入，練習 第　4回　発音（3）：子音の導入，練習 第　5回　挨拶ことば：発音の復習，初対面の挨拶と簡単な会話の導入，練習（教科書第１課） 第　6回　自己紹介：自己紹介および所属を尋ね合う表現の導入，練習（教科書第２課） 第　7回　復習（1）：第１～２課の復習 第　8回　動詞述語文：動詞を使った表現の導入，練習（教科書第３課） 第　9回　家族構成の言い方の導入，練習（教科書第３課） 第 10 回　ものの名称を尋ねる言い方：「这/那」の導入，練習（教科書第４課） 第 11 回　数字，年齢を尋ねあう表現の導入，練習（教科書第５課） 第 12 回　復習（2）：第３～５課の復習と応用練習 第 13 回　留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回　復習（3）：全体の復習 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%，期末試験：50%		

(注) 日本語日本文学専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ（B）	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ（1） 【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。 【到達目標】中国語検定準４級程度（後期終了時の目標）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社） (2)　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第　1回　発音（1） 第　2回　発音（2）、覚えておきたい表現 第　3回　「あいさつする」第1課（1） 第　4回　「あいさつする」第1課（2）、「名前を尋ねる」第2課（1） 第　5回　「名前を尋ねる」第2課（2） 第　6回　「食べたいものを尋ねる」第3課（1）「名前を尋ねる」第2課（2） 第　7回　「食べたいものを尋ねる」第3課（2）、「近況を尋ねる」第4課（1） 第　8回　「近況を尋ねる」第4課（2） 第　9回　「予定を尋ねる」第5課（1） 第10回　「予定を尋ねる」第5課（2）、「場所を尋ねる」第6課（1） 第11回　「場所を尋ねる」第6課（2） 第12回　「注文する」第7課（1） 第13回　「注文する」第7課（2）、「値段の交渉をする」第8課（1） 第14回　「値段の交渉をする」第8課（2） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）		

（注）日本語日本文学専攻，英語英文学専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ（C）	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ（1） 【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。 【到達目標】中国語検定準４級程度（後期終了時の目標）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社） (2)　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第　1回　発音（1） 第　2回　発音（2）、覚えておきたい表現 第　3回　「あいさつする」第1課（1） 第　4回　「あいさつする」第1課（2）、「名前を尋ねる」第2課（1） 第　5回　「名前を尋ねる」第2課（2） 第　6回　「食べたいものを尋ねる」第3課（1）「名前を尋ねる」第2課（2） 第　7回　「食べたいものを尋ねる」第3課（2）、「近況を尋ねる」第4課（1） 第　8回　「近況を尋ねる」第4課（2） 第　9回　「予定を尋ねる」第5課（1） 第10回　「予定を尋ねる」第5課（2）、「場所を尋ねる」第6課（1） 第11回　「場所を尋ねる」第6課（2） 第12回　「注文する」第7課（1） 第13回　「注文する」第7課（2）、「値段の交渉をする」第8課（1） 第14回　「値段の交渉をする」第8課（2） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）		

（注）経済専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ（D）	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介ＤＶＤや、期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　三宅登之監修・李軼倫著『四コマ漫画で学ぶ中国語』（朝日出版社） (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション 第　2回　第１課・第２課　声調・短母音・複母音・鼻母音 第　3回　第３課・第４課　子音・ｒ化音・声調変化、総合練習 第　4回　発音復習 第　5回　第５課　「是」構文・諾否疑問文と疑問詞疑問文・人称代名詞 第　6回　第６課　形容詞述語文・動詞述語文と連動文・反復疑問文 第　7回　第７課　指示代名詞・推測（確認）、提案（勧誘）の語気助詞 第　8回　第８課　変化の「了」・「不太～」・依頼（軽い命令）の語気助詞 第　9回　第９課　量詞・指示代名詞の連体修飾用法・助詞「的」 第10回　第10課　百以上の数の言い方・値段の言い方・二重目的語の構文 第11回　第11課　禁止の表現・選択疑問文・省略疑問文 第12回　12課　完了、実現の「了」・助動詞「想」「要」・所有の「有」 第13回　中国映画鑑賞 第14回　中国映画鑑賞 第15回　前期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

（注）経営情報専攻
（注）受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ（E）	担当者	三木　夏華
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース 【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。 【到達目標】1　ピンイン、声調記号が読めるようになる。 2　自己紹介など簡単な会話能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「しゃべっていいとも　中国語」朝日出版社　陳淑梅、劉光赤　著 (2)　授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　発音、声調 第　2回　発音、声調 第　3回　人称代名詞、名前の言い方 第　4回　会話練習、ヒアリング 第　5回　“的”、“是”について 第　6回　会話練習、ヒアリング 第　7回　動詞述語文、連動文 第　8回　会話練習、ヒアリング 第　9回　指示代名詞、“有”構文 第10回　会話練習、ヒアリング 第11回　“在”構文、方位詞 第12回　会話練習、ヒアリング 第13回　助動詞、形容詞述語文 第14回　会話練習、ヒアリング 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験５０％＋授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況５０％		

（注）経済専攻，経営情報専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(F)	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文Ⅰ 【概要】1 回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして，書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば，外国語もそれほど難しくはないものです。 もちろん外国語ですから最初は発音から入り，それから徐々に単語を増やしていきます。そのほか，理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう，中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき，中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため，中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試 HSK 筆記１級程度に１年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)　関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準４級』アルク		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　声調と母音 第　3回　子音 第　4回　発音のまとめ 第　5回　表記の規則 第　6回　クラス名簿，あいさつ（1） 第　7回　クラス名簿，あいさつ（2） 第　8回　数字，お金，時刻（1） 第　9回　数字，お金，時刻（2） 第 10 回　数字，お金，時刻（3 第 11 回　簡単な動詞の文（1） 第 12 回　簡単な動詞の文（2） 第 13 回　意思表示，誘いかけ（1） 第 14 回　意思表示，誘いかけ（2） 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%，定期試験 50%		

（注）食物栄養専攻
（注）受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ（G）	担当者	中筋健吉
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介ＤＶＤや、期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　三宅登之監修・李軼倫著『四コマ漫画で学ぶ中国語』（朝日出版社） (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション 第　2回　第１課・第２課　声調・短母音・複母音・鼻母音 第　3回　第３課・第４課　子音・ｒ化音・声調変化、総合練習 第　4回　発音復習 第　5回　第５課　「是」構文・諾否疑問文と疑問詞疑問文・人称代名詞 第　6回　第６課　形容詞述語文・動詞述語文と連動文・反復疑問文 第　7回　第７課　指示代名詞・推測（確認）、提案（勧誘）の語気助詞 第　8回　第８課　変化の「了」・「不太～」・依頼（軽い命令）の語気助詞 第　9回　第９課　量詞・指示代名詞の連体修飾用法・助詞「的」 第 10 回　第 10 課　百以上の数の言い方・値段の言い方・二重目的語の構文 第 11 回　第 11 課　禁止の表現・選択疑問文・省略疑問文 第 12 回　12 課　完了、実現の「了」・助動詞「想」「要」・所有の「有」 第 13 回　中国映画鑑賞 第 14 回　中国映画鑑賞 第 15 回　前期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

（注）生活科学専攻
（注）受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(H)	担当者	陳　躍

	〔履修年次〕　１年，２年（注）　〔学期〕　前期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。前期はその前半部分の学習に当てる
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社
授業スケジュール	第　1回　我是上海人 第　2回　我叫王平 第　3回　这里是南京路 第　4回　现在几点了? 第　5回　今天是星期几? 第　6回　你家有几口人? 第　7回　没关系（映画） 第　8回　香港的夏天热吗?　（映画） 第　9回　四川菜很好吃 第 10 回　我经常散步 第 11 回　牌价是多少? 第 12 回　汉语难不难? 第 13 回　我没吃蒜 第 14 回　我想去超市 第 15 回　まとめ
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする

（注）文学科・商経学科は１年次，生活科学科は２年次
（注）受講登録が３０人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ（A）	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語によるコミュニケーションに慣れる 【概要】この授業では，中国語Ｉを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ，引き続き中国語の基本構文を導入し，中国語を聞いて，話す力を伸ばす。さらに，中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】学習を進める上での基礎的知識を有し，中国語による家族構成の紹介や，簡単な買い物ができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　遠藤光暁監修『はじめての中国語すくすく』朝日出版社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第　2回　年月日・曜日の言い方の導入，練習（教科書第６課 第　3回　場所の尋ね方／言い方：「在」の導入，練習（教科書第７課） 第　4回　誘いの表現「吧」の導入，練習（教科書第７課） 第　5回　復習（1）第６～７課の復習 第　6回　時刻の言い方の導入，練習（教科書第８課） 第　7回　「電話をかけ方」の導入，練習（教科書第９課） 第　8回　復習（2）：第８～９課の復習 第　9回　買い物に用いられる表現の導入，練習（教科書第 10 課 第 10 回　買い物に用いられる表現の応用練習（教科書第 10 課） 第 11 回　趣味を語る：「喜欢」の導入，練習（教科書第 11 課） 第 12 回　復習（3）：第 10～11 課の復習 第 13 回　形容詞述語文の導入，練習（教科書第 12 課） 第 14 回　復習（4）：全体の復習 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト:50%，期末試験:50%		

（注）日本語日本文学専攻
（注）受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ（B）	担当者	尾崎　孝宏

	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ（2） 【概要】前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVD の視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】中国語検定準４級程度（後期終了時の目標）
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社） (2)　辞書などについては授業時に指示します。
授業スケジュール	第　１回　前期試験の解説など 第　２回　出来事を尋ねる 1」第９課（1） 第　３回　「出来事を尋ねる 1」第９課（2）、「出来事を尋ねる 2」第 10 課（1） 第　４回　「出来事を尋ねる 2」第 10 課（2） 第　５回　「希望を尋ねる」第 11 課（1）、「希望を尋ねる」第 11 課（2） 第　６回　「行き方を尋ねる」第 12 課（1） 第　７回　「行き方を尋ねる」第 12 課（2）、「経験を尋ねる」第 13 課（1） 第　８回　「経験を尋ねる」第 13 課（2） 第　９回　「相手の都合を尋ねる」第 14 課（1）、「相手の都合を尋ねる」第 14 課（1） 第 10 回　「相手の都合を尋ねる」第 14 課（2） 第 11 回　「比較する」第 15 課 第 12 回　「条件・情報を尋ねる」第 16 課 第 13 回　「進行状況を尋ねる」第 17 課 第 14 回　「別れを告げる」第 18 課 第 15 回　まとめ
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）

（注）日本語日本文学専攻，英語英文学専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	**中国語Ⅱ（C）**	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ（2） 【概要】前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVD の視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】中国語検定準４級程度（後期終了時の目標）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社） (2)　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第　１回　前期試験の解説など 第　２回　出来事を尋ねる 1」第９課（1） 第　３回　「出来事を尋ねる 1」第９課（2）、「出来事を尋ねる 2」第 10 課（1） 第　４回　「出来事を尋ねる 2」第 10 課（2） 第　５回　「希望を尋ねる」第 11 課（1）、「希望を尋ねる」第 11 課（2） 第　６回　「行き方を尋ねる」第 12 課（1） 第　７回　「行き方を尋ねる」第 12 課（2）、「経験を尋ねる」第 13 課（1） 第　８回　「経験を尋ねる」第 13 課（2） 第　９回　「相手の都合を尋ねる」第 14 課（1）、「相手の都合を尋ねる」第 14 課（1） 第 10 回　「相手の都合を尋ねる」第 14 課（2） 第 11 回　「比較する」第 15 課 第 12 回　「条件・情報を尋ねる」第 16 課 第 13 回　「進行状況を尋ねる」第 17 課 第 14 回　「別れを告げる」第 18 課 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）		

（注）経済専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	**中国語Ⅱ（D）**	担当者	中筋　健吉

	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ｉで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（１回）を鑑賞します。 【到達目標】中国語検定準４級、漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度の中国語能力習得を目指します。
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　三宅登之監修・李軼倫著『四コマ漫画で学ぶ中国語』（朝日出版社） (2)
授業スケジュール	第　1回　第 12 課までの復習 第　2回　第 13 課　助動詞「会」「能」「可以」・相似の表現 第　3回　第 14 課　場所代名詞・方位詞・存在の「有」と「在」 第　4回　第 15 課　年月日、曜日・数の聞き方 第　5回　第 16 課　結果補語・方向補語・動詞の重ね型 第　6回　第 17 課　「一点儿」と「有点儿」・可能補語・助動詞「应该」 第　7回　第 18 課　様態補語・動作の進行を表す「(正) 在～ (呢)」・形容詞の重ね型 第　8回　第 19 課　経験のアスペクト助詞・離合動詞・介詞 第　9回　第 20 課　時刻の言い方・「もうすぐ～だ」・状態持続のアスペクト助詞「着」 第 10 回　第 21 課　比較・方式を問う・動作量（時間、回数） 第 11 回　第 22 課　程度補語・「是～的」構文・疑問詞の非疑問用法 第 12 回　第 23 課　存在現象文・使役・構文・その他の語気助詞 第 13 回　第 24 課　受身文・仮定話法・「把」構文 第 14 回　中国映画鑑賞 第 15 回　後期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）

(注) 経営情報専攻
(注) 受講登録が 30 名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	三木　夏華
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】前期の中国語Ｉに続く入門コース 【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。 道の尋ね方、買い物の仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。 【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級のレベルにまで到達することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「しゃべっていいとも　中国語」朝日出版社　陳淑梅、劉光赤　著 (2)　授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方 第　2回　会話練習、ヒアリング 第　3回　値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方 第　4回　会話練習、ヒアリング 第　5回　年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型 第　6回　会話練習、ヒアリング 第　7回　時刻の言い方、語気助詞の“了” 第　8回　会話練習、ヒアリング 第　9回　前置詞、助動詞１ 第 10 回　会話練習、ヒアリング 第 11 回　前置詞、助動詞１ 第 12 回　会話練習、ヒアリング 第 13 回　動詞の進行を表す表現、助動詞２ 第 14 回　会話練習、ヒアリング 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験５０％+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況５０％		

(注) 経済専攻，経営情報専攻
(注) 受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥　克己

	〔履修年次〕　２年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文Ⅱ 【概要】1 回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。やや複雑な文にして，基本的に書かずに口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず，相手に気持ちを伝えることを大切にします。 作文のほか，理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう，中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき，中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため，中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試 HSK 筆記１級程度に１年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)　関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準４級』アルク
授業スケジュール	第　1回　連続動作，意向確認（1） 第　2回　連続動作，意向確認（2） 第　3回　なに？ どこ？ だれ？（1） 第　4回　なに？ どこ？ だれ？（2） 第　5回　モノ（1） 第　6回　モノ（2） 第　7回　場所（1） 第　8回　場所（2） 第　9回　状態（1） 第 10 回　状態（2） 第 11 回　態度，ある瞬間（1） 第 12 回　態度，ある瞬間（2） 第 13 回　１年間の復習（1） 第 14 回　１年間の復習（2） 第 15 回　まとめ
成績評価の方法	作文と小テスト 50%，定期試験 50%

（注）食物栄養専攻
（注）受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(G)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕　２年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（１回）を鑑賞します。 【到達目標】中国語検定準４級、漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度の中国語能力習得を目指します。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　三宅登之監修・李軼倫著『四コマ漫画で学ぶ中国語』（朝日出版社） (2)		
授業スケジュール	第　1回　第 12 課までの復習 第　2回　第 13 課　助動詞「会」「能」「可以」・相似の表現 第　3回　第 14 課　場所代名詞・方位詞・存在の「有」と「在」 第　4回　第 15 課　年月日、曜日・数の聞き方 第　5回　第 16 課　結果補語・方向補語・動詞の重ね型 第　6回　第 17 課　「一点儿」と「有点儿」・可能補語・助動詞「应该」 第　7回　第 18 課　様態補語・動作の進行を表す「(正) 在～ (呢)」・形容詞の重ね型 第　8回　第 19 課　経験のアスペクト助詞・離合動詞・介詞 第　9回　第 20 課　時刻の言い方・「もうすぐ～だ」・状態持続のアスペクト助詞「着」 第 10 回　第 21 課　比較・方式を問う・動作量（時間、回数） 第 11 回　第 22 課　程度補語・「是～的」構文・疑問詞の非疑問用法 第 12 回　第 23 課　存在現象文・使役・構文・その他の語気助詞 第 13 回　第 24 課　受身文・仮定話法・「把」構文 第 14 回　中国映画鑑賞 第 15 回　後期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

（注）生活科学専攻
（注）受講登録が 30 名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(H)	担当者	陳　躍

	〔履修年次〕　１年，２年（注）　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社
授業スケジュール	第　1回　来我家玩吧 第　2回　我打算去旅行 第　3回　没看过，听过 第　4回　我能参加 第　5回　我记一下 第　6回　我们边走边谈 第　7回　好像借给小李了（中間テスト） 第　8回　我不会打日文（映画） 第　9回　你知道号码吗？（映画） 第10回　什么都可以 第11回　被谁偷走了呢？ 第12回　让你久等了 第13回　有没有单间？ 第14回　我说得不好 第15回　まとめ
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする

（注）文学科・商経学科は１年次，生活科学科は２年次
（注）受講登録が 30 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

授業科目	**中国語Ⅲ**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　２年　〔学期〕　前期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語の体系を把握する 【概要】この授業は，中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験４級程度の語彙，文法の獲得を目指し，中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また，後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に，グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。 【到達目標】中国語検定試験４級を取得することを目指すと同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する (2)　授業中に紹介する		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明および１年次に習った内容の復習 第　2回　前置詞「在」（～で～をする）の導入，練習 第　3回　完了の「了」の導入，練習 第　4回　時間量の言い方の導入，練習 第　5回　文末詞「了」の導入，練 第　6回　場所の言い方の導入，練習 第　7回　必要の「得」:「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入，練習 第　8回　能力を表す助動詞「能」の導入，練習 第　9回　これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。 第10回　中国語で寸劇①：シナリオの作成 第11回　中国語で寸劇②：シナリオの修正 第12回　中国語で寸劇③：シナリオの決定，台本を読む練習 第13回　中国語で寸劇④：台本を読む練習，通し稽古 第14回　中国語で寸劇⑤：発表 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度 30%，発表評価：20%，筆記試験：50%		

（注）生活科学科を除く

授業科目	**中国語Ⅳ**	担当者	土肥　克己

	〔履修年次〕　2年　〔学期〕　後期 〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語で本を読む 【概要】『中華伝統遊戯大全』（麻国鈞・麻淑雲著，農村読物出版社，1990）を読みます。 　中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。授業はわたしが一方的に説明するのではなく，みなさんの発表に答える形で進めます。十分に予習をしてあらかじめ疑問点を用意しておいてください。質問を考える過程がみなさんの中国語理解を深めるはずです 【到達目標】中国語検定4級レベル，漢語水平考試HSK筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　講読（1） 第　3回　講読（2） 第　4回　講読（3） 第　5回　講読（4） 第　6回　講読（5） 第　7回　講読（6） 第　8回　講読（7） 第　9回　講読（8） 第10回　講読（9） 第11回　講読（10） 第12回　講読（11） 第13回　講読（12） 第14回　講読（13） 第15回　まとめ
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。

（注）生活科学科を除く

３　教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１　単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義　方式	
テーマ及び概要	【テーマ】本講義は、心身の基本的機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な三つのポイントである運動･栄養･休養の内容を中心に、ライフスタイルのあり方について学習することを主な目的とする。 【概要】導入段階において、過去の健康にかかわる現象を題材とし、「変わらないもの」と「変わったもの」を浮き彫りにする内容を取り扱い、社会と個人の健康問題の関連についての関心を高め、様々な健康ブームの現象の背景を探究する能力を獲得させたい。さらに毎回の講義では、日常生活を浮き彫りにするワークを取り入れ、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成するための知識と技能を身につけるための方法を提案する。 【到達目標】 1)日常生活における健康の重要性について知識を深める 2)生活習慣による健康阻害要因について理解する(社会的健康問題と個人的健康問題との関連) 3)運動習慣と健康との関係について理解する 4)運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成するためのポイントを理解する 5)自ら健康管理をすることの重要性を理解し、その方法を身につける(運動・栄養・休養のバランス)		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎回、講義資料を配布する。また毎回の講義の参考文献を紹介する。興味関心をもった文献を是非読んでもらいたい。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション、体育・健康科学科目の意義と健康観について 第　2回　健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る) 第　3回　健康と休養(生活リズムと睡眠の取り方など) 第　4回　健康と運動１　(運動の仕組みと運動の効果) 第　5回　健康と運動２　(ダイエットと運動処方) 第　6回　健康と栄養　(ダイエットと食事の仕方) 第　7回　ライフスタイルを考える 第　8回　まとめ 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法	毎回のワークレポート提出（50%1回-7回まで）＋レポート１回（10%）＋筆記試験(8回目 40%)		

(注) 教職必修
(注) 食物栄養専攻を除く。７．５回

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ（A)･(B)	担当者	道向　良
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり 【概要】ラケットスポーツとして主にテニスをとりあげ、ダブルスのゲームができるようになることを目標とする。ペアまたはグループで段階的に練習することを通して、各自の技能に応じた動きや技術、さらにはプレイスタイルを模索していく。 【到達目標】ダブルスのゲームができるようになる。試合の進め方、ルールおよびマナーを覚える。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　必要に応じてプリントを配布する (2)		
授業スケジュール	第　1回　グループ分け、ボールとラケットに慣れる、種々の基本動作 第　2回　基本のストローク（基礎と応用)、ボール・トスの練習 第　3回　ラリーを続ける、サーブ・レシーブの基本 第　4回　ハーフコート・シングルス１ 第　5回　ハーフコート・シングルス２ 第　6回　基本のボレー、ランニング･ボレー 第　7回　ダブルスのポジショニングとコンビネーション（基本) 第　8回　ダブルス・ルールの理解と実践、審判のやり方 第　9回　ダブルスゲーム１（チーム内での対抗戦）　振り返り１ 第10回　ダブルスゲーム２（同等ペアとの対抗戦）　振り返り２ 第11回　課題練習（自主的に練習を組み立てよう） 第12回　ファイナル・コンペティション（団体戦）１ 第13回　ファイナル・コンペティション（団体戦）２ 第14回　ファイナル・コンペティション（個人戦）１ 第15回　ファイナル・コンペティション（個人戦）２		
成績評価の方法	技術の上達度（40%)、出席状況や授業への取り組み状況（30%)、グループにおける協力関係、リーダーシップ（30%)		

(注) 教職必修
(注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻

授業科目	生涯スポーツⅠ実習　(C)(D)(E)(F)	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　1　単位	〔必修／選択〕	必修　〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。（後期はラケット種目を履修する） 【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る 【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史･ルールを理解する　②バレーボール･バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、④自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　各人の学習ノートを準備する。(毎回提出) (2)　主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。その他適時資料を配布する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　バレーボールの歴史　試しのゲーム　アタックからの学習について理解する 第　3回　Aアタックのタイミングの理解と習熟　2対2の簡易ゲーム 第　4回　2：2の簡易ゲームから3：3のゲームへ　アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する) 第　5回　3：3の簡易ゲームから4：4のゲーム　(攻撃の作戦を立てる　チームでの練習計画を立て実施する) 第　6回　4：4の簡易ゲームから6：6のゲームへ（コートの広さとアタックの守備との関係　防御の作戦を立てる） 第　7回　6：6のゲーム　(簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える　バレーボール大会実施) 第　8回　バスケットボールの歴史　試しのゲーム　(シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する) 第　9回　バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）半コートでのゲーム 第10回　2：0の練習　2：1の練習　2：2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する） 第11回　各チームで練習（3：3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す） 第12回　2：2から3：3の練習　オールコートでのゲームの展開　5：5にむけて（パスワーク・リターンパス・スクリーン） 第13回　3：3の練習から5：5の練習へ　(ポジションの確認　攻撃・守備の作戦を立てる) 第14回　5：5ゲーム　(　バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認　審判の役割) 第15回　まとめ （バスケットボール&バレーボールのゲーム　チーム戦）		
成績評価の方法	毎回の学習ノートの提出＋技術評価をもとに総合的に評価する		

(注) 教職必修
(注) (C) 食物栄養専攻, (D) 生活科学専攻, (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ(E)(F)	担当者	徳田　修司
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	必修（注）　〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり，仲間づくり 【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ，ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。ペアまたはグループで練習することを主とし，お互いの技術レベルに応じて協力しながら動きや技術を習得する。このような学習課程の中で体力の必要性，仲間との上手な協力関係，リーダーシップの重要性を学び，実際の生活でも応用できるようになることを目指す。 【到達目標】ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方，ルールを覚える。ラケットスポーツを通した，健康・体力づくり，仲間づくりの方法を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に必要なし (2)　必要なし　※必要に応じて，資料は配付する。		
授業スケジュール	第　1回　グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。 第　2回　ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとフォアハンドストローク。 第　3回　ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとバックハンドストローク。 第　4回　ボール投げとキャッチ。グループで正確な距離のコントロールの練習。 第　5回　ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとフォアハンドボレー。 第　6回　ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとバックハンドボレー。 第　7回　ラケット打ちとキャッチ。グループで正確なボレー（方向）の練習。 第　8回　ネットを挟んで短い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第　9回　ネットを挟んで長い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第10回　ネットを挟んで短い距離での連続したストロークの練習。 第11回　ネットを挟んで長い距離での連続したストロークの練習。 第12回　サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で，正確に打つこと。 第13回　正式のコートより狭くしたコートでのダブルスのゲームに挑戦。 第14回　正式のコートの広さでダブルスのゲームに挑戦する。 第15回　授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度（40%），出席状況や授業への取り組み状況（30%），グループにおける協力関係，リーダーシップ（30%））		

(注) (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツⅡ　（A）（B）（ E）（ F）	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1　単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　実習　方式	
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また本科目は、小学校から大学までカリキュラム内に教科として設定される最後の機会となる。球技スポーツの技術認識と技能習得をめざすと共に、前期にラケット種目を中心に履修してきた経験との比較から自分のからだやうごきの特徴を知る。 【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。 【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史･ルールを理解する　②バレーボール･バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、④自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　各人の学習ノートを準備する。(毎回提出)　なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある。 (2)　主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。その他適時資料を配布する		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　バレーボールの歴史　試しのゲーム　アタックからの学習について理解する 第　3回　Aアタックのタイミングの理解と習熟　2対2の簡易ゲーム 第　4回　2：2の簡易ゲームから3：3のゲームへ　アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する) 第　5回　3：3の簡易ゲームから4：4のゲーム　(攻撃の作戦を立てる　チームでの練習計画を立て実施する) 第　6回　4：4の簡易ゲームから6：6のゲームへ（コートの広さとアタックの守備との関係　防御の作戦を立てる） 第　7回　6：6のゲーム　(簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える　バレーボール大会実施) 第　8回　バスケットボールの歴史　試しのゲーム　（シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する） 第　9回　バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）半コートでのゲーム 第10回　2：0の練習　2：1の練習　2：2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する） 第11回　各チームで練習（3：3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す） 第12回　2：2から3：3の練習　オールコートでのゲームの展開　5：5にむけて（パスワーク・リターンパス・スクリーン 第13回　3：3の練習から5：5の練習へ　(ポジションの確認　攻撃・守備の作戦を立てる) 第14回　5：5ゲーム　（　バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認　審判の役割) 第15回　まとめ（バスケットボール&バレーボールのゲーム　チーム戦)		
成績評価の方法	毎回の学習ノート提出＋技術評価をもとに総合的に評価する		

(注) 教職必修
(注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻 (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ（C）（D）（E）（F）	担当者	岡田　猛
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1 単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　実技 方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 スポーツは長い歴史をもつ。各種スポーツの習得はそれぞれの歴史を通してそこに刻み込まれてきた社会的・精神的・身体的諸要因を体験、追求する意義をもち、わたしたちの成長・発達、生活におおいに貢献する。本講義では、今日ではすべてのひとにとって「権利」であるとされるスポーツについて確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を目ざしたい。 【概要】 教材として硬式テニスを採用する(雨天時には卓球に切り替えることがある)。生涯にわたってスポーツを享受できるために不可欠な認識（わかる）を深め広げ、本講義をとおして、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟（できる）を見通せる能力を形成する。 【到達目標】 1、 生涯にわたりテニス（主としてダブルスゲーム）を楽しめる主体を形成する そのために 2、テニスの歴史、技術構造を理解する 3、その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探求する 4、この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、忍耐性、身体能力に関する諸能力を向上させる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第2回~　1.テニスの世界への誘い（様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ） 第14回　2.テニスにおける基本的技能（グランドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等）における各種方法、各段レベルの習得 3.テニスにおけるゲーム運営（ルール、戦術・戦略、試合運営等）についての理解・習熟 丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、螺旋的、往還的な学習指導を展開する。 第15回　まとめ		
成績評価の方法	出席を含めた授業への積極的な参加、技能の理解・達成段階を総合的に評価する		

(注) 教職必修
(注) (C) 食物栄養専攻, (D) 生活科学専攻, (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

４　教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシーI(A)	担当者	刈屋美枝子
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。 【概要】Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、ワープロでの高度な文書作成法を学ぶ。 【到達目標】ソフトウェアを基本レベルで使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第 1回 電子メールにおける文書処理（1） 第 2回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第 3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第 4回 電子メールにおける文書処理（2） 第 5回 パソコンによる効率的な検索 第 6回 MS-WORD によるワープロ実習（1） 第 7回 MS-WORD によるワープロ実習（2） 第 8回 MS-WORD によるワープロ実習（3） 第 9回 画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第 10 回 画像ファイルの扱い方･･･写真の加工・編集 第 11 回 画像を利用した文書作り 第 12 回 表やグラフを用いた文書作り（1） 第 13 回 表やグラフを用いた文書作り（2） 第 14 回 他の MS OFFICE ソフトウェアの紹介（表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint） 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーI(B)	担当者	刈屋美枝子
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。 【概要】Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、ワープロでの高度な文書作成法を学ぶ。 【到達目標】ソフトウェアを基本レベルで使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第 1回 電子メールにおける文書処理（1） 第 2回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第 3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第 4回 電子メールにおける文書処理（2） 第 5回 パソコンによる効率的な検索 第 6回 MS-WORD によるワープロ実習（1） 第 7回 MS-WORD によるワープロ実習（2） 第 8回 MS-WORD によるワープロ実習（3） 第 9回 画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第 10 回 画像ファイルの扱い方･･･写真の加工・編集 第 11 回 画像を利用した文書作り 第 12 回 表やグラフを用いた文書作り（1） 第 13 回 表やグラフを用いた文書作り（2） 第 14 回 他の MS OFFICE ソフトウェアの紹介（表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint） 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		

（注）教職必修，英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーI(C)	担当者	青山　究
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】ワードプロセッサソフト（Microsoft Word，以下Word）が使えるようになること 【概要】Word，Excel PowerPointの各ソフトが使えることは，いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である．この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となるWordを，実習を通して使えるようにする． 【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない．日常で必要となった時，利用した方が良い時に気軽にそして積極的にWordを利用できるようになって欲しい．つまり，各種ビラ，授業のレポート，あるいは卒業研究の報告書などを作成する際に必要に応じてWordを活用できようになることを目標とする．		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部編「30時間でマスター　Word 2010」実教出版 情報リテラシーＩ（C）とＩＩ（C）２科目専用のUSBフラッシュメモリを１個用意すること． (2)　特に指定しないがWordの入門書，解説書なら何でも参考になる．		
授業スケジュール	第　1回　Windows 7の基礎 第　2回　Wordの起動と終了 第　3回　日本語入力システムの設定 第　4回　文字の入力 第　5回　文章の入力 第　6回　入力の訂正　（訂正，挿入，削除） 第　7回　特殊な入力方法　（記号の入力２，数式，手書き入力） 第　8回　いろいろな辞書の利用　（人名，住所，顔文字） 第　9回　文の入力　（ページ設定，文の入力，改行） 第10回　文書の保存と読み込み，印刷　（ページ設定，余白の設定，印刷レイアウト，印刷） 第11回　複写・削除・移動 第12回　編集機能１　（右揃え，中央揃え） 第13回　編集機能２　（印刷フォント，下線，表の作成，均等割り付け） 第14回　表の編集　（行・列の挿入） 第15回　ビジュアルな文書　（ワードアート，クリップアート，ページ罫線）		
成績評価の方法	期末実技試験（60%）＋授業中に課せられる課題（40%）		

（注）教職必修，食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーＩ(D)	担当者	遠矢　守
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得 【概要】現代人にとってコンピュータとインターネットなどは，情報の収集，分析（解決），情報の発信のための重要な道具となっている。本授業では，これらを利用した「情報活用技術」の基礎について実際にコンピュータを操作しながら学ぶことにする。 コンピュータの仕組みやWindowsの基本的事項の学習から始め，インターネット（メール，情報検索）や応用ソフト（ワープロ，表計算ソフト）に関して，これからの社会で生き抜く上で修得しておくべき基礎事項について学習し体得する。 【到達目標】現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能の基礎を獲得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし（ただし，必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのためUSBメモリなどを毎回準備すること） (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション（授業の方針・目標，受講上の注意），コンピュータの仕組みと簡単な操作 第　2回　タッチタイピング，Windowsの基本的操作，保存メディア，ショートカットキー 第　3回　日本語入力（部分確定・文節の切り替え，文字列の編集加工，単語登録，再変換など），簡単なファイル処理 第　4回　Wordによる文書作成１（Wordの基礎） 第　5回　電子メールの仕組み，ファイル添付，メールに関する情報モラル 第　6回　Webを利用した情報検索の方法１，ブラウザの効果的操作方法 第　7回　Webを利用した情報検索の方法２，調査事項の文書化 第　8回　ネット犯罪とセキュリティ 第　9回　ペイント系ソフトの技法，絵入り文書の作成など 第10回　Wordによる文書作成２（図形描画ツールに関する技法） 第11回　Wordによる文書作成３（表，インデント，段組み，Wordのショートカットキー） 第12回　Excelの基礎１（簡単な縦横計算） 第13回　Excelの基礎２（Word文書への表やグラフの貼り付け） 第14回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（100%）の結果による。なお，課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅠ(E)	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。 【到達目標】タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM出版 (2)		
授業スケジュール	第 1回 パソコンの基本操作 ：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成 第 2回 文字の入力 ：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回 文章の入力 ：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回 文書の作成 ：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回 文書の編集 ：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回 通知状の作成 ：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回 表の作成 ：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回 表の編集 ：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回 表の活用 ：課題文書作成（表を含む文書） 第10回 図形描画 ：図解について、図形描画を使った地図の作成 第11回 グラフィック機能の利用 ：ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入 第12回 案内状の作成 ：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第13回 レポートの作成 ：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第14回 サンプル文書作成 ：これまでに学習した機能を利用した文書作 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		

（注）経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅠ(F)	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 【到達目標】使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM出版 (2)		
授業スケジュール	第 1回 パソコンの基本操作 ：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成 第 2回 文字の入力 ：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回 文章の入力 ：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回 文書の作成 ：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回 文書の編集 ：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回 通知状の作成 ：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回 表の作成 ：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回 表の編集 ：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回 表の活用 ：課題文書作成（表を含む文書） 第10回 図形描画 ：図解について、図形描画を使った地図の作成 第11回 グラフィック機能の利用 ：ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入 第12回 案内状の作成 ：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第13回 レポートの作成 ：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第14回 サンプル文書作成 ：これまでに学習した機能を利用した文書作成 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		

（注）経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年次	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。 【概要】 情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱでは，Ⅰで学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るともに，情報化社会における社会とICTの関わりやその問題点などについても考える。 なお，教職課程に関連して，中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。 【到達目標】 情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。 また，ICT関連のニュースを理解し，中学生にもわかるように説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 奥村晴彦『【改訂第2版】基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方，パソコンの歴史 第 2回 コンピュータとのつきあい方，文字入力，文字コード 第 3回 ネットの利用，Web検索，電子メール，SNS 第 4回 お絵かきソフトとファイルの基本操作 第 5回 文書作成の基本 第 6回 文書作成の応用 第 7回 表計算ソフトの基本 第 8回 表計算ソフトの応用 第 9回 プレゼンテーションの基本 第10回 プレゼンテーションの応用 第11回 Webによる情報発信 第12回 情報の調べ方・まとめ方 第13回 ネットワークとセキュリティ 第14回 オープンソースソフトウェア（Linux体験） 第15回 まとめ		
成績評価の方法	課題レポートの成績(50%)に，毎時紹介するICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)を加えて判定する。		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年次	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。 【概要】 情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱでは，Ⅰで学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るともに，情報化社会における社会とICTの関わりやその問題点などについても考える。 なお，教職課程に関連して，中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。 【到達目標】 情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。 また，ICT関連のニュースを理解し，中学生にもわかるように説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 奥村晴彦『【改訂第2版】基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方，パソコンの歴史 第 2回 コンピュータとのつきあい方，文字入力，文字コード 第 3回 ネットの利用，Web検索，電子メール，SNS 第 4回 お絵かきソフトとファイルの基本操作 第 5回 文書作成の基本 第 6回 文書作成の応用 第 7回 表計算ソフトの基本 第 8回 表計算ソフトの応用 第 9回 プレゼンテーションの基本 第10回 プレゼンテーションの応用 第11回 Webによる情報発信 第12回 情報の調べ方・まとめ方 第13回 ネットワークとセキュリティ 第14回 オープンソースソフトウェア（Linux体験） 第15回 まとめ		
成績評価の方法	課題レポートの成績(50%)に，毎時紹介するICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)を加えて判定する。		

（注）教職必修，英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(C)	担当者	青山　究
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】表計算ソフト（Microsoft Excel，以下Excel）が使えるようになること 【概要】Word，Excel PowerPointの各ソフトが使えることは，いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である．この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となるExcelを，実習を通して使えるようにする． 【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない．日常で必要となった時，利用した方が良い時に気軽にそして積極的にExcelを利用できるようになって欲しい．つまり，各種ビラ，授業のレポート，あるいは卒業研究の報告書などを作成する際に必要に応じてExcelを活用できようになることを目標とする．		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部編「30時間でマスター　Excel 2010」実教出版 情報リテラシーⅠ（C）とⅡ（C）２科目専用のUSBフラッシュメモリを１個用意すること． (2)　特に指定しないがExcelの入門書，解説書なら何でも参考になる．		
授業スケジュール	第　1回　Excelの基礎 第　2回　データ入力の基礎　（数値データ，文字列データ，データの消去） 第　3回　基本的なワークシートの編集（セルの挿入・削除，移動・コピー，データの修正，連続データの入力，数式の入力） 第　4回　ワークシートの書式設定　（列幅と行の高さ，表示形式，文字の配置とフォント，罫線・塗りつぶし） 第　5回　グラフの作成　（グラフの用途と基本構成，棒グラフ，円グラフ） 第　6回　グラフの変更　（系列，数値軸目盛，グラフの種類，データ系列，軸ラベル，凡例，フォント，データラベル） 第　7回　オートSUMボタン　（最大，最小，平均，データの個数） 第　8回　関数の挿入（順位づけ，四捨五入，判定，条件による集計，表の検索） 第　9回　データベース機能　（並べ替え，フィルター，条件付き書式，テーブル） 第10回　データの集計　（ピボットテーブル，クロス集計，レポートフィルター） 第11回　順位付け，検索 第12回　文字列操作 第13回　データベース関数 第14回　条件付き集計 第15回　Wordとの連携		
成績評価の方法	期末実技試験（60%）＋授業中に課せられる課題（40%）		

（注）食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(D)	担当者	遠矢　守
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得 【概要】本科目は，情報リテラシーⅠから続くものでⅠと同じ授業方針で進める。 本科目Ⅱでは，Ⅰで学んだことをもとに，Ⅰより高度なWordやExcelのスキルの修得を目指す。さらに，デジタルプレゼンテーションやホームページ作成など情報発信に関するスキル修得を目指す。加えて，WordやExcelなどオフィスソフトの機能を自分なりに拡張できるマクロプログラミング技法の基礎について紹介する。 【到達目標】現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし（ただし，必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのためUSBメモリなどを毎回準備すること） (2)		
授業スケジュール	第　1回　前期の復習 第　2回　PowerPointによるデジタルプレゼンテーション１（文字だけのプレゼンテーション，テキストアニメーション） 第　3回　PowerPointによるデジタルプレゼンテーション２（図・表・動画の活用，図やグラフのアニメーション） 第　4回　PowerPointによるデジタルプレゼンテーション３（効果的プレゼンテーションとは） 第　5回　Excelによる縦横計算１（関数の利用１） 第　6回　Excelによる縦横計算２（関数の利用２，Excelのショートカットキー） 第　7回　Excelによる縦横計算３（演習） 第　8回　Excelによるグラフ作成，グラフ入り文書の作成１ 第　9回　Excelによるグラフ作成，グラフ入り文書の作成２ 第10回　Excelによるデータベース処理１ 第11回　Excelによるデータベース処理２ 第12回　Excelによるデータベース処理３ 第13回　ファイルの整理（ファイルの圧縮解凍），ＯＳの概念 第14回　マクロプログラミング入門 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（100%）の結果による。なお，課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(E)	担当者	刈屋美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。 【概要】情報リテラシーII（E）と（F）は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両専攻を合せて初級（初心者）と中級（経験者）にクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第 1回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第 2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第 3回 電子メール 第 4回 ファイルの基本操作 第 5回 パソコンによる効率的な検索 第 6回 インターネット検索 第 7回 画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第 8回 画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集 第 9回 ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト 第10回 画像を利用したワープロ文書作り（2） 第11回 ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍 第12回 ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト 第13回 インターネットの活用･･･PC とスマートフォンの連携 第14回 インターネットの活用･･･クラウドの利用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		

（注）経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(F)	担当者	刈屋美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修（注） 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。 【概要】情報リテラシーII（E）と（F）は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両専攻を合せて初級（初心者）と中級（経験者）にクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第 1回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第 2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第 3回 電子メール 第 4回 ファイルの基本操作 第 5回 パソコンによる効率的な検索 第 6回 インターネット検索 第 7回 画像ファイルの扱い方･･･スキャナー・デジカメ 第 8回 画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集 第 9回 ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト 第10回 画像を利用したワープロ文書作り（2） 第11回 ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍 第12回 ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト 第13回 インターネットの活用･･･PC とスマートフォンの連携 第14回 インターネットの活用･･･クラウドの利用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		

（注）経営情報専攻

５　日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	**日本文学概論**	担当者	木戸裕子・竹本 寛秋
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。 【概要】大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，１．古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，２．主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，３．大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。 【到達目標】日本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し，変体仮名（くずし字）の基本的な読み方を身につける。演習や２年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小島孝之『古筆切で読む　くずし字練習帳』『字典かな』新典社（担当者：木戸），プリント（担当者：竹本） (2) 中野三敏『くずし字で「百人一首」を楽しむ』角川学芸出版，堀川貴司『書誌学入門』勉誠出版		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。 第　2回　古典文学を学ぶとは：仮名史について　くずし字の読み方１ 第　3回　文献学（写本と板本）について：くずし字の読み方２ 第　4回　書誌学について：くずし字の読み方３ 第　5回　くずし字小テスト：物語・日記・随筆　古典文学の分類について 第　6回　古典における比較文学　中国古典文学との関わり１：くずし字の読み方４ 第　7回　中国古典文学との関わり２：くずし字の読み方５ 第　8回　総括１：前半のまとめ 第　9回　近代文学を学ぶとは：文学理論について 第10回　「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて 第11回　「作者」とは何か：作者／作品／テクスト 第12回　「語り」とは何か：テクスト論について 第13回　「物語」とは何か：　構造と物語 第14回　論文の書き方（後半のまとめ） 第15回　総括２：後半のまとめ		
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート（感想文等）２０％　講義期間中の提出課題又は小テスト３０％ 試験５０%の合計で評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**言語学概論**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】この授業では，言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論および語用論，さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。 【到達目標】言語学の全体像を体系的に把握すると同時に，身近なことばと私たちの生活，社会の関連について理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第　2回　音声学・音韻論（1）：調音音声学，子音・母音 第　3回　音声学・音韻論（2）：モーラ，音節，アクセント 第　4回　音声学・音韻論（3）：連濁，枝分かれ制約 第　5回　形態論：派生，複合など単語を生み出す仕組み 第　6回　統語論（1）：文の骨組みを作る仕組み 第　7回　統語論（2）：文の樹形図 第　8回　意味論（1）：単語の意味 第　9回　意味論（2）：文と文の間の意味関係 第10回　語用論（1）：間接的言語行為と協調の原則 第11回　語用論（2）：会話の含意 第12回　語用論（3）：　ポライトネスと敬語 第13回　言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第14回　これまでの復習 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業での発言や参加度：30%，小テスト 30%，期末試験：40%		

授業科目	**日本語学概論**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 日本語に関する研究を行っていくうえで，また，日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも，必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。 【概要】 日本語学の各研究分野について概観するが，日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項についてはパソコンを使って自分の声を分析しながら考察を行う。また，日本語においては文字・表記の問題も重要である。 この授業は「講義方式」であり，教室での 90 分の授業に対して 180 分の自学自習が義務づけられている。従って，各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，「学習課題」を考察してくること。 【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 玉村文郎〔編〕『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 日本語学とは ：国語／日本語と国語学／日本語学 第 2回 音声 1：音声器官，国際音声字母，子音 ※ 第 3回 音声 2：子音のまとめ，母音 ※ 第 4回 音声 3：音韻，外来語の表記 ※ 第 5回 音声 4：韻律，方言 ※ 第 6回 音声 5：音声の教育 ※ 第 7回 文字・表記 1：現代日本語の表記の特徴，国語施策，舊漢字 第 8回 文字・表記 2：漢字 第 9回 語彙 1：語彙の計量，語構成，語義 第 10 回 語彙 2：語種・語の位相 第 11 回 表現：慣用表現，待遇表現 第 12 回 文法 1：形態，構文 第 13 回 文法 2：ヴォイス・アスペクト・テンス 第 14 回 言語生活：流行語，若者言葉，名付け 第 15 回 まとめ （※印はパソコン教室で実施。）		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)に，随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。		

（注）教職必修

授業科目	**日本語教育概論**	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は１年，英語英文学専攻は２年		〔学期〕 後期
	〔単位〕 ２単位	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ。 【概要】この授業では，日本語教育に初めて接する人を対象として，日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢，教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境，言語（外国語）習得の仕組み，日本語教育の教授法等を解説する。 【到達目標】・日本語教育に関する基礎知識を身につけ，日本語教育に興味を持ち，その全体像を把握できること。 ・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し，より広い視野と多様な見方を持つようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化，定住外国人の増加，ボランティア教室 第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4回 言語と社会：バイリンガル／マルチリンガル，言語政策，言語変種 第 5回 文化と日本語教育：カルチャーショック，ステレオタイプ，高／低コンテキスト文化 第 6回 日本語教育とコミュニケーション教育：文化相対主義 異文化トレーニング コミュニケーション・スタイル 第 7回 日本語教育と文法：語順 日中対照 言語学 第 8回 第二言語としての日本語の習得：誤用分析 言語転移 外国語学習の適性 第 9回 日本語教育法（1）コースデザインとニーズ分析，シラバス・デザイン，カリキュラム 第 10 回 日本語教育法（2）教授法：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第 11 回 日本語教育法（3）教材分析・開発：機能シラバス 構造シラバス 場面シラバス 第 12 回 日本語教育法（4）授業の計画と実施①初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第 13 回 日本語教育法（5）授業の計画と実施②中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第 14 回 日本語教育法（6）評価法：熟達度テスト 到達度テスト 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%，期末レポート：50%		

授業科目	**日本語史**		担当者	望月 正道	
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	2単位	〔必修／選択〕	必修（注）	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 日本語の史的変遷について学ぶ。 【概要】 日本語の音韻史，文法史，語彙史について概観した後， 今日の標準語・共通語の母体となった東京語の歴史について考察する。 【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 杉本つとむ『東京語の歴史』講談社学術文庫 (2) 玉村文郎〔編〕『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社				
授業スケジュール	第 1回 日本語の歴史はどこまで遡れるか，昔のレコード 第 2回 音韻史 第 3回 文法史 第 4回 語彙史 第 5回 日本語の東と西 第 6回 古代日本語と東国語 第 7回 古代語から近代語へ1 第 8回 古代語から近代語へ2 第 9回 関東方言と江戸詞 第10回 江戸語の成立 第11回 江戸弁・上方弁と全国共通語 第12回 女のことば，幼児語，ことば遊び 第13回 近代日本と東京語の成立 第14回 江戸語の伝統と東京語・標準語 第15回 まとめ				
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)に，随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。				

（注）教職必修

授業科目	**日本文法論**		担当者	望月 正道	
	〔履修年次〕	2年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	2単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 近代以降の主な文法学説について学び，日本語の文法について考察する。 【概要】 中学校で習った（はずの）「口語文法」は，あまり役に立つとも思えない。しかし，文法研究を一生の仕事とした人がいるのだから，意外に面白いのかもしれない。また，外国語教育では，より実態に近い（役に立つ）文法理論も必要だ。 この講義では，毎年，日本語の文法について書かれた新刊書1冊を取り上げ，考察を加えていく。講義方式ではあるが，輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので，気軽に参加してほしい。 【到達目標】 日本語の文法について書かれた新書を理解し，文法に関して議論ができる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ロジャー・パルバース 著／早川敦子 訳『驚くべき日本語』集英社インターナショナル (2) 玉村文郎〔編〕『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社				
授業スケジュール	第 1回 学校文法の確認：中学校国語「口語文法」の内容について再確認 第 2回 主な文法学説1：大槻文彦／国語元年，山田孝雄／陳述 第 3回 主な文法学説2：松下大三郎／断句，橋本進吉／文節 第 4回 主な文法学説3：時枝誠記／文章論，三上章／主語廃止論 第 5回 テキストについての検討(1) 第 6回 テキストについての検討(2) 第 7回 テキストについての検討(3) 第 8回 テキストについての検討(4) 第 9回 テキストについての検討(5) 第10回 テキストについての検討(6) 第11回 テキストについての検討(7) 第12回 テキストについての検討(8) 第13回 テキストについての検討(9) 第14回 テキストについての検討(10) 第15回 まとめ				
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)に，随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。				

授業科目	**日本語学講義**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 韓国語（朝鮮語）の概要を学ぶことをとおして，日本語をより深く理解する。 【概要】 日本では，６年以上勉強した英語と比較して「日本語は特殊だ」と思い込んでしまう人が多いように見えるが，文法構造や漢字の受容，敬語法などの面において，日本語にそっくりで微妙に違う韓国語を知ると，目から鱗が落ちるはずだ。なお，授業はK-Popsを視聴するなど楽しくすすめるつもりだが，ハングル字母のおおよその読み方は覚えてほしい。 【到達目標】 日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。 また，日本語の起源に関する議論について，怪しい点が指摘できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント。 (2) 李翊燮ほか著／前田真彦 訳『韓国語概説』大修館書店，野間秀樹『韓国語をいかに学ぶか』平凡社新書		
授業スケジュール	第 1回 「ハングル」とは：誕生日，構造 第 2回 日本語と韓国語１：口蓋音化，音節構造 第 3回 日本語と韓国語２：「清音／濁音」対「平音／激音／濃音」 第 4回 日本語と韓国語３：漢字音，固有語・漢字語・外来語 第 5回 日本語と韓国語４：品詞分類，助詞 第 6回 日本語と韓国語５：助動詞（語尾），サ変動詞・形容動詞（하다動詞・形容詞），活用 第 7回 日本語と韓国語６：代名詞と指示語，コソアドの体系 第 8回 日本語と韓国語７：擬声語・擬態語 第 9回 日本語と韓国語８：色彩形容詞 「空の青」「海のあを」 第10回 日本語と韓国語９：待遇表現（敬語，文体） 第11回 日本語と韓国語10：数詞，助数詞 第12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」１：記紀歌謡・万葉集と郷歌 第13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」２：数詞 第14回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」３：トンデモ学説について 第15回 言語の起源・日本語の起源はどこまでわかっているか，まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（簡単なハングルの読み書き，日本語との類似点・相違点，日本語の起源とのかかわり等について出題する）の成績(80%)に，授業での発言や小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	**日本語学講読Ⅰ**	担当者	松尾 弘徳
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ 【概要】日本語学という学問分野がどんなことを問題をとして取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講学生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業では学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。 【到達目標】普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。 多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場にしたいと考えています。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 (2) 授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方の説明 第 2回 ことばの性差 第 3回 ことばの地域差 第 4回 意味用法の変化と若者語 第 5回 日本語のリズム 第 6回 鹿児島方言のアクセント 第 7回 語用論入門 第 8回 配慮表現 第 9回 比喩とはなにか 第10回 メタファーを考える 第11回 アニマシー 第12回 「あいづち」「いいよどみ」に潜む文法 第13回 とりたて詞 第14回 方言文法の変化 第15回 まとめと試験 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。		
成績評価の方法	評価基準は下の通り。 **メールによる予習課題の提出**：20% **学期末試験**：80% なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目	**日本語学講読Ⅱ**	担当者	松尾　弘徳
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える 【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。 学生の皆さんにも同様の調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。 授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する考察をすすめてゆきます。 【到達目標】教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。 この授業を通じて、①歴史認識　②日本語学の研究方法　③プレゼンテーションスキル　などを学ぶことになります。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 (2)　授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方の説明 第　2回　「正しい日本語」とはなにもの？ 第　3回　副詞「全然」の語史 第　4回　役割語とは何か 第　5回　研究発表準備① 第　6回　研究発表準備② 第　7回　「博士」のことば（研究発表①） 第　8回　博士語の成立 第　9回　標準語と非標準語（1）「田舎者」のことば（研究発表②） 第10回　標準語と非標準語（2）「標準語」の成立と展開 第11回　「中国人」のことば（研究発表③） 第12回　異人たちのことば 第13回　さまざまな役割語（研究発表④） 第14回　役割語とステレオタイプ 第15回　講義内容のまとめ 以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。		
成績評価の方法	評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。 **メールによる予習課題の提出**：50%　**研究発表と発表概要の提出**：50% なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目	**日本語学演習Ⅰ，Ⅲ**	担当者	望月　正道
	〔履修年次〕　1年次，2年次（注）	〔学期〕	後期
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】　大正時代の言語を考察する。 【概要】　レコード・蓄音機が普及し，ラジオ放送が始まった大正時代は，真の「共通語」が生まれた時代とも言える。 その大正時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。 【到達目標】大正時代の言語を考察する資料を探すことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に指示する。 (2)　塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂		
授業スケジュール	第　1回　導入：国立国会図書館近代デジタルライブラリー 第　2回　SP盤レコードと文句集 第　3回　演習：2年生担当 第　4回　〃　：　〃 第　5回　〃　：　〃 第　6回　〃　：　〃 第　7回　演習：1年生担当（2年生が補助） 第　8回　〃　：　〃 第　9回　〃　：　〃 第10回　〃　：　〃 第11回　〃　：　〃 第12回　〃　：　〃 第13回　〃　：　〃 第14回　〃　：　〃 第15回　まとめ		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に，それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。		

（注）演習Ⅰは1年次，演習Ⅲは2年次

授業科目	日本語学演習Ⅱ	担当者	望月 正道		
	〔履修年次〕	２年次	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	１単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 大正時代の言語を考察する。 【概要】 レコード・蓄音機が普及し，ラジオ放送が始まった大正時代は，真の「共通語」が生まれた時代とも言える。 その大正時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。 【到達目標】大正時代の言語を考察する資料を探し出し，その価値が指摘できる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示する。 (2) 塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂				
授業スケジュール	第 1回 導入：国立国会図書館近代デジタルライブラリー 第 2回 SP盤レコードと文句集 第 3回 唱歌・童謡と絵葉書 第 4回 落語・演説 第 5回 演習：教員が担当 第 6回 〃 ： 学生による発表 第 7回 〃 ： 〃 第 8回 〃 ： 〃 第 9回 〃 ： 〃 第10回 〃 ： 〃 第11回 〃 ： 〃 第12回 〃 ： 〃 第13回 〃 ： 〃 第14回 〃 ： 〃 第15回 まとめ				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に，それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。				

授業科目	日本語学演習Ⅳ，Ⅵ	担当者	楊 虹		
	〔履修年次〕	演習Ⅳは１年，演習Ⅵは２年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	１単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語の語用論に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。１年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める，２年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める 【到達目標】演習を行いながら，語用論、社会言語学に対する理解を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介する。				
授業スケジュール	第 1回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。 第 2回 語用論、社会言語学の分野の研究について 第 3回 配慮を考えるときの視点①（2年生担当） 第 4回 配慮を考えるときの視点②（2年生担当） 第 5回 配慮を考えるときの視点③（2年生担当） 第 6回 日本語の配慮の多面性①（1年生担当） 第 7回 日本語の配慮の多面性②（1年生担当） 第 8回 卒論中間報告（2年生 第 9回 役割語①（2年生担当） 第10回 役割語②（2年生担当） 第11回 談話分析（1年生） 第12回 会話分析（1年生） 第13回 卒論計画発表（1年生） 第14回 卒論発表練習（2年生） 第15回 まとめ				
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%				

授業科目	**日本語学演習Ⅴ**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】日本語の語用論、社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。 【概要】毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。 【到達目標】演習を行いながら，語用論及び社会言語学の分野の研究に対する理解を深め，簡単な学術的レポートが作成できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。 第　2回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第　3回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第　4回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第　5回　レポート作成指導① 第　6回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第　7回　レポート作成指導② 第　8回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第　9回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第10回　レポート作成指導③ 第11回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第12回　レポート作成指導④ 第13回　担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第14回　レポートに基づく口頭発表 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	**日本語表現法**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕　１年次 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。 【概要】 発表，面接，論文，エッセーなどの課題にグループで取り組みながら，ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示し，意見を的確に伝える方法を考察する。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。 この授業は講義方式であるが，実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので，一部演習も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。 【到達目標】 簡単な口頭発表が適切にできる。また，原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 (2)　国語辞典，教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック（電子辞書でも当該機能を有すれば可）		
授業スケジュール	第　1回　導入 ：「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介，自己紹介 第　2回　地図 ：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く 第　3回　漢字 ：地図の答え合わせ，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題 第　4回　ネット利用： 課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料を OPAC で 第　5回　調査方法 ：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査 第　6回　調査開始 ：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告 第　7回　調査実施 ：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告 第　8回　図表 ：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方 第　9回　中間報告 ：口頭発表と質疑 第10回　レポート ：文形・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成 第11回　レポート ：第１回提出 第12回　レポート ：わかりやすく書くには 第13回　レポート ：補充調査 第14回　レポート ：第２回提出 第15回　まとめ，表現の自由と人権		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に，グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)，随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

（注）教職必修

授業科目	**日本語表現法演習**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。 【概要】 日本語表現法の講義での学習を生かしながら，課題に対するレポートを作成し，口頭発表を行う。 この授業は演習方式であるが，実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので，一部講義も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法と併せて受講することが望ましい。 【到達目標】資料を調べて，口頭発表やレポート作成が適切にできる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 (2) 国語辞典，教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック（電子辞書でも当該機能を有すれば可）		
授業スケジュール	第 1回 参考文献：参考文献を読む 第 2回 参考文献：参考文献を引用する 第 3回 プレゼンテーション：何を使うか 第 4回 課題レポート1：作成 第 5回 課題レポート1：発表 第 6回 課題レポート1：討論 第 7回 課題レポート2：作成 第 8回 課題レポート2：発表 第 9回 課題レポート2：討論 第10回 課題レポート3：作成 第11回 課題レポート3：発表 第12回 課題レポート3：討論 第13回 試験レポート：資料収集 第14回 試験レポート：テーマに関する討論 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に，グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)，随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	**対照言語学**	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ 【概要】この授業では，対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語，中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して，それぞれの特徴を明らかにし，日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また，言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。 【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11回 日英中の対照（１０）：言語行動に関する比較① 第12回 日英中の対照（１１）：言語行動に関する比較② 第13回 発表準備 第14回 学生による発表 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表とレポート：50%		

授業科目	**日本文学講義Ⅰ**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義	
テーマ及び概要	【テーマ】大江の匡衡位と赤染衛門 【概要】平安時代中期、一条朝の儒者であった大江匡衡は、藤原道長の妻倫子に仕える女房赤染衛門と結婚する。平安時代の物語には貴族の貴公子と姫君の恋愛や結婚が数多く描かれるが、実在の中流貴族の夫婦の姿はほとんどわからない。この大江匡衡と赤染衛門の場合は双方が家集を遺しているほか、匡衡は漢詩文集も遺している。またその他説話や記録類により、夫婦関係、家族関係がわかる珍しい例である。 この二人を通して平安時代の家族観、結婚観について考察したい。 【到達目標】平安時代の家族制度について知識と理解を身につける。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　資料を配付する (2)　人物叢書「大江匡衡」吉川弘文館 工藤重矩『源氏物語の結婚』中公新書　服藤早苗『平安朝　女の生き方』小学館		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：説話に見る匡衡と赤染衛門 第　2回　平安時代の結婚観：『源氏物語』か 第　3回　匡衡と赤染衛門その１：二人の家集について 第　4回　匡衡の独身時代：学者の苦労と述懐古調詩一百韻 第　5回　赤染衛門の独身時代：『赤染衛門集』 第　6回　それぞれの恋愛：大江為基と赤染衛門 第　7回　二人の出会い：贈答歌の読み方 第　8回　結婚と仕事その１：『匡衡集』と『本朝文粋』、『小右記』 第　9回　結婚と仕事その２：『赤染衛門集』 第10回　匡衡の尾張赴任と赤染衛門：『赤染衛門集』『本朝文粋』 第11回　子どもたちその１：親の期待と援助 第12回　子どもたちその２：家の継承 第13回　匡衡の晩年と死：『小右記』『赤染衛門集』 第14回　その後の赤染衛門：『赤染衛門集 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業の感想レポート（毎回）20%　レポート80%		

授業科目	**日本文学講読Ⅰ**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　１，２年どちらでも履修可 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】『萬葉集』巻十三，十四の講読を通して上代文学に親しむ 【概要】『萬葉集』の中でも，巻十三は他とは違って長歌を中心に雑歌，相聞，挽歌の三大部立てに添って並べられているのが特徴的な巻である。また，巻十四は東国地方に伝わる歌，すなわち東歌を集めたこれも特異な巻である。昨年に引き続き，この二巻の作品を読むことで，上代人が歌に託した思いを読み取りたい。 本講読は基本的に，受講生による輪読形式で読み進めていき，適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが，一回の授業で３人から５人が担当することになろう。 【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び，上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。東歌についてその特徴を理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　伊藤博『萬葉集釈注（五）』集英社文庫 (2)　第１回目の授業で呈示する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション　『萬葉集』について（編者，諸本，万葉仮名など） 第　2回　巻十三，巻十四について。教員による模範演習 第　3回　『萬葉集』巻十三輪読その１：雑歌１ 第　4回　その２：雑歌２ 第　5回　その３：相聞１ 第　6回　その４：相聞２ 第　7回　その５：問答歌 第　8回　その６：挽歌１ 第　9回　その６：挽歌２ 第10回　その７：挽歌３ 第11回　巻十四輪読　その１：雑歌 第12回　その２：相聞１ 第13回　その３：相聞２ 第14回　その４：防人歌 第15回　まとめ		
成績評価の方法	輪読担当６０％，レポート４０％		

授業科目	日本文学講読Ⅱ	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。 【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。 　本講読では宮内庁書陵部蔵の御所本の影印（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。 御所本『伊勢物語』は藤原定家自筆の天福本の臨模本であり、これを使ってくずし字（変体仮名）の読み方も学習していきたい。 【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。 　　基本的な変体仮名が読めるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　御所本『伊勢物語』冷泉為和筆　笠間影印叢刊 (2)　角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川文庫		
授業スケジュール	第　１回　はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など） 第　２回　初段：昔男の登場　変体仮名の読み方１ 第　３回　三段：二条后の物語その１　変体仮名の読み方２ 第　４回　四段：二条后の物語その２　変体仮名の読み方３ 第　５回　五段：二条后の物語その３　変体仮名の読み方４ 第　６回　六段：二条后の物語その４　変体仮名の読み方小テスト 第　７回　六段：二条后の物語その５ 第　８回　七・八段：東下りその１　浅間の山 第　９回　九段：東下りその２　八橋・宇津の山 第10回　九段：東下りその３　富士の山・隅田川 第11回　六九段：伊勢の斎宮その１　歴史との関わり　変体仮名の読み方小テスト 第12回　六九段：伊勢の斎宮その２　漢文学との関わり 第13回　一六段：男の友情 第14回　八二段・八三段：惟喬親王 第15回　まとめ		
成績評価の方法	小テスト２０％　筆記試験８０％		

授業科目	日本文学講読Ⅲ	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】日本文学講読Ⅱに引き続き、中古文学の代表的作品である『源氏物語』の講読を通じて、平安時代の物語についての理解を深める。 【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』中から一巻を選び受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は昨年度に引き続き「朝顔」巻を読む。 「朝顔」巻は、「薄雲」巻で光源氏が明石君との間に生まれた姫君を二条院に迎え取り将来の后候補として育てることを決意するとともに、生涯焦がれ続けた藤壺女院の崩御に遭遇するという人生の転機を迎えた後、紫上との平穏な生活が始まるかに見えた時に起こった事件を描く。この巻を講読することで『源氏物語』の構成や物語の仕掛けを理解したい。 【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成。登場人物について考える		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡瀬茂編『首書源氏物語　薄雲・朝顔』和泉書院 (2)　角川ビギナーズクラシック『源氏物語』角川文庫 　　熊谷義隆『源氏物語　二つのゆかり』新典社新書		
授業スケジュール	第　１回　はじめに：『源氏物語』とは 第　２回　「朝顔」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。 第　３回　「朝顔」輪読：その１ 第　４回　　：その２ 第　５回　　：その３ 第　６回　　：その４ 第　７回　　：その５ 第　８回　人物論：藤壺と源氏の関わりについて。紫のゆかりとは。 第　９回　「朝顔」輪読：その６ 第10回　　：その７ 第11回　　：その８ 第12回　　：その９ 第13回　　：その10 第14回　　：その11 第15回　まとめ		
成績評価の方法	輪読担当５０％　　筆記試験５０％		

授業科目	日本文学演習Ⅰ、Ⅲ	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　１年、２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。 【概要】本演習は、前期の日本文学演習Ⅱの続きで『一条摂政集』を読みすすめる。 新たに１年生が加わり、１年生の日本文学演習Ⅰと２年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、２年生には１年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、１年生には、２年生の担当を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。 【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。　『一条摂政集』の作者が活躍した平安時代前半の文学状況を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　新日本古典文学大系『平安私家集』岩波書店　『一条摂政集全釈』風間書房		
授業スケジュール	第　1回　２年生によるオリエンテーション：『一条摂政集』について 第　2回　２年生による模範演習：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第　3回　一条摂政集を読む：１ 第　4回　一条摂政集を読む：２ 第　5回　一条摂政集を読む：３ 第　6回　一条摂政集を読む：４ 第　7回　一条摂政集を読む：５ 第　8回　一条摂政集を読む：６ 第　9回　一条摂政集を読む：７ 第10回　一条摂政集を読む：８ 第11回　一条摂政集を読む：９ 第12回　一条摂政集を読む：10 第13回　一条摂政集を読む：11 第14回　一条摂政集を読む：12 第15回　まとめ		
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ　担当時外発言　20%　レポート80% 日本文学演習Ⅲ　担当時外発言　20%　担当発表80%		

（注）

授業科目	日本文学演習Ⅱ	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。 【概要】昨年度に引き続き、『一条摂政集（いちじょうせっしょうしゅう）』を読む。一条摂政藤原伊尹（ふじわらのこれまさ）は右大臣藤原師輔の長男として生まれ、自らも摂政太政大臣まで上り詰めた人物だが、歌集においては自身を大蔵史生倉橋豊陰（くらはしのとよかげ）という身分の低い男に仮託して、歌物語風にまとめている。本演習では、担当者が歌の配列などを参考にしながら、和歌及び詞書の解釈を行ない、全体の構成を読み解いていく。 【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。　『一条摂政集』の作者が活躍した平安時代前半の文学状況を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　新日本古典文学大系『平安私家集』岩波書店　『一条摂政集全釈』風間書房　その他授業中に呈示する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：演習の進め方について（辞書、索引の引き方。資料の探し方） 第　2回　一条摂政集について：前年度の内容の確認 第　3回　一条摂政集を読む：１ 第　4回　一条摂政集を読む：２ 第　5回　一条摂政集を読む：３ 第　6回　一条摂政集を読む：４ 第　7回　一条摂政集を読む：５ 第　8回　一条摂政集を読む：６ 第　9回　一条摂政集を読む：７ 第10回　一条摂政集を読む：８ 第11回　一条摂政集を読む：９ 第12回　一条摂政集を読む：10 第13回　一条摂政集を読む：11 第14回　一条摂政集を読む：12 第15回　まとめ		
成績評価の方法	担当発表80%、担当時以外の発言（質問、意見など）20%		

授業科目	**日本文学史・近代Ⅰ** **日本文学史Ⅰ**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注　〔授業形態〕　必修（注	
テーマ及び概要	【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，明治の日本近代文学史の歴史的変遷を理解する。 【概要】「日本文学史・近代Ⅰ」では，主に明治期の文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】日本近代文学史の基礎的な知識を説明できる。 日本の近代文学史・文学作品に関して問題意識を持ち，自身の考えを述べることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成26年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ） (2)　畑 有三他著『作品で綴る近代文学史』双文社		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か 第　2回　概論：「近代」とは何か　―夏目漱石，森鴎外，北村透谷― 第　3回　概論：「小説」概念の成立　―坪内逍遙― 第　4回　明治の文学1：近世と近代文学　―戯作，漢文体，翻訳小説，政治小説― 第　5回　明治の文学2：「国語」と近代文学　―速記，表記の改革，文体の改革― 第　6回　明治の文学3：詩歌の改良　―新体詩の出現― 第　7回　明治の文学4：言文一致小説　―二葉亭四迷― 第　8回　明治の文学5：写実主義と写生(1)　―尾崎紅葉，硯友社の文学― 第　9回　明治の文学6：写実主義と写生(2)　―正岡子規― 第10回　明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌　―森鴎外，島崎藤村― 第11回　明治の文学8：自然主義の小説(1)　―島崎藤村― 第12回　明治の文学9：自然主義の小説(2)　―田山花袋― 第13回　明治の文学10：反自然主義の小説　―夏目漱石― 第14回　明治の文学11：口語自由詩　―川路柳虹，相馬御風― 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（40%），筆記試験（60%）		

授業科目	**日本文学史・近代Ⅱ** **日本文学史Ⅱ**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，大正から現代に至る日本近代文学史の歴史的変遷を理解する。 【概要】「日本文学史・近代」では，主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】日本近代文学史の基礎的な知識を説明できる。 日本の近代文学史・文学作品に関して問題意識を持ち，自身の考えを述べることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成26年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ） (2)　畑 有三他著『作品で綴る近代文学史』双文社		
授業スケジュール	第　1回　概論：大正・昭和以降の「文学」の問題　―メディアの変革と「文学」― 第　2回　大正の文学1：大正文壇と私小説　―白樺派，新思潮派― 第　3回　大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立　―菊池寛― 第　4回　昭和の文学1：新感覚派・前衛詩　―横光利一，萩原恭次郎― 第　5回　昭和の文学2：主知主義文学　―梶井基次郎― 第　6回　昭和の文学3：プロレタリア文学　―小林多喜二― 第　7回　昭和の文学4：文芸復興の時代　―転向文学，日本浪漫派，四季派― 第　8回　昭和の文学5：戦争と文学　―火野葦平，石川達三― 第　9回　昭和の文学6：昭和二十年代の文学　―戦後文学の出発― 第10回　昭和の文学7：昭和三十年代の文学　―第三の新人の登場― 第11回　昭和の文学8：昭和四十年代の文学　―三島由紀夫の死― 第12回　昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学　―村上龍，村上春樹― 第13回　昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向　―塚本邦雄，岡井隆，寺山修司― 第14回　現代の文学：現代文学のゆくえ　―インターネットと表現の変容,― 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（40%），筆記試験（60%）		

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】「猫」から読む日本近代文学 【概要】文学においては，作品を成立させるために不可欠な要素として様々な動物が登場する。本講義においては日本近代文学の作品においてどのように動物のイメージが利用されているか考察する。特に「猫」の形象に着目し、日本近代の文学・文化のなかにおけるイメージとしての「猫」の意味を明らかにするとともに、多様な視点で文学を読む方法について理解する。 【到達目標】「文学」を多様な角度から分析する方法を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：文学における「動物」のイメージの問題 第　2回　夏目漱石『吾輩は猫である』（1） 第　3回　夏目漱石『吾輩は猫である』（2） 第　4回　内田百閒『ノラや』（1） 第　5回　内田百閒『ノラや』（2） 第　6回　寺田寅彦と猫 第　7回　梶井基次郎『愛撫』 第　8回　詩における「猫」の表象 第　9回　萩原朔太郎『青猫』 第10回　萩原朔太郎『猫町』（1） 第11回　萩原朔太郎『猫町』（2） 第12回　童話における「猫」の表象 第13回　宮澤賢治作品における猫（1） 第14回　宮澤賢治作品における猫（2） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード（40%），レポート（60%）		

授業科目	日本文学講読Ⅳ	担当者	丹羽謙治
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】地獄ものの草紙を読む 【概要】古代より仏教の普及に伴い、地獄の恐ろしさが僧侶によって強調され語られてきた。しかし、近世になると、文学作品の舞台として地獄が数多く取り上げられていく。この授業では、乱世から太平の世に移り変わっていく時代に作られた地獄を舞台とする草紙（浄瑠璃）作品、およびそれに影響を受けた作品を取り上げ、鑑賞する。 【到達目標】1）地獄や仏教についての基本的な概念を把握する。 2）中世から近世にかけての時代相を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布 (2)　授業中に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　導入 第　2回　近世文学・文化の特徴 第　3回　地獄もの草紙の流れ 第　4回　『義経地獄破り』について 第　5回　『義経地獄破り』の講読 第　6回　『義経地獄破り』の講読 第　7回　『義経地獄破り』の講読 第　8回　『義経地獄破り』の講読 第　9回　『義経地獄破り』の講読 第10回　『義経地獄破り』の講読 第11回　『小夜嵐』の講読 第12回　『小夜嵐』の講読 第13回　『小夜嵐』の講読 第14回　『小夜嵐』の講読 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（７０%）、小レポート（３０%）		

授業科目	日本文学講読Ⅴ	担当者	丹羽謙治
	〔履修年次〕 1，2年いずれでも履修可 〔単位〕 1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択　〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】薩摩の滑稽本『夢中の夢』を読む 【概要】地獄を舞台とした物語の流れを汲む滑稽本『夢中の夢』を講読し、この作品が作られた背景やその基になった典拠を探り、成立年代や作者像について考察する。 薩摩という地方と中央の文学がどのような形で融合しているかについても考察する。 【到達目標】1）地方と中央の文化の混合の様相を理解する。 2）夢と文学の関係を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 『夢中の夢』の諸本について 第 2回 『夢中の夢』の講読 第 3回 『夢中の夢』の講読 第 4回 『夢中の夢』の講読 第 5回 『夢中の夢』の講読 第 6回 『夢中の夢』の講読 第 7回 『夢中の夢』の講読 第 8回 『夢中の夢』の講読 第 9回 『夢中の夢』の講読 第10回 『夢中の夢』の講読 第11回 『夢中の夢』の講読 第12回 『夢中の夢』の講読 第13回 『夢中の夢』の講読 第14回 『夢中の夢』と鹿児島（まとめ） 第15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験（７０%）、小レポート（３０%）		

授業科目	日本文学講読Ⅵ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】梶井基次郎を読み，文学テクストを読む方法論を身につける 【概要】梶井基次郎の代表的な作品を取り上げ，検討する。『檸檬』などは高校の教科書などで読んだことがある学生も多いと思うが，文学研究においては，テクストを多様な角度から検討して論点を引き出し，論理的に考察する必要がある。論点を取り出す方法，論理的な考察の方法，生産的な議論の方法を身につけるために，学生相互のディスカッションから梶井基次郎のテクストを検討する。 【到達目標】文学テクストを多様な視点から読むことができる。 自分の考えをまとめて発表でき，ディスカッションができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 梶井基次郎著『檸檬』新潮文庫 (2) 適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：梶井基次郎について 第 2回 文学テクストを読む様々な方法について，ディスカッションの方法について 第 3回 『檸檬』（1） 第 4回 『檸檬』（2） 第 5回 『檸檬』（3） 第 6回 『檸檬』（4） 第 7回 『桜の樹の下には』（1） 第 8回 『桜の樹の下には』（2） 第 9回 『Kの昇天』（1） 第10回 『Kの昇天』（2） 第11回 『Kの昇天』（3） 第12回 『冬の蠅』（1） 第13回 『冬の蠅』（2） 第14回 『冬の蠅』（3） 第15回 まとめ		
成績評価の方法	ディスカッションでの発言・参加（40%），毎回のミニレポート（30%），レポート（30%）		

授業科目	日本文学講読Ⅶ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】堀辰雄を読み，研究的な観点から文学テクストを読む実践を行う 【概要】堀辰雄の作品『美しい村』『風立ちぬ』を講読する。授業では作品を様々な角度から読み解くために，担当者を決め，物語の構造，文章技巧，時代背景，土地の形象，病気のイメージ，海外文学との関係などについて調査をし，発表を行う。 【到達目標】文学研究に必要となる，テクスト読解の方法を実践できる。 テクストを基にした妥当な読みを提示できる。 テクストの読みを広げるために，様々な事柄に関する調査を行い，報告にまとめることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』新潮文庫 (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：授業の進め方，堀辰雄について 第　2回　テクスト読解の基礎：「解釈」の理論的基礎 第　3回　発表テーマ、担当者の決定 第　4回　『美しい村』（1） 第　5回　『美しい村』（2） 第　6回　『美しい村』（3） 第　7回　『美しい村』（4） 第　8回　『美しい村』（5） 第　9回　前半のまとめ 第10回　『風立ちぬ』（1） 第11回　『風立ちぬ』（2） 第12回　『風立ちぬ』（3） 第13回　『風立ちぬ』（4） 第14回　『風立ちぬ』（5） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	発表（40%），ディスカッションでの発言・参加（30%），レポート（30%）		

（注）

授業科目	日本文学演習Ⅳ，Ⅵ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　１年，２年（注） 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】近現代文学の代表的な作品を取り上げ，研究的視点からテクストを検討する。 【概要】明治から昭和にかけての近現代文学作品を取り上げ，研究的視点から検討する。１年生はテキストの中から対象を選び発表する。２年生は関心のある作家について発表する。 【到達目標】文学研究の方法論を身につけ，根拠を示して発表することができる。 様々な資料を使い，テクストを複数の角度から検討できる。 自分の考えをまとめ，ディスカッションすることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　石井和夫他編著『近代文学読本』双文社 (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：授業の進め方，担当者の決定 第　2回　文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第　3回　資料の扱い方：資料の収集方法，資料の検討方法について 第　4回　口頭発表（1） 第　5回　口頭発表（2） 第　6回　口頭発表（3） 第　7回　口頭発表（4） 第　8回　口頭発表（5） 第　9回　前半のまとめ 第10回　口頭発表（6） 第11回　口頭発表（7） 第12回　口頭発表（8） 第13回　口頭発表（9） 第14回　口頭発表（１０） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	口頭発表等（70%），討議での発言・参加（30%）		

（注）１年生は演習Ⅳ，２年生は演習Ⅵ

授業科目	日本文学演習Ⅴ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】日本近現代における文学作品を対象として，論文作成の方法を身につける 【概要】明治以降の日本近代文学作品について，論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し，論点を発見して論理的な考察を行い，他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために，さまざまな文学理論について解説を行う。 【到達目標】日本近代文学の作品について，選択したテキストから論点を発見し，論として発展させることができる。 　様々な文学理論を理解し，自己の発表に生かすことができる。 発表をもとに，ディスカッションすることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：授業の進め方，研究論文を作成する意義 第　2回　対象となる作品の決定，文学理論について 第　3回　発表資料の作成，発表の方法，ディスカッションの方法について 第　4回　口頭発表（1） 第　5回　口頭発表（2） 第　6回　口頭発表（3） 第　7回　口頭発表（4） 第　8回　口頭発表（5） 第　9回　前半のまとめ 第10回　口頭発表（6） 第11回　口頭発表（7） 第12回　口頭発表（8） 第13回　口頭発表（9） 第14回　論文作成の方法について 第15回　まとめ		
成績評価の方法	口頭発表，ディスカッションでの発言（40%），レポート（60%）		

授業科目	南九州の文学	担当者	三嶽公子
	〔履修年次〕　１，２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】南九州の豊かさを、文学作品を通して知る。 南九州を舞台とした文学作品を読みながら、離島を含む南九州の風土の豊かさと、その土地で生きることへの希望を汲み取る。南九州における自然と人間のかかわりや、そこから湧き出る物語について学習する。 【概要】南九州の文学作品ベスト１０を読む 　南九州を舞台とした文学作品をできるだけ広範囲に、各地域ごとに読みこなす。作品そのものに深く触れ、そこから立ち上がる風景や人々の生き方について味わい、考える。同時に、２１世紀を生きる、これからの生き方へのヒントを探る。 【到達目標】「わたしの好きな鹿児島の１冊」ができるように。 　南九州ゆかりの文学作品に触れることで、自分の感受性を磨き、心に残る物語や言葉を自分の宝物にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「向田邦子　かごしま文学散歩」（K&Yカンパニー　２００３年） 　「屋久島文学散歩」（K&Yカンパニー　２００５年） (2)　「みたけきみこと読む　かごしまの文学」（K&Yカンパニー　２００７年） 　授業ごとに作成したプリントを配布。 　テキストは、授業時間内に販売するので、とくに購入する必要はない。		
授業スケジュール	第　1回　鹿児島文学マップを読み取る 第　2回　向田邦子「鹿児島感傷旅行」と城山・磯・天保山 第　3回　林芙美子「浮雲」と屋久島 第　4回　椋鳩十「片耳の大鹿」と屋久島 第　5回　山尾三省「アニミズムという希望」と屋久島 第　6回　島尾敏雄「出発は遂に訪れず」「はまべのうた」と奄美・加計呂麻島 第　7回　梅崎春生「桜島」と「幻化」の坊津 第　8回　「平家物語」と俊寛（硫黄島、喜界島） 第　9回　一色次郎「青幻記」と干刈あがた「島唄」の沖永良部 第10回　森瑤子「アイランド」と与論島 第11回　海音寺潮五郎「二本の銀杏」と大口 第12回　中村きい子「女と刀」と横川 第13回　やしまたろうの絵本「村の樹」「道草いっぱい」「からすたろう」の根占三部作 第14回　桜島句碑めぐり 第15回　まとめとレポート作成補助		
成績評価の方法	授業ごとのレポート（５０%）＋学期末提出のレポート（５０%）		

授業科目	中国文学史Ⅰ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学史 【概要】中国文学を時代順に説明します。今でこそ文学は娯楽に過ぎませんが，昔の中国においては社会人として生きていくために必要な技能であり，その能力が人生を左右することもありました。当時の文学者の置かれた状況を再現し，そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。 【到達目標】中国文学の存在意義，社会とのかかわりを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)　前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　詩経（1） 第　3回　詩経（2） 第　4回　楚辞（1） 第　5回　楚辞（2） 第　6回　諸子（1） 第　7回　諸子（2） 第　8回　辞賦（1） 第　9回　辞賦（2） 第10回　五言詩・楽府（1） 第11回　五言詩・楽府（2） 第12回　志怪小説（1） 第13回　志怪小説（2） 第14回　志怪小説（3） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	定期試験 100%		

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国文化の活用 【概要】日本のなかに中国文化がどのような形で根づいてきたかを説明します。三国志をはじめ，中国文化は日本人にとって今でも価値を持ちつづけています。不思議となくならないこの価値について，伝統的な漢詩文のほか書画・仏教，そしてサブカルチャーまで見渡し，日本人の価値観の一部としての中国文化を再確認します。 【到達目標】日本人が無意識に利用している中国文化を再認識する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　文字と文章（1） 第　3回　文字と文章（2） 第　4回　文学とかな（1） 第　5回　文学とかな（2） 第　6回　書（1） 第　7回　書（2） 第　8回　画（1） 第　9回　画（2） 第10回　仏教（1） 第11回　仏教（2） 第12回　文学（1） 第13回　文学（2） 第14回　文学（3） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	定期試験 100%		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】漢文の文法 【概要】短い漢文を使って，漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文（白文）を能動的に読む力を養うために，構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。 昔の中国文化についてもそのつど紹介します。 理解度を確認するため小テストを数回実施します。 【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして，漢文の基本的な構文・句法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　基本文型（1） 第　3回　基本文型（2） 第　4回　基本文型（3） 第　5回　基本文型（4） 第　6回　基本文型（5） 第　7回　基本文型（6） 第　8回　副詞 第　9回　基本文型の連続 第10回　フレーズ（1） 第11回　フレーズ（2） 第12回　フレーズ（3） 第13回　フレーズ（4） 第14回　フレーズ（5） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	小テスト50%，定期試験50%		

（注）教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】漢文学の基礎 【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき，知っていると役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し，構文・句法についての訓練も同時におこないます。 理解度を確認するため小テストを数回実施します。 【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして，漢文に関連する基礎知識を習得する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　漢字（1） 第　3回　漢字（2） 第　4回　漢字（3） 第　5回　漢字（4） 第　6回　漢字（5） 第　7回　漢文（1） 第　8回　漢文（2） 第　9回　漢文（3） 第10回　漢文学（1） 第11回　漢文学（2） 第12回　中国文学（1） 第13回　中国文学（2） 第14回　中国文学（3） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	小テスト50%，定期試験50%		

（注）教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】漢作文と中国文学読解 【概要】漢文を作ります。日本語を漢文に翻訳する形で漢作文の練習をします。これまで漢文は返り点や送り仮名に従って読むだけでしたが，この授業からは作り手になります。さらに作り手の立場で中国文学の作品を読むことで，漢文の表現技術を身につけていきます。 【到達目標】漢文が自由に作れるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　漢作文の技術 第　3回　漢作文（1） 第　4回　漢作文（2） 第　5回　漢作文（3） 第　6回　漢作文（4） 第　7回　漢作文（5） 第　8回　漢作文（6） 第　9回　中国文学（1） 第10回　中国文学（2） 第11回　中国文学（3） 第12回　中国文学（4） 第13回　中国文学（5） 第14回　中国文学（6） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	予習と質疑応答100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅱ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学に関する報告書作成とプレゼンテーション，口頭試問 【概要】中国文学に関する文献を素材にして，素材選択から調査，分析，構想，発表までの一連のステップを訓練します。 　発表は文章による報告書，説得を重視するプレゼンテーション，質問への対応にしぼった口頭試問からなり，総合的な表現力向上を図ります。 どのステップも社会人に必要な技術であることを常に意識して演習を進めます。 【到達目標】中国文学に限らず，社会人一般に求められている企画力の充実を目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　文献調査の基礎（1） 第　3回　文献調査の基礎（2） 第　4回　文献を利用した企画（1） 第　5回　文献を利用した企画（2） 第　6回　論文の読み方（1） 第　7回　論文の読み方（2） 第　8回　石碑調査の企画（1） 第　9回　石碑調査の企画（2） 第10回　石碑調査の企画（3） 第11回　石碑調査の企画（4） 第12回　研究の企画（1） 第13回　研究の企画（2） 第14回　研究の企画（3） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅲ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学の論文輪読 【概要】中国文学の論文を全員で読みます。発表担当者を決めて，卒業論文作成に向けて関心のある論文を用意してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ，発表の技術や論文の形式，構成，発想を身につけていきます。 【到達目標】専門性を高め，論文の書き方を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に指示します。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方について 第　2回　論文輪読（1） 第　3回　論文輪読（2） 第　4回　論文輪読（3） 第　5回　論文輪読（4） 第　6回　論文輪読（5） 第　7回　論文輪読（6） 第　8回　論文輪読（7） 第　9回　論文輪読（8） 第10回　論文輪読（9） 第11回　論文輪読（10） 第12回　論文輪読（11） 第13回　論文輪読（12） 第14回　論文輪読（13） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	予習と質疑応答100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ，Ⅱ	担当者	専攻教員全員
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　各１単位	〔学期〕　前期，後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】卒業論文の作成 【概要】卒業論文は２年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は，日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと，それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し，成果を卒業論文として提出します。 １年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し，２年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ，冬期には，卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。 教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け，みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。 【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に紹介します。 (2)　小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書		
授業スケジュール	第　1回　Ⅰ　オリエンテーション：卒業論文の進め方　Ⅱ　論文作成：その１ 第　2回　論文作成：その１　論文作成：その２ 第　3回　論文作成：その２　論文作成：その３ 第　4回　論文作成：その３　論文作成：その４ 第　5回　論文作成：その４　論文作成：その５ 第　6回　論文作成：その５　論文作成：その６ 第　7回　論文作成：その６　論文作成：その７ 第　8回　論文作成：その７　論文作成：その８ 第　9回　論文作成：その８　論文作成：その９ 第10回　論文作成：その９　論文作成：その１０ 第11回　論文作成：その１０　論文作成：その１１ 第12回　論文作成：その１１　論文作成：その１２ 第13回　論文作成：その１２　論文作成：その１３ 第14回　論文作成：その１３　論文作成：その１４ 第15回　まとめ　まとめ		
成績評価の方法	Ⅰ：中間報告100% Ⅱ：卒業論文75%，口頭発表25%		

授業科目	比較文化	担当者	
	〔履修年次〕	〔学期〕	
	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	英文学史	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　2単位	〔必修／選択〕	必修（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。 【概要】まず，文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に，18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて，「小説」の流れを概観し，18世紀の特徴，19世紀の特徴，20世紀の特徴を理解させる。また，受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために，指定した映像作品を鑑賞してもらい，「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。 【到達目標】18世紀の小説の特徴，19世紀の小説の特徴，20世紀の小説の特徴を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂 (2)　サブテスクトは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義方式の説明，文学史の科目に潜む問題点の探究 第　2回　18世紀の小説（その一）：18世紀の小説とその周辺に関する諸問題 第　3回　18世紀の小説（その二）：18世紀の小説におけるH.フィールディング，L.スターン，T.スモレットの役割 第　4回　18世紀の小説（その三）：18世紀後半のゴシック小説 第　5回　18世紀の小説（その四）：J.オースティンの小説 第　6回　18世紀の小説に関する小テスト，19世紀の小説（その一）：19世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴 第　7回　19世紀の小説（その二）：C.ディケンズの小説 第　8回　19世紀の小説（その三）：W.M.サッカレーの小説，ブロンテ姉妹の小説 第　9回　19世紀の小説（その四）：ダーウィニズムの影響，19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説 第10回　19世紀の小説に関する小テスト，20世紀の小説（その一）：20世紀小説の特徴 第11回　20世紀の小説（その二）：V.ウルフの小説，H.ジェイムズの小説，E.M.フォスターの小説 第12回　20世紀の小説（その三）：D.H.ロレンスの小説 第13回　20世紀の小説（その四）：H.G.ウエルズの小説 第14回　20世紀の小説に関する小テスト，映像課題に関する発表会 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60%），講義中の小テスト／授業への取り組み（30%），課題レポート(10%		

（注）日本語日本文学専攻は選択

授業科目	**米文学史**	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】Henry David Thoreau's Walden. 「ウォールデン 森の生活」 【概要】The course will include lectures and group presentations. Students will write short, creative essays and make presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content. 【到達目標】The course uses creative writing as a tool of literary analysis to raise consciousness of the literary, social, and cultural history of the United States.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Walden, Henry David Thoreau (IBC, 2007)（リライト：マイケル・ブレーズ） (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 How should I read? 第 2回 How should I write ? 第 3回 Introduction to Henry David Thoreau and Walden. 第 4回 Themes and writing styles in Henry David Thoreau's Walden. 第 5回 Writing workshop I 第 6回 Writing workshop II 第 7回 Writing workship III 第 8回 Economy : the project of Walden and its meaning for Thoreau. 第 9回 Economy : the project of Walden and its meaning for Thoreau. 第10回 Economy : the project of Walden ; its meaning for Thoreau and for modern Japanese readers. 第11回 Economy : the project of Walden ; its meaning for Thoreau and for modern Japanese readers. 第12回 Where I Lived, and What I Lived for. 第13回 Where I Lived, and What I Lived for ; its usefulness for modern Japanese readers. 第14回 Where I Lived, and What I Lived for ; its usefulness for modern Japanese readers. 第15回 Make-up work and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%)； 小テスト、発表、詩(50%)。		

（注）教職必修

授業科目	**読書と豊かな人間性**	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。 【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。受講生は、積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにすること。 【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。 児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。 様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトーク、アニマシオンなど）の方法を知る。 自分のこれまでの読書活動について振り返る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニマシオン」全国学校図書館協議会、村中李衣「絵本の読みあいからみえてくるもの」ぶどう社 その他は授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 子どもと読書：読書教育とは 第 2回 本と出版：本が読者に届くまで 第 3回 子どもの本（1）：絵本・児童文学・伝記・まんが 第 4回 子どもの本（2）：古典に親しむ 第 5回 学校図書館と読書（1）：図書館の役割 第 6回 学校図書館と読書（2）：読書活動 第 7回 読書活動（1）：読書案内 第 8回 読書活動（2）：読み聞かせと読みあい 第 9回 読書活動（3）：ストーリーテリング 第10回 読書活動（4）：ブックトーク 第11回 読書活動（5）：アニマシオン 第12回 読書の記録と交流：読書感想文・感想画、読書会など 第13回 大人と読書：生涯学習・サークル活動 第14回 実演（1）：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニマシオンなど 第15回 実演（2）：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニマシオンなど		
成績評価の方法	課題提出（50%）と、授業第14回、15回での実演（50%）		

（注）司書教諭資格必修

授業科目	**情報メディアの活用**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　２年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。 【概要】テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。 【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。 学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。 (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　高度情報化社会と人間　：情報化社会と司書教諭の役割 第　2回　情報メディアの歴史的変遷 第　3回　学校教育と情報メディア 第　4回　情報メディアの種類と特性 第　5回　情報メディアの選択　：状況に応じた選択の必要と留意点 第　6回　視聴覚メディアの活用 第　7回　情報メディアの活用１：コンピュータの活用と運用 第　8回　教育メディアの活用２：教育用ソフトウェアの活用 第　9回　情報メディアの活用３：データベースと情報検索 第10回　情報メディアの活用４：インターネットと情報検索 第11回　情報メディアの活用５：インターネットによる情報発信 第12回　情報セキュリティ 第13回　ネットワーク環境と学校教育 第14回　学校図書館メディアと著作権 第15回　まとめ：情報メディア活用の課題と将来		
成績評価の方法	毎回の授業での課題（40%）、期末試験（60%）		

（注）司書教諭資格必修

授業科目	**書道Ⅰ**	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　１単位	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楷書・行書・かなの特徴と書法 【概要】書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり，実に興味深い。 　しかし，現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが，筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。 　本講座では，書体の変遷について概要を学び，実技へと移行する。まず，書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書，さらにかなの基本へと進む。 【到達目標】楷書・行書・かなの書き方を習得する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第　1回　書について（書体の特徴とその変遷） 第　2回　楷書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第　3回　〃　〃 第　4回　〃　〃 第　5回　〃　（細字の書き方） 第　6回　〃　〃 第　7回　行書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第　8回　〃　〃 第　9回　〃　〃 第10回　〃　（細字の書き方） 第11回　〃　〃 第12回　かなの特徴と書き方　（いろは単体） 第13回　〃　〃 第14回　〃　（連綿とその応用） 第15回　〃　〃		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

（注）教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択（注）　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楷書・行書の古典学習及び草書の特徴と書法 【概要】本講座では，楷書・行書と草書の学習に終始する。 書の基本となる書体は楷書であり，日常生活において最も多用される文字は行書である。それらの古典を学ぶことにより，運筆の要領を習得し，文字造形の特徴を把握することに努める。 草書は芸術性が重視される書体で，日常ではその文字はほとんど目にしないが，書の知識を広げ，書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。 【到達目標】楷書・行書の古典の特徴を把握し，草書の特徴と書き方を習得する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第　1回　楷書の古典（九成宮醴泉銘） 第　2回　〃　〃 第　3回　〃　（始平公造像記） 第　4回　〃　〃 第　5回　行書の古典（蘭亭叙） 第　6回　〃　〃 第　7回　〃　（苕渓詩巻） 第　8回　〃　〃 第　9回　〃　（呉昌碩詩稿） 第10回　〃　（風信帖） 第11回　草書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第12回　〃　〃 第13回　草書の古典（書譜） 第14回　〃　〃 第15回　〃　（擬山園帖）		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

（注）教職必修

授業科目	書道Ⅲ	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】隷書・篆書の特徴と書法 【概要】　書道Ⅲでは隷書と篆書を中心に学習する。 隷書は今から１８００年前の漢時代に生まれた書体であるが，その文字は現代でも紙幣等に使用されて生きている。 隷書の技法を学び，造型のおもしろさを実感してもらう。 篆書は中国最古の文字。金文と小篆のユニークな字形や筆法を学習する。 【到達目標】隷書・篆書の特徴とその書き方を習得する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第　1回　隷書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第　2回　〃　〃 第　3回　〃　〃 第　4回　隷書の古典（曹全碑の臨書） 第　5回　〃　〃 第　6回　〃　〃 第　7回　〃　（礼器碑の臨書） 第　8回　〃　〃 第　9回　篆書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第10回　〃　〃 第11回　〃　〃 第12回　〃　〃 第13回　〃　（石鼓文の臨書） 第14回　〃　〃 第15回　〃　（趙之謙篆書対聯）		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

授業科目	書道Ⅳ	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習 【概要】書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず，自分の名を刻した印を制作し，漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな（古筆）の臨書学習を通して，その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが，日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいかに大切な文字であるか，実感してもらうのも目的の一つである。 【到達目標】漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第　１回　作品制作（篆刻―自用印） 第　２回　〃　〃 第　３回　〃　〃 第　４回　〃　〃 第　５回　〃（漢字作品―４字熟語） 第　６回　〃　〃 第　７回　〃　〃 第　８回　〃（調和体作品） 第　９回　〃　〃 第10回　かなの古典（高野切第１種） 第11回　〃　〃 第12回　〃（高野切第３種） 第13回　〃　〃 第14回　〃（寸松庵色紙） 第15回　〃　〃		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

６　英語英文学専攻専門科目

授業科目	**スタディスキルズ**	担当者	遠峯伸一郎　轟義昭　石井英里子　新任
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式（一部演習）		
テーマ及び概要	【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成 【概要】大学での専門的「勉強」は，受動的に知識を吸収するだけでは不十分で，あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力），それについて論理的に議論を展開し，自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では，その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術－「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」－を段階的に学んでいき，あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。 【到達目標】与えられたテーマについて自らの意見を持ち，その意見を論理的に展開できるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　学習技術研究会『知へのステップ　第４版－大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版 (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロ：「生徒」から「学生」へ 第　2回　「聴く」と「読む」：積極的な聞き手と読み手になるために 第　3回　「深く読む」：論旨や要点を整理して分析的に進む 第　4回　「調べる」と「整理する」：大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方 第　5回　「まとめる」と「書く」（その一）：レポート作成のための効果的なアカデミック・ライティング 第　6回　「まとめる」と「書く」（その二）：パソコンによるライティング・スキル（レポート作成術） 第　7回　「表現する」と「伝える」：自分の意見をわかりやすく表現して伝える（その一） 第　8回　「表現する」と「伝える」：自分の意見をわかりやすく表現して伝える（その二） 第　9回　学習で修得した基本的な技術の確認 第10回　レポート作成の第一歩（テーマの設定から最後の主張に至る展開術） 第11回　レポート作成の実践（その一） 第12回　レポート作成の実践（その二） 第13回　レポート作成の実践（その三） 第14回　発表用スライドの作成：パワーポイントの活用 第15回　プレゼンテーション		
成績評価の方法	レポート（６０%），プレゼンテーション（１０%），授業時の取り組み（３０%）		

授業科目	**言語学概論**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】この授業では，言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論および語用論，さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。 【到達目標】言語学の全体像を体系的に把握すると同時に，身近なことばと私たちの生活，社会の関連について理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に紹介する		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第　2回　音声学・音韻論（1）：調音音声学，子音・母音 第　3回　音声学・音韻論（2）：モーラ，音節，アクセント 第　4回　音声学・音韻論（3）：連濁，枝分かれ制約 第　5回　形態論：派生，複合など単語を生み出す仕組み 第　6回　統語論（1）：文の骨組みを作る仕組み 第　7回　統語論（2）：文の樹形図 第　8回　意味論（1）：単語の意味 第　9回　意味論（2）：文と文の間の意味関係 第10回　語用論（1）：間接的言語行為と協調の原則 第11回　語用論（2）：会話の含意 第12回　語用論（3）： ポライトネスと敬語 第13回　言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第14回　これまでの復習 第15回　まとめ		
成績評価の方法	**授業での発言や参加度：３０%，小テスト３０%，期末試験：４０%**		

授業科目	**比較文化**	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅠ**	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	後期（注）
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】コミュニケーション 【概要】英語において必要不可欠な部分である人間関係についての考えや感覚について取り扱い、練習します。 【到達目標】授業を通して受講者は言語に関する誤った認識、ステレオタイプの考え方に対して批判的な視点を持つことを学び、新しい表現や、認識の仕方、人間関係を築く上での振る舞いを身に付けます。この科目を履修後、言語学習において自主性を持つことを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業の資料を保管するためのファイルを準備し、英英 辞典を使用します。 (2) 『日本人にありがちな英語の落し穴』（デイビッド バーカー、Back to Basics, 2010）		
授業スケジュール	Part I **What's going on?** 第 1回 Am I an English speaker? 第 2回 Is my brain a little box or a big muscle? 第 3回 Isn't it too late for me to learn? 第 4回 Why have I chosen to use English? 第 5回 Why should anyone want to use a second language? 第 6回 Is *talking to foreigners* a clear and sufficient goal of English studies? Can I imagine other goals? 第 7回 Should I perform *being afraid of foreigners*? Why or why not? 第 8回 What is the relation between speaking, listening, writing, and reading? 第 9回 What matters most in language learning? Vocabulary? Reading? Age? Attitude? Part II **The communicative culture of the English language** 第10回 How is English pronounced differently than Japanese? 第11回 What does the English language look like? Can I think of telling examples? 第12回 When and with whom is it permissible and desirable for me to speak English? Are the same types of walls built between Japanese speakers found between speakers of English? 第13回 Is politeness a universal standard? How do English speakers work harmoniously with each other? 第14回 Am I in a group or am I alone? Is English conversation like tennis or more like bowling? Part III **Thought traps** 第15回 母語？ Is Japanese (like) a mother to me? 国語？ Does the language belong to the government? 第16回 "Culture shock": Why is it important to have a non-superficial understanding of this idea? 文化？異文化？自文化？How do these ideas relate to one another? 第17回 "Globalization," "global": Why do we say these words? Does saying them justify my decisions? 第18回 ネイティブ? What does anyone mean by this? How is this expression or idea used in Japan? 第19回 常識？Is *common sense* a clear, useful idea? What are its limits within language studies? 第20回 翻訳 Is *translation* from one culture to another possible? When and how should I use 英英 and 英和 dictionaries？ Part IV **Jumping into English** 第21回 How can I verbalize dreams in English? What is the power of the *conditional mood*? 第22回 How can I report others' speech in a way that sounds natural? 第23回 How can I talk with learners of Japanese? Why would I do it? 第24回 How can I keep up with other English speakers? How can I listen actively? 第25回 How can I practice experiencing various emotions in English? – Dialogues Ⅰ 第26回 How can I practice experiencing various emotions in English? – Dialogues II 第27回 How can I practice experiencing various emotions in English? – Dialogues III 第28回 What can be gained from singing songs in English? – I 第29回 What can be gained from singing songs in English? – II 第30回 What kind of people are most likely to help me in developing my English? How can I best continue learning on my own? What is my individual plan for learning?		
成績評価の方法	Attendance 出席（４０％） Class participation 授業での参加の度合（４０％） Dialogues ダイアログ（２０％）		

（注）週２回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice will be an integral part of classroom practice. 【到達目標】The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Tom Kenny & Linda Woo, *Nice Talking with You 1,* Cambridge University Press David Barker, *An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners,* Back to Basics Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction 第 2回 Unit 1 A-B 第 3回 Unit 1 C-D 第 4回 Unit 2 A-B 第 5回 Unit 2 C-D, evaluation 第 6回 Unit 3 A-B 第 7回 Unit 4 C-D, evaluation 第 8回 Unit 4 A-B 第 9回 Unit 4 C-D, evaluation 第10回 Unit 5 A-B 第11回 Unit 5 C-D 第12回 Unit 6 A-B 第13回 Unit 6 C-D, evaluation 第14回 Review 1-6 第15回 まとめ／オーラル・レポート		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合（３０%）、Quizzes / in-class presentations クイズ／授業での発表（７０%）		

（注）週２回

授業科目	オーラルミュニケーションⅠ	担当者	ジョン デグルシー
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕 2単位
テーマ及び概要	Course Description. Students will exchange information on a variety of interesting topics while learning not to repeat common mistakes that some Japanese students make. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Smart Choice 3, by Ken Wilson (2) Common English Errors for Japanese Learners, by David Barker		
授業スケジュール	第 1回 Weeks 1: Introduction 第 2回 ～ 第12回 We will proceed chapter by chapter through both texts, aiming to complete 9 units from Common Errors and 10 chapters from Smart Choice 3 in the first semester. A short review quiz will follow after each two chapters of Smart Choice. 第13回 ～ 第15回 Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview		
成績評価の方法	Attendance and participation (40%); short quizzes, written and listening (30%): final oral interview (30%)		

（注）週２回

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅡ**	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	後期（注）
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】コミュニケーション 【概要】英語において必要不可欠な部分である人間関係についての考えや感覚について取り扱い、練習します。 【到達目標】授業を通して受講者は言語に関する誤った認識、ステレオタイプの考え方に対して批判的な視点を持つことを学び、新しい表現や、認識の仕方、人間関係を築く上での振る舞いを身に付けます。この科目を履修後、言語学習において自主性を持つことを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業の資料を保管するためのファイルを準備し、英英 辞典を使用します。 (2) 『日本人にありがちな英語の落し穴』（デイビッド バーカー、Back to Basics, 2010）		
授業スケジュール	Part I **What's going on?** 第 1回 Am I an English speaker? 第 2回 Is my brain a box or a muscle? 第 3回 Isn't it too late for me to learn? 第 4回 Why have I chosen to use English? 第 5回 Why use a second language? 第 6回 Is *talking to foreigners* a clear and desirable goal of English studies? Could I imagine others? 第 7回 Should I perform *being afraid of foreigners*? Why or why not? 第 8回 What matters most in language learning? Vocabulary? Reading? Age begun? Attitude? 第 9回 What is the relation between speaking, listening, writing, and reading? Part II **The communicative culture of the English language** 第 10 回 What does the English language look like? Can I think of examples? 第 11 回 How is English pronounced differently than Japanese? 第 12 回 Do the same walls exist between English speakers as exist between speakers of Japanese? 第 13 回 Is politeness a universal concept and standard? 第 14 回 Whom is it permissible and desirable for me to speak to in English? Part III **Thought traps** 第 15 回 母語？ Is Japanese a mother to me? 第 16 回 国語？Does Japanese belong to the government? 第 17 回 "Culture shock": Why is it important to have a non-superficial understanding of this idea? 第 18 回 "Globalization," "global": Why do we say these words? Does saying them justify my decisions? 第 19 回 国際交流 and other light entertainments 第 20 回 常識？Is *common sense* a clear, useful idea? What are its limits within language studies? 第 21 回 文化？異文化？自文化？How do these ideas relate to one another? 第 22 回 ネイティブ? What is this idea and how is it used in Japan? Part IV **Jumping into English** 第 23 回 How can I verbalize dreams in English? What if I were to speak in the conditional mood? 第 24 回 How can I talk with learners of Japanese? 第 25 回 How can I keep up and not get frustrated with other English speakers? How can I listen actively? 第 26 回 How can I report others' speech? 第 27 回 What kind of people are most likely to practice English with me? 第 28 回 How can I experience various emotions in English? Can they be practiced? 第 29 回 How do English speakers work harmoniously with others? 第 30 回 How can I best continue learning on my own? What professional or cultural opportunities exist?		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合（３５%） Quizzes / in-class presentations クイズ／授業での発表（３５%） Dialogues ダイアログ（３０%）		

（注）週２回

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅡ**	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice will be an integral part of classroom work. 【到達目標】The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Tom Kenny & Linda Woo, *Nice Talking with You 1,* Cambridge University Press David Barker, *An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners,* Back to Basics Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 ntroduction 第 2回 Unit 7 A-B 第 3回 Unit 7 C-D 第 4回 Unit 8 A-B 第 5回 Unit 8 C-D, evaluation 第 6回 Unit 9 A-B 第 7回 Unit 9 C-D 第 8回 Unit 10 A-B 第 9回 Unit 10 C-D, evaluation 第 10 回 Unit 11 A-B 第 11 回 Unit 11 C-D 第 12 回 Unit 12 A-B 第 13 回 Unit 12 C-D, evaluation 第 14 回 Review 7-12 第 15 回 まとめ／オーラル・レポート		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合（30%）、 Quizzes / in-class presentations クイズ／授業での発表（70%）		

（注）週２回

授業科目	**オーラルミュニケーション Ⅱ**	担当者	ジョン デグルシー
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	Course Description. Students will exchange information on a variety of interesting topics while learning not to repeat common mistakes that some Japanese students make. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Smart Choice 3, by Ken Wilson (2) Common English Errors for Japanese Learners, by David Barker		
授業スケジュール	第 1回 Weeks 1: Introduction 第 2回 ～ 第 12 回 Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, aiming to complete 9 units from Common Errors and 10 chapters from Smart Choice 3 in the second semester. A short review test will follow each two chapters. 第 13 回 ～ 第１５回 Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview		
成績評価の方法	Attendance and participation (40%); short quizzes, written and listening (30%): final oral interview (30%)		

（注）週２回

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅢ**	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 ２年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 １単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Oral communication 【概要】Students are introduced to English-language conversation strategies. The teacher shows how to choose and sustain conversation topics; students then take turns proposing topics and leading group discussions. 【到達目標】Actively participating students should gain confidence in speaking before others.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) Stimulating Conversation, Greg Goodmacher (Intercom Press, 2008).		
授業スケジュール	第 1回 Introduction / self-introductions 第 2回 Conversation strategies, 1 第 3回 Conversation strategies, 2 第 4回 Conversation strategies, 3 第 5回 Conversation strategies, 4 第 6回 Conversation strategies, 5 第 7回 Student 1, student 2 第 8回 Student 3, student 4 第 9回 Student 5, student 6 第 10 回 Student 7, student 8 第 11 回 Student 9, student 10 第 12 回 Student 11, student 12 第 13 回 Make-up work 第 14 回 実践 Review ＆ Questionnaire 第 15 回 実践 Review ＆ Prospectives		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合（４０%） In-class presentations 授業での発表（４０%） Final evaluation 最終のテスト（２０%）		

授業科目	**オーラルコミュニケーション Ⅲ**	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 ２年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 １単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently. 【概要】Class time will be centered on speaking and vocabulary work, centered around discussions of timely themes . 【到達目標】The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become able to carry on a discussion with confidence.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Barry Ward, *Impact Issues 3*, Pearson Longman (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction 第 2回 Topic 1 第 3回 Topic 2 第 4回 Topic 3 第 5回 Topic 4 第 6回 Topic 5 第 7回 Topic 6 第 8回 Topic 7 第 9回 Topic 8 第 10 回 Topic 9 第 11 回 Topic 10 第 12 回 Topic 11 第 13 回 Topic 12 第 14 回 Topic 13 第 15 回 opic 14		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合（３０%）、 Quizzes / in-class presentations クイズ／授業での発表（７０%）		

授業科目	オーラルミュニケーション Ⅲ	担当者	Andrew Daniels
	〔履修年次〕 2nd Year	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations. 【概要】Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns 【到達目標】The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Inspire 2 by Hartmannn, Douglas and Boon Cengage learning (2)		
授業スケジュール	第 1回 Key topics from the first half of the textbook based on festivals, food, cities and jobs. 第 2回 〃 第 3回 〃 第 4回 〃 第 5回 〃 第 6回 〃 第 7回 Review Quiz of first half of semester 第 8回 Key topics from the units in the second half of the textbook 第 9回 〃 第10回 〃 第11回 〃 第12回 〃 第13回 〃 第14回 〃 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%		

授業科目	オーラルコミュニケーション Ⅳ	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability. 【概要】lass time will be centered on (1) a study of English idiomatic expressions using natural dialogs, conversation practice, and listening practice; and (2) speech work. 【到達目標】The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become confident in expressing their ideas in a more formal way through speeches.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction & Speech lesson 1 第 2回 Speech lesson 2 第 3回 Speech lesson 3 第 4回 Speech assignment #1 第 5回 Idioms, Unit 1 第 6回 Idioms, Unit 2 第 7回 Idioms, Unit 3 第 8回 Idioms, Unit 4 第 9回 Speech assignment #2 第10回 Idioms, Unit 5 第11回 Idioms, Unit 6 第12回 Idioms, Unit 7 第13回 Idioms, Unit 8 第14回 Speech assignment #3 第15回 まとめ		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合（３０%）、 Quizzes / in-class presentations クイズ／授業での発表（７０%）		

授業科目	Oral Communication IV	担当者	Andrew Daniels
	〔履修年次〕 2nd Year	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English. 【概要】Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class. 【到達目標】The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第 2回 〃 第 3回 〃 第 4回 〃 第 5回 World Music and expressing opinions about it 第 6回 〃 第 7回 Review Quiz 第 8回 Health, Diets and the Pressures of the Mass Media 第 9回 〃 第10回 〃 第11回 〃 第12回 Travel and plans for the future 第13回 〃 第14回 〃 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%		

授業科目	LL 演習 I	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修　〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】視聴覚教材を利用しナチュラルな英語を聞き取る力を向上させる。 【概要】オーセンティックな英語で紹介されるオーストラリアの文化・社会・日常生活をビデオで楽しみながら理解しながら、ナチュラルな英語を聞き取る力をつけていきます。 さらに、毎回、パラレルリーディングやシャドーイングといった、聞き取った音を再現する口頭練習を積み重ねることで、ナチュラルスピードの英語を「聞く力」と「英語らしく話す力」をアップさせていきます。 【到達目標】オーストラリアの文化・社会・日常生活について知識を深める。 ナチュラルスピードで話される英語から情報を聞き取ることができるようになる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Kumiko T.Sato 他著 *Australia, Here We Come !* Asahi Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：授業の内容と進め方について / オーストラリア紹介。 第 2回 Unit 1 Hello, Sydney, Australia! 第 3回 Unit 2 Street Life 第 4回 Unit 3 Public Transport –Commuting 第 5回 Unit 4 University Life – The University of Sydney 第 6回 Unit 5 Australian Home 第 7回 Unit 6 Supermarket –Coles 第 8回 Unit 7 Daily Life 第 9回 Unit 8 Taronga Zoo – Australian Animals 第10回 Unit 9 Leisure Time at the Sea 第11回 Unit 10 Education Programmes in Taronga Zoo 第12回 Unit 11 Leisure Time at the Park 第13回 Unit 12 Australian Family 第14回 Review 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業でのワークシート（３０％）＋ 復習のための小テスト（３０％）＋ 定期試験（４０％）		

（注）

授業科目	LL演習Ⅱ	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修	〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本や地域社会の文化への興味と理解を深めながら，英語の4技能を総合的に向上させる。 【概要】本授業では，身近な国内ニュースなど地域社会や日本全体に関わる問題を扱い，日本や地域社会の文化への理解を深めながら，英語の4技能 listening, speaking, reading, writing を総合的に訓練する。LL 教室では，映像教材を用いて，自然な英語を聞き取る力を鍛え，英語のプロソディーや発音を習得する。Group project では，日本や地域社会の文化発信について各自が関心のあるプロジェクトに取り組み，英語発信力を高める。 【到達目標】①自律した英語学習者となるための知識とスキルを身につける。②自分の考えを積極的に英語で表現することができる。③日本や地域社会の文化に関して興味・関心を持つ。④地域社会の文化について英語で発信することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Yamazaki, T., Yamazaki, M.S.,& Yamazaki, C.E. (2015). *What's on Japan 9: NHK English News Stories*. Kinseido. (¥2,300) (2)　NHK World (http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/), The Japan Times ST, The TED (https://www.ted.com/)		
授業スケジュール	第　1回　Course introduction, including individual speech and group project guidelines 第　2回　Unit 2 Tearing Down Language Barriers 第　3回　Unit 4 Waking Up Sleeping Patents 第　4回　Unit 5 Traditional Japanese Cuisine 第　5回　Unit 6 The Cost of Convenience 第　6回　Unit 7 New Look at Old Clothes 第　7回　Unit 9 Off the Tourist Trail 第　8回　Unit 11 Against the Grain 第　9回　Unit 12 Healthy Workers Paying Off 第10回　Unit 13 Japanese-style Halal 第11回　Unit 14 Long-lasting Food 第12回　Group presentation (1) 第13回　Group presentation (2) 第14回　Group presentation (3) 第15回　Course review		
成績評価の方法	授業への取り組み（２０%），Quiz（２０%），リアクションペーパー(２０%），Individual Speech（１０%），Group project（３０%）で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅲ	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修	〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】グローバル時代における共存社会への興味と理解を深めながら，英語の4技能を総合的に向上させる。 【概要】本授業では，国際協力，人権問題，戦争，平和などの国際社会問題を扱い，世界に目を向け共存社会について考えながら，英語の4技能 listening, speaking, reading, writing を総合的に訓練する。LL 教室では，映像教材を用いて，自然な英語を聞き取る力を鍛え，英語のプロソディーや発音を習得する。Group project では，グローバル化が地域社会に与える変化とその課題について各自が関心のあるプロジェクトに取り組み，問題解決能力と英語発信力の向上を図る。 【到達目標】①自律した英語学習者となるための知識とスキルを身につける。②自分の考えを積極的に英語で表現することができる。③グローバル時代における共存社会に関して興味・関心を持ち，その問題について主体的に考えることができる。④地域社会のグローバル化について考察し，地域に根差して地域と世界を結ぶ方法を考え，グループ独自の提案することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Tatsukawa,K., Davies,W., Tagashira,K., Yamamoto,G., & Takita,F. (2013).*Global Issues Towards Peace*. Nan'un-do. (¥2,400) (2)　CNN English Express (Asahi Press), NHK World (http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/), The Japan Times ST, The TED (https://www.ted.com/), VOA Learning (http://learningenglish.voanews.com/), English Journal (ALC)		
授業スケジュール	第　1回　Course introduction, including individual speech and group project guidelines 第　2回　Unit 1 Education and Gender: Creating Opportunities for Learning in Afghanistan and India 第　3回　Unit 2 Global Warming: Environmental Threats to Our Planet 第　4回　Unit 3 Drinking Water: Getting Safe Water in the Gaza Group 第　5回　Unit 4 Poverty and Hunger: Child Malnutrition in Niger 第　6回　Unit 5 Fighting Disease: Malaria and HIV/AIDS 第　7回　Unit 6 Terrorism: 9/11 Attacks and Counter Terrorism Strategy 第　8回　Unit 11 Refugees: Life in a Refugee Camp and International Refugee Law 第　9回　Unit 12 Nelson Mandela: South African Anti-Apartheid Activist 第10回　Unit 13 Aung San Suu Kyi: Peace Activist for Democracy and Human Rights 第11回　Unit 14 The Red Cross and Red Crescent Movement: Relief Agencies in War And Peace 第12回　Group presentation (1) 第13回　Group presentation (2) 第14回　Group presentation (3) 第15回　Course review		
成績評価の方法	授業への取り組み（２０%），Quiz（２０%），リアクションペーパー(２０%），Individual Speech（１０%），Group project（３０%）で評価する		

授業科目	**コミュニケーション概論**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	必修　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】異文化コミュニケーションの理論と実践 【概要】本授業では，文化とコミュニケーションの概念を整理し，文化的背景の異なる人々同士のコミュニケーションのプロセスに文化が与える影響について考える。また，異文化ワークショップやグループプロジェクトなどの実践演習を通して，異文化コミュニケーションのスキルや態度も体験的に習得する。本授業は，受講者が主体的に学ぶことを目的とするため，ディスカッションなど協同学習を中心とした授業を行う。受講者の積極的な授業参加を期待する。 【到達目標】①異文化コミュニケーションへの理解・興味・関心を深め，関連する問題について主体的に考えることができる。②異なる視点や考え方を尊重しながら，協働して課題に取り組むことができる。③自身の学習プロセスやコミュニケーション行動を省察し，客観的に分析することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　①八島智子・久保田真弓 (2012)『異文化コミュニケーション論ーグローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社，②八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子 (2009)『異文化トレーニングーボーダレス社会を生きる』三修社，③渡辺文夫 (2002)『異文化と関わる心理学ーグローバリゼーションの時代を生きるために』サイエンス社。その他の参考文献は授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，異文化コミュニケーションを学ぶ意義，ラーニングジャーナルとグループプロジェクトについて 第　2回　文化とは 第　3回　コミュニケーションとは 第　4回　カルチャーショックと異文化適応 第　5回　異文化ワークショップ (1) 第　6回　文化の違いに気づくこと 第　7回　異文化に対する認識 第　8回　多様な文化の価値観 第　9回　異文化ワークショップ (2) 第10回　言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第11回　異文化コミュニケーションと英語教育 第12回　異文化ワークショップ (3) 第13回　グループプロジェクト発表 (1) 第14回　グループプロジェクト発表 (2) 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み（２０％），ラーニングジャーナル（２０％），グループプロジェクト（３０％），レポート課題（３０％）で評価する		

（注）教職必修

授業科目	**ビジネス英語**	担当者	霧 島　S. 怜
	〔履修年次〕　２年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　1 単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】A Success in Business and A Right Communication Style ビジネスの成果と正しいコミュニケーション能力 【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、国際会議で経済発展について完璧なフランス語やギリシア語で講演した者はいない !! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、ポーランド語も簡単さ)という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !! 【到達目標】演習内容の 80% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　城 由紀子他、"Business Talk" (やさしいオフィス英語)、成美堂。(ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082 又、必要に応じて習熟資料を配布する (2)		
授業スケジュール	第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第　2回　Unit 2.　Application Letter. 読解、聞き取り等 第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　4回　Unit 4.　A Job Interview.　読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第　5回　Unit 5.　Job Offer. 読解、聞き取り等 第　6回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　7回　Unit 9.　Taking A Message.　読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第　8回　Unit 11. Visiting A Client.　読解、聞き取り等 第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第10回　Unit 13. Greeting A Visitor at Narita Airport. 読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第11回　Unit 16. Entertaining a Visitor to Kyoto.　読解、聞き取り等 第12回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第13回　Unit 21. The First Business Trip. 読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第14回　Xmas Day !　読解、聞き取り、教官と共に コミュニケーション練習 第15回　受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	**予習 ４０%、演習参加 ４０%、期末 Test ２０% の合計**		

授業科目	**通訳入門**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】通訳の訓練方法による英語のリスニング力とスピーキング力の向上，英日/日英逐次通訳スキルの習得 【概要】通訳の訓練方法には，英語のスキル向上に役立つヒントがたくさん隠されている。本授業では，通訳者養成で実際に行われる訓練方法（シャドーイング，スラッシュリーディング，サイトトランスレーション，リプロダクションなど）の実践演習を通して，特にリスニングとスピーキングを中心に英語のスキルを強化する。また，英語から日本語，日本語から英語への簡単な逐次通訳ができるようになることを目指す。通訳演習だけではなく，通訳という職業や通訳に関連する研究についても講義方式で紹介する。 【到達目標】①通訳の訓練方法を理解し，実践することができる。②あらかじめ音声を聞いたり単語や表現を調べたりすることで十分な準備をした上で，聞き手にきちんと伝わる丁寧な逐次通訳ができる。③通訳という職業や通訳に関する研究について，興味・関心を持つ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　①長井鞠子(2014)『伝える極意』集英社(680 円)，②広瀬直子(2014)『日本のことを１分間英語で話してみる』中経出版(1,600 円) (2)　①鳥飼玖美子 (2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房，②水野真木子・鍵村和子・中林真佐男・長尾ひろみ (2002)『グローバル時代の通訳―基礎知識からトレーニング法まで』三修社，③The TED, The Japan Times ST, Asahi Weekly, CNN English Express (Asahi Press), English Journal (アルク)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，通訳とは，映像資料『言葉を超えて，人をつなぐ～会議通訳者・長井鞠子』 第　2回　通訳訓練法 (1) シャドーイング 第　3回　通訳訓練法 (2) スラッシュリーディング 第　4回　通訳訓練法 (3) サイトトランスレーション 第　5回　通訳訓練法 (4) リプロダクション 第　6回　インタビューの通訳 第　7回　スピーチの通訳 (1) 第　8回　スピーチの通訳 (2) 第　9回　日本文化の通訳 (1) 第 10 回　日本文化の通訳 (2) 第 11 回　日本文化の通訳 (3) 第 12 回　通訳プレゼンテーション (1) 第 13 回　通訳プレゼンテーション (2) 第 14 回　通訳プレゼンテーション (3) 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み(３０%)，Vocabulary Quiz（２０%),ブックレポート(２０%)，通訳プレゼンテーション(３０%)で評価する。		

授業科目	**英語学概論**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語学の入門 【概要】英語を題材に，音声学・音韻論，形態論，意味論，統語論，語用論の各分野を概観する 【到達目標】音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論，語用論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して，英語の例を分析できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　池上嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚〈ことばの意味〉のしくみ』NHK ブックス その他参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，英語学とは何か 第　2回　音声学・音韻論 (1) 英語の音 第　3回　音声学・音韻論 (2) 英語の音の分類 第　4回　音声学・音韻論 (3) 音素と異音 第　5回　意味論 (1)　上位語・下位語，同義・類義・反義 第　6回　意味論 (2) 比喩 第　7回　意味論 (3) 文脈と文法の関係　話題化，be 動詞を軸にした倒置 第　8回　意味論小テスト，形態論 (1)　屈折と派生 第　9回　形態論 (2)　複数の語を合わせて１つの語を作る－複合語と句の違い，内心複合語と外心複合語 第 10 回　形態論 (3)　語形を変化させずに品詞を変化させる－転換，その他の語形成過程について 第 11 回　形態論小テスト，統語論 (1)　構造的多義 第 12 回　統語論 (2)　樹形図と構成素構造 第 13 回　統語論 (3)　句構造規則 第 14 回　統語論小テスト，語用論　理解される意味と文字通りの意味の乖離 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	試験（３５%）＋ 小テスト（５５%）＋ 宿題と授業への参加状況（１０%）		

（注）教職必修

授業科目	**英文法**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語の記述文法 【概要】時制，相，名詞，冠詞，不定詞，動名詞，前置詞の各分野について記述文法を詳しく学ぶ。 【到達目標】英文法の学習を通して英語を分析的に見る力を養い，英語の読解力・表現力を向上させることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Murphy, R. and W. R. Smalzer, *Grammar in Use: Intermediate*, Cambridge University Press. (2)　久野暲・高見健一，『謎解きの英文法』，くろしお出版。その他の参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第　１回　ガイダンス，英文法を学ぶ意義－「なぜ」を説明できるために 第　２回　時制・相 (1) 現在形と現在進行形 第　３回　時制・相 (2) 過去形と現在完了形 第　４回　時制・相 (3) 現在完了進行形 第　５回　さまざまな未来の表現 第　６回　小テスト１，名詞・冠詞 (1) 名詞における可算・不可算の区別 第　７回　名詞・冠詞 (2)　定冠詞と不定冠詞の用法 第　８回　名詞・冠詞 (3)　総称 第　９回　名詞・冠詞 (4)　名詞・冠詞総合演習 第10回　小テスト２，前置詞の空間的意味 第11回　前置詞における意味の比喩的拡張 第12回　準動詞 (1)　不定詞と動名詞 第13回　準動詞 (2)　動詞＋目的語＋to 不定詞構文 第14回　小テスト３ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	試験（４０％）＋ 小テスト（５０％）＋ 授業への参加状況（１０％）		

（注）教職必修

授業科目	**英語史**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語史の概観 【概要】インドヨーロッパ祖語から現代英語に至るまでの英語の歴史を概観する。古英語と中英語のテキストを読み言語変化の実際に触れる。 【到達目標】英語史の概略を知る。言語がどのようなきっかけで，どのように変化するかを学ぶ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　児馬修，『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房（第１章から第９章），寺澤盾，『英語の歴史』中公新書 1971，宇賀治正朋，『現代の英語学シリーズ８　英語史』，開拓社。その他の参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第　１回　ガイダンス，言語の変化 第　２回　英語の遠い先祖－インドヨーロッパ祖語 第　３回　アングロ・サクソンのブリテン島侵入 第　４回　古英語の特徴 第　５回　古英語を読む (1) 第　６回　古英語を読む (2) 第　７回　古英語を読む (3) 第　８回　デーン人の侵攻 第　９回　ノルマン征服 第10回　中英語の特徴 第11回　中英語を読む (1) 第12回　中英語を読む (2) 第13回　初期近代英語 第14回　後期近代英語 第15回　まとめ		
成績評価の方法	試験（７０％）＋授業への参加状況と宿題（３０％）		

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語の音声と発音技能 【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら英語の音声が作られるしくみを学習する。学習した内容を実践し英語の発音技能を向上させる。英語の音声を支配する規則のうち基礎的なものを学習する。 【到達目標】日本語と比較し，英語の音声がどのように作られるか理解し，英語の発音技能とリスニング能力を高める。英語の音声に見られる規則性のうち基礎的なものを学ぶことで，英語の音声現象が恣意的ですべて暗記しなくてはならないようなものではなく，ルールに則ったものであることを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　杉森幹彦ほか『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂。(1800 円) (2)　参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，英語らしい発音のために大切なこと 第　2回　英語のアクセント（単語・句） 第　3回　英語のリズム（内容語と機能語） 第　4回　紛らわしい母音 (1) 第　5回　紛らわしい母音 (2) 第　6回　紛らわしい子音 (1) 第　7回　紛らわしい子音 (2) 第　8回　紛らわしい子音 (3) 第　9回　つながって聞こえる音（連結） 第 10 回　変化して聞こえる音（同化） 第 11 回　聞こえなくなる音 (1)（単語間の脱落） 第 12 回　聞こえなくなる音 (2)（単語内の脱落・短縮形） 第 13 回　英語のイントネーション (1) 第 14 回　英語のイントネーション (2) 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	試験（４０％）＋音声課題（４０％）＋授業への参加状況と宿題（２０％）		

（注）教職必修

授業科目	英語表現法Ⅰ	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】This is a basic English writing course focused on the fundamentals of effective sentence and paragraph writing. 【概要】Class time will be centered on the study of the importance of proper paragraph organization, including central idea, topic sentence, supporting sentences, and paragraph conclusion. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. Practice of important grammar points will be integrated into the lessons. Unit composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy. 【到達目標】The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English writing and improve their sentence accuracy.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　avage & Shafiei, *Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)*, Oxford University Press (2)　*Test It Fix It Pre-intermediate English Grammar*, Oxford University Press		
授業スケジュール	第　1回　Introduction 第　2回　Unit 1A (begin discussing paragraph organization) 第　3回　Unit 1B 第　4回　Unit 1C 第　5回　Unit 1D 第　6回　Unit 1 Composition assignment, first draft 第　7回　Unit 1 Composition assignment, second draft 第　8回　Unit 2A 第　9回　Unit 2B 第 10 回　Unit 2 Composition assignment, first draft 第 11 回　Unit 2 Composition assignment, second draft 第 12 回　Unit 3A 第 13 回　Unit 3B 第 14 回　Unit 3 composition assignment, first draft 第 15 回　Unit 3 composition assignment, second draft		
成績評価の方法	Composition assignments （作文） 60%,　quiz scores 30%, attendance (出席) 10%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho Ⅰ	担当者	Patrick Gorham
	〔履修年次〕 1st year	〔学期〕	Spring 2015
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	Required 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences in various rhetorical modes. Students will be required to work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class writing assignments in addition to in-class compositions. 【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. 【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Class Orientation 第 2回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 5回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 8回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 9回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第10回 Unit 3, Example paragraph 第11回 Unit 3, Example paragraph 第12回 Unit 3, Example paragraph 第13回 Unit 3, Example paragraph 第14回 Example paragraph in-class writing assignment 1st draft 第15回 Example paragraph in-class writing assignment 2nd draft		
成績評価の方法	Students essays 90%, Attendance 10%		

授業科目	英語表現法 II	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 〕演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This is a continuation of a paragraph writing course. The course will emphasize the organizational principles of good paragraph writing and the step-by-step thinking and writing process. 【概要】Class time will be centered on grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Students will gradually progress toward multi-paragraph essays. 【到達目標】The goal of this course is to help students further master the organizational principles of English writing and polish their sentence accuracy.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Savage & Shafiei, *Effective Academic Writing 1 (The Paragraph),* Oxford University Press *Test It Fix It Pre-intermediate English Grammar,* Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Review 第 2回 Unit 4A 第 3回 Unit 4B 第 4回 Unit 4 composition assignment, first draft 第 5回 Unit 4 composition assignment, second draft 第 6回 Discussion of essay writing 第 7回 Unit 5A 第 8回 Unit 5B 第 9回 Unit 5 composition assignment, first draft 第10回 Unit 5 composition assignment, second draft 第11回 Unit 6A 第12回 Unit 6B 第13回 Unit 6 composition assignment, first draft 第14回 Unit 6 composition assignment, second draft 第15回 まとめ		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 60%, quiz scores 30%, attendance (出席) 10%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho Ⅱ	担当者	Patrick Gorham
	〔履修年次〕 1st year	〔学期〕	Fall 2015
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	Required 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions. 【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. 【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 4, Process paragraph 第 2回 Unit 4, Process paragraph 第 3回 Unit 4, Process paragraph 第 4回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 5回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 6回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8回 Unit 5, Opinion paragraph 第 9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft 第10回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第11回 Unit 6, Narrative paragraph 第12回 Unit 6, Narrative paragraph 第13回 Unit 6, Narrative paragraph 第14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft 第15回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft		
成績評価の方法	Student essays 90%, Attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This is an English writing course focused on the fundamentals of effective multi-paragraph essay writing. 【概要】Class time will be centered on the study of the importance of proper essay organization and the step-by-step thinking and writing process. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. This will include grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy. 【到達目標】】The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English multi-paragraph essay writing and improve their sentence accuracy.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction, discussion of the five-paragraph essay 第 2回 Continue discussion of the five-paragraph essay and classification writing 第 3回 Classification essay, first draft 第 4回 Classification essay, second draft 第 5回 Discuss cause and effect writing 第 6回 Cause and Effect essay, first draft 第 7回 Cause and Effect essay, second draft 第 8回 Grammar work 第 9回 Grammar work 第10回 Grammar work 第11回 Grammar work 第12回 Discuss argumentative writing 第13回 Argumentative essay, first draft 第14回 Argumentative essay, second draft 第15回 まとめ		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, attendance (出席) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen HoⅢ	担当者	Patrick Gorham
	〔履修年次〕 2nd year	〔学期〕	Spring 2015
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	Required 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Eigo Hyogen Ho III is a writing course which teaches students how to write multi-paragraph essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will also be required to complete various grammatical exercises throughout the semester. To successfully complete the course, students must complete weekly writing assignments and do three in-class essays 【概要】Students will study different rhetorical modes and complete writing assignments reflecting the material studied 【到達目標】The aim of the course is to develop students writing skills above the paragraph level.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Students will receive prints covering the points taught in the lesson (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第 2回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第 3回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第 4回 Cause and Effect in-class writing assignment 1st draft 第 5回 Cause and Effect in-class writing assignment 2nd draft 第 6回 Unit 4, Argumentative Essay 第 7回 Unit 4, Argumentative Essay 第 8回 Unit 4, Argumentative Essay 第 9回 Argumentative in-class writing assignment 1st draft 第 10回 Argumentative in-class writing assignment 2nd draft 第 11回 Unit 5, Classification Essay 第 12回 Unit 5, Classification Essay 第 13回 Unit 5, Classification Essay 第 14回 Classification in-class writing assignment 1st draft 第 15回 Classification in-class writing assignment 2nd draft		
成績評価の方法	Three in-class essays 90%, attendance 10%		

授業科目	講読演習Ⅰ	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語学の文献講読 【概要】性差がことばに与える影響について学ぶ。 【到達目標】論理的な文章を読む力を高める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) *You Just Don't Undersatnd*, Tannen, Deborah（著）(約 1800 円) (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス 第 2回 1 Different Words, Different Worlds 第 3回 1 Different Words, Different Worlds 第 4回 1 Different Words, Different Worlds 第 5回 2 Asymmetries 第 6回 2 Asymmetries 第 7回 2 Asymmetries 第 8回 3 "Put Down That Paper and Talk to Me!": Rapport-talk and Report-talk 第 9回 3 "Put Down That Paper and Talk to Me!": Rapport-talk and Report-talk 第 10回 3 "Put Down That Paper and Talk to Me!": Rapport-talk and Report-talk 第 11回 4 Gossip 第 12回 4 Gossip 第 13回 4 Gossip 第 14回 4 Gossip 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み（２０％）＋ 試験（８０％）		

授業科目	基礎演習Ⅰ	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語の多様性を学ぶ。英語学の基礎的な知識を習得する。 【概要】世界共通語となった英語が，世界各地でどのような変容を見せているか学ぶ。 【到達目標】英語の多様性を理解する。英語学の基礎的な概念を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　本名信行（2003)『世界の英語を歩く』，集英社新書。 (2)　参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第　１回　ガイダンス 第　２回　第１章　英語ってなに？ 第　３回　第２章　ノンネイティブの英語事情 第　４回　第２章　ノンネイティブの英語事情 第　５回　第２章　ノンネイティブの英語事情 第　６回　第２章　ノンネイティブの英語事情 第　７回　第３章　ネイティブの英語事情 第　８回　第３章　ネイティブの英語事情 第　９回　第３章　ネイティブの英語事情 第10回　第４章　文化の多様性と英語コミュニケーション 第11回　第４章　文化の多様性と英語コミュニケーション 第12回　第５章　世界に発信する英語 第13回　第５章　世界に発信する英語 第14回　第５章　世界に発信する英語 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み（５０％）＋ レポート（５０％）		

授業科目	基礎演習　Ⅰ	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】第二言語習得理論に関する知識を深め，研究方法の基礎的なスキルを習得する。 【概要】本授業では，第二言語習得理論に関する基礎的文献を読み，その内容をまとめ，発表し，ディスカッションをする力をつける。本授業のまとめとして，各自自由に卒業研究論文の構想発表を行う。一部，２年生と合同でゼミを行ない，卒業研究の研究内容や研究方法，発表の仕方等を学ぶ。 【到達目標】①第二言語習得理論に対する興味・関心を広げ，関連する問題について主体的に考えることができる。②英語の専門書を読み，要約や発表用レジメを作成し，内容を日本語で口頭発表することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Brown H. D. (2014). *Principles of Language Learning and Teaching 6th Edition*, Pearson Japan. (2)　適宜授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　１回　第二言語習得理論とは，授業の運営方法，発表とレジメの作成方法，要約の仕方 第　２回　Language, Learning, and Teaching 第　３回　First Language Acquisition 第　４回　Age and Acquisition 第　５回　Human Learning 第　６回　Styles and Strategies 第　７回　Personality Factors 第　８回　Sociocultural Factors 第　９回　Communicative Competence 第10回　Cross-Linguistic Influence and Learner Language 第11回　Toward a Theory of Second Language Acquisition 第12回　卒業研究構想発表（1） 第13回　卒業研究構想発表（2） 第14回　卒業研究構想発表（3） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み（２０％），文献の要約（２０％），卒業研究構想発表（３０％），最終レポート課題（３０％）で評価する。		

授業科目	**英語学演習**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】言語の比較と対照，卒業研究の準備 【概要】英語と日本語，ドイツ語，フランス語などを語彙，文法などの側面について比較し，それぞれの言語について理解を深める。自習課題として受講者各自に卒業研究のトピック決定を課す。 【到達目標】言語の類型を学ぶ。無標の語順や疑問文の作り方などの基本的な特徴について，言語を対照させることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　言語を対照させる方法 第　3回　対照の準備(1)　英語の基本的特徴 第　4回　対照の準備(2)　日本語の基本的特徴 第　5回　対照の準備(3)　フランス語の基本的特徴 第　6回　対照の準備(4)　ドイツ語の基本的特徴 第　7回　言語の対照(1)　英語，日本語，フランス語，ドイツ語の対照　その１ 第　8回　言語の対照(2)　英語，日本語，フランス語，ドイツ語の対照　その２ 第　9回　卒業研究についてプレゼンテーション(1) 第 10 回　受講者による言語対照の発表(1) 第 11 回　受講者による言語対照の発表(2) 第 12 回　受講者による言語対照の発表(3) 第 13 回　受講者による言語対照の発表(4) 第 14 回　まとめ 第 15 回　卒業研究についてのプレゼンテーション(2)		
成績評価の方法	授業への取り組み（２０％）＋ プレゼンテーションとレポート（８０％）		

授業科目	**英語学演習**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】第二言語習得理論，応用言語学，英語教育（TESOL）に関する研究方法と英語論文の書き方の習得 【概要】第二言語習得理論，応用言語学，英語教育（TESOL）に関する英語文献を読み，その内容をまとめ，発表し，ディスカッションをする。各自が設定した研究テーマについて，文献研究を行い，卒業研究計画としてまとめ，発表する。 【到達目標】①第二言語習得理論，応用言語学，英語教育（TESOL）に対する興味・関心を広げ，関連する問題について主体的に考えることができる。②各自の研究テーマについて，文献研究を行うことができる。③研究方法や英語論文の書き方を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　①Brown H. D. (2014). *Principles of Language Learning and Teaching 6th Edition*. Pearson Japan. ②Brown, S. & Larson-Hall, J. (2012). *Second Language Acquisition Myths*. Michigan University Press. ③Celce-Murcia, M., Brinton, M. D., & Snow, A. M. (Eds.) (2013). *Teaching English as a Second or Foreign Language 4th Edition*. Heinle ELT.　その他の参考文献は授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，卒業研究構想発表 第　2回　Writing Research Papers (1) Library research, Writing an annotated bibliography 第　3回　Communicative Language Teaching 第　4回　Teaching World Englishes 第　5回　Language Skills (1) 第　6回　Language Skills (2) 第　7回　Task-Based Language Teaching and Learning 第　8回　Bilingual Education 第　9回　Motivation in Second Language Learning 第 10 回　Language Learning Strategies and Styles 第 11 回　Writing Research Papers (2) Literature review 第 12 回　Writing Research Papers (3) Research method 第 13 回　卒業研究計画の発表 (1) 第 14 回　卒業研究計画の発表 (2) 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み（２０％），文献の要約（２０％），卒業研究計画発表（３０％），文献研究レポート課題（３０％）で評価する。		

授業科目	**英文学概論**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】イギリス文学作品の基本的な事項を学習し，作品を通して問題点を探究する。 【概要】第１回目で講義概要の説明し，イギリス文学に関する認知度を確認した上で，第３回目まで「詩」「演劇」「小説」のジャンルから具体的に作品を取り上げて解説する。第４回目から作品を鑑賞し，問題点を探究していく。また，文学と映像という視点からも作品を取り上げて解説する。問題点の探究においては，受講生との対話形式（ディスカッション）を取り入れる。意見の発言を求めるので，前もってテキストをしっかり読んでおく必要がある。 【到達目標】「詩」「劇」「小説」の作品を読み，作品に潜む問題点を考える能力（探求能力）を身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　桝井迪夫訳『完訳　カンタベリー物語』（上）　岩波文庫 W.シェイクスピア作　小田島雄志訳 『リア王』　白水Ｕブックス エミリー・ブロンテ作　鴻巣友季子訳 『嵐が丘』　新潮文庫 (2)		
授業スケジュール	第　１回　オリエンテーション：授業の概要説明 取り扱う作家・作品の解説（その一）：詩人G.チョーサーと彼の作品『カンタベリー物語』 第　２回　取り扱う作家・作品の解説（その二）：詩人・劇作家W.シェイクスピアと彼の作品『ソネット』と『リア王』 第　３回　取り扱う作家・作品の解説（その三）：小説家E.ブロンテと彼女の作品『嵐が丘』 第　４回　詩の鑑賞と問題点の探究（その一）：G.チョーサー『カンタベリー物語』 第　５回　詩の鑑賞と問題点の探究（その二）：G.チョーサー『カンタベリー物語』 第　６回　詩の鑑賞と問題点の探究（その三）：G.チョーサー『カンタベリー物語』 第　７回　劇の鑑賞と問題点の探究（その一）：W.シェイクスピア『リア王』 第　８回　劇の鑑賞と問題点の探究（その二）：W.シェイクスピア『リア王』 第　９回　劇の鑑賞と問題点の探究（その三）：W.シェイクスピア『リア王』 第10回　比較文学に基づく作品の鑑賞（文学と映像）：『リア王』と黒澤明監督の映画『乱』 第11回　小説の鑑賞と問題点の探究（その一）：E.ブロンテ『嵐が丘』 第12回　小説の鑑賞と問題点の探究（その二）：E.ブロンテ『嵐が丘』 第13回　小説の鑑賞と問題点の探究（その三）：E.ブロンテ『嵐が丘』 第14回　大衆文化のなかの『嵐が丘』（文学と映像） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（６０%），課題提出・予習を含む授業への取り組み（４０%）		

（注）教職必修

授業科目	**英文学史**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】18 世紀～20 世紀における「小説」の流れを概観する。 【概要】まず，文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に，18 世紀～20 世紀における主要な作家と作品を取り上げて，「小説」の流れを概観し，18 世紀の特徴，19 世紀の特徴，20 世紀の特徴を理解させる。また，受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために，指定した映像作品を鑑賞してもらい，「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。 【到達目標】18 世紀の小説の特徴，19 世紀の小説の特徴，20 世紀の小説の特徴を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂 (2)　サブテスクトは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第　１回　オリエンテーション：講義方式の説明，文学史の科目に潜む問題点の探究 第　２回　18 世紀の小説（その一）：18 世紀の小説とその周辺に関する諸問題 第　３回　18 世紀の小説（その二）：18 世紀の小説におけるH.フィールディング，L.スターン，T.スモレットの役割 第　４回　18 世紀の小説（その三）：18 世紀後半のゴシック小説 第　５回　18 世紀の小説（その四）：J.オースティンの小説 第　６回　18 世紀の小説に関する小テスト，19 世紀の小説（その一）：19 世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴 第　７回　19 世紀の小説（その二）：C.ディケンズの小説 第　８回　19 世紀の小説（その三）：W.M.サッカレーの小説，ブロンテ姉妹の小説 第　９回　19 世紀の小説（その四）：ダーウィニズムの影響，19 世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説 第10回　19 世紀の小説に関する小テスト，20 世紀の小説（その一）：20 世紀小説の特徴 第11回　20 世紀の小説（その二）：V.ウルフの小説，H.ジェイムズの小説，E.M.フォスターの小説 第12回　20 世紀の小説（その三）：D.H.ロレンスの小説 第13回　20 世紀の小説（その四）：H.G.ウエルズの小説 第14回　20 世紀の小説に関する小テスト，映像課題に関する発表会 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（６０%），講義中の小テスト／授業への取り組み（３０%），課題レポート(１０%)		

（注）日本語日本文学専攻は選択

授業科目	**米文学史**	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】Henry David Thoreau's Walden. 「ウォールデン 森の生活」 【概要】The course will include lectures and group presentations. Students will write short, creative essays and make presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content. 【到達目標】The course uses creative writing as a tool of literary analysis to raise consciousness of the literary, social, and cultural history of the United States.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Walden, Henry David Thoreau (IBC, 2007)（リライト：マイケル・ブレーズ） (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 How should I read? 第 2回 How should I write ? 第 3回 Introduction to Henry David Thoreau and Walden. 第 4回 Themes and writing styles in Henry David Thoreau's Walden. 第 5回 Writing workshop I 第 6回 Writing workshop II 第 7回 Writing workship III 第 8回 Economy : the project of Walden and its meaning for Thoreau. 第 9回 Economy : the project of Walden and its meaning for Thoreau. 第10回 Economy : the project of Walden ; its meaning for Thoreau and for modern Japanese readers. 第11回 Economy : the project of Walden ; its meaning for Thoreau and for modern Japanese readers. 第12回 Where I Lived, and What I Lived for. 第13回 Where I Lived, and What I Lived for ; its usefulness for modern Japanese readers. 第14回 Where I Lived, and What I Lived for ; its usefulness for modern Japanese readers. 第15回 Make-up work and general review		
成績評価の方法	授業への参加（５０%）；小テスト、発表、詩（５０%）。		

（注）教職必修

授業科目	**英米文学講読 I**	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】シェイクスピアの詩（物語詩と劇中詩を中心に） 【概要】シェイクスピアの戯曲はその多くの部分がブランク・ヴァースと呼ばれる脚韻を踏まない詩の形式で書かれており、また脚韻を踏む純然たる韻文で書かれている部分も少なくない。したがってシェイクスピアの戯曲も詩（劇詩）として鑑賞することはできるわけであるが、本講では、初期の物語詩と劇中で歌われるソングから議論の材料を取り上げたい。 【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と詩作品の大要を説明することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 柴田稔彦（編注）『対訳シェイクスピア詩集』（岩波文庫） (2) 大塚定徳・村里好俊訳『新訳シェイクスピア詩集』（大阪教育図書） 今西雅章ほか（編）『シェイクスピアを学ぶ人のために』（世界思想社）□ G．L．ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）		
授業スケジュール	第 1回 ルネサンスと人文主義 第 2回 宗教改革と国民国家の形成 第 3回 ストラットフォードからロンドンへ 第 4回 シェイクスピア劇の世界（歴史劇） 第 5回 シェイクスピア劇の世界（喜劇） 第 6回 シェイクスピア劇の世界（悲劇） 第 7回 シェイクスピアの詩（概説） 第 8回 『ヴィーナスとアドーニス』の解釈と鑑賞（1） 第 9回 『ヴィーナスとアドーニス』の解釈と鑑賞（2） 第10回 『ルークリース凌辱』の解釈と鑑賞（1） 第11回 『ルークリース凌辱』の解釈と鑑賞（2） 第12回 劇中歌の解釈と鑑賞（1） 第13回 劇中歌の解釈と鑑賞（2） 第14回 予備日 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）３０%□ 学期末試験 ７０%		

授業科目	英米文学講読 Ⅱ	担当者	小林　潤司
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】シェイクスピア『ソネット集』選釈 【概要】時と永遠、無常と不易、愛欲と憎悪などをめぐる形而上学的な瞑想の断章をはさみながら展開していく『ソネット集』の「物語」が、詩人の実人生における経験を何らかの形で反映しているのかどうかはわからない。しかし、この一巻の詩集の中に生き生きと再現された思索と情感の運動の軌跡をたどる時、私たちはその向こう側に、驚くほどに自由で巨大な精神の存在を察知し粛然とせざるを得ないのである。『ソネット集』を読むことは、この巨大な精神との格闘に他ならない。それは格闘である以上、無傷で戻ってくることはできないことを覚悟して掛からねばならないであろう。 【到達目標】英語で書かれたソネットの形式的な特徴、『シェイクスピアのソネット集』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。任意のソネットを、修辞などの表現形式と主題の両面から分析、評釈することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　柴田稔彦（編注）『対訳シェイクスピア詩集』（岩波文庫） (2)　大塚定徳・村里好俊訳『新訳シェイクスピア詩集』（大阪教育図書） 今西雅章ほか（編）『シェイクスピアを学ぶ人のために』（世界思想社）□ G．L．ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）		
授業スケジュール	第　1回　ソネットの移入と変容 第　2回　イギリス形式の完成（ワイアットとサリー伯） 第　3回　ソネット連作の世界（シドニーとスペンサー） 第　4回　『ソネット集』の創作年代と構成 第　5回　「愛友」詩群選釈（1） 第　6回　「愛友」詩群選釈（2） 第　7回　「愛友」詩群選釈（3） 第　8回　「愛友」詩群選釈（4） 第　9回　「愛友」詩群選釈（5） 第10回　「ダーク・レイディ」詩群選釈（1） 第11回　「ダーク・レイディ」詩群選釈（2） 第12回　「ダーク・レイディ」詩群選釈（3） 第13回　「ダーク・レイディ」詩群選釈（4） 第14回　予備日 第15回　まとめ		
成績評価の方法			

授業科目	英米文学講読Ⅲ	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　１，２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。 【概要】C.ディケンズの『クリスマス・キャロル』と E.M.フォスターの『眺めのいい部屋』を読む。授業は速読形式で進め，担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。両作品は映画化されているので，プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。 【到達目標】作品の内容を理解し，作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Charles Dickens, *The Christmas Carol*（ペンギンリーダーズ）英潮社フェニックス (2)　E.M.フォスターの『眺めのいい部屋』はプリント		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の進め方の説明，イギリス文学作品への知識の確認，映像作品『クリスマス・キャロル』の鑑賞 第　2回　映像作品『クリスマス・キャロル』の鑑賞（続き）と解説，テキストの第１章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第　3回　第２章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第　4回　第３章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第　5回　第４章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第　6回　第５章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第　7回　C.ディケンズの作品研究 第　8回　映像作品『眺めのいい部屋』の鑑賞 第　9回　映画『眺めのいい部屋』の鑑賞（続き）と解説 第10回　テキスト第１章～第４章 At the Bertolini～“He Murdered his Wife” を読む： プリントによる問題点の確認 第11回　第５章～第８章 “Be Brave and Love” ～“The Right People for the House” を読む：プリントによる問題点の確認 第12回　第９章～第12章 “A Letter from Charlotte” ～“Charlotte Arrives” を読む： プリントによる問題点の確認 第13回　第13章～第17章 “Tennis on Sunday” ～“At the Bertolini” を読む： プリントによる問題点の確認 第14回　H.ジェイムズの作品研究（その一） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（６０%），予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（４０%）		

授業科目	講読演習Ⅱ	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。 【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して，J.オースティンの『分別と多感』を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈（Notes）が詳しいので，文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業はテキストを読んで日本語に訳す精読方式ですすめていく。またプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品は映画化されているので，プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。 【到達目標】作品の内容を理解し，作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Jane Austen, *Sense and Sensibility*（ペンギンリーダーズ）英潮社フェニックス (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の進め方の説明，映像作品『ある晴れた日に』の鑑賞 第　2回　映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞（続き）と解説，テキストの第1章を読む（その一） 第　3回　第1章を読む（その二），プリントによる問題点の確認 第　4回　第2章～第3章を読む（その一） 第　5回　第2章～第3章を読む（その二） 第　6回　第2章～第3章を読む（その三），プリントによる問題点の確認 第　7回　第4章を読む（その一） 第　8回　第4章を読む（その二），プリントによる問題点の確認 第　9回　第5章を読む（その一） 第10回　第5章を読む（その二），プリントによる問題点の確認 第11回　第6章を読む（その一） 第12回　第6章を読む（その二），プリントによる問題点の確認 第13回　第7章を読む（その一） 第14回　第7章を読む（その二），プリントによる問題点の確認 第15回　まとめ（プレゼンテーション）		
成績評価の方法	レポート及びプレゼンテーション（６０%），予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（４０%）		

授業科目	基礎演習Ⅱ	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英詩と映画（大衆文化のなかのイギリス文学） 【概要】映画のなかにも英詩が用いられている場合がある。この授業では身近な題材（ここでは映画）を利用して，高尚な英文学（ここでは英詩）を学習する。ディスカッションを行うので，各自の自主的な発言が求められる。 【到達目標】英詩と映画という視点で，映画を鑑賞する力を身に付けさせる。別な言い方をすれば，映画の中に引用された詩の役割と意味合いを知ることで，映画の見方が広がることを理解させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の進め方の説明 第　2回　W.ブレイクと彼の詩「無心のまえぶれ」の解説 第　3回　映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その一） 第　4回　映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その二） 第　5回　『博士の愛した数式』の分析（ディスカッション） 第　6回　J.キーツと彼の詩「秋に寄せるうた」の解説 第　7回　映画『ブリジット・ジョーンズの日記』の鑑賞（その一） 第　8回　映画『ブリジット・ジョーンズの日記』の鑑賞（その二） 第　9回　『ブリジット・ジョーンズの日記』の分析（ディスカッション） 第10回　J.キーツと彼の詩「つれなき美女」の解説 第11回　映画『サマーストーリー』の鑑賞（その一） 第12回　映画『サマーストーリー』の鑑賞（その二） 第13回　『サマーストーリー』の分析（ディスカッション） 第14回　W.シェイクスピアのソネット（18番，116番）と映画（『恋に落ちたシェイクスピア』と『いつか晴れた日に』） 第15回　各自の研究のプレゼン		
成績評価の方法	プレゼンテーション（５０%），授業への取り組み（５０%）		

授業科目	基礎演習Ⅱ	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 後期 〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学術論文を英語で書く 【概要】指導教官との話し合いによる卒業論文のテーマの絞り込み、毎週リサーチとライティングを行います。英語の論文のスタイルに合った卒業論文のテーマ、構成、計画を学期末までに決定します。 【到達目標】受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的かつ自主的に学習する習慣を身に付けることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 授業とテキストの紹介 第 2回 〃 第 3回 〃 第 4回 リサーチ方法について 第 5回 〃 第 6回 〃 第 7回 〃 第 8回 〃 第 9回 〃 第10回 〃 第11回 リサーチの実践 第12回 〃 第13回 〃 第14回 〃 第15回 〃		
成績評価の方法	出席（３０%）、授業内での発言（２０%）、 総まとめ（３０%）、 作品集（２０%）。		

授業科目	英米文学演習	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】J.オースティンの作品研究 【概要】セミナーではジェーン・オースティンの作品研究を行う。ペンギンリーダーズのテキストを利用して『エマ』の作品を読み，ヒロインの成長に焦点を当てながら，作者の結婚観と風刺を考察する。また，その映画を鑑賞して，テキストと映像作品の相違点を考える。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。 【到達目標】作者の結婚観と風刺を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Jane Austen 著『エマ』（ペンギンリーダーズ）南雲堂フェニックス (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第 1回 セミナーの運営方法と説明，映画『エマ』の鑑賞 第 2回 映画『エマ』の鑑賞（続き）と作品の解説 第 3回 第１章 を読む：An Offer of Marriage（プリントによる問題点の確認） 第 4回 第２章 を読む：A Second Offer（プリントによる問題点の確認） 第 5回 第３章 を読む：Mr Elton’s Choice（プリントによる問題点の確認） 第 6回 第４章 を読む：Frank Charchill Appears（プリントによる問題点の確認） 第 7回 第５章を読む： Mrs Elton Comes to Highbury（プリントによる問題点の確認） 第 8回 第６章を読む：The Ball at the Crown Inn（プリントによる問題点の確認） 第 9回 第７章 を読む：The Trip to Box Hill（プリントによる問題点の確認） 第10回 第８章を読む： A Secret Engagement（プリントによる問題点の確認） 第11回 第９章を読む： The Weddings（プリントによる問題点の確認） 第12回 オースティン作品の映画鑑賞（その一）:『プライドと偏見』 第13回 オースティン作品の映画鑑賞（その二）:『プライドと偏見』 第14回 プレゼンテーション：『エマ』に関する課題発表会 第15回 ジェーン・オースティンの作品に関する研究発表会＋まとめ		
成績評価の方法	プレゼンテーション＋作品研究の発表（70%），授業への取り組み（30%）		

授業科目	英米文学演習	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学術論文を英語で書く 【概要】自分で選んだ題材に、前期習得したライティング技術を応用します。指導者との話し合いによって卒業論文のテーマを絞り込み、毎週リサーチとライティングを行います。受講者は教務課によって定められた、卒業論文の最終期限までにいくつかの下書き を提出し、推敲を重ねます。 【到達目標】受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 授業とテキストの紹介 第 2回 〃 第 3回 〃 第 4回 リサーチ方法について 第 5回 〃 第 6回 〃 第 7回 〃 第 8回 〃 第 9回 〃 第10回 〃 第11回 リサーチの実践 第12回 〃 第13回 〃 第14回 〃 第15回 〃		
成績評価の方法	出席（30%）、授業内での発言（20%）、 総まとめ（30%）、 作品集（20%）。		

授業科目	比較文学	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

（注）

授業科目	**イギリス事情**	担当者	ジョン・トレマーコ	
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】British Culture, Modern and Traditional We will embark on a different approach this year. Instead of following a textbook, we will endeavour to extend the project theme we have carried out in previous years; it will no longer simply supplement the textbook, it will as act as a replacement and form the core element of the course with a view to making a presentation at the conclusion of the term. The project theme has proved very successful in not only motivating the students throughout the year, but also in improving their communicative competence. The theme of the project will be decided upon by the students: it will be chosen according to the aptitude and number of students. The themes available will include: Music (classical and modern); Food; Education; Literature; History; Geography. 【概要】Utilizing the four basic skills, students will explore a number of British cultural features ranging from its history, education system and modern Britain. 【到達目標】The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials provided by the teacher (2)			
授業スケジュール	第 1回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース，授業についての説明 第 2回 Choosing the Project theme 第 3回 ～ Planning and implementation of Project 第 13 回 第 14 回 Final Examination (presentation) 第 15 回 Course Review			
成績評価の方法	NB: The above is a guide only, the pace, range and choice of topics may well differ from those set out above depending on the characteristics of the class.			

授業科目	**アメリカ事情**	担当者	フィリップ・アダメック	
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】Speaking, thinking, dreaming of America. 【概要】This class is intended for students who wish to practice exchanging opinions in English. It is not a specialist course or a research-based course. We begin with a discussion of stereotypes about Americans and American culture. Students will help to guide topics of discussion based on their interests and questions about the United States, its government, its history, its culture, and its people. 【到達目標】The aims of the course are i) to increase confidence in using English to talk about current cultural, historical, and/or political ideas that interest the students and ii) to raise awareness of various political and cultural aspects of the United States.			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) Short texts and other materials provided by the instructor.			
授業スケジュール	第 1回 Introduction and self-introductions：our conversation styles and goals. 第 2回 Which America？Images dark and bright. 第 3回 How to start a new country. 第 4回 The balance of powers. 第 5回 The separation of church and state. 第 6回 Film culture. 第 7回 Capitalism on the march. 第 8回 Youth culture and rebellion. 第 9回 The measure of spontaneity in everyday life. 第 10 回 Ideas Ⅰ：schools without uniforms or grades. 第 11 回 Ideas II: pay equity for women and men. 第 12 回 Ideas III: dreamers and the new immigration. 第 13 回 Ideas IV: the new American family. 第 14 回 Ideas V: the digital revolution in music. 第 15 回 Presentation feedback and course review.			
成績評価の方法	授業への参加 class presence and participation (50%)；student-conducted class meeting (50%).			

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	講読演習Ⅲ	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	基礎演習Ⅲ	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	比較文化演習	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	**対照言語学**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ 【概要】この授業では，対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語，中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して，それぞれの特徴を明らかにし，日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また，言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。 【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に紹介する		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第　2回　日英中の対照（1）：主語の立て方 第　3回　日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第　4回　日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第　5回　日英中の対照（4）：時に関する比較① 第　6回　日英中の対照（5）：時に関する比較② 第　7回　日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第　8回　日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第　9回　日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10回　日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11回　日英中の対照（１０）：言語行動に関する比較① 第12回　日英中の対照（１１）：言語行動に関する比較② 第13回　発表準備 第14回　学生による発表 第15回　まとめ		
成績評価の方法	**授業への参加度：５０%，発表とレポート：５０%**		

授業科目	**日本語学概論**	担当者	望月　正道
	〔履修年次〕　１年次 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】　日本語に関する研究を行っていくうえで，また，日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも，必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。 【概要】　日本語学の各研究分野について概観するが，日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項についてはパソコンを使って自分の声を分析しながら考察を行う。また，日本語においては文字・表記の問題も重要である。 　この授業は「講義方式」であり，教室での 90 分の授業に対して 180 分の自学自習が義務づけられている。従って，各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，「学習課題」を考察してくること。 【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　玉村文郎〔編〕『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社 (2)　授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　日本語学とは　：国語／日本語と国語学／日本語学 第　2回　音声 1：音声器官，国際音声字母，子音 ※ 第　3回　音声 2：子音のまとめ，母音 ※ 第　4回　音声 3：音韻，外来語の表記 ※ 第　5回　音声 4：韻律，方言 ※ 第　6回　音声 5：音声の教育 ※ 第　7回　文字・表記 1：現代日本語の表記の特徴，国語施策，舊漢字 第　8回　文字・表記 2：漢字 第　9回　語彙 1：語彙の計量，語構成，語義 第10回　語彙 2：語種・語の位相 第11回　表現：慣用表現，待遇表現 第12回　文法 1：形態，構文 第13回　文法 2：ヴォイス・アスペクト・テンス 第14回　言語生活：流行語，若者言葉，名付け 第15回　まとめ （※印はパソコン教室で実施。）		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)に，随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ 日本文学史Ⅰ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注　〔授業形態〕　必修（注	
テーマ及び概要	【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，明治の日本近代文学史の歴史的変遷を理解する。 【概要】「日本文学史・近代Ⅰ」では，主に明治期の文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】日本近代文学史の基礎的な知識を説明できる。 日本の近代文学史・文学作品に関して問題意識を持ち，自身の考えを述べることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成26年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ） (2)　畑 有三他著『作品で綴る近代文学史』双文社		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か 第　2回　概論：「近代」とは何か　―夏目漱石，森鴎外，北村透谷― 第　3回　概論：「小説」概念の成立　―坪内逍遙― 第　4回　明治の文学1：近世と近代文学　―戯作，漢文体，翻訳小説，政治小説― 第　5回　明治の文学2：「国語」と近代文学　―速記，表記の改革，文体の改革― 第　6回　明治の文学3：詩歌の改良　―新体詩の出現― 第　7回　明治の文学4：言文一致小説　―二葉亭四迷― 第　8回　明治の文学5：写実主義と写生(1)　―尾崎紅葉，硯友社の文学― 第　9回　明治の文学6：写実主義と写生(2)　―正岡子規― 第10回　明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌　―森鴎外，島崎藤村― 第11回　明治の文学8：自然主義の小説(1)　―島崎藤村― 第12回　明治の文学9：自然主義の小説(2)　―田山花袋― 第13回　明治の文学10：反自然主義の小説　―夏目漱石― 第14回　明治の文学11：口語自由詩　―川路柳虹，相馬御風― 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（40%），筆記試験（60%）		

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ 日本文学史Ⅱ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，大正から現代に至る日本近代文学史の歴史的変遷を理解する。 【概要】「日本文学史・近代」では，主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】日本近代文学史の基礎的な知識を説明できる。 日本の近代文学史・文学作品に関して問題意識を持ち，自身の考えを述べることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成26年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ） (2)　畑 有三他著『作品で綴る近代文学史』双文社		
授業スケジュール	第　1回　概論：大正・昭和以降の「文学」の問題　―メディアの変革と「文学」― 第　2回　大正の文学1：大正文壇と私小説　―白樺派，新思潮派― 第　3回　大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立　―菊池寛― 第　4回　昭和の文学1：新感覚派・前衛詩　―横光利一，萩原恭次郎― 第　5回　昭和の文学2：主知主義文学　―梶井基次郎― 第　6回　昭和の文学3：プロレタリア文学　―小林多喜二― 第　7回　昭和の文学4：文芸復興の時代　―転向文学，日本浪漫派，四季派― 第　8回　昭和の文学5：戦争と文学　―火野葦平，石川達三― 第　9回　昭和の文学6：昭和二十年代の文学　―戦後文学の出発― 第10回　昭和の文学7：昭和三十年代の文学　―第三の新人の登場― 第11回　昭和の文学8：昭和四十年代の文学　―三島由紀夫の死― 第12回　昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学　―村上龍，村上春樹― 第13回　昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向　―塚本邦雄，岡井隆，寺山修司― 第14回　現代の文学：現代文学のゆくえ　―インターネットと表現の変容,― 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（40%），筆記試験（60%）		

授業科目	**日本語教育概論**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　日本語日本文学専攻は１年，英語英文学専攻は２年 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		〔学期〕　後期
テーマ及び概要	【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ。 【概要】この授業では，日本語教育に初めて接する人を対象として，日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢，教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境，言語（外国語）習得の仕組み，日本語教育の教授法等を解説する。 【到達目標】・日本語教育に関する基礎知識を身につけ，日本語教育に興味を持ち，その全体像を把握できること。 ・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し，より広い視野と多様な見方を持つようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適宜プリントを配布する (2)　授業中に紹介する		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第　2回　異文化接触と日本語教育：少子高齢化，定住外国人の増加，ボランティア教室 第　3回　年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第　4回　言語と社会：バイリンガル／マルチリンガル，言語政策，言語変種 第　5回　文化と日本語教育：カルチャーショック，ステレオタイプ，高／低コンテキスト文化 第　6回　日本語教育とコミュニケーション教育：文化相対主義　異文化トレーニング　コミュニケーション・スタイル 第　7回　日本語教育と文法：語順　日中対照　言語学 第　8回　第二言語としての日本語の習得：誤用分析　言語転移　外国語学習の適性 第　9回　日本語教育法（1）コースデザインとニーズ分析，シラバス・デザイン，カリキュラム 第10回　日本語教育法（2）教授法：直接法　オーディオリンガルメソッド　コミュニカティブ・アプローチ 第11回　日本語教育法（3）教材分析・開発：機能シラバス　構造シラバス　場面シラバス 第12回　日本語教育法（4）授業の計画と実施①初級レベルの場合：導入　基本練習　応用練習 第13回　日本語教育法（5）授業の計画と実施②中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育　プロジェクトワーク 第14回　日本語教育法（6）評価法：熟達度テスト　到達度テスト 第15回　まとめ		
成績評価の方法	**授業への参加度と授業時に実施する小テスト**：50%，**期末レポート**：50%		

授業科目	**国際経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタの SPS と日系ブラジル人 【概要】グローバル化が加速する 21 世紀の世界経済について，その制度的な枠組みを WTO，FTA，EPA を中心に，バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで，日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに，海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で，国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。 【到達目標】21 世紀のグローバル化の現状を制度面と，その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂 (2)		
授業スケジュール	第　1回　21 世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第　2回　WTO の仕組み：最恵国待遇，内国民待遇，数量制限の禁止，ドーハラウンド 第　3回　FTA とバラッサの 5 段階説：EU 第　4回　進展する FTA と EPA の限界：東アジア共同体か TPP か，NAFTA，メルコスル。日本の EPA 戦略の意義と限界 第　5回　海外工場から始まる最新のモノづくり（中国１）：広汽トヨタにおける SPS とリーン化の進展 第　6回　同上（中国２）： SPS と労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第　7回　同上（中国３）：サプライヤーパーク内専用道順引き：JIT から JIS への進化と負担転嫁 第　8回　同上（中国４）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第　9回　同上（中国５）：中国金型産業の発展と限界 第10回　同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式 SPS 第11回　同上（台湾）：国瑞汽車における AGV 牽引同期台車式 SPS 第12回　同上（インドネシア）：TMMIN におけるハンガー式 SPS 第13回　内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第14回　同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（１００％）		

授業科目	国際関係論	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。その後，特に貧困問題，環境問題，人権，テロ，グローバルガバナンスについての説明と，問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣，2006 年）。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的，方法 第　2回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか 第　3回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化 第　4回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第　5回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１ 第　6回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２ 第　7回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争 第　8回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム 第　9回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序 第 10 回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回　国際社会における諸問題２：貧困と開発 第 12 回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題 第 13 回　国際社会における諸問題４：対テロ 第 14 回　国際社会における諸問題５：グローバルガバナンス 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	試験（１００％）によって評価する。		

授業科目	検定対策講座Ⅰ	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】文法力・語彙力の強化と長文読解力の養成 【概要】授業の目的は，検定対策として，英文読解力を向上させ，英文法の基礎知識を再確認させることにある。速読によって 250 語程度の英文を読んで内容を理解する能力を習得させる一方で，問題を解いて高校で習った文法事項を復習させる。また，一定の時間内に英検２級の問題（プリント学習）を解く感覚を身に付けさせる。 【到達目標】実用英語技能検定２級に合格できるように，英語のリーディング力と語彙・文法を身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　坂部俊行・岡島徳昭・W.ノエル『英検２級　合格への道』南雲堂 今村洋美・山田修治，他『新・英検２級サクセスコース』金星堂 (2)　適宜，プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の進め方の説明，プリント学習（受講生のレベルを確認） 第　2回　『英検２級　合格への道』Lesson１，『新・英検２級サクセスコース』Lesson１：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第　3回　『合格への道』Lesson２，『サクセスコース』Lesson２：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第　4回　『合格への道』Lesson３，『サクセスコース』Lesson３：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第　5回　『合格への道』Lesson４，『サクセスコース』Lesson４：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第　6回　『合格への道』Lesson５，『サクセスコース』Lesson５：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第　7回　『合格への道』Lesson６，『サクセスコース』Lesson６：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第　8回　『合格への道』Lesson７，『サクセスコース』Lesson７：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第　9回　『合格への道』Lesson８，『サクセスコース』Lesson８：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題 第 10 回　『合格への道』Lesson９　：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題＋プリント学習 第 11 回　『合格への道』Lesson 10　：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題＋プリント学習 第 12 回　『合格への道』Lesson 11　：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題＋プリント学習 第 13 回　『合格への道』Lesson 12：語彙文法問題，語句整序問題，長文問題＋プリント学習 第 14 回　実践形式の練習（その一）：筆記とリスニング 第 15 回　実践形式の練習（その二）＋まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%），予習を含む授業への取り組み（30%）で評価する。		

授業科目	**検定対策講座Ⅱ**	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】TOEIC の出題傾向を探り、戦略的に又段階的に各パートの対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、速読力をレベルアップするためのトレーニング。 【概要】TOEIC は今やグローバルな実用的英語運用能力を測るテストとして社会的にも評価されています。TOEIC で測られる能力とは、「英語力＋戦略力（ストラテジー」です。つまり、TOEIC でスコアアップを目指すには、TOEIC で求められる英語力だけでなく、問題を解くためのストラテジーも獲得していくことが効率的です。授業では、TOEIC のリスニング・リーディングパートの各セクションの演習問題を解きながら英語力を養成するとともに、テスト攻略法や自宅でもできる効果的な学習法を学んでいきます。自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習（予習・復習・課題）が求められます。厳しい道のりですが、あせらず、あきらめず、こつこつと学習すれば必ず目標点数に近づきます。一緒にがんばりましょう！　なおコース期間中に実施する TOEIC - IP テストを受験することを強く勧めます。 【到達目標】コース終了時までに TOEIC500～550 点以上を取ることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　宮崎充保、Miada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test　Student Book』出版社：成美堂 (2)		
授業スケジュール	＜毎回、LL 教室を使用します＞ 第　1回　Preliminary Lesson ―TOEIC とは？／　授業・テキストの進め方 ／ Pre-TOEIC Test にチャレンジ！ 第　2回　Part 1 の攻略法 /　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第　3回　Part 2 攻略 法(1) /　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第　4回　Part 2 の攻略法(2)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第　5回　Part 3 の攻略法(1)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第　6回　Part 3 の攻略法(2)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第　7回　Part 4 の攻略法(1) /　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第　8回　Part 4 の攻略法(2)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第　9回　Part 5 の攻略法(1)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第 10 回　Part 5 の攻略法(2)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第 11 回　Part 6 の攻略法 /　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第 12 回　Part 7 の攻略法(1)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第 13 回　Part 7 の攻略法(2)/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第 14 回　Part 7 の攻略法(3)　/　TOEIC 英単語熟語確認テスト 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	小テスト（30%）＋　各パートのミニテストの提出(30%）＋　定期試験（40%）		

授業科目	**卒業研究**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　2単位	〔必修／選択〕	必修　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】各人がテーマを設定して研究を進めていく。 【概要】映像文学という視点に立って，各人が，興味のある英米文学作品に関連した映画，外国文化等に関連した映画のなかで，テーマを設定して研究を進めていく。もちろん，各自がテーマを設定して研究を進めてもよい。 ＊卒業研究論文は日本語で作成しても構わない。この場合，350 語程度の英語の要約（summary）を添付することとする。勿論，英語での作成が望ましい。 【到達目標】各人のテーマで，「課題探求・解決能力」の集大成として，卒業研究論文を完成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　随時プリント (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：卒業論文とは何かの説明，卒業論文作成のスケジュール等の確認 第　2回　テーマの選定と絞り込みの指導：過去の事例の紹介 第　3回　文献収集の指導：図書館での文献収集およびインターネット検索による文献収集 第　4回　テーマの確認，卒業論文の書き方（論の展開の仕方）の指導 第　5回　「はじめに」の書き方の指導 第　6回　進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（その一） 第　7回　進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（その二） 第　8回　進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（その三） 第　9回　中間発表（その一） 第 10 回　中間発表（その二） 第 11 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（その一） 第 12 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（その二） 第 13 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（その三） 第 14 回　提出前の最終指導：レイアウト，目次，参考文献などの確認，英語での Summary 作成の指導 第 15 回　パワーポイントを用いたプレゼンテーションの練習		
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物（８０%），プレゼンテーション（２０%）		

授業科目	**卒業研究**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】卒業研究の執筆を通し，基礎演習 I，英語学演習での研究成果をまとめる。 【概要】基礎演習 I と英語学演習 I を通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。 【到達目標】卒業研究を完成させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　初回の授業で指示する。 (2)　参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　先行研究と資料の発表およびディスカッション(1) 第　3回　先行研究と資料の発表およびディスカッション(2) 第　4回　個別指導 (1) 第　5回　個別指導 (2) 第　6回　個別指導 (3) 第　7回　中間発表とディスカッション (1) 第　8回　中間発表とディスカッション (2) 第　9回　中間発表とディスカッション (3) 第 10 回　個別指導 (4) 第 11 回　個別指導 (5) 第 12 回　個別指導 (6) 第 13 回　個別指導 (7) 第 14 回　プレゼンテーション資料の作成 (1) 第 15 回　プレゼンテーション資料の作成 (2)		
成績評価の方法	授業への取り組み（10%）＋ 卒業研究 (90%)		

授業科目	**卒業研究**	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカとヨーロッパの文化と文学について 【概要】本、インタビュー、インターネット等の方法を用いて、卒業論文の作成、推敲をします。卒業研究発表会に向けての準備もします。 【到達目標】英語での学術論文の執筆を教授し、情報の寄せ集めであるレポートと卒業論文の違いを明確にすることが目標です。特定のトピックにおける事実を述べるレポートとは異なり、卒業論文ではすでに報告されている事実や考えに基づき、自分の意見を明確に述べることが求められます。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　授業紹介 第　2回　リサーチ、ライティング、校正演習 第　3回　〃 第　4回　〃 第　5回　〃 第　6回　〃 第　7回　〃 第　8回　〃 第　9回　〃 第 10 回　〃 第 11 回　〃 第 12 回　〃 第 13 回　〃 第 14 回　〃 第 15 回　〃		
成績評価の方法	出席(６０%)、授業内での発言(４０%)。		

授業科目	**卒業研究**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】第二言語習得理論，応用言語学，英語教育（TESOL）に関する卒業研究論文の作成 【概要】基礎演習Ⅰおよび英語学演習で得た第二言語習得理論，応用言語学，英語教育（TESOL）に関する知識を基に，個人で研究テーマを設定し，調査研究を行い，成果を卒業研究としてまとめ，口頭で発表する。中間報告や Individual conferences では，英語での論文の書き方，調査方法，分析方法，発表方法について学び，論文の完成に向けて段階的に準備を行う。 【到達目標】卒業研究論文を完成させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　適宜授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　研究中間報告 (1) 第　2回　研究中間報告 (1) 第　3回　Individual conferences 第　4回　Individual conferences 第　5回　研究中間報告 (2) 第　6回　研究中間報告 (2) 第　7回　Individual conferences 第　8回　Individual conferences 第　9回　研究中間報告 (3) 第10回　研究中間報告 (3) 第11回　Individual conferences 第12回　Individual conferences 第13回　卒業研究発表の練習 第14回　卒業研究発表の練習 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)，卒業研究論文(80%)で評価する。		

授業科目	**卒業研究**	担当者	未定
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕　〔授業形態〕	
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

7　生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論		担当者	倉元　綾子・揚村 固・井余田　秀美	
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	2単位	〔必修／選択〕	必修	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】　高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。 【概要】中学・高校における技術・家庭の学習内容をふまえ，さらに生活科学への展開を図る。生活科学の対象，目的，研究方法を学び，個人・家族の生活の現状と課題について理解を深める。前半は，生活の機能，生活にかかわる政策，世界の家政学，家政学・生活学の歴史などに焦点をあて，生活科学の基本を学ぶ。後半は，生活のしくみをどのようにとらえるのか，具体的な事例に基づいて解説する。それにより，生活全体をグローバルに俯瞰するだけでなく，逆に個人として見つめ，生活科学の構造を理解する。第1回～第7回は倉元が担当する。第8回～第15回は未定。 【到達目標】　生活科学とは何かを理解し，生活を科学的な視点で把握し，生活にかかわる課題に主体的に関与できるようにする。それにより，各自が生活科学科で勉学する意義を探求して欲しい。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　パウエル，キャシディ著，倉元綾子，黒川衣代監訳『家族生活教育：人の一生と家族』南方新社 ステイジ，ヴィンセンティ編著，倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社 ヴィンセンティ著，倉元綾子訳『アメリカ・ホーム･エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社				
授業スケジュール	第　1回　生活とは何か，私たちの生活はどうなっているか（個人・家族の生活の現状） 第　2回　〃 第　3回　生活科学／家政学の対象，目的，体系・領域 第　4回　〃 第　5回　生活科学／家政学の歴史と未来（生活課題にとりくむ） 第　6回　〃 第　7回　〃 第　8回　生活の基本となる人間関係：家族で生活すること，地域・社会の一員であること，公助・互助・自助 第　9回　〃 第10回　生活を環境としてとらえる：＜人体－衣服－住居－社会＞のつながりと相互作用 第11回　〃 第12回　生活をデザインする：もののデザイン，生き方のデザイン，社会のデザイン 第13回　〃 第14回　生活科学は社会的な課題にどのようにアプローチするか 第15回　まとめ				
成績評価の方法	倉元担当分（50%）：ワークシート，レポート（第7回までに提示） 後半：未定				

授業科目	生活経営学		担当者	坂上　ちえ子	
	〔履修年次〕	食栄専攻は2年 生活専攻は1年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	2単位	〔必修／選択〕	選択（注）	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 生活経営とは何かを含め，生活を経営する上での諸問題を理解し，自立のための生活経営力の獲得を目指す。 【概要】 自分と他者の関わりを捉えなおし，個人と家庭，社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。 【到達目標】 真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　藤原千賀編著『生活経営論－自立と共生のライフデザイン－』同文書院				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　生活を考える 第　3回　家族と家庭を考える 第　4回　労働を考える 第　5回　経済と消費を考える 第　6回　家計を考える 第　7回　子供と教育を考える 第　8回　高齢社会を考える 第　9回　男女の役割を考える 第10回　地域を考える 第11回　政治と社会を考える 第12回　環境を考える 第13回　情報を考える 第14回　自立を考える 第15回　まとめ				
成績評価の方法	提出課題（50%）＋　授業での活動内容（50%）				

（注）生活科学専攻は教職必修

授業科目	**人間関係論**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕　生活１年，食栄２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修（生活１年）／選択（食栄）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 人間関係についての基礎的ダイナミズムを理解することは，人との関わりが不可欠な現代社会においてよりよい生活するためには重要であると考えられる。講義では１）人間関係のおける基礎知識の習得，２）社会的スキルの理解，習得，３）家族関係の理解の３テーマを主題に，発達心理学，社会心理学，臨床心理学の視点からアプローチする。講義中では，理解を深めるために適宜，心理検査やワークを取り入れる。 【到達目標】①対人関係の心理についての知識を習得し、自己や他者を心理学的な視点から理解する。 ②豊かな人間関係を築くためには、何が必要かを主体的に考え、自己の対人関係スキルの向上を目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎時プリントによる資料を配布します。 (2)　参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　グループワーク①：クラス開き 第　3回　グループワーク②：構成的グループエンカウンターⅠ 第　4回　グループワーク③：構成的グループエンカウンターⅡ 第　5回　人間関係に関する基礎知識①：さまざまな人間関係Ⅰ 第　6回　人間関係に関する基礎知識②：さまざまな人間関係Ⅱ 第　7回　人間関係に関する基礎知識③：対人コミュニケーション 第　8回　社会的スキル・トレーニング①　社会的スキルとは？ 第　9回　社会的スキル・トレーニング②　SST の実際 第10回　グループ討議：コミュニケーション能力の育成Ⅰ 第11回　グループ討議：コミュニケーション能力の育成Ⅱ 第12回　グループ討議：コミュニケーション能力の育成Ⅲ 第13回　グループ発表 第14回　グループ発表 第15回　まとめ		
成績評価の方法	「レポート（70%）＋リアクションペーパー（30%）」		

授業科目	**社会福祉論**	担当者	中山　慎吾
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本の社会福祉の大枠を理解し，市民的な視点から政策と実践の方向を探る。 【概要　１．社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 ２．社会福祉の各領域の実践等を，ビデオ等を参考にして学ぶ（まとめと感想を授業中に書いてもらう）。 ３．社会福祉の領域ごとにテキスト等を通して制度の動向を学ぶ。 ４．国際的な視野から日本の社会福祉の方向を探る。 【到達目標　社会福祉の領域ごとに制度の動向や新しい動き・問題を学ぶ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　社会保障入門編集委員会『社会保障入門 2015』中央法規 (2)		
授業スケジュール	第　1回　福祉の諸領域 第　2回　要介護高齢者への支援 第　3回　共生型福祉の可能性 第　4回　介護家族への支援 第　5回　ボランティアによる住民同士の支え合い 第　6回　地域生活への住民の主体的関わり 第　7回　地域生活における問題への対応 第　8回　仕事と子育ての両立 第　9回　子どもの自立への援助 第10回　子どもへの虐待等への対応 第11回　知的障がい者への支援の歩み 第12回　発達障がい者への支援 第13回　医療サービスと医療保険の動向 第14回　年金保険の動向 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業での参加状況（30%），授業中に書く小レポート（70%）		

８　食物栄養専攻専門科目

授業科目	**食品学Ⅰ**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　(注)　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】生物としての食品は色々な無機物と有機物からできていることを知り、食品を構成している物質の化学的特性について学びます. 【概要】食品を構成しているさまざまな成分の分類、化学構造、さらには栄養素としての役割について解説します．また食品には体に危害を及ぼす有害成分も含まれていることを解説します. 【到達目標】①食品に含まれる栄養成分（タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル、核酸）の構造と機能について理解する．②食品に含まれる有害成分の種類と特性について理解する.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新ガイドライン準拠エキスパート管理栄養士養成シリーズ「食べ物と健康１　第２版」 池田清和・柴田克己　編、化学同人 (2)　プリントを配布します.		
授業スケジュール	第　１回　オリエンテーション、　人間と食品 第　２回　食品の分類、食品成分表の理解 第　３回　食品成分としての水分子の構造と特性（水和状態、水分活性　他） 第　４回　タンパク質を構成するアミノ酸の種類と構造（アミノ酸の基本構造、必須アミノ酸、ペプチド結合　他） 第　５回　タンパク質の構造（一次構造、二次構造、三次構造、変性　他） 第　６回　タンパク質の機能と栄養（タンパク質の種類、アミノ酸価　他） 第　７回　単糖類の種類、構造および機能（糖類の基本構造　他） 第　８回　少糖類の種類、構造および機能（グリコシド結合、少糖類の基本構造　他） 第　９回　多糖類と食物繊維の種類、構造および機能（単純多糖類と複合多糖類、デンプンの糊化　他） 第10回　脂肪酸の種類と構造（飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸　他） 第11回　脂質の種類、構造および機能（トリグリセリドの構造、不飽和脂肪酸の代謝、必須脂肪酸　他） 第12回　脂溶性ビタミンの種類、構造および機能（ビタミンA、D、K、E） 第13回　水溶性ビタミンの種類、構造および機能（ビタミンB_1、B_2、B_6、ナイアシン、パントテン酸、葉酸　他） 第14回　ミネラル、核酸の種類、構造および機能（主要元素と微量元素、旨味成分としての核酸） 第15回　食品に含まれる有害成分（内在性・外来性有害物質、アレルゲン　他）、まとめ		
成績評価の方法	期末試験（７０％）　毎回授業の最後に行う理解度確認小テスト（３０％）		

(注) 栄養士必修　教職必修

授業科目	**食品学Ⅱ**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　(注)　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】日常食している身近な食品の種類や品種を知り、それらを構成している成分の違いや利用特性を学びます. 【概要】さまざまな食品素材を農産物、畜産物および水産物に分けて、食品毎の成分特性と利用特性について化学的視点で解説します. 【到達目標】①食品の分類について理解する．②農産物の種類と食品毎の成分特性を理解する．③畜産物の種類と食品毎の成分特性を理解する．④水産物の種類と食品毎の成分特性を理解する.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新ガイドライン準拠エキスパート管理栄養士養成シリーズ「食べ物と健康２」 田主澄三・小川　正　編、化学同人 (2)　プリントを配布します.		
授業スケジュール	第　１回　オリエンテーション、　食品素材としての生物資源 第　２回　穀類の成分と利用特性－１　(穀類の概要、米) 第　３回　穀類の成分と利用特性－２　(麦、蕎麦、とうもろこし　他) 第　４回　豆類の成分と利用特性－１　(豆類の概要、大豆) 第　５回　豆類の成分と利用特性－２　(小豆、いんげん豆　他) 第　６回　いも類の成分と利用特性－１（いも類の種類、さつまいも、じゃがいも） 第　７回　いも類の成分と利用特性－２（さといも、やまのいも　他） 第　８回　野菜類の成分と利用特性－１（野菜の概要、種類） 第　９回　野菜類の成分と利用特性－２（葉菜類、茎菜類、根菜類） 第10回　野菜類の成分と利用特性－３（果菜類、花菜類） 第11回　きのこ類の成分と利用特性 第12回　食肉の種類と構造　(食肉の部位別特徴、骨格筋の基本構造) 第13回　食肉の熟成と成分変化 第14回　飲用乳の成分と規格、鶏卵の構造と成分特性 第15回　魚介類の種類と成分特性		
成績評価の方法	期末試験（７０％）　毎回授業の最後に行う理解度確認小テスト（３０％）		

(注) 栄養士必修　教職必修

授業科目	**食品学実験**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　（注）　〔授業形態〕　実験方式	
テーマ及び概要	【テーマ】生物・化学実験で使用する各種実験器具の取り扱い方及び単位の表し方を理解したうえで、さまざまな実験の基本操作法を習得します. 【概要】入門編では、実験器具の取り扱い方や試薬類の秤量法、実験で汎用する計算・単位に関する知識を解説します．その後、分離・分析実験を通じて、食品成分の諸性状を観察します．また食品で起こるさまざまな化学変化も観察します. 【到達目標】①実験を安全におこなうための注意事項を理解する．②必要な化学計算や度量衡（重量、容量単位）を理解する．③器具類を使って基礎的な生物・化学実験法を習得する.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します. (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション、　実験入門（実験器具の種類と取り扱い方） 第　2回　溶液濃度の表し方－１（モル濃度と溶液の調製） 第　3回　溶液濃度の表し方－２（%濃度と溶液の調製） 第　4回　酸と塩基－１（水素イオン濃度の理解と食品のｐＨ測定） 第　5回　酸と塩基－２（中和の理解と中和滴定） 第　6回　食品の酸度測定（酢、ヨーグルト、ジュースの酸度） 第　7回　各種糖質の特性と検出（糖類の定性分析） 第　8回　各種アミノ酸、タンパク質の特性と検出（アミノ酸の定性分析） 第　9回　食品成分の分離と検出―１（いも類、穀類からのデンプンの分離・検出、α化の観察） 第10回　食品成分の分離と検出―２（牛乳からのタンパク質の分離と検出及びミネラルの検出） 第11回　食品色素の特性と化学変化（アントシアニン、フラボノイド、クロロフィル） 第12回　食品成分の定量実験（モール法による醤油の食塩濃度測定） 第13回　食品の褐変反応（メイラード反応と酵素的褐変反応） 第14回　発酵食品の特性（パン酵母の特性、アルコール発酵） 第15回　食品成分の観察（デンプン粒の構造）、まとめ		
成績評価の方法	実験課題レポートの提出（５０%）　期末試験（５０%）		

（注））栄養士必修　教職必修

授業科目	**食品衛生学**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】普段の食生活において食品衛生に気を配ることの大切さを認識し、食の安全・安心を確保する為の対処法を学びます. 【概要】食品と微生物の関わりを理解したうえで、微生物がもたらすさまざまな食品危害について具体的な事例を挙げながら解説します．そのうえで食品危害を未然に防止するためにはどうのようにすべきかについて考えます. 【到達目標】①食中毒に関する知識を習得するとともに、衛生的対処法を理解する．　②有害物質による食品汚染の危険性を認識し、食の安全確保に対する意識を高める．③食品添加物の安全性について理解する.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新ガイドライン準拠エキスパート管理栄養士養成シリーズ「食品衛生学　第２版」 白石　淳・小林秀光　編、化学同人 (2)　プリントを配布します.		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション、　食品衛生とは（食品の安全・安心） 第　2回　食品衛生法と関係法規 第　3回　食品と微生物－１（微生物の種類） 第　4回　食品と微生物－２（微生物の増殖条件） 第　5回　微生物の滅菌と消毒（加熱滅菌法、消毒剤の種類と特性） 第　6回　食品の変質とその防止（微生物による変質、冷蔵・冷凍・加熱法） 第　7回　食中毒の定義、概要、発生状況 第　8回　細菌性食中毒－１（感染侵入型食中毒、感染毒素型食中毒） 第　9回　細菌性食中毒－２（食品内毒素型食中毒） 第10回　ウイルス性食中毒（ノロウイルス、肝炎ウイルス） 第11回　マイコトキシン中毒（アフラトキシン、オクラトキシン　他） 第12回　動物性自然毒（テトロドトキシン、シガテラ、貝毒　他） 第13回　植物性自然毒（キノコ毒、ソラニン、青酸配糖体　他） 第14回　有害物質による食品汚染－１（有害無機化合物、動物用医薬品） 第15回　有害物質による食品汚染－２（農薬、その他有害物質）		
成績評価の方法	期末試験（７０%）　毎回授業の最後に行う理解度確認小テスト（３０%）		

（注））栄養士必修　教職必修

授業科目	**食品衛生学実験**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　（注）　〔授業形態〕　実験方式	
テーマ及び概要	【テーマ】実験を通じて食品衛生に対する意識を高め、同時に食中毒を予防するための衛生管理技術を学びます. 【概要】細菌の分離・培養法など細菌の取り扱いに必要な基本的手法を習得したのち、身近な食品から細菌類を分離し、その性状を観察します．また、食品成分の抗菌力試験、食品添加物の検出、飲用水の水質検査、更には容器の安全性試験など食品衛生に関連した理化学試験も実習します. 【到達目標】①細菌類の取り扱い技法を理解する．②選択培地の特性を知り、食中毒菌の検出法を理解する．③食中毒菌の細菌学的特性を理解する．④食品衛生に関連した理化学試験法を習得する.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します. (2)		
授業スケジュール	第　１回　オリエンテーション（実験時の注意事項の確認）、　顕微鏡の取扱い（顕微鏡で観察できる小さな生き物） 第　２回　細菌の検出と観察－１（手指や身の回りにある物の拭き取り検査） 第　３回　細菌の検出と観察－２（細菌のグラム染色、細菌の形態観察） 第　４回　細菌数検査法（寒天培地の作成と混釈培養法） 第　５回　食品の細菌検査－１（未殺菌乳の細菌検査、大腸菌群の検出） 第　６回　食品の細菌検査－２（食肉の細菌検査、黄色ブドウ球菌の検出） 第　７回　食品の細菌検査－３（野菜類の細菌検査、芽胞形成菌の検出） 第　８回　真菌類の検出と観察（カビ・酵母の形態観察と混釈培養法） 第　９回　乳酸発酵食品の腐敗菌抑制効果の検証－１（ヨーグルトからの乳酸菌の検出、ヨーグルトの試作） 第10回　乳酸発酵食品の腐敗菌抑制効果の検証－２（乳酸菌の形態観察、ヨーグルトの腐敗菌抑制効果） 第11回　食品が持っている抗菌効果の検証（抗菌力試験法） 第12回　保存料の定性実験－１（加工食品からのソルビン酸の検出、チオバルビツール酸法） 第13回　保存料の定性実験－２（ソルビン酸の抗菌力試験、ペーパーディスク法） 第14回　飲料水の水質検査（ＤＰＤ法による遊離残留塩素濃度の測定、細菌数検査） 第15回　食品容器の安全性試験（ホルムアルデヒド溶出試験、アセチルアセトン法）		
成績評価の方法	実験課題レポートの提出（５０％）　期末試験（５０％）		

（注））栄養士必修　教職必修

授業科目	**食品加工学**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】食品加工の目的・原理を理解するとともに、食品素材毎の加工技術の多様性について学びます. 【概要】食品保存と加工技術に関する基礎的知識に加え、植物性食品素材、畜産食品素材、水産食品素材食品に分け、それぞれの食品がもっている加工特性とそれを利用した加工食品について解説します．また食品加工の衛生管理システムについても解説します。 【到達目標】①食品加工の目的・原理について理解する．②それぞれの食品素材がもっている加工特性を理解する．③食品加工に求められる衛生管理システムについて理解する.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新ガイドライン準拠エキスパート管理栄養士養成シリーズ「食べ物と健康３」 森　友彦・河村幸雄　編、化学同人 (2)　プリントを配布します.		
授業スケジュール	第　１回　オリエンテーション、　食品加工の意義 第　２回　食品保存の目的と原理（温度、ｐＨ、水分制御、塩蔵） 第　３回　食品添加物による食品保存－１（食品添加物の種類と特徴） 第　４回　食品添加物による食品保存－２（食品添加物の安全性評価） 第　５回　食品加工技術（物理的・化学的操作） 第　６回　植物性食品素材加工－１（穀類） 第　７回　植物性食品素材加工－２（豆類、いも類） 第　８回　動物性食品素材加工－１（塩漬・燻製と食肉加工食品） 第　９回　動物性食品素材加工－２（乳加工食品の分類と製法） 第10回　発酵食品－１（細菌を利用した食品，発酵乳　他） 第11回　発酵食品－２（酵母を利用した食品、アルコール飲料　他） 第12回　発酵食品－３（カビを利用した食品、発酵調味料　他） 第13回　油脂類と甘味料（加工油脂、製糖・合成甘味料　他） 第14回　特別用途食品と保健機能食品 第15回　加工食品の安全性（HACCP の概要）、まとめ		
成績評価の方法	期末試験（７０％）　毎回授業の最後に行う理解度確認小テスト（３０％）		

授業科目	**調理学**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	必修 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品の調理過程における科学的現象 【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。 【到達目標】嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、 また、調理や食物選択が理にかなったものにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) はじめて学ぶ『調理学』化学同人 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部 山崎清子ら共著『NEW 調理と理論』 同文書院		
授業スケジュール	第 1回 調理学の意義と目的 第 2回 食べ物のおいしさ 第 3回 調理操作と調理機器 第 4回 植物性食品１の調理科学 第 5回 調味料・香辛料の調理科学 第 6回 ゲル化剤・とろみ剤の調理科学 第 7回 植物性食品２の調理科学 第 8回 植物性食品３の調理科学 第 9回 植物性食品１の調理科学 第10回 〃 ２の調理科学 第11回 〃 ３の調理科学 第12回 油脂類の調理科学 第13回 嗜好飲料 第14回 調理文化 第15回 グループ発表、まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60%）・授業態度及び出席・小テスト・ノート（40%）を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅰ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術 【概要】一食の献立として学習で来るよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム 【到達目標】調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回 調理機器の使い方、調味の割合、 第 2回 和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、、即席漬物 第 3回 日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し（下洗い）、上新粉の扱い 第 4回 西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ（鶏がらの扱い）、パンケーキ 第 5回 中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、（大量調理） 第 6回 日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉 第 7回 洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット（ヴィネグレット）ソース、ゼラチンの扱い 第 8回 中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い 第 9回 日本料理：ソーメン、焼魚（器具と化粧塩、鮎の食べ方）、いり豆腐、和え物、水ようかん 第10回 西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン 第11回 中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い 第12回 郷土料理：具沢山の炊き込みご飯（具の量と調味）、ささがき、寄せ卵、白和え、ふくれ菓子 第13回 西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ 第14回 お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い 第15回 調理実技復習、まとめ		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅱ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用 【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム 【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回 夏のお盆料理の報告 第 2回 日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子 第 3回 中華料理：八宝菜、いかの扱い（花いか）、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について 第 4回 日本料理：行楽弁当（いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮）、土瓶蒸し、小倉ケーキ 第 5回 スチームコンベクション料理：焼き魚・から揚げ（ドライモード）、焼きそば（コンビ）、温野菜・プリン（スチーム）、 第 6回 献立応用家庭料理かみかみメニュー 第 7回 日本料理：さつますもじ（ちらし寿司）、青のりの汁、芋のそぼろあんかけ、抹茶饅頭 第 8回 パンとスープ 第 9回 日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし 第10回 正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り 第11回 クリスマス料理、ビーフストロガノフ（ブラウンソース）、ブッシュドノエル 第12回 中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭 第13回 大量調理への応用 第14回 テーブルマナー（会席料理）、懐石料理とは 第15回 調理技術と主菜の作成、まとめ		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅲ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル 【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴（糊化作用、凝固作用、膨張作用など）を十分活かした調理実習カリキュラム 【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回 ～13回 大量調理の応用 季節の和食・応用（五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢、5色なます、のっぺい汁、桜餅） 郷土料理（芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん、豚骨、鶏飯・酒ずし、がね、ぬた） 小麦の応用（餃子、フルーツパウンドケーキ、アップルケーキ、シフォンケーキ、ソース等） 自作の献立作成から調理技術への完成 正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理 西洋料理の応用：グラタン（ホワイトソースの活用）、 クリスマス（ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー、ショートケーキ） 諸外国の料理 第14回 テーブルマナー(洋食)		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学総論	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学とはなにか。 【概要】健康な生活を営むためには，適切な栄養摂取が必要である。日本人の食生活は食料不足の時代から飽食の時代へと急速に変化し，国民の栄養摂取状況も大きく変化した。とはいえ，栄養素欠乏症は克服されたが，栄養素の過剰やアンバランスが顕著になり，生活習慣病のような代謝性疾患が増加している。食料の生産・加工・流通のしくみの変化・発達，生活環境の変化，科学技術の発達，情報化の進展なども著しい。このように，健康と栄養，食をとりまく問題は，大きな広がりと深さをもっている。栄養学領域を全体的に把握し，栄養学の本質や基本的考え方を学ぶ。各回の講義の導入部では，食生活の現状についてのトピックスにも触れる。 【到達目標】栄養学の基礎的事項を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　奥恒行, 高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己，三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 (2)　『栄養学辞典』同文書院 『管理栄養士国家試験キーワード集』女子栄養大学出版部, レイチェル・カーソン『沈黙の春』新潮文庫 ＮＨＫ取材斑『ＮＨＫサイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体１～６別巻１,２』日本放送出版協会 各 3,200 円		
授業スケジュール	第　1回　栄養と食生活の現状 第　2回　〃 第　3回　栄養と食生活の課題 第　4回　〃 第　5回　〃 第　6回　「消化吸収の妙ー胃・腸」（小テスト） 第　7回　消化と吸収 第　8回　〃 第　9回　栄養成分 第 10 回　〃 第 11 回　「壮大な化学工場ー肝臓」（小テスト） 第 12 回　栄養素とその機能 第 13 回　〃 第 14 回　糖質の栄養と代謝，脂質の栄養 第 15 回　〃		
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０%），テスト（５０%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	玉田　泉
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】小児栄養学 【概要】小児期の成長と発達を学び、乳児期、幼児期、学童期、思春期の特徴を理解し、各期の栄養の概説を述べる。また、各期の病気も学びその治療と栄養の関係について理解を深める 【到達目標】小児期の成長と発達を学び、乳児期、幼児期、学童期、思春期の特徴を理解し、各期の栄養の概説を述べる。また、各期の病気も学びその治療と栄養の関係について理解を深める		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『子育て・子育ちを支援する子どもの食と栄養』堤ちはる、土井正子編著　萌文書林、2,400 円 (2)		
授業スケジュール	第　1回　小児の特徴、小児期の分類 第　2回　胎生期の栄養と病気 第　3回　胎生期の栄養と病気 第　4回　幼児期の栄養と病気 第　5回　学童期・思春期の栄養と病気 第　6回　小児期の疾病と食生活 第　7回　小児期の食生活・食育 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養学各論**	担当者	吉田　泰与
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】ＥＢＮによるライフステージ別の健康と栄養，及び食生活における生活習慣病の発症と重症化の予防 【概要】日本人の食事摂取基準を基に食と健康について学習する。エネルギー及び栄養素摂取量の多少に起因する健康障害は，欠乏症または摂取不足によるものだけでなく，過剰によるものも存在する。各ライフステージの健康と栄養の理解を深め，さらに生活習慣病に深く関与する各疾患の発症予防と重症化予防の栄養管理ガイドラインを学ぶ。 【到達目標】個々に必要なエネルギー，たんぱく質等の栄養素摂取量算出及び栄養ケア・マネジメントの立案ができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　厚生労働省「日本人の食事摂取基準　(2015 年版)」策定検討会報告書 菱田明・佐々木敏監修「日本人の食事」摂取基準」第一出版 (2)　日本糖尿病学会編「糖尿病食事療法のための食品交換表」(最新版) 日本糖尿病協会文光堂 医歯薬出版編　「最新　日本食品成分表」(日本食品標準成分表２０１０　アミノ酸成分表２０１０五訂増補脂肪 医歯薬出版		
授業スケジュール	第　1回　食事摂取基準によるＢＭＩを指標とした各ライフステージの推定エネルギー算出 第　2回　基準を策定した栄養素と各ライフステージの指標　ＥＡＲ　ＲＤＡ　ＡＩ　ＵＬ　ＤＧ 第　3回　エネルギー産生栄養素バランスと食事評価　ＰＤＣＡ 第　4回　食事計画表作成と脂肪酸組成の算出 第　5回　食事摂取基準によるビタミン　ミネラル 第　6回　高齢者における栄養と健康　フレイルティ 第　7回　食事摂取基準と高血圧　脂質異常症　糖尿病　ＣＫＤ　のガイドライン 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養学実習**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防、臨床を対象とした栄養学の実践から応用 【概要】妊娠、乳幼児・・高齢期に至るまでの健康保持・疾病予防、疾病の臨床的な栄養管理、つまり食品の選択から食品構成、献立作成、調理、供食までを実際に行う。 【到達目標】ライフステージごとの食形態、疾病により異なる栄養素配分の献立、常食からの展開ができる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　(1)『ライフステージ実習栄養学』、『臨床栄養学実習書』　医歯薬出版 (2)　(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部、『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂 『腎臓病食品交換表』　医歯薬出版、『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010 年版』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　成長期（乳児期、幼児期、学童期）の栄養的特徴、演習 第　2回　〃　実習 第　3回　高齢期の栄養的特徴、実習（骨粗鬆症、咀嚼嚥下困難食） 第　4回　〃 第　5回　経腸栄養の特徴、易消化食の特徴と実習 第　6回　成人期の臨床栄養（エネルギーコントロール食：糖尿病食演習、実習） 第　7回　〃 第　8回　成人期の臨床栄養（ナトリウムコントロール食：高血圧食演習、実習） 第　9回　〃 第 10 回　成人期の臨床栄養（たんぱく質コントロール食：腎臓病食演習、実習） 第 11 回　〃 第 12 回　成人期の臨床栄養（脂質コントロール食：脂質異常症食演習、実習） 第 13 回　〃 第 14 回　妊娠、授乳期の栄養学的特徴 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	レポート 50% 出席・実習態度 50%		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**解剖生理学**		担当者	倉元　綾子	
	〔履修年次〕	１年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	２単位	〔必修／選択〕	選択（注）	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能 【概要】食物栄養の専門知識においては，食物や栄養のことばかりでなく，消化・吸収・排泄などの機能を担う人体についても深く理解しておくことが重要である。人体を構成している各種臓器，組織，細胞を構造的，形態的，機能的な側面から総合的に学ぶ。使用するテキストやビデオ，プリントなどをとおして，それらの形態と機能の有機的関連を理解することに重点を置く。関連する生化学，栄養学への関心を高めるようにする。主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して，理解を深めたい。また，解剖生理学のトピックスにも触れる。 【到達目標】人体の構造と機能を理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　佐藤達夫監修『新版　からだの地図帳』講談社 4,000 円＋税 山口和克ほか『新版　病気の地図帳』講談社 4,000 円＋税 (2)　NHK 取材班『NHK サイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体１～６別巻１,２』日本放送出版協会 各 3,200 円 『驚異の小宇宙・人体Ⅱ 脳と心１～６』NHK 出版 各 3,200 円				
授業スケジュール	第　1回　「生命誕生」人体の構造と機能（人体の大要，細胞，組織，器官と器官系，個体発生と系統発生）， 第　2回　人体の構造と機能１（人体の大要，細胞，組織） 第　3回　人体の構造と機能２（器官と器官系，個体発生と系統発生） 第　4回　生殖系（生殖器とその機能） 第　5回　〃 第　6回　「しなやかなポンプー心臓・血管」循環系（構成，血液，リンパ系，生理）（小テスト） 第　7回　循環系（構成，血液，リンパ系，生理） 第　8回　呼吸系（構成，生理） 第　9回　「なめらかな連携プレーー骨・筋肉」骨格系（形状と構造，主要骨格とその連結，生理）（小テスト） 第 10 回　筋系（形状と構造，主要骨格筋，生理）（小テスト） 第 11 回　「生命を守るー免疫」内分泌系（内分泌腺の構造と機能） 第 12 回　内分泌系（内分泌腺の構造と機能） 第 13 回　免疫系 第 14 回　「脳の構造と機能（記憶，再生）」神経系（神経系の大要，中枢神経系の構造と機能）（小テスト） 第 15 回　神経系，感覚系				
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０%），テスト（５０%）				

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**解剖生理学実験**		担当者	倉元　綾子	
	〔履修年次〕	１年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	１単位	〔必修／選択〕	選択（注）	〔授業形態〕　実験方式
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能 【概　要】人体を構成している各種臓器，組織，細胞についての解剖生理学的知識を，実験・観察・スケッチなどを通して，体得し深める。また，食品学実験における定性実験を基礎に，生体における健康の指標である血液などの各種成分の定量的分析を行う。これらを通じて，正確さ，根気強さ，コミュニケーション能力などを養う。（なお，時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。） 【到達目標】実験，観察を通して，人体の構造と機能を理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　奥恒行，高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己，三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 佐藤達夫監修『新版　からだの地図帳』講談社 4,000 円＋税 山口和克ほか『新版　病気の地図帳』講談社 4,000 円＋税 川村一男『新訂解剖生理学実験』建帛社 1,785 円 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円				
授業スケジュール	第　1回　実験の予備知識，実験の進め方，レポートの書き方，器具洗浄 第　2回　骨格観察（脳解説） 第　3回　骨格観察 第　4回　骨格観察 第　5回　人体モデル観察（各種臓器）（腎臓解説） 第　6回　人体モデル観察（各種臓器） 第　7回　人体モデル観察（各種臓器） 第　8回　人体モデル観察（各種臓器） 第　9回　組織観察（肝臓，腎臓，膵臓，胃） 第 10 回　血液(1)赤血球数算定，白血球数算定 第 11 回　血液(2)ヘモグロビン量，ヘマトクリット値 第 12 回　血液(3)血糖定量，血中タンパク質定量 第 13 回　血液(4)血清コレステロール測定 第 14 回　ラットの解剖 第 15 回　器具洗浄，そうじ，まとめ				
成績評価の方法	レポート（７０%），予習の状況，実験への取り組み状況（３０%）				

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**生化学Ⅰ**	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】脂質，糖質，タンパク質の生化学 【概要】栄養とは，生物が体外から物質を取り入れ，それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は対外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化，すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は，必要に応じて調節され，変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり，この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように，生化学は，食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で，人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ，さらに，生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち，脂質，糖質，タンパク質などを中心に，より深く，多面的に学習する。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して，理解を深める。また，講義の最初には生化学のトピックスにも触れたい。 【到達目標】脂質，糖質，タンパク質の生化学を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　奥恒行，高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己，三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 (2)　佐藤達夫監修『新版　からだの地図帳』講談社 4,000 円＋税 山口和克ほか『新版　病気の地図帳』講談社 4,000 円＋税		
授業スケジュール	第　1回　生化学を学ぶ意義 第　2回　〃 第　3回　細胞 第　4回　タンパク質代謝１ 第　5回　タンパク質代謝２（小テスト） 第　6回　酵素１ 第　7回　酵素２ 第　8回　脂質代謝１（小テスト） 第　9回　脂質代謝２ 第10回　コレステロール代謝 第11回　解毒，P450，アルコール代謝（小テスト） 第12回　ビタミン１ 第13回　ビタミン２ 第14回　無機質１ 第15回　無機質２（小テスト）		
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０%），テスト（５０%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**生化学Ⅱ**	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕　２年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】脂質，核酸，生体機能の調節の生化学 【概　要】栄養とは，生物が体外から物質を取り入れ，それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は対外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化，すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は，必要に応じて調節され，変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり，この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように，生化学は，食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で，人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ，さらに，生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち，脂質，糖質，タンパク質などを中心に，より深く，多面的に学習したい。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して，理解を深めたい。また，講義の最初には生化学のトピックスにも触れたい。 【到達目標】脂質，核酸，生体機能の調節の生化学を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回　エネルギー生産と利用（ＡＴＰ，エネルギーの生成など） 第　2回　〃 第　3回　〃 第　4回　アミノ酸の代謝（アミノ基転移と脱アミノ，尿素回路），（小テスト） 第　5回　アミノ酸の代謝（アミノ酸の炭素骨格の代謝，尿素以外の窒素化合物の代謝） 第　6回　タンパク質の代謝（ＤＮＡ，ＲＮＡ，タンパク質の合成，分解，代謝調節） 第　7回　〃 第　8回　糖質の代謝（解糖系，ＴＣＡ回路など），（小テスト） 第　9回　〃 第10回　〃 第11回　脂質の代謝（トリグリセリドの分解，脂肪酸の酸化），（小テスト） 第12回　脂質の代謝（不飽和脂肪酸の酸化，ケトン体の生成・代謝，脂肪酸の生合成など） 第13回　核酸の代謝（プリン塩基〈ヌクレオチド〉の合成と分解）（小テスト） 第14回　核酸の代謝（ピリミジン塩基〈ヌクレオチド〉の合成と分解） 第15回　生体機能の調節（ホルモンの構造と化学），（小テスト）		
成績評価の方法	小テスト・レポート（５０%），テスト（５０%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**生化学実験**	担当者	倉元　綾子
	〔履修年次〕　２年　〔学期〕　後期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実験方式		
テーマ及び概要	【テーマ】生体成分，栄養成分の定量的分析 【概　要】生化学は，食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で，人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について，栄養成分の定量分析，尿，ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。実験を通じて，正確さ，根気強さ，コミュニケーション能力などを養う。（なお，時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。） 【到達目標】実験を通して，生体成分，栄養成分の生化学を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円 奥恒行，高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己，三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 佐藤達夫監修『新版　からだの地図帳』講談社 4,000 円＋税 山口和克ほか『新版　病気の地図帳』講談社 4,000 円＋税		
授業スケジュール	第　1回　実験の予備知識，実験の進め方，レポートの書き方，器具洗浄 第　2回　灰分,脂肪,食物繊維の定量（解説） 第　3回　水分の定量（解説，実験） 第　4回　ステロイドホルモンの分離定性（解説，実験） 第　5回　アミラーゼによる酵素実験（解説，実験） 第　6回　ビタミンB_2の定性（解説，実験） 第　7回　ビタミンB_1の定量（解説，実験） 第　8回　タンパク質の定量（解説，実験） 第　9回　タンパク質の定量（実験） 第 10 回　タンパク質の定量（実験） 第 11 回　カルシウムの定量（解説，実験） 第 12 回　尿（1）クレアチニン，カルシウム・マグネシウムの定量（解説，実験） 第 13 回　尿（2）ウロペーパータンパク，糖，アセトン体 第 14 回　器具洗浄 第 15 回　まとめ，そうじ		
成績評価の方法	レポート（70%），予習の状況，実験への取り組み状況（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**健康と運動**	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　２年　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会において健康問題が取り上げられ、「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって、本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して、運動の必要性を理解することはもちろんのこと、日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする。 【概要】健康にかかわる職業である、栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータを元に深める。 【到達目標】自分自身の測定データから導き出される運動作業課題を導き出すことができ、さらにその課題克服のための具体的かつ適切な運動処方を組み立てることができることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適時、講義資料を配付する (2)　『健康と運動の科学』九州大学健康科学センター編、大修館書店、1999 年 『運動とスポーツ生理学』北川薫著、市村出版、2009 年　他に適時、参考文献を紹介する		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 現代社会の特徴と健康問題 第　2回　健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る) 第　3回　からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る（データの意味） 第　4回　ウォーキングによる自己の身体作業能力の測定 第　5回　ペースウォーキングによる自己の身体作業能力の測定 第　6回　ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定 第　7回　ペースジョギングにおける身体作業能力の測定 第　8回　適切な運動処方について考える 1（自己のデータを元に） 第　9回　適切な運動処方について考える 2（基本的な運動とリラクゼーションの方法について～ストレス解消法） 第 10 回　適切な運動処方について考える 3（これまでの健康づくりとこれからの健康づくり） 第 11 回　健康と運動 1（運動の仕組みと運動の効果） 第 12 回　健康と運動 2（運動とダイエット） 第 13 回　健康と運動 3（運動と休養･栄養） 第 14 回　健康と運動 4（ライフスタイルを考える） 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60%）＋レポート(40%)		

（注）教職必修

授業科目	**健康管理概論**	担当者	倉津　怜也
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 健康を維持増進するために、身近な健康増進の知識や方法について学ぶ 【概要】 我が国の健康の現状を把握し、健康問題への関心を高め、疾病予防や健康増進の方法についての知識を習得することで、健康管理ついての科学的な考え方や理解を養う 【到達目標】 1）健康の概念について説明できる 2）人口統計および疾病統計の現状について把握し、その原因や要因について理解できる 3）ストレス発散の具体的な方法について列挙できる 4）生活習慣病の成り立ちについて理解し、予防策を列挙できる 5）免疫機能の働きついて理解することができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　宮城重二「健康管理概論」東京教学社 (2)　よくわかる公衆衛生、イラスト健康管理概論など		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　健康の概念1 第　3回　健康の概念2 第　4回　健康の現状1 第　5回　健康の現状2 第　6回　ストレス 第　7回　疾病予防 第　8回　生活習慣病1 第　9回　生活習慣病2 第10回　健康管理の進め方 第11回　免疫機能1 第12回　免疫機能2 第13回　情報処理と健康管理 第14回　健康増進対策 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**公衆衛生学**	担当者	安藤　哲夫
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期・後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】保健・医療・福祉の実践としての公衆衛生と理論としての公衆衛生学を知ること 【概要】日本国憲法25条にある国民の生活権は、憲法上国の社会福祉・社会保障および公衆衛生の向上への努力のたまものとされている。その仕組みを知り、実態を知ることで、個人としての健康問題を考える講義を目論んでいる。 【到達目標】公衆衛生学の主要な仕組み・仕様を知り、それを実際に適応・使用できる。具体的には、新聞報道などでの公衆衛生・健康問題を理解することが出来、さらに「自分なら」の対応法を挙げることが出来るのが目標である		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント配布 (2)　国民衛生の動向（厚生統計協会）		
授業スケジュール	第　1回　公衆衛生学総論　公衆衛生学とは 第　2回　公衆衛生学総論　公衆衛生学の歴史 第　3回　日本国憲法25条と社会保障 第　4回　疫学　研究デザイン；記述疫学、分析疫学、介入研究（実験疫学） 第　5回　疫学　バイアスと交絡　因果関係の評価 第　6回　疫学　幾つかのエピソード紹介　ジョン・スノーとコレラ、高木兼寛と脚気 第　7回　環境保健（昨日）；公害（生産過程における汚染）について　熊本水俣病と新潟水俣病 第　8回　環境保健（昨日）；全国のメチル水銀汚染について 第　9回　環境保健（今日）；生産物質（農薬・防腐剤・殺菌剤）による汚染 第10回　環境保健（明日）；人間活動によって発生する地球規模の生態系の異常 第11回　地域保健活動；乳幼児保健　母子保健 第12回　地域保健活動；母性保健　労働基準法 第13回　地域保健活動；産業保健　労働安全衛生法 第14回　生命倫理；緩和医療　尊厳死　医療行動と生命倫理 第15回　生命倫理；ヘルシンキ宣言　アルマアタ宣言　オタワ憲章		
成績評価の方法	筆記試験（90%），口述試験（10%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**運動生理学**	担当者	倉津　怜也
	〔履修年次〕　２学年　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 運動時に起こる現象と人体機能の変化について学ぶ 【概要】 運動を行った際の人体機能の変化を把握することで、運動習慣の必要性について理解し、目的に応じたトレーニング方法を選択することができる。 【到達目標】 1）筋肉の種類とそれぞれの役割、筋線維のタイプ、筋収縮様式について説明できる 2）運動強度に対するエネルギー供給系の違いについて理解することができる 3）運動時の呼吸・循環機能の役割について理解することができる 4）目的に沿ったトレーニング方法について理解することができる 5）運動処方の６原則とトレーニング理論の５原則について説明できる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　勝田茂「入門運動生理学」杏林書院 (2)　スポーツトレーニング理論、スポーツ栄養学など		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　筋収縮とエネルギー供給系 第　3回　筋線維の種類と特徴 第　4回　体力１ 第　5回　体力２ 第　6回　身体組成と肥満１ 第　7回　身体組成と肥満２ 第　8回　運動と栄養 第　9回　神経系の役割 第10回　運動と呼吸 第11回　運動と循環 第12回　老化に伴う身体機能の変化 第13回　運動処方１ 第14回　運動処方２ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**給食管理**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について 【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ 【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』、　『大量調理』　学建書院 (2)　『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部、『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂 『給食の運営管理実習テキスト』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　給食の意義と目的（特定給食施設、役割】、給食関連法規と行政指導 第　2回　食事計画、栄養管理 第　3回　〃 第　4回　〃 第　5回　大量調理、 第　6回　献立作成 第　7回　作業管理 第　8回　衛生・安全管理　献立作成・計画 第　9回　施設・設備管理　〃 第10回　食材・原価管理　〃 第11回　経営・作業・人事管理　〃 第12回　給食施設の種類と特性 第13回　〃 第14回　調査・研究、栄養教育 第15回　まとめ		
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト 40%、試験 60%		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅰ	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期・後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学内実習　本学学生を主要対象とした給食サービス 【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。 【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』、『大量調理』 学建書院 『給食の運営管理実習テキスト』第一出版 (2) 『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂		
授業スケジュール	オリエンテーション（実習の概要） 献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。 食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。 運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。 試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする 衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。 実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。 栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。 供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。 評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ（報告発表）		
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習態度及び出席（70%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期集中
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　給食施設（事業所、福祉施設など）での栄養士の給食業務 【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート (2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	各施設による特徴 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 各施設による特徴		
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習態度および出席（70%）		

（注）栄養士必修　※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる。

授業科目	**給食管理実習Ⅲ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期集中
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　給食施設（学校）での栄養士の給食業務 【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート (2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	各施設による特徴 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 各施設による特徴		
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習態度および出席（70%）		

（注）栄養士必修　※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる。

授業科目	**栄養教育論**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概要】栄養教育は，対象とする個人や集団のＱＯＬを高めるため適正な食生活を営み，望ましい健康状態を維持・増進できるよう，単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて，好ましい食行動の実践と習慣化をさせること，また，生活習慣病の増加に対応するためには，栄養・食生活上問題のある人々を対象として，その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。 【到達目標】対象の実態とニーズに沿って，健康やＱＯＬの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 日本栄養士会編　『2015 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　栄養教育の概念、行動科学理論と栄養教育 第　2回　行動科学理論とモデル 第　3回　行動変容技法と概念 第　4回　栄養教育におけるカウンセリング 第　5回　組織づくり・地域づくり、栄養教育の展開 第　6回　食環境づくり、栄養教育の展開 第　7回　栄養教育マネジメント、栄養教育の展開 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%），課題と小テスト（30%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養指導論Ⅰ	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　1年　〔学期〕　前期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握 【概要】本講義では，栄養指導に必要な基礎知識と，対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割やその食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。 【到達目標】栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　芦川修貳，田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院 (2)　菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015 年版』第一出版 日本栄養士会編　『2015 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　栄養指導の目的，栄養指導の歴史 第　2回　食事栄養摂取基準　（身体活動指数，エネルギー） 第　3回　食事栄養摂取基準　（各栄養素） 第　4回　食品構成（各栄養素の基準量） 第　5回　食品構成（栄養比率） 第　6回　栄養価の算定（日本食品標準成分表の活用とその留意点） 第　7回　各種調査による実態把握（身体状況） 第　8回　各種調査による実態把握（生活時間） 第　9回　各種調査による実態把握（栄養調査） 第 10 回　各種調査による実態把握（食生活調査） 第 11 回　栄養指導の基本的な進め方（個別指導と集団指導 第 12 回　栄養指導の基本的な進め方（栄養状態の評価） 第 13 回　栄養指導の基本的な進め方（運動） 第 14 回　栄養指導の基本的な進め方（休養） 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養指導論Ⅱ	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　1年　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導 【概要】本講義では，対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して，その食習慣を形作った背景を正しく理解して，指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み，問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。 【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し，栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　芦川修貳，田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院 (2)　菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015 年版』第一出版 日本栄養士会編　『2015 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　ライフステージと栄養指導（妊産婦、乳児期） 第　2回　ライフステージと栄養指導（幼児期・3 歳未満児） 第　3回　ライフステージと栄養指導（幼児期・3 歳以上児） 第　4回　ライフステージと栄養指導（学童期） 第　5回　ライフステージと栄養指導（思春期・青年期） 第　6回　ライフステージと栄養指導（成人期） 第　7回　ライフステージと栄養指導（高齢期） 第　8回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　肥満症） 第　9回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　高血圧症） 第 10 回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　糖尿病） 第 11 回　ライフスタイルと栄養指導（生活習慣病　脂質異常症） 第 12 回　福祉施設給食と栄養指導 第 13 回　学校給食と栄養指導 第 14 回　病院食事と栄養指導 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，個人や集団を対象として，そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための，栄養アセスメント，栄養指導プログラムの立案，教育媒体・資料の作成， 【到達目標】栄養指導の実施・評価を想定し，その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的として、対象者への的確な栄養アセスメント，指導案の作成，媒体の選択，プレゼンテーションのスキルを習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版 (2)　日本栄養士会編　『2015年度版　管理栄養士 栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　栄養指導実習の意義と目的、栄養指導の基礎知識　(食事摂取基準) 第　2回　栄養指導の基礎知識　(食品構成表の作成) 第　3回　実態指導の基礎知識　(献立作成) 第　4回　実態把握の方法　食品構成の算定実習 第　5回　実態把握の方法　各種調査方法（食事摂取状況調査など） 第　6回　実態把握の方法　身体状況調査第 第　7回　実態把握の方法　体力測定 第　8回　指導案の作成（基本） 第　9回　指導案の作成（実践用　グループ） 第10回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導　フループ） 第11回　プレゼンテーション（グループ） 第12回　指導案の作成（実戦用　個人） 第13回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導　個人　その1） 第14回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導　個人　その2） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	発表（50%）＋課題と小テスト（30%）＋実習への取り組み状況（20点）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅱ	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，栄養指導論実習Ⅱでは，集団・個別を対象とし，福祉施設・病院での栄養指導のシュミレーションを展開し，体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。 【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成，媒体の選択が出来る。 (3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版 日本栄養士会編　『2015年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成① 第　2回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成② 第　3回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その1 第　4回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その2 第　5回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その3 第　6回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その4 第　7回　個別対症の栄養指導の基本的な考え方 第　8回　個別対症の栄養指導の方法　栄養指導計画の作成 第　9回　個別対症の栄養指導の方法　栄養指導計画の作成 第10回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その1 第11回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その2 第12回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その3 第13回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その4 第14回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その5 第15回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その6とまとめ		
成績評価の方法	発表（50%）＋課題と小テスト（30%）＋実習への取り組み状況（20点）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**公衆栄養学**	担当者	米盛　麻美
	〔履修年次〕　２年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　講義方式,（発表形式）
テーマ及び概要	【テーマ】集団の健康問題が栄養上どのような因子に基づくのか，問題解決のために栄養はどうあるべきかを明らかにしていく。 【概要】日本は，平均寿命延伸のなか，高齢化，少子化、医療費増大などの問題を抱えている。よって，障害や寝たきりではない状態で健康的に過ごせる期間である健康寿命の延伸が強く望まれている。そのような現状のなか，不適切な栄養摂取や生活習慣により引き起こされる生活習慣病対策としての，栄養士の活動は益々重要性を帯びている。 【到達目標】食の専門家である栄養士が疾患の予防のために，集団レベル，個人レベルで食生活における問題点を抽出し，その問題解決のために 必要な食環境を含めた総合的かつ具体的で有効な方法を示すことができるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　栄養科学シリーズＮＥＸＴ　公衆栄養学　第４版　講談社サイエンティフィク (2)　栄養科学シリーズＮＥＸＴ　栄養カウンセリング論　第２版　講談社サイエンティフィク		
授業スケジュール	第　１回　公衆栄養学の概念 第　２回　公衆栄養学の歴史 第　３回　わが国の食生活と栄養問題の変遷と現状 第　４回　わが国の栄養問題の現状と課題（１） 第　５回　わが国の栄養問題の現状と課題（２） 第　６回　食事摂取基準における栄養疫学的解説 第　７回　わが国の栄養政策 第　８回　栄養疫学 第　９回　公衆栄養学で必要な統計 第 10 回　地域栄養マネジメント 第 11 回　公衆栄養プログラムの展開 第 12 回　国際栄養 第 13 回　実　技 第 14 回　実　技 第 15 回　公衆栄養学総括		
成績評価の方法	筆記試験（80%），実技（10%），出席状況（10%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養情報処理**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	後期
	〔単位〕　１単位	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】栄養士が健康・栄養状態，食行動，食環境に関する情報の収集・分析，それを総合的に判断する能力 【概要】栄養士には，集めた情報を統計学的に処理し，客観的に評価することが求められている。そのためには，コンピュータを使用し，実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。 【到達目標】栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び，これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　石村貞夫，広田直子他著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編（第２版），東京図書 (2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015 年版』第一出版 日本栄養士会編　『2015 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　１回　コンピュータの役割，機能，実際 第　２回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方 第　３回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方 第　４回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方 第　５回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方 第　６回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方 第　７回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（単純集計） 第　８回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（クロス集計，オッズ比） 第　９回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（区間推定） 第 10 回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（検定方法１） 第 11 回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（検定方法２） 第 12 回　コンピュータによる献立作成 第 13 回　コンピュータによる栄養価計算 第 14 回　コンピュータによる月報作成 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋課題（30%）＋実習への取り組み状況（20%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	臨床栄養学 Ⅰ	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ	担当者	堀内　正久
	〔履修年次〕　２年生 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】１．頻度の高い（将来経験するであろう）疾患の病態生理を理解すること ２．病態生理に基づき、栄養の重要性の理解を深めること 【概要】講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで、各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。 【到達目標】主要な疾患（循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患など）の病態生理を説明でき、疾患の発症と栄養との関連を認識できること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　後藤昌義ら　新しい臨床栄養学　南江堂 山口和克　病気の地図帳　講談社 著者多数　病気がみえる　メディックメディア社		
授業スケジュール	第　1回　循環器疾患２ 第　2回　循環器疾患３ 第　3回　循環器疾患４ 第　4回　腎疾患と体液調節１ 第　5回　腎疾患と体液調節２ 第　6回　腎疾患と体液調節３ 第　7回　呼吸器疾患１ 第　8回　呼吸器疾患２ 第　9回　内分泌疾患１ 第10回　内分泌疾患２ 第11回　血液疾患 第12回　免疫とアレルギー 第13回　発熱・感染症 第14回　小児と妊産婦と臨床検査他 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（80%）＋　授業ごとに実施する小テスト（20%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**臨床栄養学実習**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	前期集中
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　病院での栄養士全般の業務による実習 【概要】県内外の医療現場での２週間の実習で献立作成、給食業務と同様以下のような内容を学ぶ。 1、医療に携わる他職種と連携を図ったチーム医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2、対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、臨床栄養指導。 3、対象者の心理を理解し信頼を得る。 【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士の栄養管理業務の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『臨床栄養学実習書』医歯薬出版、『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂 『腎臓病食品交換表』　医歯薬出版 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1、院内における栄養部門の位置と役割 2、病院給食管理業務の実際 3、供食状況の実際 4、病態栄養管理業務の実際 5、栄養指導業務の実際 6、栄養教育用媒体および指導評価の方法 実習終了後、報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習態度および出席（70%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**病理学**	担当者	山田博久
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】人体等における病気の成り立ち。 【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。 【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしぼった授業も可能ですが、表面的な知識しか持たず、本当の問題解決能力がない者となる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしぼって程度の高い授業（医学部3-5年生相当）を行い、また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ、以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 系統看護学講座　専門基礎４　病理学 (2) 特に定めないが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。 管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。		
授業スケジュール	第　1回　病理学で学ぶこと 第　2回　炎症、免疫、感染症　呼吸器系の疾患 第　3回　循環障害、循環器、の疾患　代謝障害 第　4回　先天異常、遺伝子異常、神経系の疾患 第　5回　補足 第　6回　消化器系、腎泌尿器系、内分泌系の疾患 第　7回　腫瘍、血液の疾患、老化と死 第　8回　補足、 第　9回　試験(筆記試験)		
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。		

※7.5回

授業科目	**学校栄養教育論**	担当者	木場　幸子・町田　和恵
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概　要】　学校での年間指導計画の下に、学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し，効果的な指導を行うために，教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要栄養教諭の役割や職務内容，食文化，食に関する指導方法等について学ぶ。 【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し，学級担任や養護教諭，学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために，実践を兼ねた演習を行い，知識や方法を修得させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　金田雅代『栄養教諭論』建帛社 (2)　坂本元子『こどもの栄養・食教育ガイド』医歯薬出版　，山本公弘『気がるにできる総合学習・体験学習ー新しい栄養指導３』東山書房，文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール 成績評価の方法	第　１回　栄養教諭の制度と役割，現状と課題、職務内容，使命（担当：木場） 第　２回　学校給食の教育的意義と役割，学校組織と栄養教諭の位置づけ（担当：木場） 第　３回　学校給食の歴史と食文化の変遷（担当：木場） 第　４回　子どもの発達と食生活（担当：木場） 第　５回　食に関する指導の全体計画（計画・実施・評価）（担当：木場） 第　６回　食に関する指導の展開（(担当：木場） 第　７回　給食時間における食に関する指導（担当：木場） 第　８回　給食時間における食に関する指導の実際（担当：木場） 第　９回　児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情，法令及び諸制度（担当：町田） 第 10 回　児童・生徒の栄養に係る諸課題（国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む）（担当：町田） 第 11 回　発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材（担当：町田） 第 12 回　教科における食に関する指導①（担当：町田） 第 13 回　教科における食に関する指導②（担当：町田） 第 14 回　個別栄養相談指導（食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等）（担当：町田） 第 15 回　まとめ（担当：町田）		
成績評価の方法	筆記試験の成績（80 点），課題と小テスト（20 点）により評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**有機化学概論**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め、専門科目を履修するうえで必要な基礎固めをします. 【概要】化学の基礎的知識として、原子・分子の構造、化学結合、物質量・溶液の濃度の表し方、酸・塩基、酸化・還元、有機化合物の種類について解説します. 【到達目標】①物質の構成を知り、化学結合について理解する．②物質量を使った溶液の濃度表示を理解する．③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する．④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　高校「化学基礎」及び「化学」レベルのプリントを配布します. (2)		
授業スケジュール	第　１回　オリエンテーション、　原子の構造 第　２回　化学結合（イオン結合と共有結合） 第　３回　原子、分子の重さ（原子量・分子量と式量） 第　４回　溶液の濃度（物質量、モル濃度） 第　５回　化学反応式（化学反応式のつくり方、化学反応の量的関係） 第　６回　酸と塩基－１（酸・塩基の性質、水素イオン濃度） 第　７回　酸と塩基－２（中和反応と塩の性質） 第　８回　酸化と還元－１（酸化・還元の定義、酸化数） 第　９回　酸化と還元－２（酸化剤と還元剤、酸化還元反応） 第 10 回　有機化合物の特徴と分類（官能基、構造式、異性体） 第 11 回　脂肪族炭化水素（アルカン、アルケン、アルキン） 第 12 回　酸素を含む脂肪族化合物（アルコール、アルデヒド・ケトン） 第 13 回　酸素を含む脂肪族化合物（カルボン酸、エステル、油脂とセッケン） 第 14 回　芳香族化合物（フェノール類、、芳香族カルボン酸） 第 15 回　芳香族化合物（ニトロ化合物、芳香族アミン）、有機化合物と人間生活		
成績評価の方法	期末試験（７０％）　毎回授業の最後に行う理解度確認小テスト（３０％）		

授業科目	**生物概論**	担当者	多田　司
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】生命科学を学ぶための基礎となる生物学の概念と考え方を系統的に理解する。 【概要】生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造や機能、生命維持のためのエネルギー代謝の仕組み、さらに遺伝についての基本的概念を学習し、最後に動物の生殖と体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答について学習を進める。また、それぞれのテーマに関するいろいろな話題を取り上げて、生物に対する理解を深める。 【到達目標】食物栄養専攻で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭に、生命現象や生活現象を基礎的、原理的な面から理解できるようになること、特に高校で生物を履修していなかった学生が、生命や生活の機構の精緻さに興味を持ち、これから学ぶ専門科目をさらに深く理解できるようになることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　田村隆明 著　医療・看護系のための生物学　裳華房　2010 適宜、プリントによる資料も配付する。 (2)　あれば講義中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：生物概論を学習するにあたって 第　2回　分子から細胞へ：生体を構成する分子 第　3回　細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて 第　4回　細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化 第　5回　遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ 第　6回　遺伝情報とその複製：遺伝子の本体DNA 第　7回　遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ 第　8回　生殖と発生：減数分裂と性の決定 第　9回　生殖と発生：配偶子形成と受精、発生 第10回　生命活動とエネルギー代謝：同化、異化 第11回　生命活動とエネルギー代謝：解糖系、TCA回路、電子伝達系 第12回　生命活動とエネルギー代謝：光合成 第13回　個体の構造と機能：内分泌系 第14回　個体の構造と機能：神経系 第15回　個体の構造と機能：生体防御		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。		

（注）

９　生活科学専攻専門科目

授業科目	**生活環境学**	担当者	揚村　固，石川　満佐育，井余田　秀美，北　一浩，宍戸　克実，丸山　容爾
	〔履修年次〕　２年　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】常に生活者の周辺にあるもの全てを環境としてとらえ，環境という視点で生活について考える。 【概要】現代の生活は，利便性や快適性，個人の意思決定が優先されるようになり，安全や健康が脅かされるとともに，人間関係の希薄化が問題となっている。また，地球規模の様々な環境問題も私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。それらの問題を解説し，どのように対応していくべきかを考える。 【到達目標】生活環境の概念を理解し，誰もが安全で安心な生活を営むことができる社会を目指し，課題探求していくことを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と担当者，成績評価方法の説明 第　2回　生活環境と化学物質 第　3回　地球環境が生活環境に及ぼす影響 第　4回　住居環境学（1）：住居が果たすべき機能のうち，保健性を担保する事項から光環境，温熱環境，音響環境，通風環境，空気質環境の基礎知識とその調整法を学ぶ 第　5回　住居環境学（2）：〃 第　6回　歴史的生活環境：歴史的生活環境，歴史的住環境について学ぶ。鹿児島の都市と歴史的建造物 第　7回　住環境の福祉デザイン 第　8回　都市の環境デザイン 第　9回　データでみる生活環境（1）：乳児期～未就学期における人間関係 第10回　データでみる生活環境（2）：児童期～青年期における人間関係 第11回　生活環境とデザイン（1）：見やすいバス停の標識を考える 第12回　生活環境とデザイン（2）：〃 第13回　人と人の環境を変えるデザイン（1） 第14回　人と人の環境を変えるデザイン（2） 第15回　人と人の環境を変えるデザイン（3） まとめ		
成績評価の方法	第１回オリエンテーションで示す		

授業科目	**生活化学**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕　１年　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講議方式		
テーマ及び概要	【テーマ】身の回りの化学物質について学び，生活の様式や環境との関わりについて考える。 【概要】多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで，自然の物をうまく利用したり，自然にはない有益な物を作り出して，生活のために活用してきている。しかしながら一方で，人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が，人の生活や自然環境を損なってきてもいる。本講議では，生活の中の化学物質について学ぶ。 【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「環境･くらし･いのちのための　化学のこころ」伊藤明夫著（裳華房） (2)		
授業スケジュール	第　1回　水 第　2回　大気 第　3回　大地 第　4回　環境と化学物質 第　5回　エネルギーと化学 第　6回　水の性質 第　7回　燃焼 第　8回　溶ける・洗う 第　9回　接着 第10回　色をつける 第11回　暮らしと金属 第12回　進化し続けるプラスティク 第13回　生体内の分子 第14回　栄養と代謝 第15回　まとめ		
成績評価の方法	試験またはレポート		

授業科目	**生活化学実験**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実験方式	
テーマ及び概要	【テーマ】生活の中の化学物質について理解し，その正しい取り扱いができるようにする。 【概要】衣食住や生活環境に関する実験を行う 【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する (2)		
授業スケジュール	第　1回　実験全般の説明 第　2回　衣食住の実験 ～　染色 水の硬度 洗剤および洗剤水溶液 漂白剤 吸水性樹脂 第11回　食品の塩分濃度 第12回　生活環境の実験 ～　pH　の測定(生活，土壌，酸性雨) 脱酸素剤と使い捨てカイロ 第15回　木炭やシリカゲルと吸着		
成績評価の方法	レポート		

授業科目	**色彩学**	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。 【概要】 「色」は身近にあるため，好き，嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では，色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和，色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。 【到達目標】 基礎理論を習得し，それらをコーディネートなどに応用できることと，色彩に関する検定に挑戦することを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門　色彩　改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所 (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　色とは：色が見える仕組み 第　3回　色の記録・伝達方法1：色名 第　4回　色の記録・伝達方法2：表色系 第　5回　色の混合：加法混色・減法混色 第　6回　照明：演色性 第　7回　色彩の心理1：色の見えの効果 第　8回　色彩の心理2：色のイメージ 第　9回　色彩調和1：色彩調和の基本形式 第10回　色彩調和2：配色技法 第11回　色彩調和論 第12回　色彩計画 第13回　色と文化 第14回　商品と色 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　授業ごとに実施する小テスト（30%）		

（注）インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目（学生便覧参照）

授業科目	**コンポジション**	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕　1年　〔学期〕　前期 〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】グラフィックデザインにおける基礎的なレイアウトの考え方を体験する。 【概要】雑誌・ポスター等のレイアウト研究を活かし，自分のアイデアを作品上に反映させる。 【到達目標】レイアウトの研究・作品制作と講評を通じて，美しいレイアウトとはどういうものかを探る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　必要に応じてプリント配布。 (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　「導入」　演習方式の説明等 第　2回　「ドローイングソフトの説明と作図」：基本的な作図方法を学ぶ 第　3回　〃 第　4回　〃 第　5回　「コンピュータを使用したレイアウト１」：様々なレイアウトの考え方と方法を体験する 第　6回　〃 第　7回　〃 第　8回　「コンピュータを使用したレイアウト２」 第　9回　〃 第10回　〃 第11回　「コンピュータを使用したレイアウト３」 第12回　〃 第13回　〃 第14回　〃 第15回　「まとめ」		
成績評価の方法	出席と授業態度（３０％），提出作品（７０％）で評価		

授業科目	**デジタル造形基礎**	担当者	北　一浩
	〔履修年次〕　1年　〔学期〕　前期 〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】コンピューターを用いたグラフィックデザインの基礎的な操作法を学ぶ。 【概要】グラフィックデザインの基礎となる，グラフィック編集ソフトウェア「Adobe Illustrator」及び画像編集ソフトウェア「Adobe Photoshop」を使用した，コンピューターでの DTP（デスクトップ・パブリッシング）の基本操作技術を学ぶ。 【到達目標】主に印刷（DTP）のデザインワークに取り組むにあたり， 基本となるコンピューターの操作とソフトウェアの操作方法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：演習方式の説明等 第　2回　Illustrator 基本操作 1　オブジェクトの作成、線・塗りの設定　実践課題 A：幾何形態色彩構成 第　3回　Illustrator 基本操作 1　オブジェクトの作成、線・塗りの設定　実践課題 A：幾何形態色彩構成 第　4回　Illustrator 基本操作 2　パスの基本知識、ベジェ曲線　実践課題 B：ピクトグラム 第　5回　Illustrator 基本操作 2　パスの基本知識、ベジェ曲線　実践課題 B：ピクトグラム 第　6回　Illustrator 基本操作 3　文字入力、フォント、文字のアウトライン化　実践課題 C：タイポグラフィー構成 第　7回　Illustrator 基本操作 3　文字入力、フォント、文字のアウトライン化　実践課題 C：タイポグラフィー構成 第　8回　Illustrator 基本操作 3　文字入力、フォント、文字のアウトライン化　実践課題 C：タイポグラフィー構成 第　9回　Photoshop 基本操作　デジタル画像の切り抜き、画像合成　実践課題 D：デジタルフォトコラージュ 第10回　Photoshop 基本操作　デジタル画像の切り抜き、画像合成　実践課題 D：デジタルフォトコラージュ 第11回　Photoshop 基本操作　デジタル画像の切り抜き、画像合成　実践課題 D：デジタルフォトコラージュ 第12回　Illustrator＋Photoshop 連携　画像の配置、印刷　応用課題：平面作品制作 第13回　Illustrator＋Photoshop 連携　画像の配置、印刷　応用課題：平面作品制作 第14回　Illustrator＋Photoshop 連携　画像の配置、印刷　応用課題：平面作品制作 第15回　まとめ		
成績評価の方法	提出作品（70%）　出席と授業態度（30%）		

（注）デジタルデザイン論と同時に履修すること。

授業科目	テキスタイルサイエンス	担当者	坂上　ちえ子		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	2単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 テキスタイル（布、織物）について，科学的な視点から学ぶ。 【概要】 衣服だけでなくインテリアなどの素材として広く用いられているテキスタイルについて，物理的，科学的基礎事項を中心に，そのデザインや製造工程までを学ぶ。適宜試料の観察や簡単な実験を取り入れ，科学的分析も試みる。 【到達目標】 基礎事項を習得し，さらに習得した内容を今後のテキスタイル選択や購入に反映できるようになることを目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　随時紹介				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　テキスタイルの構造1：天然繊維 第　3回　テキスタイルの構造2：合成繊維 第　4回　テキスタイルの構造3：織物・編物 第　5回　テキスタイルの外観的性能1：理論 第　6回　テキスタイルの外観的性能2：観察・実験 第　7回　テキスタイルの物理的性能1：理論 第　8回　テキスタイルの物理的性能2：観察・実験 第　9回　テキスタイルの改良：新素材と機能性付与素材 第10回　テキスタイルの製造工程 第11回　テキスタイルのデザイン1：色 第12回　テキスタイルのデザイン2：柄 第13回　インテリアのテキスタイル 第14回　鹿児島伝統のテキスタイル：大島紬 第15回　まとめ				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%）				

授業科目	ファッション造形基礎	担当者	坂上　ちえ子		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択（注）	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。 【概要】 まず基礎縫いを行い，縫製用具や機器の正確な使用法を身につける。つぎに，基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに，編物，刺繍など手芸の基礎も学ぶ。 【到達目標】 裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製，手芸技法を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　適宜紹介				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　基礎縫い－手縫い1：用具の説明，並縫い 第　3回　基礎縫い－手縫い2：まつり縫い，他 第　4回　基礎縫い－手縫い3：ボタン，スナップつけ 第　5回　基礎縫い－ミシン縫製：ミシン，ロックミシン 第　6回　人体計測と製図 第　7回　上衣製作1：裁断，しるしつけ 第　8回　上衣製作2：仮縫い，試着 第　9回　上衣製作3：本縫い① 第10回　上衣製作4：本縫い② 第11回　上衣製作5：仕上げ 第12回　レース編み 第13回　毛糸棒針編み 第14回　フランス刺繍 第15回　まとめ				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%）				

（注）教職必修

授業科目	**生活文化**	担当者	揚村 固，宍戸 克実
	〔履修年次〕 2年	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 多様な生活文化を理解し比較することにより，生活することの根源的な意味を考える基礎とする。 【概要】日常的な生活の場における文化的な要素が社会的に共有・伝承され，生活様式として確立していることを概説する。それらが育まれてきた気候・風土や，伝えられているこころを知り，現在の私たちの生活を相対化してみる。 【到達目標】衣食住を単なる生活手段としてではなく，それぞれの地域や民族に定着した生活様式としてとらえることにより，その背景にある価値観を理解する。また，異なる文化を知ることにより複眼的なものの見方を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 小池三枝，柴田美恵『日本生活文化史』光生館		
授業スケジュール	第 1回 生活文化とは 第 2回 住まいのかたち 第 3回 集住のかたち 第 4回 都市のかたち 第 5回 広場と水辺 第 6回 繁華街と市場 第 7回 宗教と生活文化 第 8回 日本住居史概説 第 9回 日本の住文化の特質 第10回 中世の住居観 第11回 書院造から茶室・数寄屋へ。和風建築の完成 第12回 封建社会と家族制度 第13回 近代化（西洋の住文化移入）と住文化の変容 第14回 アジアの住文化と建築儀礼 第15回 まとめ		
成績評価の方法	宍戸担当分（50%），揚村担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	**衣生活学**	担当者	坂上 ちえ子
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 衣服自体と衣服を着る生活を様々な視点から分析し考える。 【概要】 衣服を着ない人はいないが、あまりにも身近すぎて衣服に関わる事柄を分析したり考察したりすることは少ない。衣服とは何なのかを始点に、衣服自体の成り立ちや役割、社会との関係まで多面的に考えていく。 【到達目標】 これまで考えることのなかった衣服と生活について、自分の課題を見つけ解決する力が備わることを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 佐々井啓編著『衣生活学』朝倉書店，山崎和彦『衣服科学』朝倉書店		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 衣服の起源と目的 第 3回 衣服と生活 第 4回 衣生活の変遷 第 5回 衣服の歴史（日本とヨーロッパ） 第 6回 衣服の素材 第 7回 衣服のデザインと設計 第 8回 衣服の製作 第 9回 人体と着装 第10回 衣服と衛生 第11回 衣服の取り扱い 第12回 衣服の流通 第13回 衣服の消費 第14回 衣服と環境 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 提出課題（30%）		

（注）教職必修

授業科目	**生活コロイド学**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。 【概要】コロイドや界面の学問的基礎を説明し，次に日常の事柄，特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に，生活や環境での関連する事柄を取り上げ，最後に，生体に関する事に触れる。 １　界面とコロイドの基礎 ２　環境とコロイド ３　生活とコロイド ４　生体とコロイド 【到達目標】 コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　北原文雄，「界面・コロイド化学の基礎」講談社 水野上与志子他編，「被服整理学」建帛社		
授業スケジュール	第　1回　界面とコロイドの基礎 ～　界面とコロイドとは 第３回　界面現象 コロイド（ミセル，高分子，粒子コロイド） 第　4回　生活とコロイド ～　繊維，染色，洗濯 第13回　食品とコロイド 化粧品 第14回　環境とコロイド，産業とコロイド，生体とコロイド 第15回　まとめ		
成績評価の方法	試験またはレポート		

（注）教職必修

授業科目	**食物と栄養**	担当者	中村　昇二
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】食べ物に関わるさまざまな知識を習得し、健康で安全な食生活をおくるための能力を身につけます。 【概要】食品素材の中から代表的なものに絞って、それら食品に含まれる栄養成分の特性について解説します。また食品には有用成分だけでなく、体に危害を及ぼす有害成分が含まれていることも具体例を紹介しながら解説します。更に食の安全・安心を確保するための知識も学びます。 【到達目標】①食品に含まれる成分とその機能について理解する。②食品に含まれる有害物質について理解する。③食中毒の発生とその予防法について理解する。④食品添加物の安全性について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション、　食品の種類と分類 第　2回　穀類と栄養－１（米、麦の成分特性） 第　3回　穀類と栄養－２（蕎麦、とうもろこし、雑穀の成分特性） 第　4回　豆類と栄養（大豆、小豆の成分特性） 第　5回　いも類と栄養（さつまいも、じゃがいもの成分特性） 第　6回　野菜類と栄養－１（葉菜類、茎菜類の成分特性） 第　7回　野菜類と栄養－２（根菜類、果菜類、花菜類の成分特性） 第　8回　畜産食品と栄養－１（食肉の種類と成分） 第　9回　畜産食品と栄養－２（牛乳の成分と栄養） 第10回　水産食品と栄養（魚介類の成分特性） 第11回　発酵食品と栄養（ヨーグルトの保健効果） 第12回　食品に含まれる有害物質（内在性・外来性有害物質、アレルゲン　他） 第13回　食品の安全・安心－１（細菌性食中毒の発生とその予防） 第14回　食品の安全・安心－２（ウイルス性食中毒の発生とその予防） 第15回　食品の安全・安心－３（食品添加物の安全性）		
成績評価の方法	期末試験（７０％）　毎回授業の最後に行う理解度確認小テスト（３０％）		

（注）教職必修

授業科目	**調理学**	担当者	立石　百合恵
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】食品素材を基礎的・系統的・科学的理論で解明し、実際に役立てる。 【概要】　・「食物」についての自然科学的学習 ・「食べる側」についての社会科学的学習 【到達目標】調理学の意義を理解し、実生活に応用できる能力をつける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　NEW 基礎調理学　医歯薬出版株式会社 (2)　山崎清子・島田キミエ『調理と理論』同文書院、「その他未定」		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション（調理学の意義について） 第　2回　基本的調理操作について 第　3回　砂糖の特性と温度変化につて 第　4回　焼成によるテクスチャーの変化 第　5回　小麦デンプンの調理特性について 第　6回　ゲル化素材の特性について 第　7回　米の種類と調理特性について 第　8回　魚の構造と郷土の魚につて 第　9回　調理と味 第10回　主食として用いる食品の基礎知識 第11回　主菜として用いる食品の基礎知識 第12回　副菜として用いる食品の基礎知識 第13回　ライフステージと食事計画 第14回　香辛料・嗜好飲料の基礎知識 第15回　まとめ		
成績評価の方法	「レポート（６０%）＋　筆記試験（３０%）＋　授業ごとの発言内容（１０%）」		

授業科目	**調理実習**	担当者	立石　百合恵
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】調理学で学んだ知識を実技へつなげる。 【概要】　・調理学的食品の調理性を活かした調理操作を施す。 ・旬の食材の種類や郷土料理などにふれさせ、郷土の食について学習させる。 ・食事の作法を学び、社会人として配慮すべきマナーを学習させる。 【到達目標】調理に興味を持ち、調理を日常に取り入れる力をつける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　山崎清子・島田キミエ『調理と理論』同文書院、支倉サツキ『調理実習』峯書房、 『あすの健康と調理』アイ・ケイコーポレーション		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション（調理の意義と目的、実習に当たっての基礎的知識と心得） 第　2回　日本料理　白飯・若竹汁、桜鯛の煮つけ、菜の花のお浸し、いちご大福 第　3回　日本料理　えんどう豆のごはん、味噌汁、かつおのたたき、つわの煮物、いちごの寒天寄せ 第　4回　西洋料理　ロールパン、魚のムニエル、ソラマメのスープ、シュプレーゼ、シュークリーム 第　5回　中国料理　酢豚、ナムル、中華卵スープ、杏仁豆腐（ごはん） 第　6回　テーブルマナー（洋食） 第　7回　西洋料理　ロールパン、ハンバーグ、ミモザサラダ、ミネストラーネ、焼きプリン 第　8回　日本料理　かやくご飯、味噌汁、魚の照り焼き、たこの酢の物、水ようかん、「梅干し併用」 第　9回　西洋料理　チキンカレー、バターライス、コールスロー、ブラマンジェ 第10回　日本料理　鶏飯、ゴーヤチャンプル、両棒餅、緑茶 第11回　西洋料理　パンの調理（ロールパン、シナモンロール）コンビネーションサラダ、紅茶 第12回　中国料理　麻婆豆腐、焼き餃子、さつま芋のあめ煮（ごはん） 第13回　日本料理　ちらし寿司、赤だし、へちまのごま和え、串だんご（梅干し赤しそ併用） 第14回　西洋料理　クリームコロッケ、ボルシチ、シーザーサラダ（フランスパン） 第15回　「まとめ」		
成績評価の方法	「実技試験（５０%）＋　筆記試験（２０%）＋　授業ごとの実習内容（３０%）」		

（注）教職必修

授業科目	**保育学**	担当者	石川　満佐育・奥　章三・池堂　猛彦
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。 【概要】子どもは，出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして，子どもの発達には，周囲からの働きかけ（発達援助）が不可欠である。保育学講義では，保育（発達援助）の概念と実際を学ぶとともに，子どもの標準的な発育発達，子どもによくみられる病気と対処法，子どもの安全対策等，保育に必要な知識の習得を目指す。 【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し，説明ができるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　（担当　奥　）保育とは何か？　～ 子どもの成長の最終目標，発達援助，遊び・学び・経験 ～ 第　2回　出産と育児及びそれらをとりまく環境 第　3回　子どもの成長（その１）　～ 発育，運動発達 ～ 第　4回　子どもの成長（その２）　～ 知的発達，社会性の発達 ～ 第　5回　発達に問題を抱える子どもたち 第　6回　障害を持つ子どもたち及びその家族への支援 第　7回　子どもによくみられる病気とその症状・対応 第　8回　子どもの事故防止対策 第　9回　親やまわりの大人から子どもへの働きかけとその影響 第10回　もう一度，保育とは何か？　～ 講義のふりかえりとまとめ ～ 第11回　（担当　石川）事前指導 第12回　（担当　池堂）保育園における保育実習(1) 第13回　保育園における保育実習(2) 第14回　保育園における保育実習(3) 第15回　（担当　石川）事後指導		
成績評価の方法	（担当　相星）筆記試験（100%） 各担当者が100点／３で点数を算出した後，３人の合計を総合点として評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**卒業研究A**	担当者	井余田　秀美
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　４単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	通年 必修　〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】自ら研究課題を設定し，課題探求と問題解決の能力を養う。 【概要】生活化学及び生活コロイド学の分野から（例えば，洗剤や染色，化粧品，環境など）基礎課題や応用課題を設定し取り組む 【到達目標】実験や演習を行うことにより，衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)　中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」 北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎」 近藤保也著「やさしいコロイドと界面の科学」		
授業スケジュール	第　1～3回　研究課題の決定，参考資料の収集 第　4～8回　予備実験 第　9～22回　本実験 第23～24回　まとめ 第25～27回　論文作成 第28～29回　発表準備 第30回　発表		
成績評価の方法	口頭発表（30%）と論文（70%）		

授業科目	**卒業研究A**	担当者	石川　満佐育
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　４単位	〔学期〕　通年 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ＆概要】学校教育領域，対人関係領域に関する課題について，各自がテーマを設定し，心理学の研究方法を用いて，調査・分析し，成果をまとめる。 【到達目標】①「研究」のプロセスを学ぶ。 ②自分の意見をまとめ，表現できるようにすることを目指す。 ③効果的なプレゼンテーションの方法を身につけることを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の進め方 第 2 回～第 5 回　心理学の研究方法＆基礎知識 第 6 回～第 27 回　テーマ設定，仮説生成，調査，分析，執筆（毎回の報告） 第 28，29 回　発表準備 第 30 回　発表会		
成績評価の方法	授業での毎回の報告：30%　卒業論文 70%		

授業科目	**造形史**	担当者	丸山　容爾 ・ 北　一浩
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】長い歴史の中でどのように物が変化してきたかを学ぶと同時に，未来を考える。 【概要】前半は，丸山担当で「産業革命以後の商業・工業デザイン」について，後半は，北担当で「現代の商業・工業デザイン」についての歴史を中心に講義する。 【到達目標】造形の歴史を探り，私たちとこれからの造形とのつながりを考えていく。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストは，プリントしたものを配布する。 (2)　講義中に適時示す。		
授業スケジュール	（担当　丸山） 第　1回　イギリス産業革命とデザイン 第　2回　ウイリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 第　3回　シノワズリーとジャポニスム 第　4回　和服の歴史：衣裳（きぬも），十二単，打掛，小袖 第　5回　「ファッションデザイナーの誕生とファッションブランドの成立 第　6回　アール・ヌーヴォー 第　7回　アール・デコ　ドイツ工作連盟と AEG 第　8回　バウハウス （担当　北） 第　9回　欧米における現代の商業・工業デザイン 第 10 回　欧米における現代の商業・工業デザイン 第 11 回　日本における現代の商業・工業デザイン 第 12 回　日本における現代の商業・工業デザイン 第 13 回　メディアデザイン 第 14 回　コミュニケーションデザイン 第 15 回　「まとめ」		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%），試験あるいはレポート（70%）で評価		

授業科目	ビジュアルデザイン論	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】人間が創り出してきたもののデザインに焦点を当てて鑑賞・考察し，今後のデザインの方向性を探る。 【概要】デザインの変遷と，社会生活への影響を時代ごとの代表的作品を通して学ぶ。 【到達目標】講義を通して，身の周りのデザイン作品の「用と美」を探求する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　必要に応じてプリント配布。 (2)　参考文献は，講義中に適時示す。		
授業スケジュール	第　1回　「導入」　講義方式の説明と資料配布 第　2回　「文字の起源」 第　3回　「文字と書写体」：世界各地の文字と書写体 第　4回　「漢字」 第　5回　「文房四宝 1」：筆・紙・墨・硯 第　6回　「文房四宝 2」 第　7回　「書体・印刷 1」：和文・英文書体と印刷 第　8回　「書体・印刷 2」 第　9回　「書籍」：書籍の作り 第10回　「現代の書籍　装幀」：書籍の編集とデザイン 第11回　「現代のポスター」 第12回　「欧米の現代デザイン」 第13回　「日本の現代デザイン」 第14回　「日本の現代デザイン」 第15回　「まとめ」		
成績評価の方法	出席と授業態度（50%），レポート（50%）で評価		

（注）インテリアプランナー登録資格取得A科目（学生便覧参照）

授業科目	ビジュアルデザインⅠ	担当者	丸山　容爾
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】基礎的な作図技術と考え方を学ぶ。 【概要】各種の平面構成やコラージュ等を通じて，自分のアイデアを作品上に反映させる。 【到達目標】作品制作と講評を通じて，デザイン表現の理論と楽しさを体験する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　なし　（デザイン用具については，第1回目に説明する。）		
授業スケジュール	第　1回　「導入」：実習方式の説明等 第　2回　「コラージュ」：雑誌を使用したコラージュ作成 第　3回　〃 第　4回　〃 第　5回　「平面構成」：相反するテーマをセットにして，色彩表現する 第　6回　〃 第　7回　〃 第　8回　「レタリング」：自分の名前を明朝体とゴシック体で書く 第　9回　〃 第10回　〃 第11回　「エンボス」：厚紙によるエンボス作成 第12回　〃 第13回　〃 第14回　〃 第15回　「まとめ」		
成績評価の方法	出席と授業態度（50%），　提出作品（50%）で評価		

（注）インテリアプランナー登録資格取得A科目（学生便覧参照）

授業科目	ビジュアルデザインⅡ	担当者	丸山　容爾		
	〔履修年次〕	２年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	１単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】基礎的な作図技術と考え方を学ぶ。 【概要】各種制作を通じて，自分のアイデアを作品上に反映させる。 【到達目標】作品制作と講評を通じて，デザイン表現の理論と楽しさを体験する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　なし　（デザイン用具については，第１回目に説明する。）				
授業スケジュール	第　1回　「導入」：実習方式の説明等 第　2回　「テクニック」：各種製図器具を使用しての作図表現 第　3回　〃 第　4回　〃 第　5回　「ポスター」：与えられたテーマを基にした表現 第　6回　〃 第　7回　〃 第　8回　「カレンダー」：１ヶ月分制作 第　9回　〃 第10回　〃 第11回　「応用課題」：自由テーマでの制作 第12回　〃 第13回　〃 第14回　〃 第15回　「まとめ」				
成績評価の方法	出席と授業態度（50%），　提出作品（50%）で評価				

授業科目	ファッションデザイン論	担当者	坂上　ちえ子		
	〔履修年次〕	１年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	２単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ファッションデザインの概要と基礎、展開、さらに、パターンメイキングの基礎理論と応用を学ぶ。 【概要】 衣服が製作される過程では，まずデザインと素材が決まり，次にデザインイメージを具体化して，布地裁断のための型紙を作図しなければならない。製作イメージを表現できるファッションデザインの方法と運動や動作に配慮したパターンメイキングを学ぶ。 【到達目標】 デザイン，パターンともに基礎知識を理解し，自分が表現したいデザインやパターンメイキングができる応用力を目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　文化服装学院『文化ファッション大系 服飾関連専門講座９ 服飾デザイン』文化出版局 文化女子大学被服構成学研究室編『被服構成学 理論編』文化出版局				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　ファッションデザインの概要 第　3回　ファッションデザインの基礎１：形態と色彩 第　4回　ファッションデザインの基礎２：素材とコンポジション 第　5回　ファッションデザインの展開 第　6回　ファッションデザインとイメージ 第　7回　デザイン展開とパターンメイキング１：人体の形態 第　8回　デザイン展開とパターンメイキング２：平面展開図 第　9回　デザイン展開とパターンメイキング３：ダーツ，衿，袖 第10回　デザイン展開とパターンメイキング４：スカートとパンツ 第11回　パターンメイキングと運動機構１：上半身 第12回　パターンメイキングと運動機構２：下半身 第13回　ファッションデザインとコーディネート１：形態 第14回　ファッションデザインとコーディネート２：色彩と素材 第15回　まとめ：アパレルメーカーとファッション動向				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　提出課題（30%）				

授業科目	ファッション造形Ⅰ		担当者	坂上　ちえ子	
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。 【概要】 衣服を平面製図法で行う場合，基本となる型紙（原型）の把握が重要である。まず，基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い，それらの手順と方法を学ぶ。さらに，上・下半身衣の原型とその展開について学び，理解する。 【到達目標】 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと，裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座２　スカート・パンツ』文化出版局				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　スカートの製図 第　3回　表布の裁断，印つけ 第　4回　仮縫い 第　5回　試着，補正 第　6回　表布の縫製１ 第　7回　表布の縫製２ 第　8回　ファスナー つけ 第　9回　裏布の裁断，印つけ 第10回　裏布の縫製 第11回　ベルトつけ 第12回　仕上げ 第13回　製作検討・着装評価 第14回　上半身衣の原型と展開 第15回　下半身衣の原型と展開，まとめ				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%）				

授業科目	ファッション造形Ⅱ		担当者	坂上　ちえ子	
	〔履修年次〕	2年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。 【概要】 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法，その過程を学ぶ。デザインについては，着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう，また，製作については，目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。 【到達目標】 上，下半身衣のデザインと製図展開ができることと，迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座３　ブラウス・ワンピース』文化出版局				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　ブラウスのデザインと製図 第　3回　裁断と印つけ 第　4回　仮縫い 第　5回　試着，補正 第　6回　見頃の縫製 第　7回　衿つくりと衿つけ 第　8回　袖つくりと袖つけ 第　9回　ボタンホール，ボタンつけ，仕上げ 第10回　パンツのデザインと製図 第11回　裁断と印つけ 第12回　仮縫い，試着，補正 第13回　縫製 第14回　仕上げ 第15回　着装評価，まとめ				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%）				

授業科目	ファッション造形Ⅲ	担当者	坂上　ちえ子		
	〔履修年次〕	２年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	１単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 平面構成（和裁）の基礎的理論と縫製技術を学ぶ。 【概要】 和服は日本の伝統衣装でありながら，通常着用されることはなく目にする機会も少ない。まず和裁に必要な基礎縫いを習得し，ゆかたの製作を通して平面構成である単衣長着の構成を学ぶ。着つけと帯結びが一人でできるようになることも目指す。 【到達目標】 単衣長着（ゆかた）の製作と着付けを通し，伝統衣装の理解を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　適宜紹介				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　基礎縫い１：並縫い，まつり縫い，ほか 第　3回　基礎縫い２：一つ目落とし，折りくけ，ほか 第　4回　大裁単衣長着の構成，平面構成の基礎理論 第　5回　単衣長着（ゆかた）の製作１：柄合せ，裁断 第　6回　単衣長着（ゆかた）の製作２：見頃のしるしつけ，背縫い 第　7回　単衣長着（ゆかた）の製作３：衽のしるしつけ，衽つけ 第　8回　単衣長着（ゆかた）の製作４：脇縫い，脇縫い代の始末 第　9回　単衣長着（ゆかた）の製作５：衿下，裾の始末 第10回　単衣長着（ゆかた）の製作６：衿と共衿のしるしつけ，衿つけ準備 第11回　単衣長着（ゆかた）の製作７：衿つけ，始末 第12回　単衣長着（ゆかた）の製作８：袖のしるしつけ，袖作り 第13回　単衣長着（ゆかた）の製作９：袖つけ，始末 第14回　単衣長着（ゆかた）の製作10：仕上げ 第15回　着付け，着装評価				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%）				

授業科目	ファッションビジネス	担当者	坂上　ちえ子		
	〔履修年次〕	２年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	２単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ファッションに対する理解を深めるため，デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。 【概要】 衣服を大量生産，大量消費する時代は過ぎ，ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び，ファッション全体の背景や仕組みを捉える。 【到達目標】 基礎知識を習得し，企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス［Ⅰ］』財団法人　日本ファッション教育振興会				
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第　2回　ファッションビジネス知識１：ファッションビジネスの概要 第　3回　ファッションビジネス知識２：ファッション消費と消費者行動 第　4回　ファッションビジネス知識３：アパレル産業と小売産業 第　5回　ファッションビジネス知識４：ファッションマーケティング 第　6回　ファッションビジネス知識５：ファッションマーチャンダイジング 第　7回　ファッションビジネス知識６：ファッション物流と流通 第　8回　ファッションビジネス知識７：ファッションプロモーション 第　9回　ファッションビジネス知識８：ビジネス基礎知識と計数管理 第10回　ファッション造形知識１：ファッション文化 第11回　ファッション造形知識２：ファッションコーディネーションの基礎知識 第12回　ファッション造形知識３：ファッション商品知識ー服種・アイテム 第13回　ファッション造形知識４：ファッションデザインの定義と特性 第14回　ファッション造形知識５：パターンメイキングとファッションエンジニアリング 第15回　まとめ				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　授業ごとに実施する小テスト（30%）				

授業科目	デジタルデザイン論	担当者	北　一浩		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	2単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】現代のグラフィックデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。 【概要】グラフィックデザインの様々な分野の参考作品を通して，現在のグラフィックデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。またデザインワークショップを行いデザイン的思考を身につける。 【到達目標】デザインを取り巻く環境を理解し，積極的にデザイン環境に慣れるようにする。 また，デザインに携わっていくための知識や心得を理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。				
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義方式の説明等 第　2回　デザインとアートの違い 第　3回　グラフィックデザインの歴史 第　4回　Identity Design 第　5回　Branding 第　6回　Collateral Design 第　7回　Environmental Design 第　8回　Iconography 第　9回　Information Design 第10回　Editorial Design 第11回　Poster Design 第12回　Packaging 第13回　Interactive Design 第14回　Motion Graphics 第15回　まとめ				
成績評価の方法	授業内のプレゼンテーション（70%）　出席と授業態度（30%）				

（注）デジタル造形基礎と同時に履修すること。

授業科目	デジタルデザイン	担当者	北　一浩		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】コンピューターを用いたグラフィックデザインの実践的な制作を学ぶ。 【概要】デジタルデザイン論，デジタル造形基礎からの関連科目として，コンピューターを用いてより実践的な課題制作を行う。 【到達目標】デジタルデザイン論、デジタル造形基礎で習得した概念を，コンピューターを使用して実媒体へと応用する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。				
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：実習方式の説明等 第　2回　カレンダー：数字のタイポグラフィデザインを活かしたカレンダーの制作 第　3回　カレンダー：数字のタイポグラフィデザインを活かしたカレンダーの制作 第　4回　カレンダー：数字のタイポグラフィデザインを活かしたカレンダーの制作 第　5回　パッケージデザイン：オリジナルデザインのショッピングバッグの制作。 第　6回　パッケージデザイン：オリジナルデザインのショッピングバッグの制作。 第　7回　パッケージデザイン：オリジナルデザインのショッピングバッグの制作。 第　8回　広告デザイン：クライアントを想定した広告制作 第　9回　広告デザイン：クライアントを想定した広告制作 第10回　広告デザイン：クライアントを想定した広告制作 第11回　ポートフォリオ制作 第12回　ポートフォリオ制作 第13回　ポートフォリオ制作 第14回　ポートフォリオ制作 第15回　まとめ				
成績評価の方法	提出作品（70%）　出席と授業態度（30%）				

（注）デジタルデザイン論，デジタル造形基礎を履修しておくこと。

授業科目	卒業研究Ｂ		担当者	丸山　容爾	
	〔履修年次〕	２年	〔学期〕	通年	
	〔単位〕	４単位	〔必修／選択〕	必修	〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】グラフィック・デザイン（芸術）に関連した分野の研究。 【概要】グラフィック・デザイン（芸術）に関連した分野から各自研究テーマを設定し，文献等による研究結果を基にディスカッションを重ねた上で，独自の見解をまとめ，これを発表する。 【到達目標】研究テーマを論文にまとめ，発表する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　参考文献は，研究テーマに合わせてそれぞれに紹介する。				
授業スケジュール	第　1回　「導入」　演習方式の説明等 第　2回　～ 第 5回「研究テーマの検討と設定」 第　6回　～ 第24回「参考文献・資料収集」・「まとめとゼミ内発表」 第25回　～ 第29回「まとめとゼミ内発表」 第30回　発表				
成績評価の方法	出席と研究態度（30%），論文および発表内容（70%）で評価				

授業科目	卒業研究Ｂ		担当者	坂上　ちえ子	
	〔履修年次〕	２年	〔学期〕	通年	
	〔単位〕	４単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 学生自らが設定した衣生活に関わる課題について，分析・研究し，成果をまとめる。 【概要】 前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに，それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに，卒業研究発表会において，それらの研究成果を発表する。 【到達目標】 まず，衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし，問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに，研究成果を文書にまとめることと，効果的な発表方法を身につけることを目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適宜配布 (2)　適宜紹介				
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション 第２～　５回　文献購読 第６～　10回　研究手法の検討・理解 第11～　15回　テーマ設定と文献・情報収集 第16～　23回　調査・研究・考察 第24～　27回　論文作成 第28～　30回　発表準備				
成績評価の方法	卒業研究成果（60%）＋　研究発表（20%）＋ 授業での取り組み内容（20%）				

授業科目	**住生活学**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】人間の生活行為と住空間の関連について学ぶ。 【概要】住居の今日的課題について考えるときに，果たすべき役割を理解し，設計に必要な計画学的解決手法を知る 【到達目標】住居のありかたと選択・取得・設計の際に注意すべきことを修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　内藤ほか「図説 やさしい建築計画」学芸出版社　ISBN978-4-7615-2522-4 (2)　小原二郎ほか「インテリアの計画と設計」彰国社		
授業スケジュール	第　1回　住居計画学１：住居の成立条件とプロセス 第　2回　住居計画学２：計画と設計の実際 第　3回　建築と住居１：住居存在 第　4回　建築と住居２：集合住宅 第　5回　建築と住居３：福祉施設と医療施設 第　6回　建築と住居４：公共施設と学校 第　7回　建築と住居５：図書館　博物館 第　8回　高齢者と居住：高齢者の特質と住空間 第　9回　計画・設計　：手法と表現の基礎 第10回　平面計画１　：空間の性質とゾーニング 第11回　平面計画２　：アクティビティとシークエンス 第12回　平面計画３　：ユニバーサルデザインと住居・建築 第13回　住宅問題　：住環境問題　住宅政策 第14回　我々はどう住むか 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（100%）による。		

（注）教職必修，二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目，インテリアプランナー登録資格取得A科目(学生便覧参照)

授業科目	**住居史**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】現代住居を理解するうえで日本住居史の理解が欠かせない。 【概要】日本固有の伝統のうえに成り立っている日本の住居の歴史とその特質を知る。 【到達目標】講義では日本建築史を学びながら現代住居との関連でその姿を概括し，世界の住居とも比較しながら検討の材料とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　建築と都市の歴史　光井渉ほか　ISBN978-4-7530-1451-4 (2)		
授業スケジュール	第　1回　建築史序説　：歴史と住居　上古の住まい方　竪穴式住居と高床式住居 第　2回　古代建築　：神社建築と住居　仏教建築と住居　貴族住居・都城の成立 第　3回　中世の建築と住居１　：浄土建築　大仏様　禅宗様　主殿造り 第　4回　中世の建築と住居２　：和洋　折衷様　中世住居から書院の成立 第　5回　近世の建築と住居１　：座敷と玄関の成立 第　6回　近世の建築と住居２　：茶室と数寄屋 第　7回　近世の建築と住居３　：民家　町家と農家 第　8回　近代の建築と住居４　：洋風住宅と近代化 第　9回　西洋建築史概論１　：エジプト　オリエント　ギリシャ 第10回　西洋建築史概論２　：ローマ　初期キリスト教　ビザンチン　ロマネスク 第11回　西洋建築史概論３　：ゴチック　ルネッサンス　バロック　リヴァイバル 第12回　西洋建築史概論４　：産業革命と近代建築 第13回　アジアの住居と集落　：中国（台湾）　朝鮮半島　インドネシア 第14回　現代の建築と住居　：モダニズム　ポストモダニズム　日本現代建築 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（100%）による。		

（注）二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目，インテリアプランナー登録資格取得A科目(学生便覧参照)

授業科目	**住居・インテリア設計学**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】建築やインテリアの設計で必要となる様々な図面による表現方法，間取りを構成する手順や要素について学ぶ。 ※「設計製図Ⅰ」と併せて履修すること。 【概要】建築・インテリア設計のプロセスにおける「考える図面」と「伝える図面」について学ぶ。前半部分で建築図面における平面表現や立体表現の種類と描き方について，後半部分で住宅の間取りを組み立てる手順について，課題を通して理解を深める。 【到達目標】建築・インテリア設計における設計プロセスを理解し，多様な表現方法を用いて構想を伝えることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　飯塚豊『間取りの方程式』エクスナレッジ (2)　松下希和『住宅・インテリアの解剖図鑑』エクスナレッジ，大島健二『家づくり解剖図鑑』エクスナレッジ		
授業スケジュール	第　１回　設計プロセス　：建築図面の作図手順と目的 第　２回　様々な図面表現　：配置図，平面図，立面図 第　３回　様々な図面表現　：断面図，展開図，天井伏図 第　４回　透視図　：一点透視図 第　５回　透視図　：一点透視図 第　６回　透視図　：アイソメ図，アクソメ図 第　７回　身体寸法と単位空間　：校内サーベイ 第　８回　住宅プランニング　：所要室の配置と規模 第　９回　住宅プランニング　：平面のデザイン（平屋） 第10回　住宅プランニング　：平面のデザイン（複層） 第11回　住宅プランニング　：敷地のデザイン 第12回　住宅プランニング　：外観のデザイン 第13回　インテリアエレメント　：照明，家具，設備，他 第14回　インテリアエレメント　：床，壁，開口部，他 第15回　インテリアエレメント　：商業施設のデザイン		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題（80%）＋レポート（20%）		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必須科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**設計製図Ⅰ**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】設計製図Ⅰは、住居を計画・設計するときに必要な図法と表現法を習得する。 【概要】実習は設計製図法の基礎から始め，単位空間から住居空間にいたる計画と設計を行う。 【到達目標】小住宅の設計に必要な図面製作と模型製作の方法を習得して発表する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新しい建築の製図　学芸出版社　ISBN4-7615-2375-1 (2)		
授業スケジュール	第　１回　製図基礎１　：線の種類と意味　模写 第　２回　製図基礎２　：平面記号の練習　模写 第　３回　作品研究プレゼンテーション：プレゼンテーション 第　４回　小空間の計画　：平面図　立面図の製作 第　５回　小空間の製作　：断面図　その他の製作 第　６回　模型による表現　：模型表現基礎 第　７回　小住宅の計画と設計１　：作品構想プレゼンテーション 第　８回　小住宅の計画と設計２　：平面計画と平面図１ 第　９回　小住宅の計画と設計３　：平面計画と平面図２ 第10回　模型製作１　：模型製作 第11回　模型製作２　：模型製作 第12回　模型製作３　：模型製作 第13回　プレゼンテーション製作　：プレゼンテーションボードの製作 第14回　プレゼンテーション製作　：プレゼンテーションボードの製作 第15回　成果発表　：プレゼンテーションとまとめ		
成績評価の方法	成果物（100%）の評価による		

（注）二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目，インテリアプランナー登録資格取得C科目(学生便覧参照)

授業科目	**設計製図Ⅱ**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　１単位 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】各種詳細図の表現法を習得したうえで，小住宅を計画・設計する。模型を製作してこれを完成させる。 注）住居・インテリア設計学の履修が望ましい。 【概要】３世代住宅の計画と設計を行い，図面と模型でこれを表現し，発表する。 【到達目標】詳細図の表現を修得し，住宅設計の成果をわかりやすくプレゼンテーションする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新しい建築の製図　学芸出版社　ISBN4-7615-2375-1 (2)		
授業スケジュール	第　1回　課題１　：　木造の詳細図１：真壁と大壁 第　2回　課題２　：　木造の詳細図２開口部：ドア 第　3回　課題３　：　木造の詳細図３開口部：和室建具 第　4回　課題３　：　木造の詳細図３開口部：和室建具 第　5回　課題４　：　一般意匠図１：木造平面図 第　6回　課題４　：　一般意匠図２：木造平面図 第　7回　課題４　：　一般意匠図３：立面図と断面図 第　8回　課題４　：　一般意匠図４：矩計詳細図 第　9回　課題４　：　一般意匠図５：矩計詳細図 第10回　課題５　：　リフォーム計画と設計１　配置図 第11回　課題５　：　リフォーム計画と設計２　平面図 第12回　課題５　：　リフォーム計画と設計３　立面図・断面図 第13回　課題５　：　リフォーム計画と設計４　立面図・断面図 第14回　課題５　：　リフォーム計画と設計５　計画概要説明図 第15回　発表　：　プレゼンテーションとまとめ		
成績評価の方法	成果物（100%）の評価による		

（注）二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目，インテリアプランナー登録資格取得C科目(学生便覧参照)

授業科目	**住居構造学Ⅰ**	担当者	徳富 久二
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。 【概要】木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、その他の構造について、概要と特徴を講述し、それらを構成する下地と仕上げを含む構法について学ぶ。 【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解するとともに関連する図表を目の当たりにしたとき、それについて説明できる能力が養われること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　図説　やさしい建築一般構造、今村仁美・田中美都著、学芸出版社 (2)　やさしい建築の構造力学，山田修著，オーム社		
授業スケジュール	第　1回　実例にみる住居構造のあらまし 作用する外力と構造の基本的考え方 第　2回　木造１　構造形式と特徴 第　3回　木造２　軸組構法 第　4回　木造３　枠組壁構法（２×４構法） 第　5回　鉄骨構造１　構造形式と特徴 第　6回　鉄骨構造２　鋼材と接合方法　構造部材の基本寸法と構造規定 第　7回　鉄筋コンクリート構造１ 構造形式と特徴 第　8回　鉄筋コンクリート構造２ 材料の性質と管理および材料試験 第　9回　鉄筋コンクリート構造３ 力の伝達機構と破壊実験 第10回　鉄筋コンクリート構造４ 基本寸法と配筋の規定 第11回　その他の構造方式　（プレストレストコンクリート構造、基礎構造　他） 第12回　下地と仕上げ　1 第13回　下地と仕上げ　2 第14回　下地と仕上げ　3 第15回　まとめ		
成績評価の方法	試験（50%）とレポート（30%）および授業での発言質問とその内容（20%）		

（注）二級建築士、木造建築士、受験資格取得必修科目、インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目（学生便覧参照）

授業科目	**住居構造学Ⅱ**	担当者	徳富 久二
	〔履修年次〕 ２年 〔単位〕 ２単位	〔学期〕 前期 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。 【概要】住居構造学Ⅱ では、基本的な構造物と部材にかかる力の計算法と評価方法について学ぶ。 【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型骨組みの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 前もって配布する演習問題とその解法の説明として編まれたプリントによって講義する。 (2) やさしい建築の構造力学、山田修著、オーム社		
授業スケジュール	第 1回 構造物の強度と安全性 第 2回 力のつりあい（外力・反力・応力） 第 3回 外力と内力および反力の釣り合い（含演習） 第 4回 構造物の支持状態、ローラー、ピンと固定（含演習） 第 5回 片持ばりと単純ばりの反力と釣り合いおよび応力と応力図 第 6回 各種静定ばりと静定門形骨組の応力図（含演習） 第 7回 トラス骨組の応力 第 8回 トラス骨組の応力（含演習） 第 9回 断面内の応力（垂直応力 せん断応力） 第10回 断面の性質（断面１次モーメント、断面２次モーメント、他）（含演習） 第11回 はりの曲げ応力度、せん断応力度 第12回 片持ばりと単純ばりの変形 第13回 簡単な不静定構造物の応力と応力図（含演習） 第14回 構造物の設計と安全性の考え方 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験（50%）と演習レポート（30%）および授業での発言質問とその内容（20%）		

（注）二級建築士、木造建築士、受験資格取得必修科目、インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**住居環境学**	担当者	曽我 和弘
	〔履修年次〕 ２年 〔単位〕 ２単位	〔学期〕 後期 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画 【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには，建築環境（熱・光・音・空気・水環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では，適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法，さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。 【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 三浦昌生 著，基礎力が身につく建築環境工学，森北出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 気候と建築環境 第 2回 建築環境と建築設備 第 3回 建築環境と建築設備 第 4回 照明設備計画 第 5回 熱環境計画１ 第 6回 熱環境計画２ 第 7回 空調設備計画 第 8回 住まいと結露 第 9回 音環境計画１ 第10回 音環境計画２ 第11回 空気環境計画１（室内空気汚染） 第12回 空気環境計画２（通風，換気） 第13回 換気設備計画 第14回 給排水設備計画 第15回 建築物の総合的な環境性能と評価		
成績評価の方法	筆記試験（80%）とレポート（20%）で評価する。		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得科目，インテリアプランナー登録資格取得Ｂ科目（学生便覧表参照）

授業科目	**住居環境学演習**	担当者	曽我　和弘
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の測定 【概要】居住環境の物理環境（熱・光・音・空気など）の測定を行い，測定データに基づいて，居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に，データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また，気候と住居形態，環境共生住宅に関する調査を通して，環境にやさしい住居に対する理解を深める。 【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　三浦昌生 著，基礎力が身につく建築環境工学，森北出版株式会社およびプリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査 第　2回　日影図の作成と日照環境の評価 第　3回　教室の照度分布測定 第　4回　教室の昼光率分布測定 第　5回　照明計算 第　6回　屋外気候の測定 第　7回　室内気候の測定 第　8回　身近な居室の室温測定と分析 第　9回　定常結露計算 第10回　交通騒音測定 第11回　教室の騒音測定 第12回　CO_2濃度等の測定と評価 第13回　必要換気量の計算 第14回　シックハウス問題のレポート発表会 第15回　環境共生住宅に関する調査　環境共生住宅のレポート発表会		
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度，レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得科目，インテリアプランナー登録資格取得Ｂ科目（学生便覧表参照）

授業科目	**建築材料学**	担当者	迫田　順一
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質 【概要】どのような材料がどの様な特質を持ち，どのように使われて建築物が構築されているのかについて 可能な限り現物を見ながら学ぶ。 【到達目標】講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上工事の関係について，工種毎に理解することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　松本進　「図説　やさしい建築材料」　学芸出版社 (2)　建築学会篇　「建築材料用教材」　彰国社		
授業スケジュール	第　1回　構法と建築材料 第　2回　主要構造部材と仕上材 第　3回　木材１　特性 第　4回　木材２　用法 第　5回　木材３　種類と用法 第　6回　コンクリート１　特性 第　7回　コンクリート２　配合と強度 第　8回　コンクリート３　製作 第　9回　鉄材１　鉄筋 第10回　鉄材２　鉄骨と接合 第11回　その他の主要材料（石・左官・ガラス・建具） 第12回　材料の力学（曲がりにくさ） 第13回　環境にやさしい建築材料 第14回　材料の積算 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

(注)二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目

授業科目	**建築生産**	担当者	迫田　順一
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　選択	
テーマ及び概要	【テーマ】各種建築構造方式の生産過程について学ぶ。 【概要】住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で、建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。 【到達目標】講義では建築の各種構造方式の施工手順について，工種と工程に沿って理解することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　今村仁美、田中美都　『図説　やさしい建築一般構造』　学芸出版社 (2)　久富洋、古澤忠正　『図説　建築施工入門』　彰国社		
授業スケジュール	第　1回　構法と施工過程 第　2回　木構造と木工事 第　3回　鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事 第　4回　鉄骨構造 その他の構造 第　5回　建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事 第　6回　施工計画と管理 第　7回　契約と実行 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

(注)二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目

授業科目	**建築法規**	担当者	未定（鹿児島県土木部建築技術職員）
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 建築物の安全や衛生を守り，都市の防災対策や街並みを形成するための基準である建築基準法 【概要】 建築物は，人間の生活や社会活動の基盤であり，社会資本でもある。建築物は，建築基準法など建築法規に適合させる必要がある。 建築物の構造安全性，防火規定，室内環境，避難規定，集団規定など建築物の基本法としての建築基準法について，解説する。 【到達目標】 建築物，特に住宅を建築する際に，必要な建築法規の基礎を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)		
授業スケジュール	第　1回　建築基準法の基礎　1　建築基準法の目的と構成 2　法規を理解するための用語，面積や高さの算定方法等 第　2回　位置や形状に関する規定１　1　都市計画区域内の道路と敷地 2　用途制限 第　3回　位置や形状に関する規定２　1　容積率，建ぺい率の形態規制 2　高さ制限等の形態規制 第　4回　防火に関する規定　1　耐火建築物等にしなければならない特殊建築物 2　火災の拡大を防止する防火区画、内装制限 第　5回　室内環境に関する規定　1　室内の環境を守る採光・換気 2　シックハウス対策等 第　6回　避難に関する規定　1　安全に避難するための内装制限，廊下や直通階段等 2　排煙設備，非常用照明設備等 第　7回　その他の関係法令　1　建築基準法に基づく手続き 2　建築士法，都市計画法の建築関連法 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

（注）二級建築士，木造建築士受験資格取得には必須科目，インテリアプランナー登録資格取得には必須科目

授業科目	CAD設計	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義（演習含む）方式	
テーマ及び概要	【テーマ】CAD（作図）ソフトを用いた基礎的な建築図面の製作手順や，作品表現方法について学ぶ。 ※「設計製図Ⅱ」と併せて履修すること。 【概要】まず，2次元CAD及び3次元CADソフトによる建築図面の基礎的な作成手順を理解する。次に，各自で案出した住宅プランを作図する。最終的に，2D・3D図面を適切にレイアウトし完成させる。 【到達目標】CADソフトの基本的操作を習得し，基礎的な建築図面を製作することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　阿部秀之『徹底解説 SketchUp』エクスナレッジ，櫻井良明『Jw_cad 建築製図入門』エクスナレッジ		
授業スケジュール	第　1回　基本操作（立体）　：下描き線，壁，開口部 第　2回　基本操作（立体）　：屋根，階段，テクスチャー 第　3回　基本操作（平面）　：下描き線，壁，開口部 第　4回　基本操作（平面）　：家具，設備，寸法，室名 第　5回　図面のレイアウト　：印刷，提出 第　6回　製作（立体）　：下描き線，壁 第　7回　製作（立体）　：開口部 第　8回　製作（立体）　：屋根，階段 第　9回　製作（立体）　：設備，家具，テクスチャー 第10回　製作（平面）　：下描き線，壁， 第11回　製作（平面）　：開口部 第12回　製作（平面）　：家具，設備 第13回　製作（平面）　：敷地，寸法，室名 第14回　図面のレイアウト　：図面・画像の加工と配置 第15回　プレゼンテーション　：印刷，提出		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題（100%）		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必須科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目（学生便覧参照）

授業科目	建築史	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】世界の住居と建築の歴史を学ぶ。 【概要】世界の住居と建築の歴史を学んで、日本建築との相違を認識して、今後の住み方を考える。 【到達目標】西洋世界、アジア諸国の住居形式と建築について学修する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　建築と都市の歴史　光井渉ほか　ISBN978-4-7530-1451-4 (2)		
授業スケジュール	第　1回　西洋建築史序説 第　2回　エジプトとオリエント 第　3回　ギリシャ 第　4回　ローマ 第　5回　初期キリスト教建築・ビザンチン 第　6回　ロマネスク 第　7回　ゴシック 第　8回　ルネッサンス 第　9回　バロック 第10回　新古典主義（リバイバル） 第11回　産業革命からモダニズムへの道 第12回　中国・台湾の住居 第13回　韓国の住居 第14回　インドネシア 第15回　現代住居にいたる道		
成績評価の方法	レポート（100%）による		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格（実務一年）取得必須科目

授業科目	**CAD設計特講**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義（演習含む）方式	
テーマ及び概要	【テーマ】CAD（作図）ソフトを用いた建築図面（3次元・立体図）の作成手順や，建築作品の多様な表現方法について学ぶ。 ※「設計製図Ⅲ」と併せて履修すること。 【概要】まず，2次元 CAD 及び 3 次元 CAD ソフトの復習を目的とした共通課題を製作する。次に，設計製図Ⅲで案出した建築プランをもとに，平面図・立面図・断面図を作成する。最終的に，細部解説の為の図版や立体図を加えたプレゼンテーションボードを完成させる。 【到達目標】CAD ソフトを使いこなし，建築図面や解説図を用いて効果的な作品プレゼンテーションボードを製作することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　阿部秀之『SketchUp パーフェクト作図実践編』エクスナレッジ，櫻井良明『Jw_cad 建築プレゼン入門』エクスナレッジ		
授業スケジュール	第　1回　基本操作（立体）　：立体図作成 第　2回　基本操作（平面）　：平面図作成 第　3回　基本操作（立断面）　：立面図・断面図作成 第　4回　プランニング　：立体図によるエスキース 第　5回　プランニング　：立体図によるエスキース 第　6回　製作（平面）　：下描き 第　7回　製作（平面）　：躯体 第　8回　製作（平面）　：開口部 第　9回　製作（平面）　：家具・設備 第10回　製作（平面）　：家具・設備 第11回　製作（平面）　：寸法・室名 第12回　製作（断面）　：躯体・開口部・見えがかり 第13回　製作（立面）　：立面・添景 第14回　プレゼンテーション　：図面のレイアウト 第15回　プレゼンテーション　：印刷，提出		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題（100%）		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必須科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｂ科目（学生便覧参照）

授業科目	**設計製図Ⅲ**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】住宅における環境・福祉的課題と向き合いながら，二級建築士が設計可能な種類の建築施設の設計課題に取り組む。 ※「CAD 設計特講」と併せて履修すること。 【概要】提示された設計課題条件をクリアすることに加え，住宅における社会的課題について建築デザイン的手法での解決を試み，間取りや外観・外構空間をデザインし，2D（CAD 設計特講）・3D 図面を作成してその設計主旨を他者に伝える一連のプロセスについて学ぶ。 【到達目標】様々な設計条件や問題点を整理し，建築としてまとめ上げ，CAD ソフトを用いた効果的なプレゼンテーションを行うことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　神無修二『二級建築士製図最短エスキース』学芸出版社，中山繁信『最高の省エネ・エコ住宅のつくりかた』エクスナレッジ		
授業スケジュール	第　1回　はじめに　：課題説明，事例研究 第　2回　事例研究　：資料作成，発表 第　3回　プランニング　：設計条件の整理 第　4回　プランニング　：ゾーニング，動線計画 第　5回　プランニング　：平面のデザイン 第　6回　プランニング　：外観のデザイン，敷地のデザイン 第　7回　製作　：立体図（基礎・壁） 第　8回　製作　：立体図（開口部） 第　9回　製作　：立体図（屋根・階段） 第10回　製作　：立体図（設備・家具） 第11回　製作　：立体図（外観・テクスチャー） 第12回　製作　：立体図（画像エクスポート・加工） 第13回　製作　：解説図 第14回　プレゼンテーション　：プレゼンボード作成 第15回　プレゼンテーション　：印刷，提出		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題（100%）		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必須科目，インテリアプランナー登録資格取得選択必修Ｃ科目（学生便覧参照）

授業科目	**設計製図Ⅳ**	担当者	揚村　固
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　４単位	〔学期〕　通年 〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】詳細図と一般的図面制作と自由設計 【概要】　木造平面詳細図の演習と自由設計テーマの設定およびその計画と設計 【到達目標】リフォーム設計の木造平面詳細図、一般意匠図の包括的演習 自由設計による建築設計の課題を完成させてこれを発表する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)　新しい建築の製図　学芸出版社　ISBN4-7615-2375-1		
授業スケジュール	第　1　回　課題１　リフォーム計画のエスキス ～３回 第　4　回　課題２　リフォーム計画の平面詳細図１ ～６回 第　7　回　課題３　リフォーム計画の平面詳細図２ ～９回 第 10 回　課題４　包括設計図の演習 ～12 回 第 13 回　課題５　課題研究とテーマ設定 ～15 回 第 16 回　課題５　問題解決の設計構想 ～18 回 第 19 回　課題５　問題解決の設計 ～22 回 第 23 回　課題６　模型制作 ～27 回 第 28 回　課題６　プレゼンテーション制作と発表 ～30 回		
成績評価の方法	課題成果物（80%）と発表（20%）の評価		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格（実務一年）取得必須科目

10　第一部商経学科の専攻間で共通する科目
（専門基礎科目）

授業科目	**情報社会論**	担当者	杉原　洋
	〔履修年次〕　1，2いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】ニュースから現代社会を読む 【概要】マスメディアのニュース報道を素材に、「日本の今・世界の今」を読み解き、理解する力を養います。また、社会と向き合うときの立ち位置を構築する力を身につけることを目指します。 　安倍政権と国内・国際政治、イスラム国とは何か、原発とエネルギー、歴史とどう向き合えばいいか、少子・高齢化と地域の自立、デジタル社会の諸問題（匿名、なりすまし、炎上、データ漏洩など）などを検討しながら、現代をどのように生きるかを考えます。 【到達目標】①現代日本、現代世界で何が起きているかを説明する力を身につける、②社会人に求められる「時事問題の常識」「コミュニケーション能力」を磨く、③メディア情報を鵜呑みにしないメディア・リテラシーを身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に使用しません。授業には教員が作成したプリントを配布します。テーマによってはDVDを視聴します。 (2)　蒲島郁夫『改訂版メディアと政治』有斐閣アルマ、逢坂巌『日本政治とメディア』中公新書		
授業スケジュール	第1回　はじめに　全体オリエンテーション 第2回　イスラム国とは何か 第3回～5回　「集団的自衛権」と日本の安全保障 第6回～7回　中国、韓国、アジアの国々とどのように向き合うか 第8回～9回　歴史とどう向き合うか―ドイツと日本 第10回　日本国憲法は時代にそぐわないか 第11回～12回　川内原発と日本のエネルギー政策 第13回　少子・高齢化の進行と鹿児島 第14回　ツイッター、ライン、フェイスブックなど、ネット空間での諸問題 第15回　まとめ ※現代社会を理解する上で重要なニュースがあった場合は、授業スケジュールを変更して、適宜「ニュース解説」の授業に振り替えます。		
成績評価の方法	授業ごとに記入してもらう「感想シート」と、期末に提示する「リポート」課題を総合評価します（感想シート２０％、リポート８０％）。５回（全授業の３分の１）以上、無断欠席した場合は原則として、単位は認定できません。欠席届は事前に提出してください（不可能な場合を除く）。		

授業科目	**現代社会論**	担当者	篠田　剛
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】変容する現代社会の中を生きる 【概要】私たちは生まれた瞬間から家庭の中で育まれ、学校教育を受け、青年期の悩みを抱えながらも就職し、職場という社会で働き、家族を持ち、老後を迎える。何の変哲もないように見えるこの一生の間にも現代社会の変化は影響を与える。例えば、正社員になりたいという願望事態がほんの20年前にはほとんど存在しなかった願望である。本講義の前半は、私たちのライフ・ステージにそって現代社会の変容をスケッチしていく。そうしたイメージを前提に、後半では、現代社会の変容の全体像を理解し、現代社会でどう生きていくかを考えていく。 【到達目標】現代日本社会の全体像について自分なりの見方や考え方を身に着ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業の中で指示する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　現代社会の変容（1）学校・教育 第　3回　現代社会の変容（2）若者 第　4回　現代社会の変容（3）雇用・労働 第　5回　現代社会の変容（4）家族、育児、女性 第　6回　現代社会の変容（5）社会保障 第　7回　現代社会を捉える（1）戦後日本型モデルの成立と破綻 第　8回　現代社会を捉える（2）グローバリゼーション 第　9回　現代社会を捉える（3）福祉国家の理念と現実 第10回　現代社会を捉える（4）ネオリベラリズムの理念と現実 第11回　現代社会を生きる（1）格差社会とジェンダー 第12回　現代社会を生きる（2）「自分らしさ」と「働く」ということ 第13回　現代社会を生きる（3）喚起される欲望と消費 第14回　現代社会を生きる（4）民主主義の再考 第15回　まとめ		
成績評価の方法	小レポート（30%）、筆記試験（70%）		

授業科目	**社会哲学**	担当者	種村　完司
	〔履修年次〕　１年，２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】社会哲学において最も重要な課題である，現代の価値観や倫理の諸問題をとり上げる。 【概要】１）人生や社会の価値を問う倫理学は，どんな機能をもっており，他の学問とどのように関係しているか。２）科学技術は、現代人の生活にどんな影響を及ぼしているか，また，科学技術を支える価値観に問題はないか。３）地球規模で発生している自然環境・生態系破壊の中で，今どんな新しい倫理が求められているか。４）急速に発達している先端医療や生命科学において，どんな哲学的倫理的な問題が発生しており，それらをどう解決したらよいか。－などを中心的なテーマとして，わかりやすく講義する。 【到達目標】１）倫理学の性格や役割についての基礎知識　２）現代の科学技術や医療，自然環境・生態系問題に対する的確な理解　３）自分の生活や価値観への問い直し，倫理的思考力の育成　―等々を目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎回，必要な資料やプリントを配布する。 (2)		
授業スケジュール	第　１回　社会の哲学および倫理学の現代的機能 第　２回　倫理学の基本的性格と学問上の位置 ―「倫理」とは何か，「道徳」とは何か 第　３回　今日の科学技術が及ぼしている社会面・生活面への影響と問題点（その１） 第　４回　今日の科学技術が及ぼしている社会面・生活面への影響と問題点（その２） 第　５回　科学技術を支えている価値観についての反省 第　６回　現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（１）―「脳死」と死の判定 第　７回　現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（２）―「臓器移植」 第　８回　現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（３）―「安楽死」 第　９回　現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（４）―「尊厳死」とターミナル・ケア 第 10 回　地球環境・生態系問題の現実と哲学的課題 第 11 回　環境倫理学における諸問題（１）― 今日の主要な論争点 第 12 回　環境倫理学における諸問題（２）―「自然の権利」をめぐって 第 13 回　環境倫理学における諸問題（３）― 生命中心主義と人間中心主義 第 14 回　「持続可能な社会」にむけて必要な価値観と諸方策 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（７０％）＋毎回の授業での感想・意見（３０％）		

授業科目	**経済学**	担当者	篠田　剛
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】経済学の基礎 【概要】経済学は私たちの生きる現代社会の仕組みを説明する。なぜ多様な消費者と生産者がいるにもかかわらず商品交換は滞りなく行われるのか、不景気の下ではなぜ財政支出を拡大し金融緩和を行うのか、なぜ失業や経済格差はなくならないのか、そして、なぜ経済危機は繰りかえされるのか。経済活動がすべての人びとにとって生活の重要な一部である以上、経済学は私たちにとって欠かすことのできない教養といえる。本講義では、経済学の基礎的なエッセンスを広くまなび、自らの頭で今日の経済現象を読み解き、判断していくための力を身に着けることを目的としている。 【到達目標】経済学の基礎的なカテゴリーを学び、経済学的なものの見方を身に着ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業の中で指示する		
授業スケジュール	第　１回　ガイダンス 第　２回　比較優位の理論（１）生産可能性フロンティアと機会費用 第　３回　比較優位の理論（２）絶対優位と比較優位 第　４回　需要・供給曲線と価格メカニズム 第　５回　市場の効率性と市場の失敗 第　６回　付加価値と GDP 第　７回　有効需要と乗数理論 第　８回　財政政策と金融政策（１）IS 曲線と LM 曲線の導出 第　９回　財政政策と金融政策（２）IS-LM 分析 第 10 回　インフレーションとデフレーション 第 11 回　総需要と総供給 第 12 回　貿易と外国為替 第 13 回　資本主義のメカニズム（１）なぜそれでも失業や不安定雇用はなくならないのか 第 14 回　資本主義のメカニズム（２）なぜそれでも経済危機は繰り返されるのか 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	小レポート（30%）、筆記試験（70%）		

授業科目	**経済情報論**	担当者	内田　昌廣
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】日本経済が直面しているさまざまな課題について，現状を知り，何がどう問題なのかそうでないのか考えていきます。 【概要】日本経済を取り巻く経済の動きを採り上げ，受講者とともにさまざまな視点から掘り下げて考えていきます。 【到達目標】経済ニュースに関心を持ち，異なる視点・考え方を学び，経済の動きを多面的に捉える眼を持てるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　高橋伸彰『少子高齢化の死角―本当の危機とは何か』ミネルヴァ書房，東京大学高齢社会総合研究機構『2030 年　超高齢未来　―「ジェロントロジー」が日本を世界の中心にする』東洋経済新報社，スーザン・ジョージ×マーティン・ウルフ『徹底討論　グローバリゼーション　賛成／反対』作品社		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方について説明 第　2回　少子高齢化社会：　少子高齢化は悪いことなのか，少子高齢化で日本人は貧しくなるのか 第　3回　国の債務残高(1)：　国の借金が増えることは問題なのか，何が問題なのか 第　4回　国の債務残高(2)：　国民の貯蓄で国債を買い続けられるか 第　5回　デフレ経済：　なぜ日本はデフレ経済になったのか，アメリカはなぜデフレにならないのか 第　6回　為替相場制度：　変動相場制と固定相場制―それぞれのメリット・デメリットは何か 第　7回　企業のグローバル化：　企業の海外進出は不可避なのか，企業が海外進出することは問題なのか 第　8回　貿易収支(1)：　日本は貿易赤字国になっていくのか，貿易赤字は悪いことなのか 第　9回　貿易収支(2)：　輸出を増やすには何が必要か 第 10 回　自由貿易協定：　日本経済にとって有益なのか，有害なのか 第 11 回　食料輸入：　食料自給率をもっと引き上げるべきなのか 第 12 回　再生可能エネルギー：再生可能エネルギー発電の普及・電力自由化の課題は何か 第 13 回　新興国経済：　新興国の経済発展は，脅威なのか有益なのか 第 14 回　グローバリゼーション：　グローバリゼーションの良い面・悪い面，課題を考える 第 15 回　まとめ （授業評価アンケートの実施，期末レポートの提出）		
成績評価の方法	小レポート〔10 回〕（50%）＋ 期末レポート（50%）		

授業科目	**消費者問題**	担当者	石窪　奈穂美
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】「消費者問題を通して考える－自己責任社会における消費者のあり方・役割について」 【概要】規制緩和やグローバル化等，私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し，自己責任社会を迎えています。また，消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら，消費者の権利と責任について理解し，消費者問題を幅広い視点から捉え，問題点や解決策を考えます。その上で，消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。 【到達目標】消費者基本法が制定され，消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され，消費者自らが自立し，「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として，消費者として，社会人として，各自の価値システムをどう作り上げていくのか，消費者主権の主体的・合理的な選択，判断能力を養います。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　無し。随時プリント・資料等を配布する。 (2)　講義時に必要な際は紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション，消費者問題概論① 第　2回　消費者問題概論② 第　3回　消費者問題の歴史 第　4回　悪徳商法と消費者問題 第　5回　ネット社会と消費者問題 第　6回　消費者の権利と法的保護① 第　7回　消費者の権利と法的保護② 第　8回　消費者金融（クレジット・サラ金）問題 第　9回　安心・安全と消費者問題① 第 10 回　商品・サービスと消費者問題② 第 11 回　商品・サービスと消費者問題① 第 12 回　商品・サービスと消費者問題② 第 13 回　消費生活と環境問題 第 14 回　消費者の未来像―消費者主権の社会づくり 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	授業への参加態度（２０%），提出物（２０%），定期試験（６０%）による総合評価		

授業科目	**行政法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法の基本構造を体系的に把握し，行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。 【概要】周知のとおり，行政法は通則的法典が存在しておらず，そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では，行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則），行政行為，行政立法，行政計画，行政指導，行政契約，行政上の義務履行確保制度，行政手続等をわかりやすく解説し，行政法の基礎理論を体系的に理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法といった一般法について，国民の権利救済という視点から学習する。 【到達目標】行政法の基本原理，行政の行為形式論，行政上の一般制度，行政救済法について説明できるようになり，行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　井上正仁他編，ポケット六法，有斐閣		
授業スケジュール	第　1回　法律による行政の原理　・行政の定義，法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則 第　2回　行政立法　・法規命令（委任命令，執行命令），行政規則 第　3回　行政行為(1)　・公定力，不可争力，不可変更力，執行力，拘束力 第　4回　行政行為(2)　・無効の行政行為，取消しうべき行政行為，瑕疵の治癒と転換 第　5回　行政指導　・規制的行政指導，助成的行政指導，調整的行政指導，要綱行政 第　6回　行政上の義務履行確保制度　・代執行，執行罰，直接強制，行政上の強制徴収，行政罰 第　7回　行政手続法　・申請に対する処分，不利益処分，行政指導，命令等を定める行為 第　8回　行政不服申立て　・審査請求，異議申立て，再審査請求，教示 第　9回　行政事件訴訟法(1)　・抗告訴訟，取消訴訟，事情判決，執行不停止の原則，内閣総理大臣の異議 第10回　行政事件訴訟法(2)　・処分性，原告適格，法律の保護する利益説，保護に値する利益説 第11回　行政事件訴訟法(3)　・狭義の訴えの利益，無効等確認訴訟，義務付け訴訟，差止め訴訟 第12回　国家賠償法(1)　・代位責任説，自己責任説，公権力の行使の範囲，故意・過失，求償権 第13回　国家賠償法(2)　・公の営造物，人工公物，自然公物，高知落石事件，大東水害事件 第14回　損失補償　・正当な補償，完全補償説，相当補償説，国家補償の谷間，予防接種事故 第15回　公物，まとめ　・公共用物，公用物，自然公物，人工公物		
成績評価の方法	筆記試験(90%)，授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	**経済政策**	担当者	内田　昌廣
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】「課題先進国」と言われる日本の将来にとって，どのような政策が必要なのかを考えます。 【概要】人口減少社会への転換によって，これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度の再構築が迫られています。日本が抱えるさまざまな課題を採り上げ，受講者とともに将来の制度設計について考えていきます。 【到達目標】日本の課題について関心を持ち，さまざまな考え方やアプローチを踏まえて，自分自身で解決策を考える視点を持つこと。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　藻谷浩介・山崎亮『藻谷浩介さん，経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか?』学芸出版社，千葉忠夫『格差と貧困のないデンマーク―世界一幸福な国の人づくり』ＰＨＰ研究所，山崎亮『まちの幸福論―コミュニティデザインから考える』NHK出版，高岡望『日本はスウェーデンになるべきか』PHP研究所		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方 第　2回　経済成長を考える：　経済成長は善か悪か必要悪か，経済成長のための政策を考える 第　3回　産業空洞化を考える：　産業空洞化のどこが問題なのか，成長産業を育成するための政策を考える 第　4回　財政再建を考える(1)：　財政再建は必要なのか，社会保障と税の一体改革とは 第　5回　財政再建を考える(2)：　消費税増税の課題，税制の課題を考える 第　6回　社会保障の将来を考える(1)：　国は，誰をどこまで救うべきなのか? 第　7回　社会保障の将来を考える(2)：　弱者救済のための政策を考える 第　8回　社会保障の将来を考える(3)：　現役世代のための社会保障の充実策を考える 第　9回　雇用の将来を考える(1)：　非正規雇用と正規雇用の格差，正規雇用の男女間格差を考える 第10回　雇用の将来を考える(2)：　若者の雇用政策，高齢者の雇用政策を考える 第11回　地域経済の将来を考える(1)：　中央集権から地域主権へ，道州制は何を目指そうとしているのか 第12回　地域経済の将来を考える(2)：　地域経済を支える産業を考える 第13回　地域経済の将来を考える(3)：　農業の再生には何が必要かを考える 第14回　地域経済の将来を考える(4)：　地域社会で生きる（学ぶこと，考えること，行動すること，連携すること） 第15回　まとめ （授業評価アンケートの実施，期末レポートの提出）		
成績評価の方法	小レポート〔10回〕（50%）＋ 期末レポート（50%）		

授業科目	**社会政策**	担当者	朝日　吉太郎
	〔履修年次〕　1，2年　〔学期〕　前期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　世界中に蔓延する貧困と格差の原因をさぐる。 【概要】　今日の世界に蔓延する格差、貧困の原因を理解し、必要な対策を考える。 企業論、経営組織論、労務管理論の基礎科目であり、受講するとその後の科目理解に役立つ。 【到達目標】資本主義社会についての基礎的理解ができ、今日の社会を生きるために何が必要かを考察できるか。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に定めない。 (2)　授業内で指示する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス　講義の目的と進め方について 第　2回　資本主義社会の法則（1）ものの値段 第　3回　資本主義社会の法則（2）お金のひみつ 第　4回　資本主義社会の法則（3）企業のもうけ 第　5回　労働力という商品 第　6回　時間賃金派？出来高賃金派？ 第　7回　働き過ぎの日本人　なぜ長時間労働が 第　8回　工場法はなぜ生まれたか 第　9回　資本主義社会がもたらす貧困について 第10回　社会政策と資本主義国家 第11回　帝国主義と協調的労資関係の形成、ファシズムの本質 第12回　福祉国家と社会政策 第13回　日本の労働法制の動向 第14回　グローバル化と不安定雇用、職場専制の拡大 第15回　今日の社会政策をめぐる情勢，まとめ		
成績評価の方法	学期末試験		

授業科目	**社会思想**	担当者	渋谷　正
	〔履修年次〕　1,2年　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 資本主義形成期以降のヨーロッパの社会思想の変遷を辿る。 【概要】 近代思想は、資本主義の形成と発展を背景として、市民社会をどのように把握し、その社会でどのように生きるべきかを問うものとして、発展してきた。この市民社会思想とそれを批判する思想を、資本主義の歴史的発展とも関連させながら、考察する。 【到達目標】 近代思想の展開を理解することによって、資本主義の本質を見極めるための手掛かりを得ることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストは、使用しない。授業中に資料としてプリントを配布する。 (2)　服部文男編『社会思想史入門』青木書店。他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　資本主義の形成過程――本源的蓄積 第　2回　市民社会理論の端緒――ホッブズ『リヴァイアサン』 第　3回　イギリス名誉革命と社会思想 第　4回　市民社会理論の形成――ジョン・ロック 第　5回　市民社会理論の発展――デイヴィッド・ヒューム（1） 第　6回　市民社会理論の発展――デイヴィッド・ヒューム（2） 第　7回　市民社会理論の確立――アダム・スミス（1） 第　8回　市民社会理論の確立――アダム・スミス（2） 第　9回　市民社会理論の確立――アダム・スミス（3） 第10回　市民社会批判の社会思想――マルクスの史的唯物論（1） 第11回　市民社会批判の社会思想――マルクスの史的唯物論（2） 第12回　市民社会批判の社会思想――マルクスの史的唯物論（3） 第13回　ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義（1） 第14回　ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義（2） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋レポート（30%）		

授業科目	**民法**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　不問 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】暮らしを支える生活民法 市民生活の根幹である財産や家族を規律対象とする民法の入門講座 【概要】民法は企業間の取引にも、個人の生活上の取引にも共通して適用されるルールであり、取引以外にも結婚や離婚、親子関係の発生や親の責任、相続など家族に関するルールも含んでいる。個人の日常生活にかかわるルールを、具体的事例を通して講義する。 【到達目標】・個人の意思表示がどのような権利や義務を発生させるのかを理解できるようになること ・いざという時の為に事前に何を準備すればいいかを理解する ・自律した個人として尊重されるということはどういうことかを理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　大村敦志『生活民法入門』（東京大学出版会）		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：「取引民法」と「生活民法」 第　2回　農村社会の法としての民法：土地所有権と相続 第　3回　労働と民法：都市の場合と農村の場合 第　4回　住居と民法：民法典と借地借家法 第　5回　安全と民法：産業化と危険・不法行為法 第　6回　生活と民法（1）物・土地を買う 第　7回　生活と民法（2）財産を相続する 第　8回　生活と民法（3）契約の無効・取消を求める 第　9回　生活と民法（4）無効・取消の後始末をする 第10回　仕事と民法（1）サービスを提供する契約の種類と特徴 第11回　仕事と民法（2）サービス提供過程のコントロール 第12回　仕事と民法（3）債務不履行に対する救済方法 第13回　子どもと民法（1）親の責任と社会の責任 第14回　子どもと民法（2）誰が親か？ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業の時に提出してもらう小レポート（40%）＋　筆記試験（60%）		

授業科目	**商法**	担当者	板倉 大治
	〔履修年次〕　１年次，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】取引社会の変化とともに日々生成しつつある企業法の現在を判例・トピックを参照しながら探求する。 【概　要】現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を損ない、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。 商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。 【到達目標】 （1）民法・一般法人法のほかに、商法・会社法が設けられている理由やその役割を説明できる。 （2）企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。 （3）国際化や情報化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。 （4）地球環境時代の企業経営に関わる法制度を知り、社会的貢献のあり方について考えることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント（テキストと資料）を配布します（担当者のウェブサイトからダウンロードできます）。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　企業法としての商法 第　2回　商業登記と情報通信技術 第　3回　商号自由主義とその制限－CI 戦略と商号－ 第　4回　名板貸（名義貸し）の責任 第　5回　商号権によるブランドの保護－不正競争の防止－ 第　6回　営業譲渡とその効果 第　7回　営業所と商業使用人－商業代理人制度－ 第　8回　商業使用人と外観責任－表見支配人など－ 第　9回　企業会計と商法（商業帳簿）－会計帳簿・書類の電子化－ 第10回　企業取引と普通取引約款 第11回　消費者取引の規制－特定商取引法・製造物責任法－ 第12回　有価証券法の基礎 第13回　会社法の基礎 第14回　倒産処理の法制度 第15回　企業不法行為法－公害問題から地球環境問題へ－　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績によって評価します。受験資格として３分の２以上出席して下さい。		

授業科目	**産業心理学**	担当者	岡村　俊彦
	〔履修年次〕　1, 2 年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ 【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが，人間の基本的な特性もとらえることで，コンピュータを始め，システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし，購買行動に関する様々な要因を考えていく。 　簡単な心理実験，心理テストなども織り交ぜていく予定である。 【到達目標】商品，システム，労働環境を人間の快適性から評価し，改善を考えることができるようになる。また，購買行動に関わる心理を売り手，買い手の両面から考えることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　概要説明 第　2回　インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第　3回　記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第　4回　ヒューマンインターフェイス１：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第　5回　ヒューマンインターフェイス２：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第　6回　職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第　7回　仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第　8回　人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係 第　9回　ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例 第 10 回　広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第 11 回　販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第 12 回　説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印章管理 第 13 回　人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第 14 回　こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート２回分が 80%，授業中のショートレポートが 20%）		

授業科目	**簿記論 I**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式（黒板とパワーポイントの併用		
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の仕組みの理解 【概要】みなさんは，これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では，何をいつ買ったか（現金収支とその明細）くらいしか記入しなかったと思います。しかし，利益の獲得を目的としている営利企業は，現金収支に限らず，さまざまな取引を記帳しています。企業はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み（原理）を理解することがこのコース（科目）の目的です。 【到達目標】複式簿記の仕組みを理解し，初歩的な会計の知識を獲得する，日商簿記３級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部ほか『新検定　簿記講義　３級　商業簿記』（平成 27 年度版），中央経済社。（予定）・・・簿記論 II と共通 　渡部ほか『新検定　簿記ワークブック　３級　商業簿記』，中央経済社。（予定）・・・簿記論 II と共通 (2)　①中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』，税務経理協会，2004 年。 　②上野清貴監修『簿記のススメ　ー人生を豊かにする知識』，創成社，2012 年。 　③新井清光・川村義則『新版　現代会計学』，中央経済社，2014 年。 　④渡邉泉『会計の歴史探訪』，同文舘出版，2014 年。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス，簿記って何？：履修登録確認，配布資料（簿記・会計の歴史），コース・パケット 第　2回　簿記の意味・目的・種類：テキスト第１章，簿記の基礎概念：テキスト第２章 第　3回　取引：テキスト第３章，商工会議所簿記検定試験許容勘定科目表 第　4回　勘定と仕訳：テキスト第４章 第　5回　帳簿の記入：テキスト第５章，決算と財務諸表（その１）：テキスト第６章 第　6回　決算と財務諸表（その１）：テキスト第６章 第　7回　簿記一巡の手続きに関する学習（資料配布） 第　8回　復習，予習・復習状況の確認：第６回までの資料，場合によっては小テスト 第　9回　現金預金取引：テキスト第７章（これ以降は，簿記論 II に回す可能性がある） 第 10 回　商品売買（３分法）：テキスト第８章 第 11 回　商品売買（３分法）：テキスト第８章 第 12 回　売掛金と買掛金：テキスト第９章 第 13 回　その他の債権と債務：テキスト第 10 章 第 14 回　復習：テキストとワークブックを用いた復習 第 15 回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施 経済，経営情報専攻の受講モデル １年前期：簿記論 I １年後期：簿記論 II，財務会計論 　管理会計論，経営分析 　原価計算 ２年前期：コンピュータ会計		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%），および筆記試験（80%）で評価します。 第１回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

（注）2015 年度の簿記論 I, II は，前期，後期に連続して開講されます。簿記論 I を履修する学生は，後期に簿記論 II の履修登録を行うことをお勧めします。

授業科目	**経営学総論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義形式	
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。 【概要】この講義では、これから経営学を学ぶに当たって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけはなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第　1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第　2回　経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第　3回　経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第　4回　企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第　5回　企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第　6回　人と企業との関係について（1）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第　7回　人と企業との関係について（2）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。 第　8回　人と企業との関係について（3）：消費者の立場から、企業との関係を考える。 第　9回　人と企業との関係について（4）：企業の社会的責任について考える。 第10回　日本的経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第11回　組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第12回　企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。 第13回　経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第14回　企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第15回　まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。		

（注）

授業科目	**情報科学概論**	担当者	岡村　俊彦
	〔履修年次〕　1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ 【概要】コンピュータ（ハードウェア，ソフトウェア，周辺機器）やネットワークの仕組みを知り，現代社会においてどのような役割があり，どのような問題点があるかを知る。結果として，効果的かつ適切なＩＴ活用が可能となり，トラブル解決もできるようになる。また，ネットワークを安全に使うためのルール，マナーを学ぶ。また，授業の３分の１程度の時間を使い，ＩＴに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。 【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を８０％以上理解できる　・初心者に対して，パソコンやネットワークの安全，便利な運用に関する簡単なアドバイスができる　・調子の悪いパソコンを直す		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)　初心者向け情報関連雑誌		
授業スケジュール	第　1回　概要説明 第　2回　ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割 第　3回　パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割 第　4回　単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量，速度 第　5回　コンピュータウィルス：コンピュータウィルスの仕組みと防御法 第　6回　インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み 第　7回　学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第　8回　電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法 第　9回　インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方 第10回　周辺機器：モニタ，光学ドライブ，プリンタなど周辺機器の役割，仕組み 第11回　クラウドとビッグデータ：新たなインターネットのトレンドと今後の展開 第12回　ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法 第13回　スペックの見方：パソコン，周辺機器のスペック（仕様）の見方 第14回　学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート２回分が 80%，授業中のショートレポートが 20%）		

授業科目	**文書作成実習**	担当者	永仮　ゆかり	
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕　1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。 使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Word の応用機能も習得していく。 【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得）			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)			
授業スケジュール	第　1回　前期の復習　：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第　2回　あいさつ状の作成　：ビジネス文書の基礎知識、社外文書の作成（あいさつ状） 第　3回　社内文書の作成　：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野） 第　4回　図解の利用　：図解を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第　5回　企画書の作成　：計算式を含む文書の作成、知識問題（共通分野） 第　6回　詫び状の作成　：図形を含む文書の作成、知識問題（共通分野） 第　7回　検定対策　：課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野） 第　8回　検定対策　：文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第　9回　検定対策　：文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第10回　Excel データの利用　：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み 第11回　文書の編集　：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など） 第12回　議事録の作成　：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど） 第13回　報告書の作成　：課題文書作成（テキストファイルの利用、書式のコピーなど） 第14回　稟議書の作成　：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第15回　まとめ			
成績評価の方法	定期試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）			

（注）経済専攻と経営情報専攻とは、別クラス

授業科目	**統計学**	担当者	倉重　賢治	
	〔履修年次〕　不問	〔学期〕	後期	
	〔単位〕　2単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ 【概要】 現在，情報技術を有効に活用してデータ収集を行い，そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では，そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。 【到達目標】 ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　木下栄蔵，『入門統計解析』，講談社サイエンティフィク			
授業スケジュール	第　1回　序論：統計学とは 第　2回　データの基本処理：平均値，度数分布 第　3回　データの基本処理：分散，標準偏差 第　4回　データの基本処理：標準正規分布 第　5回　データの基本処理：正規分布と偏差値 第　6回　データの基本処理：確率分布 第　7回　統計解析：順位相関 第　8回　統計解析：相関係数 第　9回　統計解析：回帰直線 第10回　統計解析：重回帰分析 第11回　統計解析：カイ２乗検定 第12回　統計解析：平均値の推定 第13回　統計解析：平均値の検定 第14回　統計解析：分散分析 第15回　まとめ			
成績評価の方法	期末試験（100%）			

授業科目	**応用文書処理**	担当者	岡村　俊彦
	〔履修年次〕　２年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　１単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら，ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ 【概要】 １）　自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に，グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する ２）　提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い，架空の提案書を作成する ３）　ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し，公開する。 【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる　・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)　なし		
授業スケジュール	第　１回　概要説明 第　２回　自己紹介文書作成１：ワープロを使ったベース文書の作成 第　３回　自己紹介文書作成２：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第　４回　自己紹介文書作成３：写真，図の取り扱いとベース文書の結合 第　５回　自己紹介文書作成４：仕上げ。印刷設定のコツ 第　６回　提案書作成１：インターネットによる費用検索 第　７回　提案書作成２：表計算ソフトを使った自動計算書 第　８回　提案書作成３：プレゼン資料の作成 第　９回　提案書作成４：仕上げ，データ送信のコツ 第 10 回　ホームページ作成１： HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入。 第 11 回　ホームページ作成２：課題設定とページ作成 第 12 回　ホームページ作成３：資料収集とページ作成 第 13 回　ホームページ作成４：ページ公開 第 14 回　予備 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（３つの課題を総合的に評価）		

授業科目	**PCデータ活用(経済)**	担当者	口脇　淳子
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　１単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30 時間でマスター　Excel2013　実教出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第　１回　習熟度確認アンケート　Excel の起動と画面の確認　文字入力の確認 第　２回　簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認 第　３回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第　４回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第　５回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第　６回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第　７回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など） 第　８回　各関数を利用した実習問題 第　９回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第 10 回　円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第 11 回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第 12 回　データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13 回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか） 第 14 回　データの集計（ピボットテーブル） 第 15 回　前期のまとめ		
成績評価の方法	期末試験（60%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（40%）		

（注）

授業科目	PCデータ活用(経営情報)	担当者	口脇　淳子		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2013　実教出版株式会社 (2)				
授業スケジュール	第　1回　習熟度確認アンケート　Excelの起動と画面の確認　文字入力の確認 第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど） 第　8回　各関数を利用した実習問題 第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第10回　円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第11回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第12回　データベース入門：データベース作成上の各機能 第13回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか） 第14回　データの集計（ピボットテーブル） 第15回　前期のまとめ				
成績評価の方法	期末試験（60%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（40%）				

授業科目	PCデータ活用実習(経済)	担当者	口脇　淳子		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。 【到達目標】 知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認 ☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2013　実教出版株式会社 (2)　プリント				
授業スケジュール	第　1回　前期授業の復習　知識科目問題プリント 第　2回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題プリント 第　3回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題プリント 第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題プリント 第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題プリント 第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題プリント 第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題プリント 第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題プリント 第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第10回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題プリント 第11回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題プリント 第12回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題プリント 第13回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題プリント 第14回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題プリント 第15回　後期のまとめ　知識科目問題プリント				
成績評価の方法	期末試験（60%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（20%）				

(注)

授業科目	PCデータ活用実習（経営情報）	担当者	口脇　淳子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。 【到達目標】 知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認 ☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2013　実教出版株式会社 (2)　プリント		
授業スケジュール	第　1回　前期授業の復習　知識科目問題プリント 第　2回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題プリント 第　3回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題プリント 第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題プリント 第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題プリント 第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題プリント 第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題プリント 第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題プリント 第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第10回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題プリント 第11回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題プリント 第12回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題プリント 第13回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題プリント 第14回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題プリント 第15回　後期のまとめ　知識科目問題プリント		
成績評価の方法	期末試験（60%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（20%）		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】　学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション･ソフトウェアを実践的に使いこなせるようにする。 【概要】　本実習は前期の情報リテラシーII（E）（F）の応用となるので、前期の PC 経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種ソフトウェア（プレゼンテーション、PDF ファイル、OCR、動画編集、HP 作成など）の基本的な使い方を学習する。また、習いたいソフトウェアについて事前アンケートを取るので、これらにできるだけ対応したいと考えている。 【到達目標】上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第　1回　授業前アンケート（使用ソフトウェアの希望など）と前期授業の復習 第　2回　プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint（1） 第　3回　プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint（2） 第　4回　動画ファイルの扱い方･･･ムービーメーカーの使い方 第　5回　動画ファイルの扱い方･･･ムービーの撮影 第　6回　動画ファイルの扱い方･･･ムービーの編集 第　7回　PDF ファイルの扱い方…OCR の利用 第　8回　PDF ファイルの扱い方…文書ファイルの統合 第　9回　PDF ファイルの扱い方…セキュリティ設定 第10回　ホームページの作成（1） 第11回　ホームページの作成（2） 第12回　ホームページの作成（3） 第13回　最新のインターネット活用法 第14回　アンケートにより学生が希望したソフトウェアへの対応 第15回　まとめ		
成績評価の方法	3回の課題（60%）と試験（40%）の総合評価		

（注）

11　経済専攻専門科目

授業科目	**日本経済論**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】日本経済 【概要】明治から現在までの日本の産業政策と，構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記，授業スケジュールを参照)。 【到達目標】現在，アベノミクスと呼ばれる経済政策を焦点に，日本経済はどういった方向に進むべきか，様々な議論がなされていますが，そうした議論は一定の方向に収束する様相を見せず，厳しい対立が続いています。こうした状況では特に，自分自身で主体的に考え，判断できることが非常に重要となります。この講義では，日本経済の特質と問題点，そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め，日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策　第３版』有斐閣		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第　2回　日本の産業政策の歴史　戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第　3回　日本の産業政策の歴史　戦前(2)：明治維新の意義，その後の産業構造の変化等 第　4回　敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況，傾斜生産方式，1950 年代前半の産業政策等 第　5回　高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第　6回　日本の産業政策と行政指導：勧告操短，企業の反発等 第　7回　開放体制への移行：IMF8 条国への移行，産業再編等 第　8回　1970 年代の日本経済：2 度のオイル・ショック，構造不況業種への対応，知識集約化・高付加価値化への動き等 第　9回　企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き，現在の状況等 第 10 回　1980 年代以降の日本経済：対米貿易摩擦，日米構造協議等 第 11 回　現在の産業政策：産業競争力強化法，現在の産業政策の特徴等 第 12 回　グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調，バブル崩壊後の動向等 第 13 回　構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14 回　構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識，構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等，詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

(注)

授業科目	**財政学**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】財政・財政学 【概要】財政に関する基本的な概念や理論，日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に，グローバル化の影響等についても講義します(下記，授業スケジュール参照)。 【到達目標】財政には，政府の活動が正直に反映され，その政府の活動は，社会のあり方や人々の生活，経済状況に極めて重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活，経済状況は，国民一人一人の財政に対する判断によって大きく変わることになるでしょう。そこで，本講義では，受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え，判断できるようになることを目指し，財政に関する基本的な概念や理論，そして日本の財政の制度，実態，抱えている課題について理解を深めることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第　2回　財政とは何か：財政の定義，政府に対する評価の揺れ，市場の失敗，政府の機能等 第　3回　予算(1)：定義，役割，予算原則等 第　4回　予算(2)：日本の制度，その抱えている課題，改革の方向等 第　5回　経費(1)：定義，経費を分析する意味，経費の分類等 第　6回　経費(2)：経費膨張の法則・転位効果，小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第　7回　租税(1)：定義，租税の根拠，代表的な租税原則等 第　8回　租税(2)：公平の基準，望ましい税制とは等 第　9回　公債(1)：定義，民間債務との対比，租税との対比，公債の種類等 第 10 回　公債(2)：日本の国債発行における原則，制度，「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11 回　財政投融資(1)：定義，運用対象，批判等 第 12 回　財政投融資(2)：2001 年度の改革，今後の展望等 第 13 回　財政の国際化：国際公共財，グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回　財政改革を考える：社会の変化と財政，本当の財政危機とは，財政改革で求められる視点等 第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等，詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**農業経済論**	担当者	田中　史朗
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】世界の中の日本農業―日本農業の針路― 【概要】世界および日本の農業動向と課題を分析・摘出し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、いかに日本農業の再建を図り、地域社会再生に繋げていったらよいのかを、多角的に検証し解明していく。 【到達目標】世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本農業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本農業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　1回　世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第　2回　農産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農産物貿易の特徴とフードマイレージ 第　3回　マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第　4回　農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第　5回　ヨーロッパ、新大陸、日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第　6回　途上国における「緑の革命」の功罪と限界について：緑の革命とは 第　7回　農業開発と環境問題：途上国の人口爆発と環境破壊 第　8回　食の安全と農業：遺伝子組み換え作物とＢＳＥ問題 第　9回　農業組織論：農業経営組織の種類と特徴 第10回　映像でみる戦後日本農業の歩み 第11回　戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第12回　日本農業の現状と課題（1）：国民経済に占める農業の地位と食料自給率の推移 第13回　日本農業の現状と課題（2）：農業の近代化と担い手問題 第14回　農業の再生への道標：六次産業化と都市との交流 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(４０％)＋期末試験（６０％）		

授業科目	**金融論**	担当者	内田　昌廣
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】金融に関する基礎知識を習得するとともに，金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。 【概要】金融の役割や金融機関が果たしている機能から，金融業界が直面している課題や金融危機の原因まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済との関わりを幅広く学習することによって，社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身に付けます。 【到達目標】金融の基本的な知識を習得し，金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　川西諭・山﨑福寿『金融のエッセンス』有斐閣，杉山敏啓編『実務入門　改訂版　金融の基本教科書』日本能率協会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ，滝田洋一『金利を読む』日経文庫，慎泰俊『ソーシャルファイナンス革命―世界を変えるお金の集め方』技術評論社		
授業スケジュール	第　1回　概要説明：　講義の目的・進め方 ／ 序論：金融が果たす役割とは何だろう？ 第　2回　銀行の役割（1）：　決済の仕組み（内国為替，手形，外国為替） 第　3回　銀行の役割（2）：　預金と貸出の関係，預金金利・貸出金利の決定方法，銀行の信用創造機能 第　4回　銀行の役割（3）：　貸出形態，貸出審査，信用補完（担保・保証） 第　5回　銀行の役割（4）：　新しい貸出手法（動産担保融資，知的財産担保融資，リバースモーゲージ） 第　6回　銀行の役割（5）：　地域金融機関の取り組み（リレーションシップ・バンキング，経営統合の動き） 第　7回　銀行の役割（6）：　金融機関に対する規制，預金者保護のための制度 第　8回　証券会社の役割（1）：　株式の仕組み，株式市場の仕組み，株式上場の意義 第　9回　証券会社の役割（2）：　証券会社の役割，投資家保護のための制度 第10回　保険会社の役割（1）：　保険の仕組み，生命保険と損害保険，生命保険と損害保険の相互参入 第11回　保険会社の役割（2）：　保険会社の経営，機関投資家としての役割，保険会社に対する規制，契約者保護のための制度 第12回　日本銀行と金融政策：　日本銀行の金融政策（金融引き締め・金融緩和，量的緩和政策） 第13回　金融危機から学ぶこと：　金融危機を防ぐには 第14回　金融の新しい動き：　ソーシャル・ファイナンス（社会的課題を解決するための金融）の将来 第15回　まとめ （授業評価アンケートの実施，マイクロファイナンス・ビデオ視聴）		
成績評価の方法	筆記試験　(100%)		

授業科目	**経済学史**	担当者	篠田　剛
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】資本主義の歴史と経済学の発展 【概要】私たちの生活と経済は切っても切り離せない。それゆえ、現代に生きる私たちは、経済分析や経済政策の基礎理論を提供する経済学とも無関係でいることはできない。そもそも経済学は資本主義とともに誕生した。そして、経済学者たちは資本主義の抱える矛盾や謎と格闘してきた。その意味で経済学は観念の産物でも既に完成された学問でもなく、論争を繰り返しながら常にその時々の現実的課題に突き動かされて発展する生きた学問である。各時代を代表する理論を取り上げながらこれからの経済学の課題を考える。 【到達目標】代表的な経済理論の意義と限界をその時代の歴史的課題と関連づけながら理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業の中で指示する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　ケネー――重商主義批判と重農主義の経済学 第　3回　アダム・スミス（1）スミスの市民社会論 第　4回　アダム・スミス（2）古典派経済学の誕生 第　5回　リカードとマルサス――永遠のライバルによる古典派経済学の確立 第　6回　リスト――ドイツ歴史学派による古典派経済学批判 第　7回　マルクス（1）労働価値論の刷新 第　8回　マルクス（2）剰余価値の解明 第　9回　マルクス（3）資本主義の根本矛盾 第 10回　ジェボンズ、メンガー、ワルラス――限界革命 第 11回　ケインズ（1）大恐慌とケインズ革命 第 12回　ケインズ（2）有効需要の理論と経済政策 第 13回　ケインズ以後――ケインズへの挑戦 第 15回　経済学に残された課題 第14回　まとめ		
成績評価の方法	小レポート（30%）、筆記試験（70%）		

授業科目	**経済学特講Ⅰ**	担当者	内田　昌廣
	〔履修年次〕　２年次が望ましい　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】証券取引の実務を学びます。 【概要】株式や債券，投資信託などの証券商品は，私たちの資産形成の手段として身近なものとなっています。本講義では，証券取引に携わる証券会社や金融機関の職員に必要とされる実務知識を習得します。 【到達目標】証券外務員二種資格試験に合格できる程度の知識を習得すること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　ファイナンシャルバンクインスティチュート㈱『うかる！証券外務員二種　最速テキスト 2015-2016 年版』日本経済新聞出版社 (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方 ／ 序論：間接金融と直接金融 第　2回　証券の仕組み：　株式・債券の仕組み，証券市場（発行市場，流通市場） 第　3回　株式会社法：　株主の責任と権利，株式会社の機関 第　4回　財務諸表と企業分析(1)：　財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の仕組み，収益性分析，安全性分析 第　5回　財務諸表と企業分析(2)：　資本効率性分析，成長性分析，損益分岐点分析 第　6回　株式業務：　売買の種類，証券取引所での売買，店頭取引，株式の上場，証券投資計算 第　7回　証券売買のルール(1)：　証券取引所のルール 第　8回　証券売買のルール(2)：　証券業協会のルール 第　9回　証券取引のルール(3)：　金融商品取引法のルール 第10回　債券業務(1)：　債券の仕組み，債券売買手法，利回り計算 第11回　債券業務(2)：　転換社債型新株予約権付社債 第12回　投資信託業務：　投資信託の仕組み，委託者指図型投資信託のルール 第13回　証券税制：　利子所得・配当所得・譲渡所得に対する課税，相続・贈与に対する課税 第14回　小テスト 第15回　まとめ（授業評価アンケートの実施，小テスト答案返却，企業合併と経営統合との違いとは）		
成績評価の方法	小テスト（100%）		

（注）

授業科目	**簿記論Ⅱ**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式（黒板とパワーポイントの併用）		
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記と財務諸表 【概要】簿記論Ⅰ などで簿記一巡の手続きを学習した学生を対象として，諸取引の処理と決算に関して学習します。 また，新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。 【到達目標】複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により，最終的に，財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部ほか『新検定　簿記講義　３級　商業簿記』（平成 27 年度版），中央経済社。（予定）・・・簿記論 II と共通 渡部ほか『新検定　簿記ワークブック　３級　商業簿記』，中央経済社。（予定）・・・簿記論 II と共通 (2)　①中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』，税務経理協会，2004 年。 ②上野清貴監修『簿記のススメ　ー人生を豊かにする知識』，創成社，2012 年。 ③新井清光・川村義則『新版　現代会計学』，中央経済社，2014 年。 ④渡邉泉『会計の歴史探訪』，同文舘出版，2014 年。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：履修登録確認，配布資料，コース・パケット，前期（簿記論Ⅰ）の復習（簿記論Ⅰの積み残しなど） 第　2回　手形：テキスト第 11 章 第　3回　有価証券：テキスト第 12 章 第　4回　固定資産：第 13 章 第　5回　資本金と引出金：第 14 第　6回　収益と費用：第 15 章 第　7回　消耗品：第 15 章，税金：第 16 章 第　8回　復習，予習・復習状況の確認：第 7 回までの資料，場合によっては小テスト 第　9回　帳簿と伝票：第 17 章 第 10 回　決算と財務諸表（その２）：第 18 章 第 11 回　決算と財務諸表（その２）：第 18 章 第 12 回　決算と財務諸表（その２）：第 18 章 第 13 回　復習：テキストとワークブックを用いた復習 第 14 回　復習：テキストとワークブックを用いた復習 第 15 回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施 経済，経営情報専攻の受講モデル １年前期：簿記論Ⅰ １年後期：簿記論Ⅱ，財務会計論 管理会計論，経営分析 原価計算 ２年前期：コンピュータ会計		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%），および筆記試験（80%）で評価します。 第１回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

（注）2015 年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も簿記論 II を履修登録できます。

授業科目	**国際経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタの SPS と日系ブラジル人 【概要】グローバル化が加速する 21 世紀の世界経済について，その制度的な枠組みを WTO，FTA，EPA を中心に，バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで，日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに，海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で，国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。 【到達目標】21 世紀のグローバル化の現状を制度面と，その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂 (2)		
授業スケジュール	第　1回　21 世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第　2回　WTO の仕組み：最恵国待遇，内国民待遇，数量制限の禁止，ドーハラウンド 第　3回　FTA とバラッサの５段階説：EU 第　4回　進展する FTA と EPA の限界：東アジア共同体か TPP か，NAFTA，メルコスル。日本の EPA 戦略の意義と限界 第　5回　海外工場から始まる最新のモノづくり（中国１）：広汽トヨタにおける SPS とリーン化の進展 第　6回　同上（中国２）： SPS と労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第　7回　同上（中国３）：サプライヤーパーク内専用道順引き：JIT から JIS への進化と負担転嫁 第　8回　同上（中国４）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第　9回　同上（中国５）：中国金型産業の発展と限界 第 10 回　同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式 SPS 第 11 回　同上（台湾）：国瑞汽車における AGV 牽引同期台車式 SPS 第 12 回　同上（インドネシア）：TMMIN におけるハンガー式 SPS 第 13 回　内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第 14 回　同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）

授業科目	**アジア経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望 【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト，モノ，カネの出入りが自由な共同体，EUを結成している。この27カ国は，地面の上には国境がなく，文字通り自由に出入りできる。アジアにも，こうした自由な共同体はできるのか？TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで，世界経済の成長を牽引する中国，インド，東南アジアの現状を概説する。以上の検討を踏まえて，アジア経済の未来を展望する。 【到達目標】アジア共同体への道を，各国の発展の現状から理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車IMV』文眞堂 (2)		
授業スケジュール	第　1回　アジアとヨーロッパ：統合に向かう成長と統合による成長 第　2回　アジア経済への道（1）：経済統合の5段階 第　3回　同上（2）：TPPによる完全自由化への道 第　4回　同上（3）：東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第　5回　中国経済（1）：経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第　6回　同上（2）：社会主義を目指す資本主義 第　7回　同上（3）：アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国～改革開放30年の成果～ 第　8回　インド経済（1）：インドの概況 第　9回　同上（2）：植民地から独立，管理経済を経て91年から自由化 第10回　同上（3）：民族資本として成長するTATA 第11回　東南アジアの経済（1）：タイとインドネシア 第12回　同上（2）：マレーシア，フィリピン，ベトナム 第13回　アジアの未来（1）：中国，インド，日本の役割 第14回　同上（2）：アジア共同体への展望 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**国際関係論**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　1年，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。その後，特に貧困問題，環境問題，人権，テロ，グローバルガバナンスについての説明と，問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣，2006年）。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的，方法 第　2回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか 第　3回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化 第　4回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第　5回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１ 第　6回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２ 第　7回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争 第　8回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム 第　9回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序 第10回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題 第11回　国際社会における諸問題２：貧困と開発 第12回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題 第13回　国際社会における諸問題４：対テロ 第14回　国際社会における諸問題５：グローバルガバナンス 第15回　まとめ		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

（注）

授業科目	**アジア事情**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。 【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化，現代においては脱植民地化，国民国家建設，リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また，最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し，分析する。 【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　プリント		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的と方法 第　2回　「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第　3回　歴史的形成１：植民地以前のアジア 第　4回　歴史的形成２：植民地のようす 第　5回　歴史的形成３：植民地からの独立 第　6回　歴史的形成４：脱植民地化，国民国家建設，開発 第　7回　歴史的形成５：冷戦下のアジア 第　8回　東南アジア１：インドシナ三国 第　9回　東南アジア２： ベトナム戦争の影響 第10回　東南アジア３：タイ，ミャンマー，マレーシア 第11回　東南アジア４：メコン河流域開発 第12回　東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成 第13回　アジアにおける協力体制１：ASEAN を中心とする協力１ 第14回　アジアにおける協力体制２：ASEAN を中心とする協力２ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（１００％）によって評価する。		

授業科目	**ヨーロッパ事情**	担当者	大重　康雄
	〔履修年次〕　1.2 年いずれでも履修可能 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式	
テーマ及び概要	【テーマ】 ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ（EU）がもたらす世界経済への影響や内包する課題を考察する。 【概要】 ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）から通貨統合およびその後の金融財政危機に至る過程に重点を置き、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に EU 財政危機・景気低迷の影響が深刻化しており、ＥＵにおける雇用や財政問題・環境・エネルギー問題への対処を米国や日本と比較し、将来への展望を全員で考える。 【到達目標】 ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携協定が地域にどのような影響を与えるかが理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済　第４版』有斐閣アルマ　および講師作成プリント (2)　遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか		
授業スケジュール	第　1回　現在ヨーロッパで何が起こっているか 第　2回　ヨーロッパ統合前史 第　3回　ヨーロッパ統合の歴史 第　4回　統一通貨ユーロとは 第　5回　国際金融危機とＥＵ財政諸問題 第　6回　ＥＵ社会が抱える課題 第　7回　イギリスとＥＵ経済 第　8回　フランスとＥＵ経済 第　9回　ドイツとＥＵ経済 第10回　その他諸国とＥＵ経済 第11回　中・東欧諸国と EU 経済 第12回　ＥＵと対外通商関係 第13回　欧州通貨と国際金融システム 第14回　ヨーロッパ社会と統合の将来について　（まとめ） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80%）　＋　授業での発言内容（20%）		

（注）

授業科目	**国際経済特講**	担当者	梅　允中
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】外国為替と貿易実務 【概要】経済のグローバル化の進展は著しく，消費者のニーズも多様化していることによって，貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで，これからは，輸出入取引の仕組みや外国為替，貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。 　この講義では，貿易実務について広く習得し，貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また，貿易実務を学習しながら，貿易英語も勉強します。 【到達目標】貿易実務担当者レベル		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　最新版　貿易実務　ハンドブック　日本貿易実務検定協会　編　　発行所　中央書院 (2)　必要に応じて資料を配布する		
授業スケジュール	第１回～　輸入編 第４回　・貿易とは，規制の確認，インコタームズ，輸入の流れ ・輸入採算，契約，海上貨物保険付保 ・決済方法，通関，貨物引取り 第５回～　輸出編 第７回　・取引準備・契約，輸出採算，輸出流れ， ・輸出信用状 ・輸出書類作成 第８回～　外国為替編 第９回　・外国為替の仕組み ・為替リスク ・外国為替と銀行取引 第10回　貨物海上保険，信用状の実務 第11回　輸出入通関と関税 第12回　仲介貿易 第13回　貿易実例紹介 第14回　貿易実例紹介 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験の成績（７０％）に，授業での発言内容及び予習の状況（３０％）を加味する。		

(注)

授業科目	**地域経済論**	担当者	田中　史朗
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　２単位　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】地域経済と第一次産業―地域再生の視角― 【概要】離島・半島など条件不利地域において（鹿児島県とてその例外ではなく，むしろ多く抱える），どのような問題を抱え，どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいのかを，事例分析を通して，多角的に解析し，考察していく。 【到達目標】農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて，それに対する政策的処方箋を導出するなど，地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　１回　地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（1） 第　２回　地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（2） 第　３回　内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展 第　４回　地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題 第　５回　農山漁村地域の活性化 実態編（1）：農山村地域での地域づくりとその手法 第　６回　農山漁村地域の活性化 実態編（2）：漁村地域での地域づくりとその手法 第　７回　資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織 第　８回　里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト 第　９回　第一次産業の担い手問題：後継者対策とＵ・Ｉターン者 第10回　地域リーダー論：地域リーダーの特徴，育成，そして役割 第11回　経営組織論：地域づくりと経営組織形態 第12回　農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック 第13回　農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み 第14回　地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第15回　まとめ 「農山漁村地域再生への道標」		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(４０％)＋期末試験（６０％）		

(注) 意欲的に学習に取り組む者の受講を強く望む。

授業科目	**地域産業政策**	担当者	田中　史朗
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】地域経済の再建と地域社会の再生 【概要】閉塞感の漂う条件不利地域にあって，地域の持続的な発展に何が必要なのか，事例分析を踏まえて解明していきたい。 【到達目標】地域のニーズを知る力，地域の課題や問題点を的確に捉えて，その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　1回　条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第　2回　日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第　3回　日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第　4回　日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第　5回　経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第　6回　内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第　7回　地域再生のための手法：六次産業化と異業種連携 第　8回　農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第　9回　山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第10回　漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第11回　地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティづくり 第12回　地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第13回　地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第14回　地域再生のための内発的発展モデル：人，組織，環境，産業 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(４０%)＋期末試験（６０%）		

授業科目	**地方自治論**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】地方自治，地方行財政 【概要】地方自治とは何か，日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて，地方自治に関する基本的な理論や制度について講義するとともに，参考になると思われる海外の事例も取り上げます(下記，授業スケジュールを参照)。 【到達目標】近年，地方分権を求める声が高まっていますが，地方自治とは何か，なぜそれが尊重されるべきなのかといった根本的なことへの社会的な理解は必ずしも深まっていないように感じられます。この講義では，地方自治に関する基本的な理論，そして日本の地方自治に関する制度やその課題について理解を深め，地方自治，地方行財政について，自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　林健久編『地方財政読本　第５版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第　2回　地方自治：地方自治とは何か，地方政府の特徴，地方分権が求められる背景，グローバル化の影響等 第　3回　地方自治体の意思決定(1)：役所と議会の関係，国と地方自治体の関係等 第　4回　地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度，長の強い権限等 第　5回　地方自治体の財源(1)：三位一体の改革，地方債等 第　6回　地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法，地方債改革との関係等 第　7回　地方財政健全化法(2)：法律成立の背景，影響等 第　8回　地方自治体の財源(2)：地方交付税，国庫支出金等 第　9回　法定外税(1)：法定外税の定義，地方分権一括法での変更点，現在の傾向等 第10回　法定外税(2)：受益・原因と負担の関係，利点と問題点等 第11回　市町村合併：「平成の大合併」とその背景，望ましい合併とは，現在の状況等 第12回　市民参加・参画：歴史，求められている背景，小田原市の事例等 第13回　非営利組織：アメリカの非営利開発法人の事例等 第14回　住民自治：シアトル・メトロの事例について 第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等，詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**高齢者福祉**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義	
テーマ及び概要	【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000 年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。 【概要】本科目は，本科目は，商経学科経済専攻の専攻専門科目のうち、地域政策の科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。 【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『介護保険は老いを守るか』沖藤典子著、岩波新書 (2)　授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス　この授業のすすめ方 第　2回　（講義）福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策 第　3回　（講義）資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義 第　4回　（発表）テキスト「第１章　介護保険はなぜ創設されたのか」その１ 第　5回　（発表）テキスト「第１章　介護保険はなぜ創設されたのか」その２ 第　6回　（発表）テキスト「第２章　介護保険サービスの「適正化」」その１ 第　7回　（発表）テキスト「第２章　介護保険サービスの「適正化」」その２ 第　8回　（発表）テキスト「第２章　介護保険サービスの「適正化」」その３ 第　9回　（発表）テキスト「第３章　解決されるか、介護現場の危機」その１ 第10回　（発表）テキスト「第３章　解決されるか、介護現場の危機」その２ 第11回　（発表）テキスト「第４章　迷走した要介護認定」その１ 第12回　（発表）テキスト「第４章　迷走した要介護認定」その２ 第13回　（発表）テキスト「第５章　老いを守る介護保険への道」その１ 第14回　（発表）テキスト「第５章　老いを守る介護保険への道」その２ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業中の発表　80%，授業中の発言 20%		

（注）

授業科目	**労働法**	担当者	疋田京子
	〔履修年次〕　不問 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」実現のための基礎知識 【概要】労働法は憲法や民法の応用分野であり，憲法や民法・刑法・行政法といった基本的な法律の上になりたっている。その意味では全体像をつかむことは難しいかもしれない。しかし，1919 年に国際労働機関（ＩＬＯ）が結成されて以来，その法分野が目指したのは「ディーセント・ワーク」の実現なのだ。本講義では，就職するとき知っておくべき労働者の権利と義務，職場で問題が起こった場合の解決の手段に関する基本的なルールを講義する。 【到達目標】 １．働くときに知っておくべき労働者の権利と，使用者が守るべき義務とは何かを理解する。 ２．権利を主張するための法的根拠はどの法律にあるのかを理解する ３．権利の実現のために，どのような救済手段や機関があり、公的保障があるのかを知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業の時に紹介する (2)　授業の時に紹介する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：労働法の成立史 第　2回　労働法の全体像：憲法・民法と労働法の関係 第　3回　労働契約の成立：労働基準法と労働契約 第　4回　労働法上の「労働者」「使用者」概念：プロ野球選手は「労働者」？ 第　5回　就業規則・労働協約との関係：就業規則の不利益変更 第　6回　労働契約成立までの流れ：採用内定と試用期間の法的性格 第　7回　労働契約の内容：労働契約の基本的内容と使用者の労働条件明示義務 第　8回　労働契約の原則：雇用における男女平等と中間搾取の排除 第　9回　賃金についてのルール：賃金額の制限と賃金支払いのルール 第10回　労働時間の基本的ルール：所定労働時間と法定労働時間 第11回　労働時間制の多様化：変形労働時間制とフレックスタイム制 第12回　年次有給休暇：休日・休暇・休業はどう違う？ 第13回　労働契約の変更と終了：解雇に関する法規制 第14回　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて：育児・介護休業と雇用機会均等 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業時に提出してもらう小レポート（40%）＋　試験（60%）		

授業科目	**地域研究特講**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】世界の格差の状況について認識し，貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。 【概要】本講義では，さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後，国際機関，国家，地方自治体，市民が主体となった国際協力について概観する。 【到達目標】さまざまな行為体が，さまざまなレベルで，多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローカルな市民社会に向けて』(明石書店，2008年)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的と方法 第　2回　世界の現状１： 数値からみる世界の格差 第　3回　世界の現状２：グローバリゼーションの進展 第　4回　第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について 第　5回　途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略 第　6回　国際機関による援助１：さまざまな国際機関１ 第　7回　国際機関による援助２：さまざまな国際機関２ 第　8回　国家を主体とする援助１：ODAについて（1） 第　9回　国家を主体とする援助２：ODAについて（2） 第10回　企業による社会活動：CSRを中心に 第11回　市民を主体とする援助１：NPOの活動（1） 第12回　市民を主体とする援助２：NPOの活動（2） 第13回　市民を主体とする援助３：NPOの活動（3 第14回　人間の安全保障 第15回　まとめ		
成績評価の方法	試験（１００％）によって評価する。		

(注)

授業科目	**地方自治法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】住民自治，団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で，地方公共団体の種類及び事務，住民の権利義務，条例と規則，議会，執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し，地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。 【概要】地方自治法は，国と地方自治公共団体の役割分担，機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設，普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与，国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では，地方自治法をわかりやすく解説することで，地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。 【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し，国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　井上正仁他編，ポケット六法，有斐閣		
授業スケジュール	第　1回　地方自治の意義　・住民自治，団体自治，伝来説，固有権説，地方自治の本旨 第　2回　地方公共団体の種類　・地方公共団体の構成要素，都道府県，市町村 第　3回　地方公共団体の区域・事務　・区域，機関委任事務，法手受託事務 第　4回　住民の権利義務(1)　・住民，条例の制定改廃の請求，事務監査の請求 第　5回　住民の権利義務(2)　・議会の解散請求，議員，長及び特定職員の解職請求，住民監査請求 第　6回　条例(1)　・条例制定権の範囲と限界，法令先占論，条例の効力 第　7回　条例(2)　・条例制定手続，条例と罰則，行政罰，規則の制定事項 第　8回　議会(1)　・議会の地位，町村総会，議会の組織，議会の権限，調査権 第　9回　議会(2)　・定例会，臨時会，議会の運営，定足数の原則，過半数議決の原則 第10回　執行機関(1)　・長の地位，長の権限，長の職務の代理，地方公共団体の事務所 第11回　執行機関(2)　・行政委員会の意義，長と行政委員会との関係，監査委員，教育委員会 第12回　議会と長との関係　・再議制度，専決処分，長に対する不信任議決，議会の解散 第13回　地方公共団体と国の関係　・国の関与の手続，法定受託事務の処理基準，国地方係争処理委員会 第14回　予算　・予算事前議決の原則，予算公開の原則，予算単一主義の原則 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(90%)，授業での発言の記録(10%)により評価する。		

12　経営情報専攻専門科目

授業科目	**簿記論Ⅱ**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　1年，2年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式（黒板とパワーポイントの併用）		
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記と財務諸表 【概要】簿記論Ⅰ などで簿記一巡の手続きを学習した学生を対象として，諸取引の処理と決算に関して学習します。 また，新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。 【到達目標】複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により，最終的に，財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部ほか『新検定　簿記講義　3級　商業簿記』(平成27年度版)，中央経済社。(予定)・・・簿記論IIと共通 渡部ほか『新検定　簿記ワークブック　3級　商業簿記』，中央経済社。(予定)・・・簿記論IIと共通 (2)　①中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』，税務経理協会，2004年。 ②上野清貴監修『簿記のススメ　ー人生を豊かにする知識』，創成社，2012年。 ③新井清光・川村義則『新版　現代会計学』，中央経済社，2014年。 ④渡邉泉『会計の歴史探訪』，同文舘出版，2014年。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：履修登録確認，配布資料，コース・パケット，前期（簿記論Ⅰ）の復習（簿記論Ⅰの積み残しなど） 第　2回　手形：テキスト第11章 第　3回　有価証券：テキスト第12章 第　4回　固定資産：第13章 第　5回　資本金と引出金：第14 第　6回　収益と費用：第15章 第　7回　消耗品：第15章，税金：第16章 第　8回　復習，予習・復習状況の確認：第7回までの資料，場合によっては小テスト 第　9回　帳簿と伝票：第17章 第10回　決算と財務諸表（その2）：第18章 第11回　決算と財務諸表（その2）：第18章 第12回　決算と財務諸表（その2）：第18章 第13回　復習：テキストとワークブックを用いた復習 第14回　復習：テキストとワークブックを用いた復習 第15回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施 経済，経営情報専攻の受講モデル 1年前期：簿記論Ⅰ 1年後期：簿記論Ⅱ，財務会計論 管理会計論，経営分析 原価計算 2年前期：コンピュータ会計		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%），および筆記試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

（注）2015年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も簿記論IIを履修登録できます。

授業科目	**経営管理論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1, 2年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合，そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり，その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは，財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。 したがって経営管理とは，経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり，このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では，彼らが，ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し，組織内部にいる関係者のみならず，組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち，対処しているのかを講義していきます。 【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない (2)　講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第　1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第　2回　経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第　3回　組織における人間（1）：企業で人を管理する際に重要となる、動機づけの問題について説明する。 第　4回　組織における人間（2）：人を働く気にさせる動機づけの種類ついて考える。 第　5回　組織における人間（3）：「組織における人間観」に基づく、様々な経営理論を紹介する。 第　6回　組織における人間（4）：人は何に満足し、何に不満を感じるのか考える。 第　7回　年功主義と成果主義を改めて考える：年功主義・成果主義、それぞれの長所と短所を説明する。 第　8回　企業理念と組織文化：企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。 第　9回　組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。 第10回　リーダーシップと人事管理：リーダーシップとは何か、人事管理との関連で考える。 第11回　上司と部下の関係：理想的な上司と部下の関係、現実の上司と部下の関係を考える。 第12回　リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。 第13回　リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。 第14回　企業とキャリア：今後のキャリアと企業で働くことの意味について考える。 第15回　まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定）詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営組織論**	担当者	朝日　吉太郎
	〔履修年次〕　1，2年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】　資本主義企業の経営組織の発展と、ディーセントワーク（人間らしい労働）をめぐる問題の検討 【概要】　資本主義企業の経営組織の発展の法則的理解に基づいて、その下で労働の非人間化問題とその解決を健闘して、今日、ＩＬＯが課題としているディーセントワーク（人間らしい労働）がなぜ実現しにくいのか、その実現に何が必要かについて検討する。 【到達目標】人間らしい労働をどのように考えるべきか、その実現のために何が必要かを法則的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』文理閣 (2)　授業内で指示する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　労働の特質と近代労働観の分裂 第　3回　資本主義的経営と労働 第　4回　単純協業と分業 第　5回　機械制大工業に基づく分業が持つ意味 第　6回　機械制大工業と労働疎外 第　7回　科学的管理方法の登場 第　8回　フォーディズム 第　9回　労働の人間化要求と人間関係論 第10回　ボルボ・システム 第11回　トヨティズムとＴＱＣ 第12回　日本的経営論と制限 第13回　新日本的経営への転換 第14回　ブラック企業とディーセントワーク 第15回　ディーセントワーク論の問題点，まとめ		
成績評価の方法	学期末試験		

授業科目	**管理会計論**	担当者	北村　浩一
	〔履修年次〕　1年，2年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する 【概要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。 【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社 (2)　特になし		
授業スケジュール	第　1回　講義ガイダンス・講義の進め方や評価について 第　2回　予算管理（1） 第　3回　予算管理（2） 第　4回　利益管理（1） 第　5回　利益管理（2） 第　6回　CVP 分析（1） 第　7回　CVP 分析（2） 第　8回　管理会計とは 第　9回　分権的組織の管理会計（1） 第10回　分権的組織の管理会計（2） 第11回　原価概念 第12回　原価計算と原価管理 第13回　標準原価管理 第14回　原価企画と ABC 原価計算 第15回　講義のまとめ （＊　講義の進度によって予定を変更する場合があります）		
成績評価の方法	小テスト(計２回、各 10%)　と期末定期試験（60%）の総計で評価します。		

授業科目	**原価計算**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 原価計算入門 【概要】 本講義は，モノづくりに要した原価を正確に把握する手続きについて学びます。まずは製造業のビジネスゲームをプレイし，経営意思決定における原価計算の重要性を確認します（第 4 回まで）。以降は，製造業における様々な取引についての解説を受けて，実際に記帳の練習に取り組みます。「事例の解説→演習問題」を繰り返すことによって，工業簿記に特有の手続きに親しみ，原価計算の基本的な素養を身につけることになります。 【到達目標】 製造業における取引を記帳する能力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス（履修登録の確認，講義計画の説明等） 第　2回　経営意思決定と原価計算（1） 第　3回　経営意思決定と原価計算（2） 第　4回　原価計算のあらましと工業簿記 第　5回　材料費の計算と記帳（1） 第　6回　材料費の計算と記帳（2） 第　7回　労務費の計算と記帳（1） 第　8回　労務費の計算と記帳（2） 第　9回　経費の計算と記帳 第 10 回　製造間接費の計算（1） 第 11 回　製造間接費の計算（2） 第 12 回　個別原価計算（1） 第 13 回　個別原価計算（2） 第 14 回　個別原価計算（3） 第 15 回　まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**国際経営論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　1,2 年　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】21 世紀の自動車の三つの方向性～EV 化，LCV 化，中国の爆発～ 【概要】まず，ハイブリッドからコンセントで充電できるプラグインハイブリッドへ，エンジンで走るハイブリッドからエンジンは充電専用のシリーズハイブリッドへ，そして，ハイブリッドから電気自動に向かう EV 化の流れを紹介する。次に，価格 60 万円程度の低価格車 LCV，中国の Chery QQ や Geely パンダ，さらに 20 万円台の超低価格車 ULCV，インドの Tata Nano を紹介し，低価格の秘密を探る。最後に，2009 年に世界第 1 位の自動車生産大国となった中国を取り上げ，その爆発的成長は「どこまで行くのか」を探る。 【到達目標】21 世紀の自動車の三つの方向性を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂 (2)		
授業スケジュール	第　1回　100 年に一度の大転換期を迎えた自動車産業：EV 化，LCV 化，中国の爆発 第　2回　ハイブリッド：「プリウスはもう古い」プラグイン化とシリーズ化 第　3回　EV（1）：テスラロードスター，コンバート EV，低速電気自動車 第　4回　EV（2）： EV 化の鍵を握る軽量高性能で低価格の電池の開発 第　5回　EV（3）：ソーラー発電と EV で究極のエコ実現（エコミュニティ化） 第　6回　BOP 市場の現状：40 億人市場の魅力 第　7回　LCV：QQ とパンダの低価格は，どのようにして実現したのか？ 第　8回　ULCV（1）：自動車が 20 万円～Tata Nano の衝撃 第　9回　ULCV（2）：なぜ 20 万円なのか？ 第 10 回　日本企業は LCV，ULCV に参入すべきか？40 億人市場はブルーオーシャンかレッドオーシャンか？ 第 11 回　中国市場の爆発的成長：世界 1 への道 第 12 回　中国市場の多様性：農用車，低速電気自動車，汽車 第 13 回　成長の要因：13 億人の潜在力，市場経済化，リバースエンジニアリング，資本主義と社会主義 第 14 回　中国市場の未来：老いていくアジアと中国 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験		

（注）

授業科目	経営学特講Ⅰ	担当者	田原　武志，東　圭太
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】「経営」を広義にとらえ，手法を具体的に考察する。 【概要】本講義では，「経営」を一般的にイメージする会社経営はもちろんの事，文化祭実行委員会等の組織やそれぞれの家庭，自分自身の人生などを経営（マネジメント）する事はどういう事かを学ぶ。それぞれの経営資源の抽出から始まり，次に成果を作り出していく手法について考察する。自己の成長と幸福が，家庭・会社・地域社会の成長と幸福へとつながるという基本理念のもと，学生諸君とともに経営を学ぶ場とする。 【到達目標】社会人としての様々な局面で，その課題を解決するべく，経営の手法を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　（1）毎回プリントを用意する。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーリング 第　2 回　毎回テーマを決めて講義，レポート，感想発表 ～　（テーマ例） 第 14 回　「世界に通用する(誇れる)鹿児島の良さとは？」「日新公いろは歌の考察」 「鹿児島県立短期大学の経営資源の考察」「企業の果たす社会的責任について」 「コミュニティービジネスの今後について考察」 「経営にコンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」 「家庭人，社会人としてのリスクマネージメント」「投機と投資の考察」 「人生において貯蓄の意義の考察」「ファイナンシャル・プランニングの基本考察」等々 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	授業での発表，レポートの評価，定期試験（プリント・レポート・ノート持ち込み可）の結果（全体で 100%）		

（注）

授業科目	比較経営論	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　１年、２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式	
テーマ及び概要	【テーマ】経営システムの多様性を知る。 【概要】本講義では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行います。まず、日本の経営について詳しく解説した後、アメリカの経営、欧州の経営と進み、アジア各国の経営を見ていきます。各国の経営を説明する際に、歴史的な要素を扱いますので、歴史が好きでなくとも歴史的な解説を苦にしない学生さんの出席を望みます。 【到達目標】各国の経営システム間に共通性と相違性があることを発見し、それがなぜ異なるのかについて考える。また、システムの多様性や経路依存性について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等 第　2回　日本の経営（1）：日本的経営の歴史、日本企業の統治構造 第　3回　日本の経営（2）：日本企業における戦略と組織の特徴 第　4回　日本の経営（3）：日本企業の生産方式、労使関係 第　5回　日本の経営（4）：日本における企業間構造、中小企業 第　6回　アメリカの経営（1）：アメリカ企業の歴史と統治構造 第　7回　アメリカの経営（2）：アメリカ企業における戦略と組織の特徴 第　8回　イギリスの経営：イギリス企業の歴史と経営システム 第　9回　フランスの経営：フランス企業の歴史と経営システム 第 10 回　ドイツの経営：ドイツ企業の歴史と経営システム 第 11 回　中国の経営：中国企業の歴史と経営システム 第 12 回　韓国の経営：韓国企業の歴史と経営システム 第 13 回　アジア各国の経営：台湾などその他アジア各国の企業の特徴 第 14 回　その他各国の経営：これまでに解説した国以外の経営システムについて 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80 点）＋レポート（20 点）		

授業科目	**経営分析**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 財務諸表から企業社会の諸相を読み解く 【概　要】 本講義は，会計というコトバの読み方・書き方を習得し，企業社会のあり様を読み解く力を養うことを目的としています。まずはビジネスゲームをプレイし，その内容を記録・計算することを通して，会計の重要性・有用性を確認します（書き方の学習：第 4 回まで）。次に，いくつかの企業の財務諸表を用いて，企業の戦略と事業の成果について分析し，財務諸表分析の全体像を把握します（読み方の学習：第 6 回まで）。さらに，第 7～12 回までは，財務諸表のより詳細な読み方を学習します。最後に，社会問題（公害等）の解消に向けた様々な取り組みにおいて，会計のコトバが利用されていることを学びます。 【到達目標】 ①財務諸表を読解し，企業の財政状態・経営成績について説明できるようになる ②社会問題の解消のために，会計情報が利用されていることを理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス（履修登録の確認，講義計画についての説明等） 第　2回　ビジネスと会計実践（1） 第　3回　ビジネスと会計実践（2） 第　4回　帳簿の締切と決算 第　5回　物語としての会計：アパレル産業の差別化戦略 第　6回　物語としての会計：自動車産業の差別化戦略 第　7回　貸借対照表の読み方（1） 第　8回　貸借対照表の読み方（2） 第　9回　損益計算書の読み方（1） 第 10 回　損益計算書の読み方（2） 第 11 回　キャッシュフロー計算書の読み方 第 12 回　決算の舞台裏：ある総合商社の決算対策委員会 第 13 回　社会問題と会計（1） 第 14 回　社会問題と会計（2） 第 15 回　まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**企業行動科学**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1, 2 年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える 【概要】行動科学とは，個人や集団の形で人間が行う行動に関して，その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し，説明し，分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく，心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。 この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として，企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために，一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。 【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に触れる。主要な動機づけ理論を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第　1回　講義概要の説明：講義の概略を説明する 第　2回　意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第　3回　組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第　4回　集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第　5回　組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第　6回　意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第　7回　映画「12 人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える 第　8回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する 第　9回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点ついて説明する 第 10 回　リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する 第 11 回　リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する 第 12 回　上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する 第 13 回　上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 14 回　卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営戦略論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　１年、２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】経営戦略に関する基本的知識を習得する 【概要】経営戦略とは、企業が外部環境の変化に適応しながら、長期的な存続・成長を図るための意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説していきます。さらに、グローバル戦略や企業の社会的責任などの、現代の社会における経営戦略についても講義します。 【到達目標】経営戦略論の基本概念を知ると同時に、それぞれの概念がどのような関係にあるのかを考える。また、講義を通じて得た知識を基に、ニュースや新聞・雑誌記事をより深く理解できるようになることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。 第　2回　経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第　3回　経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業範囲）について解説する。 第　4回　規模の経済と範囲の経済、水平統合と垂直統合：規模の経済等の基本事項を説明する。 第　5回　多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。 第　6回　M&A と戦略的提携：M&A および戦略的提携について、それぞれの特徴や相違点を見ていく。 第　7回　経験曲線と PLC：PPM の基礎になる、経験曲線と PLC を解説する。 第　8回　PPM：全社的視点から、経営資源の配分方法について考える。 第　9回　経営戦略の事例について：DVD を鑑賞し、実際の企業においていかに経営戦略が重要であるかを再確認する。 第 10 回　競争戦略とは何か：競争戦略の概要や、競争戦略に４つのアプローチが存在することを説明する。 第 11 回　ポジショニング・アプローチ：M.ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチを解説する。 第 12 回　資源ベース・アプローチ：ポジショニング・アプローチと対比しながら、資源ベース・アプローチを解説する。 第 13 回　ゲーム論的アプローチ：経済学のゲーム論を基礎とした、ゲーム論的アプローチを解説する。 第 14 回　学習アプローチ：組織学習論を中心に、学習アプローチについて解説する。 第 15 回　経営戦略と現代社会：現代社会における経営戦略のあり方について考える。		
成績評価の方法	筆記試験（80 点）+レポート（20 点）		

授業科目	**企業論**	担当者	朝日　吉太郎
	〔履修年次〕　1，2 年　〔学期〕　後期 〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　巨大企業集団の形成とその運動形態の解明。 【概要】　世界各国には巨大な企業集団が存在し、その利益に基づいて経済活動が行われ、様々な問題を生み出している。そのような集団がなぜ生まれ、どういう構造を持ち、今後どのように発展するのか。その影響はどうかを理解する。 【到達目標】独占的巨大企業の形成と発展についての理解を深め、現代社会を理解する基本認識を高める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に定めない。 (2)　授業内で指示する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス　資本主義と企業 第　2回　イノベーションと競争 第　3回　資本の蓄積（1） 第　4回　資本の蓄積（2） 第　5回　相対的過剰人口と諸形態 第　6回　利潤と競争 第　7回　商業資本 第　8回　利子生み資本 第　9回　銀行と信用、株式会社 第 10 回　独占的巨大企業の形成と企業集団 第 11 回　企業集団と国家 第 12 回　恐慌と戦争 第 13 回　パクスアメリカーナと日本独占資本主義の復興 第 14 回　冷戦体制の崩壊とグローバル化の新ステージ 第 15 回　今日の企業社会と問題点 まとめ		
成績評価の方法	学期末試験		

授業科目	**財務会計論**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式（黒板とパワーポイントの併用）		
テーマ及び概要	【テーマ】財務諸表を読めるようになる 【概要】本年度の財務会計論では，会計学を初めて学ぶ学生を対象として，会計学の基礎に関して講義を行います。 財務会計論は，会計関連科目の基礎をなす科目です。企業の活動状況を財務情報に集約して適切に利害関係者に伝達したり，企業の公表する財務諸表を理解したりするためには，会計学の知識が不可欠となります。 本講義では，財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。学習に際しては，学生自らが体験したり，考えたりする内容を組み入れます。講義参加型の学習を求めますので積極的に参加してください。 【到達目標】財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新井清光・川村義則『新版　現代会計学』，中央経済社，2014 年。 (2)　桜井久勝『財務会計講義』（第 15 版），中央経済社。（予定） 中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』，税務経理協会，2004 年。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：履修登録確認，コース・パケット配布，会計って何？ 会計学を学ぶとどんなご利益があるのか。 第　2回　会計学の意義，種類，役割，研究対象 第　3回　株式会社の構造について復習。株式会社における会計の役割について 第　4回　企業会計の仕組み（貸借対照表，損益計算書等） 第　5回　企業会計の仕組み，グループ・ディスカッション（会計の意義・役割について） 第　6回　企業会計制度（会社法，金融商品取引法，税法 第　7回　資産会計：分類，評価基準 第　8回　資産会計：流動資産，固定資産，繰延資産 第　9回　負債会計：分類，流動負債，固定負債 第 10 回　資本会計 第 11 回　損益会計：損益会計の諸原則，区分損益計算 第 12 回　損益会計：損益会計の諸原則，区分損益計算 第 13 回　財務諸表の作成 第 14 回　連結財務諸表の作成 第 15 回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施 第１回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		
成績評価の方法	レポート，講義への参加度（発言や質問など）（40%）筆記試験（60%）で評価します。		

（注）第１回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。

授業科目	**マーケティング論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　１年、２年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ 【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための様々な「仕組みづくり」です。現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基礎を固めた後、応用として現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。 【到達目標】マーケティングに関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいは販売者としての視点を養うことを目標とする。すなわち、企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解し、「賢い消費者」になることであると同時に、顧客ニーズや顧客満足を満たすために、いかなる努力が必要であるかを知ることである。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。 第　2回　マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第　3回　標的市場の選択：STP について解説する。 第　4回　市場・消費者行動分析：消費者行動論の知見を基に、消費者ついて理解を深める。 第　5回　競争分析：「ポジショニング」という概念を中心に、企業間の競争構造の分析方法を知る。 第　6回　製品戦略：製品ミックスや製品ライフサイクル、新製品開発プロセスなどの、製品戦略について解説する。 第　7回　価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第　8回　流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択・管理の方法を説明する。 第　9回　プロモーション戦略：プロモーション・ミックスやメディア・ミックスなどを解説する。 第 10 回　ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。 第 11 回　関係性マーケティング：企業と消費者の長期的関係性の構築について考える。 第 12 回　グローバル・マーケティング：グローバル規模でのマーケティング戦略に関する知識を習得する。 第 13 回　ソーシャル・マーケティング（1）：企業の社会的責任に関する DVD を鑑賞する。 第 14 回　ソーシャル・マーケティング（2）：マーケティングと企業の社会的責任の関連性を解説する。 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60 点）＋レポート（40 点）		

授業科目	**経営工学**	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】企業などにおける運営業務の科学化 【概要】 現在の企業活動においては，情報技術を有効に活用した情報収集，さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず，取引先も含めた情報も共有化されることで，より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では，企業活動において頻繁に行われる意思決定，例えば，生産スケジュールの立案や在庫管理など，その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。 【到達目標】 企業活動における，ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　圓川隆夫・伊藤謙治，『生産マネジメントの手法』，朝倉書店		
授業スケジュール	第　１回　序論：経営工学とは 第　２回　生産スケジューリング１：どんな順番で製品を作れば良いのか 第　３回　生産スケジューリング２：どんな順番で作業を行えば良いのか 第　４回　工程編成：均等に作業を割り当てるには 第　５回　プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第　６回　設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第　７回　生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第　８回　作業分析：作業者の動作を分析する 第　９回　投資計画１：お金の現在価値と将来価値 第10回　投資計画２：プロジェクトの価値 第11回　在庫問題：在庫コストを少なくする 第12回　評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第13回　最短経路：一番近い道を探す 第14回　配送計画：配達順序を決める 第15回　まとめ		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**コンピュータ会計**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　２年　〔学期〕　前期 〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習方式（一部，講義方式を含む。基本的にパソコン教室での講義。）		
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンを用いた財務諸表分析 【概要】この科目では，簿記一巡の手続きに関して理解しており，財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また，分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト（エクセル）の使用を予定していますので，エクセルの基本的な操作に関して説明します。上記の初歩的な説明を行った後，講義の後半では，各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：ＥＤＩＮＥＴ（Electronic Disclosure for Investors’NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。 【到達目標】基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い，その結果の解釈を行うことができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　内藤文雄『会計学　エッセンス』，中央経済社，2013年。 (2)　新井清光・川村義則『新版　現代会計学』，中央経済社，2014年。		
授業スケジュール	第　１回　ガイダンス：履修登録確認，コース・パケット配布，会計の全体像 第　２回　会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINETの使い方） 第　３回　有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み 第　４回　会計学と財務情報について（テキスト第１，２章） 第　５回　会計学と財務情報について（テキスト第３，４章） 第　６回　財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROEなど） 第　７回　財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第　８回　財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第　９回　財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第10回　財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点，収益性の視点など） 第11回　財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①） 第12回　財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②） 第13回　時系列分析（２社以上） 第14回　同業他社比較分析（２社以上） 第15回　まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施		
成績評価の方法	講義での発言内容，講義（毎回ではないが）で作成した資料（40%），および期末レポート（60%）で評価する。 第１回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。		

（注１）　履修に際しては，簿記論Ⅰ，Ⅱ，財務会計論を履修済みであることが望ましい。
（注２）　履修に際しては，管理会計論，原価計算，経営分析などを履修済みであれば，なお望ましい。
（注３）　情報リテラシーⅠ，Ⅱ，PCデータ活用を履修し，単位取得済みであれば，なお望ましい。

授業科目	**応用データ活用**		担当者	倉重　賢治	
	〔履修年次〕	2年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作 【概要】 実務でのコンピュータ利用において，データベース処理ソフトは，非常に重要な役割を果たしている。この演習では，まず，リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に，代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し，データベース設計に関する問題に取り組んでいく。 【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して，簡単なシステム開発を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　特になし				
授業スケジュール	第　1回　序論：リレーショナルデータベースの概念 第　2回　Access の操作：Access とは 第　3回　Access の操作：レコードの並べ替え 第　4回　Access の操作：レコードの追加 第　5回　Access の操作：フォームの作成 第　6回　Access の操作：選択クエリの作成 第　7回　Access の操作：さまざまなクエリ 第　8回　Access の操作：アクションクエリ 第　9回　Access の操作：データベースの設計 第10回　Access の操作：リレーションシップの作成 第11回　Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第12回　Access の操作：レポートの作成 第13回　Access の操作：レポートのアレンジ 第14回　Access の操作：マクロの利用 第15回　まとめ				
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）				

授業科目	**プログラミング**		担当者	倉重　賢治	
	〔履修年次〕	2年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング 【概要】 プログラミングとは，コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では，プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて，論理的な思考を身につけることはもちろんのこと，VBA の利用により，さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。 【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　七条達弘，『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング　第5版』，ソフトバンククリエイティブ (2)　特になし				
授業スケジュール	第　1回　序論：プログラミングの概念 第　2回　VBA の利用：関数と変数 第　3回　VBA の利用：条件分岐 第　4回　VBA の利用：オブジェクトの基本 第　5回　VBA の利用：繰り返し操作 第　6回　VBA の利用：マクロの登録と自作関数 第　7回　VBA の利用：マクロの記録 第　8回　VBA の利用：文字列と日付関数 第　9回　VBA の利用：変数の型宣言と配列 第10回　VBA の利用：プロシージャとオブジェクト 第11回　VBA の利用：セル操作の詳細 第12回　VBA の利用：イベントプロシージャ 第13回　VBA の利用：ユーザーフォーム1 第14回　VBA の利用：ユーザーフォーム2 第15回　まとめ				
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）				

授業科目	**情報論特講**		担当者	岡村　俊彦，倉重　賢治	
	〔履修年次〕	2年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	2単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ICT（情報通信技術）について実用的，応用的な学習をおこなう。 【概要】 ハードウェア，ソフトウェア，ネットワークといったICTを学び，日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに，コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。 【到達目標】 実社会において，自らICT業務に携わり，効果的，効率的な活用ができるようにする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　FOM出版「日商PC検定試験 知識科目 2級対策問題集」，プリント (2)　特になし				
授業スケジュール	第 1回　概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2回　ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア，ソフトウェアの解説 第 3回　コンピュータのハードウェア1：PCの実物を分解し，ハードの構成と役割の学習 第 4回　コンピュータのハードウェア2：PCの実物によるインターフェイスの学習 第 5回　ソフトウェアの設定：アプリケーションやドライバなどソフトの導入と設定 第 6回　ネットワークの仕組みと設定：ネットワーク機器と各種設定 第 7回　ウェブ活用：さまざまなウェブサービスの利用と注意事項 第 8回　コンピュータが扱う数字1：2進数と16進数 第 9回　コンピュータが扱う数字2：負の数と実数 第10回　情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号 第11回　シミュレーション1：シミュレーションとは 第12回　シミュレーション2：エクセルを用いたシミュレーション 第13回　意思決定：エクセルのソルバー 第14回　データ分析：エクセルのデータ分析 第15回　まとめ				
成績評価の方法	レポート（75%）＋期末試験（25%）				

（注）「情報科学概論」（担当：岡村）を履修済み，もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

13　第二部商経学科教養科目
（教養一般）

授業科目	**人間と文化**	担当者	岡村 俊彦，　楊 虹，　坂上 ちえ子，内田 昌廣， 轟 義昭，田中 史朗，西迫 貴美代
	〔履修年次〕　1～3 年いずれでも履修可　〔学期〕　前期（9/9,10,11,14,15,,16,17 の 7 日間） 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】文化という人間の営みを，人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。		
	【概要】県立短大の三つの学科の７人の教員がそれぞれの分野から，世界各国さまざまな時代における「文化」とは何かを考察します。一週間という集中した期間で，さまざまな知見を学ぶことで，受講生にとって，時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します		
	【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより，様々な事象を多面的に考察する姿勢を身に着ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定（必要に応じて後日指示します。） (2)　授業中，必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第　1回　インターネットの国際比較(1)：地域間の比較（岡村俊彦） 第　2回　インターネットの国際比較(2)：サイバー戦争，中国 vs グーグル（岡村俊彦） 第　3回　汐替節等鹿児島の民謡を通して鹿児島の歴史を振り返る（楊 虹） 第　4回　民謡、詩歌を通して鹿児島の風土や地域の振興を考える（楊 虹） 第　5回　色彩と文化（1）：色とは何かー配色形式と印象について（坂上 ちえ子） 第　6回　色彩と文化（2）：色彩戦略ー商品や広告の背景にある色の戦略（坂上 ちえ子） 第　7回　インドの文化と経済(1)（内田 昌廣） 第　8回　インドの文化と経済(2)（内田 昌廣） 第　9回　英詩と映画（1）：ブレイクの詩と『博士の愛した数式』（轟 義昭） 第 10 回　英詩と映画（2）：キーツの詩と『ブリジット・ジョーンズの日記』（轟 義昭） 第 11 回　差別意識はどのようにして生まれるのか、その背景を探る：アメリカの人種差別を題材にして(田中史朗) 第 12 回　立場の違いを乗り越えて：先住民インディオからみた西部開拓の歴史（田中史朗） 第 13 回　スポーツ文化の変遷（オリンピックを題材に「スポーツとは何か」を考える）（西迫 貴美代） 第 14 回　さまざまな身体技法の比較から文化人類学的アプローチの試み（日本人の身体）（西迫 貴美代） 第 15 回　まとめ （順番，内容を変更することがあります。）		
成績評価の方法	レポートの提出（85%）と毎回の授業の感想・意見等（15%）で評価します。		

（注）前期集中講義期間　９月９，１０，１１，１４，１５，１６，１７日

授業科目	**日本の歴史**	担当者	永山　修一
	〔履修年次〕　1 年,2 年 3 年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 南九州地域の原始～古代の歴史的展開 【概要】 日本全体の歴史の流れを視野に入れ，十分に意識しながら，南九州から南島に生活した人々の姿を，最新の情報を使用しながら概観していきたい。 【到達目標】 身近な地域の，様々な事象の背景を，歴史的な視点から見ることのできる能力の一端を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適宜，プリントを準備する。 (2)　『鹿児島県の歴史』（山川出版社，1999 年）原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一		
授業スケジュール	第　1回　歴史の見方 第　2回　旧石器時代・縄文時代 第　3回　弥生時代 第　4回　古墳時代 第　5回　日向神話の世界 第　6回　隼人の登場 第　7回　隼人と律令制① 第　8回　隼人と律令制② 第　9回　隼人と律令制③ 第 10 回　隼人と律令制④ 第 11 回　遣唐使と南島路 第 12 回　平安時代の薩摩・大隅① 第 13 回　平安時代の薩摩・大隅② 第 14 回　南島論の現在① 第 15 回　南島論の現在② まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文(60%)＋レポート(40%)		

授業科目	**日本文学**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】旅と文学 【概要】交通機関の発達した現代において、旅＝旅行は趣味、レジャーとして人気です。テレビでは旅番組も毎日のように放送されています。人は旅することで様々な発見をします。そういう発見、体験は文学に豊富な題材をもたらしました。交通機関の発達していない古代において人は旅で何を感じ、どんな文学作品を書いてきたでしょうか。本講義では旅を描いた文学作品に触れ、各時代の人々の考え方、文化について学びます。 【到達目標】旅をテーマにした様々な文学作品に触れ文学のおもしろさを知る。 自分の考えをことばで表現することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし。プリントを用意します。 (2)　第１回授業で提示します。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション　、神々の旅『古事記』 第　2回　家にあらばけに盛る飯を・・・『万葉集』の旅 第　3回　はるばるも来ぬるものかな・・・『伊勢物語』東下りの旅 第　4回　男もすなる日記といふものを・・・『土佐日記』の旅 第　5回　二千里の外、故人の心・・・『源氏物語』の旅１ 第　6回　『源氏物語』の旅２ 第　7回　あづま路の道のはてよりも・・・『更級日記』の旅 第　8回　都出でてけふ九日になりにけり・・・『匡衡集』・『赤染衛門集』１ 第　9回　『匡衡集』・『赤染衛門集』２平安時代の転勤事情 第10回　月日は百代の過客にして・・・『奥の細道』 第11回　薩摩の旅・お江戸の旅・・・『垂邑詩集（すいゆうししゅう）』 第12回　『垂邑詩集』２ 第13回　江戸の紀行集 第14回　鉄道マニアの文豪 内田百閒『阿房列車』 第15回　前期定期試験		
成績評価の方法	レポートの提出（80%）および講義に関する毎回の感想・意見等（20%）で評価します。		

授業科目	**こころの科学**	担当者	石川満佐育
	〔履修年次〕　1，2年，3年いずれも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	選択 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】「科学としての心理学」について，学生の自己理解，他者理解に役立つような知識，研究例を紹介するとともに，その研究方法を学ぶ。 【概要】心理学領域のうち，社会心理学，カウンセリング心理学，青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。 また，心理学的研究の理解を深めるために，実際に質問紙調査，実験等を体験してもらう実習も取り入れる。 【到達目標】①心理学という学問領域の多様性について理解し，心理学的なものの見方・考え方を養うことを目標とする。 ②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎時プリントによる資料を配布します。 (2)　参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：心理学とは？ 第　2回　心理学の基礎知識 第　3回　心理学の対象と研究方法 第　4回　社会心理学①：自己開示と自己呈示 第　5回　社会心理学②：対人認知 第　6回　社会心理学③：集団の影響 第　7回　社会心理学④：様々な対人関係 第　8回　カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？ 第　9回　カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング 第10回　カウンセリング心理学③：ストレスへの対処 第11回　カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち 第12回　青年心理学①：青年期の特徴 第13回　青年心理学②：青年期の対人関係 第14回　青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分 第15回　まとめ		
成績評価の方法	「レポート（70%）＋リアクションペーパー（30%）」		

授業科目	比較文化	担当者	
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	アジア文化論	担当者	川野　和昭
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。 【概要】講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州，南西諸島のフィールドワークのデータを，「竹の文化」という切り口で，両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。 【到達目標】「竹の文化」をキーワードに，東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに，日本列島及びアジアにおける鹿児島の文化的アイデンティティを確認する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　本講の概要，目的，方法，評価について。アジア地域の確認 第　2回　焼畑文化，特に「竹の焼畑」文化。南九州から南西諸島 第　3回　〃 第　4回　〃 第　5回　ラオス北部の「竹の焼畑」文化 第　6回　〃 第　7回　〃 第　8回　〃 第　9回　稲作儀礼と稲作神話の比較 第10回　〃 第11回　〃 第12回　竹の生活道具の比較 第13回　〃 第14回　〃 第15回　まとめ		
成績評価の方法	学期末筆記試験（６０％）と授業への意欲（４０％）		

授業科目	**日本国憲法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕 不問	〔学期〕 後期	
	〔単位〕 2 単位	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義を体系的に理解した上で，日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。 【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに，基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年，その価値が問い直されている一方，新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では，国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権，平和に崇高な価値をおき，その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義，個人の尊厳の原理に基づき，個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として，人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。 【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し，政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 井上正仁他編，ポケット六法，有斐閣		
授業スケジュール	第　1 回　憲法概論　・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，権力分立主義の理念 第　2 回　基本権総論　・私人間の人権保障，基本権の享有主体性，二重の基準の理論 第　3 回　包括的権利　・幸福追求権，プライバシーの権利，法の下の平等 第　4 回　精神的自由権(1)　・思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則 第　5 回　精神的自由権(2)　・表現の自由，知る権利，検閲の禁止，通信の秘密，報道の自由 第　6 回　精神的自由権(3)　・明白かつ現在の危険の基準，LRA の基準，学問の自由，大学の自治 第　7 回　経済的自由権　・職業選択の自由，居住・移転の自由，国籍離脱の自由，財産権 第　8 回　受益権　・裁判を受ける権利，請願権，国家賠償請求権，刑事補償請求権 第　9 回　社会権(1)　・生存権，環境権，教育を受ける権利 第 10 回　社会権(2)　・勤労権，労働基本権，団結権，団体交渉権，争議権 第 11 回　国会(1)　・国権の最高機関，唯一の立法機関，衆議院の優越 第 12 回　国会(2)　・国会議員の地位，議員の特権，国会の活動，国会と議院の権能 第 13 回　内閣　・内閣の地位，内閣総理大臣の権限，国務大臣の権限，内閣の責任 第 14 回　裁判所　・最高裁判所の権限，統治行為論，違憲審査制 第 15 回　財政，まとめ　・財政民主主義，租税法律主義，国費支出議決主義，予算		
成績評価の方法	筆記試験(90%)，授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	**数学の世界**	担当者	
	〔履修年次〕	〔学期〕	
	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1 回 第　2 回 第　3 回 第　4 回 第　5 回 第　6 回 第　7 回 第　8 回 第　9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
成績評価の方法			

授業科目	**環境問題**	担当者	相場　慎一郎・井余田　秀美・田中　史朗・則久　雅司
	〔履修年次〕　１，２，３年いずれでも履修可	〔学期〕	前期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概要】環境問題を，森林（相場），化学(井余田)，地球環境問題の諸相（田中），環境保護行政（則久）の四つの視点から考える 【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回　総論：環境問題の複眼的考察 第　2回　森林（1）：森林の役割 第　3回　森林（2）：森林と環境 第　4回　化学（1）：生活環境と公害 第　5回　化学（2）：地球環境汚染 第　6回　化学（3）：環境に配慮した生活 第　7回　地球環境問題の諸相（1）熱帯林の破壊と砂漠化の進行 第　8回　地球環境問題の諸相（2）酸性雨による被害と地球温暖化 第　9回　地球環境問題の諸相（3）オゾン層の破壊と有害物質の移動 第10回　環境保全への国際的な取り組みと自然保護運動 第11回　環境保護行政（1）：総論 第12回　環境保護行政（2）：屋久島 第13回　環境保護行政（3）：奄美 第14回　環境保護行政（4）：まとめ 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

授業科目	**かごしまカレッジ教育**	担当者	福重　一成
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	前期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】伝わる日本語とは何かを学ぶ 【概要】自分の頭で考え，そして考えたことを実際に話したり書いたりすることで，下記①②の目標への到達を目指します。この授業では特に「話す・書く」という部分に重点を置き，スピーチや論理的な文章の執筆などを行います。 【到達目標】「相手に伝えたいことをうまく伝えられず友人との人間関係に溝ができてしまった」あるいは「アルバイトの面接などにおいて自己アピールをうまくできず後悔した」というようなことは誰しも経験があるのではないでしょうか。 　演習形式の本授業は，主に以下の２つの能力の習得・研鑽を目指します。 ◇　円滑な対人コミュニケーションを行える能力 ◇　これまでにインプットしてきた内容を適切にアウトプットできる能力 これらの能力を身につけることで，必要な情報を正確に受け取れるようになったり，情報を的確に伝達・表現できるようになったり，あるいは聞き手への十分な気配りが行えるようになり，その結果冒頭に挙げたようなトラブルが生じにくくはずです。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストは指定せず，毎回プリントを配布します。 (2)　参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第　1回　授業の進め方の説明 第　2回　偏愛マップでコミュニケーション 第　3回　わかりやすい文章を書く・1―あいまい文 第　4回　わかりやすい文章を書く・2―接続詞の上手な使い方 第　5回　わかりやすい文章を書く・3―Eメールの文章 第　6回　自己紹介をする・1―自分を紹介するということ 第　7回　自己紹介をする・2―みんなの前で話してみよう 第　8回　敬語のしくみ・1―3種類の敬語 第　9回　敬語のしくみ・2―間違いやすい敬語 第10回　敬語のしくみ・3―敬語を使いこなすために 第11回　想いを伝える・1－想いを伝えるということ 第12回　想いを伝える・2－手紙の執筆 第13回　想いを伝える・3－スピーチの準備 第14回　想いを伝える・4－自分を人に知ってもらうためのスピーチ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	評価基準は次のとおりです。**平素の作業の成果（50%），学期末に行うまとめテスト（50%）** **なお，総授業回数の１／３に該当する回数分を欠席した場合，単位は認定しないので留意のこと。** 授業計画および授業内容の詳細については初回授業時に具体的に説明します。		

（注）受講者数は20名を上限とします。

（注）希望者多数で抽選となる場合は，「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	**かごしま教養プログラム**	担当者	県内１１大学の担当教員
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期集中 選択（注）　〔授業形態〕　講義方式
	【概要】この講義では，鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた，鹿児島を素材にした授業を持ち寄り，「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき，リベラルアーツ教育を行います。３日間の夏期集中授業で，講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ，学生間でよく話し合い，切磋琢磨しながら学習します。 【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化，自然，社会，産業などのテーマについて，内容をよく理解し，自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により，テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い，グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ，それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について，受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　未定		
授業スケジュール	第　１回　平成２６年度実施概要（平成２７年度については未定。若干の変更の予定があります。） 日程　：　平成２６年８月２０日（水）～２２日（金） 場所　：　鹿児島大学 定員　：　県内１２大学等の学生　１５０人程度		
成績評価の方法	未定		

授業科目	**かごしまフィールドスクール**	担当者	県内１１大学の担当教員
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期集中 選択（注）　〔授業形態〕　実習方式
	【概要】地場産業，農業，商業，文化，観光，環境，暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし，そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし，今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し，今後，地域を活性化していくための方策について考察し，若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。 この活動により，鹿児島の本質と問題点を理解し，国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけ，あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には，実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し，考察・ 討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに，発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより，日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。 【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して，同地区の住民生活，商業活動，文化活動等の特徴を把握し，選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。 ②同地区等のさらなる活性化のために，今後どのような展望が望ましいか，どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え，グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③実地調査，討論，発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて，これらの３つの学習目標を達成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　未定		
授業スケジュール	第　１回　平成２６年度実施概要（平成２７年度は未定。若干の変更の予定があります。） 日程・場所：　①平成２６年８月２５日（月）～２８日（水）　霧島市牧園地区 ②平成２６年８月２５日（月）～２８日（水）　鹿児島市紫原地区 ③平成２６年８月２５日（月）～２８日（水）　南さつま市大浦地区 定員　：　県内１１大学等の学生　１５０人程度		
成績評価の方法	未定		

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
	〔履修年次〕 ２年 〔学期〕 通年 〔単位〕 ２単位 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式及びワークショップ		
テーマ及び概要	【テーマ】１年生を対象に，卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること 【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中，本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが，自分の興味だけで考えている場合，キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し，社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。 短期的な就職活動だけのためではなく，社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。 【到達目標】本講義を通じて，県短生をとりまく就業環境，社会の中で働くことの意味，就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	〔講師陣は平成 26 年度実績〕 ・第１期（７月 23 日） 社会人になる（就職する）ことはなぜ必要なのか，県短を取り巻く就職状況はどうなのかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師：有村恵美（生活科学科助教），内田昌廣（商経学科教授），西村道子（株式会社 昴） 川村美鈴（KTS 鹿児島テレビ） ・第２期（９月 24,25 日）地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き，働くことの意味，会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師：前田幸一（㈱浜島印刷），神前明浩（神前司法書士事務所） 田原武志（㈱アシップ），丸田真悟（NPO 法人かごしまｱｰﾄﾈｯﾄﾜｰｸ） 小林陸夫（大学生協九州事業連合） ・第３期(12 月 17 日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているＯＢ・ＯＧから話を聞き，進路イメージを具体化させる。 講師：佐野有沙 （㈱健康家族），北川隆巳（京セラ㈱）， 綾部敏郎（㈱フォーバル），秋葉重登（鹿児島相互信用金庫），本学卒業生５人（中学校教員など） ・第４期（２月６日） いよいよ実際の就職活動を目前に控えて，労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに，具体的な就職準備作業を行う。 講師：疋田京子（商経学科准教授），学生部学生課職員 ※26 年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。		
成績評価の方法	レポート提出２回（１００％）		

(注) ２７年度は３年生も希望者のみ履修可

14　第二部商経学科教養科目
（外国語科目）

授業科目	英語Ⅰ(A)	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語を使う本質的意味の理解を深めながら，英語で自己発信するスキルを向上させる。 【概要】本授業では，各受講生が興味を持つテーマに関するプロジェクトに取り組む。プロジェクトに関するプレゼンテーションを段階的に準備し発表することを通して，英語の自己発信力を高める。英語のスキル向上だけでなく，何のために英語を使うのか，何のために英語を学ぶのかについて再考し，各自の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考える。後期の英語Ⅱ(A)の基礎的内容となるので，英語Ⅱ(A)を受講予定する学生は，本授業を受講することが望ましい。 【到達目標】①各自が興味を持つテーマに関して，積極的に英語で表現することができる。②英語で発表の司会や内容に関する質疑応答ができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Suzuki, Y. (2013). *Do Your Own Project in English. Volume 1.* Nan'un-do. (¥1,800) (2)　適宜授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　Course introduction, Unit 1 Introducing yourself and others 第　2回　Unit 2 Self-appeal 第　3回　Unit 3 What is research? 第　4回　Unit 4 An outline/overview of research 第　5回　Unit 5 Organizing ideas and data 第　6回　Unit 6 The diversity/range of research methods 第　7回　Unit 7 Writing a script for an oral presentation 第　8回　Unit 8 Mid-term presentation (1) 第　9回　Unit 9 Mid-term presentation (2) 第10回　Unit 10 Responding to questions, interrupting and repeating 第11回　Unit 11 Responding to questions, confirming and explaining 第12回　Unit 12 Preparing for final mini-presentation - Written presentation 第13回　Unit 13 Final mini-presentation (1 第14回　Unit 14 Final mini-presentation (2) 第15回　Unit 15 Final mini-presentation (3) and course review		
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)，中間発表(20%)，最終発表(30%)，レポート課題(30%)で評価する。		

授業科目	英語Ⅰ［B］	担当者	霧島　S. 怜
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】An Understanding of Spoken Sentences and A Guided Mini- conversation. (相手の理解と会話の試み) 【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、高校生に天文学の最先端技術について完璧な巣保スペイン語で講義した者はいない !! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、ウクライナ語も簡単さ)という志は極めて効果的である。... では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !! 【到達目標】演習内容の 70% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) [前半] 又、必要に応じて習熟資料を配布する (2)		
授業スケジュール	第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第　2回　U20 Why Learning？　英和訳、読解、聞き取り等 第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　4回　U 1 The Guy with Green Hair！　英和訳、読解、聞き取り等 第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　6回　U 2 The Shoplifter！　英和訳、読解、聞き取り等 第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　8回　U 4 Beauty Contest！英和訳、読解、聞き取り等 第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第10回　U 5 Who Pays？　英和訳、読解、聞き取り等 第11回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第12回　Spec. IAAE 10 'A Horrible Vacation' 読解、聞き取り、コミュニケーション練習等 第13回　Spec. IAAE 23　'A Morning Cup of Coffee' 読解、聞き取り、コミュニケーション練習等 第14回　St. Valentine's　Day 読解、聞き取り、コミュニケーション練習等 第15回　受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	**予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計**		

授業科目	英語Ⅱ（A）	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】英語を使う本質的意味の理解を深めながら，英語で自己発信するスキルを向上させる。 【概要】本授業では，各受講生が興味を持つテーマに関するプロジェクトに取り組む。プロジェクトに関するプレゼンテーションを段階的に準備し発表することを通して，英語の自己発信力を高める。インタビューやアンケートによるデータ収集や，ビデオクリップ等のマルチメディア資料を活用したプレゼンテーション方法にも挑戦する。前期の英語Ⅰ(A)は本授業の履修要件ではないが，英語Ⅰ(A)の発展的内容であるので，英語Ⅰ(A)を履修していることが望ましい。 【到達目標】①各自が興味を持つテーマに関して，積極的に英語で表現することができる。②英語で発表の司会や内容に関する質疑応答ができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Suzuki, Y. (2013). *Do Your Own Project in English. Volume 1.* Nan'un-do. (¥1,800) (2)　適宜授業で紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　Course introduction, Unit 16 Successfully starting a project: what is research? 第　2回　Unit 17 Gathering data from interviews 第　3回　Unit 18 Gathering data by a questionnaire 第　4回　Unit 19 Summarizing video clips and other multimedia resources (1) 第　5回　Unit 20 Summarizing video clips and other multimedia resources (2) 第　6回　Unit 21 Mid-term presentation (1) 第　7回　Unit 22 Mid-term presentation (2) 第　8回　Unit 23 Paragraph reading and analysis 第　9回　Unit 24 Paragraph reading 第10回　Unit 25 Summarizing paragraphs (1) 第11回　Unit 26 Summarizing paragraphs (2) 第12回　Unit 27 Writing an outline 第13回　Unit 28 Final presentation (1) 第14回　Unit 29 Final presentation (2) 第15回　Unit 30 Final presentation (3) and course review		
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)，中間発表(20%)，最終発表(30%)，レポート課題(30%)で評価する。		

授業科目	英語Ⅱ[B]	担当者	霧島　S. 怜
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】A Good Understanding and A Meaningful Mini- conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話) 【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、大学生に宇宙進化論の哲学的な諸前提の不合理性について完璧なヒンズー語で講義した者はいない !! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、スウェデン語も簡単さ)という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう !! 【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) [後半] 又、必要に応じて習熟資料を配布する (2)		
授業スケジュール	第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第　2回　U 6 Saying "I love you"　英和訳、読解、聞き取り等 第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　4回　U 8 Cyber Love !　英和訳、読解、聞き取り等 第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　6回　U 10 Fan Worship !　英和訳、読解、聞き取り等 第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第　8回　U 11 'Pet Peeve'　英和訳、読解、聞き取り等 第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第10回　U17 To Have or Have Not　英和訳、読解、聞き取り等 第11回　同題　教官と共に コミュニケーション練習 第12回　Spec. IAAE 14 'Thief Begging' 読解、聞き取り、コミュニケーション練習等 第13回　Spec. IAAE 27 ' The Last Dance' 読解、聞き取り、コミュニケーション練習等 第14回　教官と共に前期と後期の内容を復習します。 第15回　受講生が選択したテーマの学習 (M) 後期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	**予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計**		

授業科目	**異文化コミュニケーション（英語）**	担当者	英語担当教員全員
	〔履修年次〕 1，2年いずれでも履修可	〔学期〕	通年
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。 【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち，滞在期間中，基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2014年度の実績 日程：10月4日（土）～10月11日（土） 参加者：28名 研修費用：約30万円（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等） 【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)		
授業スケジュール	事前ガイダンス： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。 海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。 事後指導：帰国後に総括。		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%） とハワイでの研修状況（50%）で評価する。		

授業科目	**異文化コミュニケーション（中国語）**	担当者	中国語担当教員全員
	〔履修年次〕 1，2年いずれでも履修可	〔学期〕	通年
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生きた中国語を学び、運用能力を高める。 【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は，わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は，中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中，基礎的な実用中国語を習得し，さらに，南京農業大学の学生と交流し，中国の文化習慣などについて直接体験します。 ※2014年度中国研修の実績 ・日程：8月27日（水）～9月10日（水）［15日間］ ・参加者：3名（商経学科経営情報専攻1名，第二部商経学科2名） ・費用：約18万円（授業料，往復航空券，滞在費，南京市内・市外の見学費用 【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<u>事前指導</u> 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。 ［1］南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明， ［2］海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明， ［3］課題（レポート作成）の指示などです。 <u>海外研修</u> 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて，中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。 <u>事後指導</u> 帰国後に総括します。		
成績評価の方法	担当教員が課した課題，および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	中国語Ⅰ(A)	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第　1回　我是上海人 第　2回　我叫王平 第　3回　这里是南京路 第　4回　现在几点了? 第　5回　今天是星期几? 第　6回　你家有几口人? 第　7回　没关系（映画） 第　8回　香港的夏天热吗?　（映画） 第　9回　四川菜很好吃 第10回　我经常散步 第11回　牌价是多少? 第12回　汉语难不难? 第13回　我没吃蒜 第14回　我想去超市 第15回　まとめ		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅰ(B)	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国語に親しむ 【概要】この授業では，中国語の発音を身につけ，ロールプレイ，ゲームなど様々な教室活動を通して，中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり，簡単な日常あいさつ，自己紹介ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　遠藤光暁監修『はじめての中国語すくすく』朝日出版社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第　2回　発音（1）：単母音と声調の導入，練習 第　3回　発音（2）：複母音の導入，練習 第　4回　発音（3）：子音の導入，練習 第　5回　挨拶ことば：発音の復習，初対面の挨拶と簡単な会話の導入，練習（教科書第１課） 第　6回　自己紹介：自己紹介および所属を尋ね合う表現の導入，練習（教科書第２課） 第　7回　復習（1）：第１～２課の復習 第　8回　動詞述語文：動詞を使った表現の導入，練習（教科書第３課） 第　9回　家族構成の言い方の導入，練習（教科書第３課） 第10回　ものの名称を尋ねる言い方：「这/那」の導入，練習（教科書第４課） 第11回　数字，年齢を尋ねあう表現の導入，練習（教科書第５課） 第12回　復習（2）：第３～５課の復習と応用練習 第13回　留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第14回　復習（3）：全体の復習 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%，期末試験：50%		

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第　1回　来我家玩吧 第　2回　我打算去旅行 第　3回　没看过，听过 第　4回　我能参加 第　5回　我记一下 第　6回　我们边走边谈 第　7回　好像借给小李了（中間テスト） 第　8回　我不会打日文（映画） 第　9回　你知道号码吗？（映画） 第10回　什么都可以 第11回　被谁偷走了呢？ 第12回　让你久等了 第13回　有没有单间？ 第14回　我说得不好 第15回　まとめ		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】中国語によるコミュニケーションに慣れる 【概要】この授業では，中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ，引き続き中国語の基本構文を導入し，中国語を聞いて，話す力を伸ばす。さらに，中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】学習を進める上での基礎的知識を有し，中国語による家族構成の紹介や，簡単な買い物ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　遠藤光暁監修『はじめての中国語すくすく』朝日出版社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第　2回　年月日・曜日の言い方の導入，練習（教科書第６課） 第　3回　場所の尋ね方／言い方：「在」の導入，練習（教科書第７課） 第　4回　誘いの表現「吧」の導入，練習（教科書第７課） 第　5回　復習（1）第６～７課の復習 第　6回　時刻の言い方の導入，練習（教科書第８課） 第　7回　「電話をかけ方」の導入，練習（教科書第９課） 第　8回　復習（2）：第８～９課の復習 第　9回　買い物に用いられる表現の導入，練習（教科書第 10 課） 第10回　買い物に用いられる表現の応用練習（教科書第 10 課） 第11回　趣味を語る：「喜欢」の導入，練習（教科書第 11 課） 第12回　復習（3）：第 10～11 課の復習 第13回　形容詞述語文の導入，練習（教科書第 12 課） 第14回　復習（4）：全体の復習 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%，期末試験：50%		

15　第二部商経学科教養科目
（スポーツ・健康科目）

授業科目	生涯スポーツ実習　Ⅰ・Ⅱ	担当者	西迫　貴美代　、長岡　良治
	〔履修年次〕　1　年 〔単位〕　1　単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期　生涯スポーツⅠ　・後期　生涯スポーツ実習Ⅱ 必修　〔授業形態〕　実習　方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習Ⅰ)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する(生涯スポーツⅡ)。 【概要】野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル 屋内スポーツ：バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法（からだほぐし）を取り入れる。 【到達目標】①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる（ルールの理解　審判の方法　簡易ルールの設定）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適時、資料を配付する（ゲーム分析の方法について） (2)		
授業スケジュール	主に男女別に履修する（出席状況、天候によって男女合同の場合もある） 1.　バドミントン ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する（シングルス、ダブルスゲームの方法） 2.　硬式テニス(ミニテニス) フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム　前衛と後衛のポジションの理解) 3.　バレーボール、ミニバレーボール アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる 4.　バスケットボール シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える） 5.　サッカー、ミニサッカー,フットサル シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える）		
成績評価の方法	出席状況(60%)＋基礎的な技術(40%)		

16　第二部商経学科教養科目
（情報科目）

授業科目	情報リテラシーⅠ（A）	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 1年 〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。 【到達目標】タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM出版 (2)		
授業スケジュール	第 1回 パソコンの基本操作 ：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成 第 2回 文字の入力 ：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回 文章の入力 ：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回 文書の作成 ：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回 文書の編集 ：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回 通知状の作成 ：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回 表の作成 ：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回 表の編集 ：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回 表の活用 ：課題文書作成（表を含む文書） 第10回 図形描画 ：図解について、図形描画を使った地図の作成 第11回 グラフィック機能の利用 ：ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入 第12回 案内状の作成 ：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第13回 レポートの作成 ：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第14回 サンプル文書作成 ：これまでに学習した機能を利用した文書作成 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		

（注）

授業科目	情報リテラシーⅠ（B）	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 1年 〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。 【到達目標】タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2013』FOM出版 (2)		
授業スケジュール	第 1回 パソコンの基本操作 ：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成 第 2回 文字の入力 ：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回 文章の入力 ：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回 文書の作成 ：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回 文書の編集 ：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回 通知状の作成 ：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回 表の作成 ：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回 表の編集 ：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回 表の活用 ：課題文書作成（表を含む文書） 第10回 図形描画 ：図解について、図形描画を使った地図の作成 第11回 グラフィック機能の利用 ：ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入 第12回 案内状の作成 ：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第13回 レポートの作成 ：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第14回 サンプル文書作成 ：これまでに学習した機能を利用した文書作成 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)	担当者	口脇淳子		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 パソコンの概要を学び、実践的に活用できる知識や技術を習得する。 【概要】 Windows 8 の概念・基本操作からメール・インターネット・マルチメディアなど、様々なアプリケーションの操作をしながら知識や技術を身につける。 【到達目標】 ファイル操作、インターネット閲覧・操作（メールを含む）など基本的なアプリケーションの操作が確実にできる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 資料プリント (2)				
授業スケジュール	第 1回 現在のパソコン活用状況の確認 第 2回 基本操作（画面の見方・用語の確認） 第 3回 メール操作（学内推奨の Web メール） 第 4回 メール操作（学内推奨の Thunderbird） 第 5回 ファイル・フォルダ操作 第 6回 ファイル・フォルダ操作 第 7回 資料作成（課題）と、印刷に関する注意事項の確認 第 8回 インターネットを活用 第 9回 インターネットを活用 第10回 デジタルカメラの活用 第11回 画像編集ソフトの活用 第12回 その他の機能（スキャナの活用、PDF ファイルについて） 第13回 その他の機能（サウンドレコーダー、ムービー作成について） 第14回 その他の機能（トラブル解決法について） 第15回 前期習得操作の確認（実技テスト）				
成績評価の方法	授業中の操作状況（20%）＋実技テスト（20%）＋レポート提出（60%）				

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)	担当者	瀬戸 博幸		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	必修	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】コンピュータを道具として使える力を持とう 【概要】現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている情報ユビキタス社会である。我々はそこに生活し，情報を受信し，情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか，どのようにしたら情報を受信し，発信する道具として使えるのか，演習をとおして初歩の初歩から体得しようとするものである。 【到達目標】そこにコンピュータがあるなら，それを臆せずに使う人になる				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする				
授業スケジュール	第 1回 コンピュータを起動しよう。ＯＳってなんだろう。 第 2回 ビデオを介して，インターネットとは何か理解しよう 第 3回 ブラウザの基本的使い方 第 4回 Ｗｅｂメールの送受信 第 5回 ファイルとフォルダ 第 6回 フラッシュメモリを使おう（メールソフトを使ってメールしよう） 第 7回 ホームページを作ってみよう 第 8回 クリックひとつで次のページへ 第 9回 ペイントで描いた画像をページへ 第10回 携帯から写メール 第11回 ＨＴＭＬあれこれ 第12回 ホームページに自分のギャラリー（1） 第13回 ホームページに自分のギャラリー（2） 第14回 プレゼンでまとめよう（1） 第15回 プレゼンでまとめよう（2）				
成績評価の方法	メールによる日々の考察（５０%）＋公開したホームページとプレゼン作品（５０%）により評価する				

17　第二部商経学科専門科目

授業科目	**情報社会論**	担当者	杉原　洋
	〔履修年次〕　１，２，３いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ニュースから現代社会を読む 【概要】マスメディアのニュース報道を素材に、「日本の今・世界の今」を読み解き、理解する力を養います。また、社会と向き合うときの立ち位置を構築する力を身につけることを目指します。 安倍政権と国内・国際政治、イスラム国とは何か、原発とエネルギー、歴史とどう向き合えばいいか、少子・高齢化と地域の自立、デジタル社会の諸問題（匿名、なりすまし、炎上、データ漏洩など）などを検討しながら、現代をどのように生きるかを考えます。 【到達目標】①現代日本、現代世界で何が起きているかを説明する力を身につける、②社会人に求められる「時事問題の常識」「コミュニケーション能力」を磨く、③メディア情報を鵜呑みにしないメディア・リテラシーを身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に使用しません。授業には教員が作成したプリントを配布します。テーマによってはDVDを視聴します。 (2)　蒲島郁夫『改訂版メディアと政治』有斐閣アルマ、逢坂巌『日本政治とメディア』中公新書		
授業スケジュール	第１回　はじめに　全体オリエンテーション 第２回　イスラム国とは何か 第３回～５回　「集団的自衛権」と日本の安全保障 第６回～７回　中国、韓国、アジアの国々とどのように向き合うか 第８回～９回　歴史とどう向き合うか―ドイツと日本 第10回　日本国憲法は時代にそぐわないか 第11回～12回　川内原発と日本のエネルギー政策 第13回　少子・高齢化の進行と鹿児島 第14回　ツイッター、ライン、フェイスブックなど、ネット空間での諸問題 第15回　まとめ ※現代社会を理解する上で重要なニュースがあった場合は、授業スケジュールを変更して、適宜「ニュース解説」の授業に振り替えます。		
成績評価の方法	授業ごとに記入してもらう「感想シート」と、期末に提示する「リポート」課題を総合評価します（感想シート２０％、リポート８０％）。５回（全授業の３分の１）以上、無断欠席した場合は原則として、単位は認定できません。欠席届は事前に提出してください（不可能な場合を除く）。		

授業科目	**社会哲学**	担当者	西原　誠司
	〔履修年次〕　１年，２年，３年 〔単位〕　２	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択　〔授業形態〕　講義
テーマ及び概要	【テーマ】人間とは何か／人間社会とは何かを哲学する 【概要】現代社会に起こる様々な問題を念頭におきながら、人間とは何か、人間社会とはなにかを人類社会の起源にまで遡って解明していく。同時に、生きづらい社会を人間らしく生きていくためには、どのようなものの見方をすればいいのか、その世界観との関係性を探り、生きづらさを克服するための処方箋をともに考えていきたい。 【到達目標】人間とは何か、人間社会とは何かを人類社会の歴史と日本社会の現実のなかから把握し、現代社会を生き抜く力＝自己の内面を解放する方法を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布 (2)　種村完司『コニュニケーションと関係の倫理』青木書店 鰺坂・有尾・鈴木編『ヘーゲル論理学入門』（有斐閣新書）		
授業スケジュール	第　１回　はじめに 第　２回　人類社会の起源――人類７００万年の歴史 第　３回　日本人の起源を遡る 第　４回　縄文社会にみる人類社会の共通原則――ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために 第　５回　奴隷制社会にみる人間性――スパルタクスの蜂起　貴族と奴隷どちらが人間的か 第　６回　封建社会の恋――近松門左衛門と『曽根崎心中』 第　７回　王侯貴族の恋――『ベルサイユのバラ』とマリー・アントワネット 第　８回　日本の近代と明治維新――坂本龍馬にみる近代的人格の誕生 第　９回　明治維新と日本資本主義①――産業革命の光と影　富岡製糸 第10回　明治維新と日本資本主義②――産業革命の光と影　あゝ野麦峠 第11回　現代資本主義の光と影　夫はなぜ死んだのか　過労死認定の厚い壁 第12回　キューブラー・ロスと終末期医療／最後のレッスン　死のまぎわの真実 第13回　脳梗塞からの“再生”　免疫学者・多田富雄の闘い 第14回　私たち抜きに私たちのことを決めないで　初期認知症を生きる 第15回　おわりに――言葉遊びで短所を笑おう		
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験		

授業科目	**経済学**	担当者	篠田　剛
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】経済学の基礎 【概要】経済学は私たちの生きる現代社会の仕組みを説明する。なぜ多様な消費者と生産者がいるにもかかわらず商品交換は滞りなく行われるのか、不景気の下ではなぜ財政支出を拡大し金融緩和を行うのか、なぜ失業や経済格差はなくならないのか、そして、なぜ経済危機は繰りかえされるのか。経済活動がすべての人びとにとって生活の重要な一部である以上、経済学は私たちにとって欠かすことのできない教養といえる。本講義では、経済学の基礎的なエッセンスを広くまなび、自らの頭で今日の経済現象を読み解き、判断していくための力を身に着けることを目的としている。 【到達目標】経済学の基礎的なカテゴリーを学び、経済学的なものの見方を身に着ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業の中で指示する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　比較優位の理論（1）生産可能性フロンティアと機会費用 第　3回　比較優位の理論（2）絶対優位と比較優位 第　4回　需要・供給曲線と価格メカニズム 第　5回　市場の効率性と市場の失敗 第　6回　付加価値と GDP 第　7回　有効需要と乗数理論 第　8回　財政政策と金融政策（1）IS 曲線と LM 曲線の導出 第　9回　財政政策と金融政策（2）IS-LM 分析 第 10 回　インフレーションとデフレーション 第 11 回　総需要と総供給 第 12 回　貿易と外国為替 第 13 回　資本主義のメカニズム（1）なぜそれでも失業や不安定雇用はなくならないのか 第 14 回　資本主義のメカニズム（2）なぜそれでも経済危機は繰り返されるのか 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	小レポート（30%）、筆記試験（70%）		

授業科目	**行政法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　前期 〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法の基本構造を体系的に把握し，行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。 【概要】周知のとおり，行政法は通則的法典が存在しておらず，そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では，行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則），行政行為，行政立法，行政計画，行政指導，行政契約，行政上の義務履行確保制度，行政手続等をわかりやすく解説し，行政法の基礎理論を体系的に理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法といった一般法について，国民の権利救済という視点から学習する。 【到達目標】行政法の基本原理，行政の行為形式論，行政上の一般制度，行政救済法について説明できるようになり，行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　井上正仁他編，ポケット六法，有斐閣		
授業スケジュール	第　1回　法律による行政の原理　・行政の定義，法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則 第　2回　行政立法　・法規命令（委任命令，執行命令），行政規則 第　3回　行政行為(1)　・公定力，不可争力，不可変更力，執行力，拘束力 第　4回　行政行為(2)　・無効の行政行為，取消しうべき行政行為，瑕疵の治癒と転換 第　5回　行政指導　・規制的行政指導，助成的行政指導，調整的行政指導，要綱行政 第　6回　行政上の義務履行確保制度　・代執行，執行罰，直接強制，行政上の強制徴収，行政罰 第　7回　行政手続法　・申請に対する処分，不利益処分，行政指導，命令等を定める行為 第　8回　行政不服申立て　・審査請求，異議申立て，再審査請求，教示 第　9回　行政事件訴訟法(1)　・抗告訴訟，取消訴訟，事情判決，執行不停止の原則，内閣総理大臣の異議 第 10 回　行政事件訴訟法(2)　・処分性，原告適格，法律の保護する利益説，保護に値する利益説 第 11 回　行政事件訴訟法(3)　・狭義の訴えの利益，無効等確認訴訟，義務付け訴訟，差止め訴訟 第 12 回　国家賠償法(1)　・代位責任説，自己責任説，公権力の行使の範囲，故意・過失，求償権 第 13 回　国家賠償法(2)　・公の営造物，人工公物，自然公物，高知落石事件，大東水害事件 第 14 回　損失補償　・正当な補償，完全補償説，相当補償説，国家補償の谷間，予防接種事故 第 15 回　公物，まとめ　・公共用物，公用物，自然公物，人工公物		
成績評価の方法	筆記試験(90%)，授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	**経済政策**	担当者	内田　昌廣
	〔履修年次〕　１，２，３年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】「課題先進国」と言われる日本の将来にとって，どのような政策が必要なのかを考えます。 【概要】人口減少社会への転換によって，これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度の再構築が迫られています。日本が抱えるさまざまな課題を採り上げ，受講者とともに将来の制度設計について考えていきます。 【到達目標】日本の課題について関心を持ち，さまざまな考え方やアプローチを踏まえて，自分自身で解決策を考える視点を持つこと。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　藻谷浩介・山崎亮『藻谷浩介さん，経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか？』学芸出版社，千葉忠夫『格差と貧困のないデンマーク―世界一幸福な国の人づくり』ＰＨＰ研究所，山崎亮『まちの幸福論―コミュニティデザインから考える』NHK 出版，高岡望『日本はスウェーデンになるべきか』PHP研究所		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方 第　2回　経済成長を考える：　経済成長は善か悪か必要悪か，経済成長のための政策を考える 第　3回　産業空洞化を考える：　産業空洞化のどこが問題なのか，成長産業を育成するための政策を考える 第　4回　財政再建を考える(1)：　財政再建は必要なのか，社会保障と税の一体改革とは 第　5回　財政再建を考える(2)：　消費税増税の課題，税制の課題を考える 第　6回　社会保障の将来を考える(1)：　国は，誰をどこまで救うべきなのか？ 第　7回　社会保障の将来を考える(2)：　弱者救済のための政策を考える 第　8回　社会保障の将来を考える(3)：　現役世代のための社会保障の充実策を考える 第　9回　雇用の将来を考える(1)：　非正規雇用と正規雇用の格差，正規雇用の男女間格差を考える 第10回　雇用の将来を考える(2)：　若者の雇用政策，高齢者の雇用政策を考える 第11回　地域経済の将来を考える(1)：　中央集権から地域主権へ，道州制は何を目指そうとしているのか 第12回　地域経済の将来を考える(2)：　地域経済を支える産業を考える 第13回　地域経済の将来を考える(3)：　農業の再生には何が必要かを考える 第14回　地域経済の将来を考える(4)：　地域社会で生きる（学ぶこと，考えること，行動すること，連携すること） 第15回　まとめ （授業評価アンケートの実施，期末レポートの提出）		
成績評価の方法	小レポート〔10回〕（50%）＋ 期末レポート（50%）		

授業科目	**社会政策**	担当者	朝日　吉太郎
	〔履修年次〕　１，２，３年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】　世界中に蔓延する貧困と格差の原因をさぐる。 【概要】　今日の世界に蔓延する格差、貧困の原因を理解し、必要な対策を考える。 企業論、経営組織論、労務管理論の基礎科目であり、受講するとその後の科目理解に役立つ。 【到達目標】資本主義社会についての基礎的理解ができ、今日の社会を生きるために何が必要かを考察できるか。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に定めない。 (2)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』文理閣		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス　講義の目的と進め方について 第　2回　資本主義社会の法則（1）ものの値段 第　3回　資本主義社会の法則（2）お金のひみつ 第　4回　資本主義社会の法則（3）企業のもうけ 第　5回　労働力という商品 第　6回　時間賃金派？出来高賃金派？ 第　7回　働き過ぎの日本人　なぜ長時間労働が 第　8回　工場法はなぜ生まれたか 第　9回　資本主義社会がもたらす貧困について 第10回　社会政策と資本主義国家 第11回　帝国主義と協調的労資関係の形成、ファシズムの本質 第12回　福祉国家と社会政策 第13回　日本の労働法制の動向 第14回　グローバル化と不安定雇用、職場専制の拡大 第15回　今日の社会政策をめぐる情勢，まとめ		
成績評価の方法	学期末試験		

授業科目	**社会思想**	担当者	渋谷　正
	〔履修年次〕　1, 2,3 年 〔単位〕　2 単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 資本主義形成期以降のヨーロッパの社会思想の変遷を辿る。 【概要】 近代思想は、資本主義の形成と発展を背景として、市民社会をどのように把握し、その社会でどのように生きるべきかを問うものとして、発展してきた。この市民社会思想とそれを批判する思想を、資本主義の歴史的発展とも関連させながら、考察する。 【到達目標】 近代思想の展開を理解することによって、資本主義の本質を見極めるための手掛かりを得ることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストは、使用しない。授業中に資料としてプリントを配布する。 (2)　服部文男編『社会思想史入門』青木書店。他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　資本主義の形成過程――本源的蓄積 第　2回　市民社会理論の端緒――ホッブズ『リヴァイアサン』 第　3回　イギリス名誉革命と社会思想 第　4回　市民社会理論の形成――ジョン・ロック 第　5回　市民社会理論の発展――デイヴィッド・ヒューム（1） 第　6回　市民社会理論の発展――デイヴィッド・ヒューム（2） 第　7回　市民社会理論の確立――アダム・スミス（1） 第　8回　市民社会理論の確立――アダム・スミス（2） 第　9回　市民社会理論の確立――アダム・スミス（3） 第 10 回　市民社会批判の社会思想――マルクスの史的唯物論（1） 第 11 回　市民社会批判の社会思想――マルクスの史的唯物論（2） 第 12 回　市民社会批判の社会思想――マルクスの史的唯物論（3） 第 13 回　ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義（1） 第 14 回　ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義（2） 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋レポート（30%）		

授業科目	**民法**	担当者	疋田京子
	〔履修年次〕　不問 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】暮らしを支える生活民法 市民生活の根幹である財産や家族を規律対象とする民法の入門講座 【概要】民法は企業間の取引にも、個人の生活上の取引にも共通して適用されるルールであり、取引以外にも結婚や離婚、親子関係の発生や親の責任、相続など家族に関するルールも含んでいる。個人の日常生活にかかわるルールを、具体的事例を通して講義する。 【到達目標】・個人の意思表示がどのような権利や義務を発生させるのかを理解できるようになること ・いざという時の為に事前に何を準備すればいいかを理解する ・自律した個人として尊重されるということはどういうことかを理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　大村敦志『生活民法入門』（東京大学出版会）		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：「取引民法」と「生活民法」 第　2回　農村社会の法としての民法：土地所有権と相続 第　3回　労働と民法：都市の場合と農村の場合 第　4回　住居と民法：民法典と借地借家法 第　5回　安全と民法：産業化と危険・不法行為法 第　6回　生活と民法（1）物・土地を買う 第　7回　生活と民法（2）財産を相続する 第　8回　生活と民法（3）契約の無効・取消を求める 第　9回　生活と民法（4）無効・取消の後始末をする 第 10 回　仕事と民法（1）サービスを提供する契約の種類と特徴 第 11 回　仕事と民法（2）サービス提供過程のコントロール 第 12 回　仕事と民法（3）債務不履行に対する救済方法 第 13 回　子どもと民法（1）親の責任と社会の責任 第 14 回　子どもと民法（2）誰が親か？ 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	授業の時に提出してもらう小レポート（40%）＋　筆記試験（60%）		

授業科目	**商法**	担当者	板倉 大治
	〔履修年次〕 1，2，3年いずれでも履修可	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】取引社会の変化とともに日々生成しつつある企業法の現在を判例・トピックを参照しながら探求する。 【概要】現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を損ない、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。 商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。 【到達目標】 （1）民法・一般法人法のほかに、商法・会社法が設けられている理由やその役割を説明できる。 （2）企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。 （3）国際化や情報化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。 （4）地球環境時代の企業経営に関わる法制度を知り、社会的貢献のあり方について考えることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント（テキストと資料）を配布します（担当者のウェブサイトからダウンロードできます）。 (2)		
授業スケジュール	第 1回 企業法としての商法 第 2回 商業登記と情報化社会 第 3回 商号自由主義とその制限－CI 戦略と商号－ 第 4回 名板貸（名義貸し）の責任 第 5回 商号権によるブランドの保護－不正競争の防止－ 第 6回 営業譲渡とその効果 第 7回 営業所と商業使用人－商業代理人制度－ 第 8回 商業使用人と外観責任－表見支配人など－ 第 9回 企業会計と商法－会計帳簿・書類の電子化－ 第10回 企業取引と普通取引約款 第11回 消費者取引の規制－特定商取引法・製造物責任法－ 第12回 有価証券法の基礎 第13回 会社法の基礎 第14回 倒産処理の法制度 第15回 企業不法行為法－公害法から環境法へ－ まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績によって評価します。受験資格として３分の２以上出席して下さい。		

授業科目	**産業心理学**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕 1，2，3年いずれでも履修可	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ 【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが，人間の基本的な特性もとらえることで，コンピュータを始め，システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし，購買行動に関する様々な要因を考えていく。 簡単な心理実験，心理テストなども織り交ぜていく予定である。 【到達目標】商品，システム，労働環境を人間の快適性から評価し，改善を考えることができるようになる。また，購買行動に関わる心理を売り手，買い手の両面から考えることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，Web でも公開 (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第 3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第 4回 ヒューマンインターフェイス１：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第 5回 ヒューマンインターフェイス２：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第 6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第 7回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第 8回 人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係 第 9回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印章管理 第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート２回分が 80%，授業中のショートレポートが 20%）		

授業科目	**簿記論Ⅰ**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 複式簿記の基本的な仕組みを理解する 【概　要】 簿記はあらゆる経済活動を帳簿に記録計算する行為です。本講義は商業簿記を学習しますが，簿記によって細大漏らさずに記録されることで，経営管理のための重要な資料が利用可能となり，さらには，この資料にもとづいて損益計算書や貸借対照表が作成され，業績および財政状態が明らかになります。簿記を理解し，その技術を習得するためには，自らの手を動かして練習することが重要です。この講義を通して習得したことを通して，企業経営に関する様々な科目の理解が深まることを期待します。 【到達目標】 簿記の手続き一巡を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部ほか『新検定　簿記講義　３級　商業簿記』（平成２７年版），中央経済社。 渡部ほか『新検定　簿記ワークブック　３級　商業簿記』（平成 27 年版）中央経済社。 (2)		
授業スケジュール	第　１回　ガイダンス（履修登録の確認，講義計画についての説明等） 第　２回　簿記の意義としくみ 第　３回　取引 第　４回　勘定と仕訳 第　５回　仕訳帳と元帳 第　６回　試算表の作成 第　７回　精算表の作成 第　８回　中間試験 第　９回　現金と預金 第 10 回　商品売買（１） 第 11 回　商品売買（２） 第 12 回　売掛金と買掛金 第 13 回　その他の債権と債務 第 14 回　復習 第 15 回　まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	筆記試験（中間 20%，期末 80%）		

（注）2015 年度の簿記論Ⅰ，Ⅱは，前期，後期に連続して開講されます。簿記論Ⅰを履修する学生は，後期に簿記論Ⅱも履修することをお勧めします。

授業科目	**経営学総論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1、2、3 年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。 【概要】この講義では、これから経営学を学ぶに当たって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけでなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第　１回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第　２回　経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第　３回　経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第　４回　企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第　５回　企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第　６回　人と企業との関係について（１）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第　７回　人と企業との関係について（２）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。 第　８回　人と企業との関係について（３）：消費者の立場から、企業との関係を考える。 第　９回　人と企業との関係について（４）：企業の社会的責任について考える。 第 10 回　日本的経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第 11 回　組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第 12 回　企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。 第 13 回　経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第 14 回　企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。		

授業科目	**情報科学概論**	担当者	岡村　俊彦
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ 【概要】コンピュータ（ハードウェア，ソフトウェア，周辺機器）やネットワークの仕組みを知り，現代社会においてどのような役割があり，どのような問題点があるかを知る。結果として，効果的かつ適切なＩＴ活用が可能となり，トラブル解決もできるようになる。また，ネットワークを安全に使うためのルール，マナーを学ぶ。また，授業の３分の１程度の時間を使い，ＩＴに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。 【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を８０％以上理解できる　・初心者に対して，パソコンやネットワークの安全，便利な運用に関する簡単なアドバイスができる　・調子の悪いパソコンを直す		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)　初心者向け情報関連雑誌		
授業スケジュール	第　1回　概要説明 第　2回　ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割 第　3回　パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割 第　4回　単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量，速度 第　5回　コンピュータウィルス：コンピュータウィルスの仕組みと防御法 第　6回　インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み 第　7回　学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第　8回　電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法 第　9回　インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方 第10回　周辺機器：モニタ，光学ドライブ，プリンタなど周辺機器の役割，仕組み 第11回　クラウドとビッグデータ：新たなインターネットのトレンドと今後の展開 第12回　ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法 第13回　スペックの見方：パソコン，周辺機器のスペック（仕様）の見方 第14回　学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第15回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート２回分が 80%，授業中のショートレポートが 20%）		

授業科目	**文書作成実習**	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕　1年　〔学期〕　後期 〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。 使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Word の応用機能も習得していく。 【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC 検定文書作成３級合格レベルのスキルの習得）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)		
授業スケジュール	第　1回　前期の復習　：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第　2回　あいさつ状の作成　：ビジネス文書の基礎知識、社外文書の作成（あいさつ状） 第　3回　社内文書の作成　：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野） 第　4回　図解の利用　：図解を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第　5回　企画書の作成　：計算式を含む文書の作成、知識問題（共通分野） 第　6回　詫び状の作成　：図形を含む文書の作成、知識問題（共通分野） 第　7回　検定対策　：課題文書作成（文書作成３級実技練習問題）、知識問題（共通分野） 第　8回　検定対策　：文書作成３級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第　9回　検定対策　：文書作成３級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第10回　Excel データの利用　：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み 第11回　文書の編集　：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など） 第12回　議事録の作成　：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど） 第13回　報告書の作成　：課題文書作成（テキストファイルの利用、書式のコピーなど） 第14回　稟議書の作成　：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	定期試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		

授業科目	**統計学**	担当者	倉重賢治
	〔履修年次〕 不問	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ 【概要】 現在，情報技術を有効に活用してデータ収集を行い，そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では，そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。 【到達目標】 ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 木下栄蔵，『入門統計解析』，講談社サイエンティフィク		
授業スケジュール	第 1回 序論：統計学とは 第 2回 データの基本処理：平均値，度数分布 第 3回 データの基本処理：分散，標準偏差 第 4回 データの基本処理：標準正規分布 第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値 第 6回 データの基本処理：確率分布 第 7回 統計解析：順位相関 第 8回 統計解析：相関係数 第 9回 統計解析：回帰直線 第10回 統計解析：重回帰分析 第11回 統計解析：カイ２乗検定 第12回 統計解析：平均値の推定 第13回 統計解析：平均値の検定 第14回 統計解析：分散分析 第15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**応用文書処理**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕 2，3年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 1単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら，ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ 【概要】 1） 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に，グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2） 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い，架空の提案書を作成する 3） ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し，公開する。 【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，Web でも公開 (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 自己紹介文書作成１：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成２：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成３：写真，図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成４：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 提案書作成１：インターネットによる費用検索 第 7回 提案書作成２：表計算ソフトを使った自動計算書 第 8回 提案書作成３：プレゼン資料の作成 第 9回 提案書作成４：仕上げ，データ送信のコツ 第10回 ホームページ作成１： HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入。 第11回 ホームページ作成２：課題設定とページ作成 第12回 ホームページ作成３：資料収集とページ作成 第13回 ホームページ作成４：ページ公開 第14回 予備 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（３つの課題を総合的に評価）		

授業科目	PCデータ活用(第二部)	担当者	口脇淳子		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2013　実教出版株式会社 (2)				
授業スケジュール	第　1回　習熟度確認アンケート　Excelの起動と画面の確認　文字入力の確認 第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど） 第　8回　各関数を利用した実習問題 第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第10回　円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第11回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第12回　データベース入門：データベース作成上の各機能 第13回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか） 第14回　データの集計（ピボットテーブル） 第15回　前期のまとめ				
成績評価の方法	期末試験（60%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（40%）				

授業科目	PCデータ活用実習(第二部)	担当者	口脇淳子		
	〔履修年次〕	1年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	1単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。 【到達目標】 知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認 ☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2013　実教出版株式会社 (2) プリント				
授業スケジュール	第　1回　前期授業の復習　知識科目問題プリント 第　2回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題プリント 第　3回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題プリント 第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題プリント 第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題プリント 第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題プリント 第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題プリント 第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題プリント 第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第10回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題プリント 第11回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題プリント 第12回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題プリント 第13回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題プリント 第14回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題プリント 第15回　後期のまとめ　知識科目問題プリント				
成績評価の方法	期末試験（60%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（20%）				

授業科目	PCアプリケーション実習(A)	担当者	口脇淳子		
	〔履修年次〕	１年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	１単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 アプリケーションソフトを活用して様々な資料を作成する。 【概要】 ３つのアプリケーションソフト（PowerPoint・KompoZer・Access）の基本操作を習得し、それぞれの目的に応じた資料を作成しパソコン活用の幅を広げる。 【到達目標】 各アプリケーションソフトで課される資料（作品）を完成させる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 資料プリント (2)				
授業スケジュール	第 1回 プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPoint の操作説明 第 2回 プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPoint の操作説明 第 3回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成 第 4回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成 第 5回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成 第 6回 プレゼンテーション 発表 第 7回 ホームページ作成：KompoZer の操作説明（ページ作成） 第 8回 ホームページ作成：KompoZer の操作説明（タグ・リンク設定） 第 9回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成 第10回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成 第11回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成 第12回 データベース作成：Microsoft Office Access の操作説明（テーブルの作成） 第13回 データベース作成：Microsoft Office Access の操作説明（フォーム・クエリ・レポートの作成） 第14回 データベース作成：課題データベースの作成 第15回 データベース作成：課題データベースの作成，まとめ				
成績評価の方法	授業内での操作状況（10%）＋各アプリケーションの課題提出（90%）				

授業科目	PCアプリケーション実習(B)	担当者	瀬戸 博幸		
	〔履修年次〕	１年	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	１単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】コンピュータを道具として使う力を持とう 【概要】パソコンは非常に有効な機械であり，ＯＳの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今，特にHTML5の登場を契機にＷｅｂブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこで JavaScript を用いてブラウザを制御する実習を通してアプリケーションについて考えてみることにする。 【到達目標】各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか理解し，積極的に活用しようとする人になる				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) ホームページに紹介されている JavaScript の記事を参考資料とする				
授業スケジュール	第 1回 ホームページにアニメーションを取り入れよう（オリエンテーション） 第 2回 JavaScript の紹介（1）HTML に JavaScript を組み入れる 第 3回 JavaScript の紹介（2）繰り返しの処理はどのように行われるのか 第 4回 JavaScript の紹介（3）ソースにコメントをつけよう 第 5回 JavaScript の紹介（4）画像の位置を制御 第 6回 JavaScript の紹介（5）画像を動かしてみよう 第 7回 JavaScript の紹介（6）簡単なゲームにしてみよう 第 8回 JavaScript の紹介（7）簡単なゲームにしてみよう（その２） 第 9回 自分でやってみよう（1）構想 第10回 自分でやってみよう（2）作画 第11回 自分でやってみよう（3）アニメーション化 第12回 自分でやってみよう（4）アニメーション化 第13回 自分でやってみよう（5）アニメーション化 第14回 自分でやってみよう（6）ホームページで公開 第15回 まとめ アプリケーションソフトって何だろう				
成績評価の方法	メールによる日々の考察（５０%）＋公開した作品（５０%）により評価する				

授業科目	**日本経済論**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】日本経済 【概要】明治から現在までの日本の産業政策と，構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記，授業スケジュールを参照)。 【到達目標】現在，アベノミクスと呼ばれる経済政策を焦点に，日本経済はどういった方向に進むべきか，様々な議論がなされていますが，そうした議論は一定の方向に収束する様相を見せず，厳しい対立が続いています。こうした状況では特に，自分自身で主体的に考え，判断できることが非常に重要となります。この講義では，日本経済の特質と問題点，そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め，日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策　第３版』有斐閣		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第　2回　日本の産業政策の歴史　戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第　3回　日本の産業政策の歴史　戦前(2)：明治維新の意義，その後の産業構造の変化等 第　4回　敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況，傾斜生産方式，1950 年代前半の産業政策等 第　5回　高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第　6回　日本の産業政策と行政指導：勧告操短，企業の反発等 第　7回　開放体制への移行：IMF8 条国への移行，産業再編等 第　8回　1970 年代の日本経済：2 度のオイル・ショック，構造不況業種への対応，知識集約化・高付加価値化への動き等 第　9回　企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き，現在の状況等 第 10 回　1980 年代以降の日本経済：対米貿易摩擦，日米構造協議等 第 11 回　現在の産業政策：産業競争力強化法，現在の産業政策の特徴等 第 12 回　グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調，バブル崩壊後の動向等 第 13 回　構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14 回　構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識，構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等，詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**財政学**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】財政・財政学 【概要】財政に関する基本的な概念や理論，日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に，グローバル化の影響等についても講義します(下記，授業スケジュール参照)。 【到達目標】財政には，政府の活動が正直に反映され，その政府の活動は，社会のあり方や人々の生活，経済状況に極めて重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活，経済状況は，国民一人一人の財政に対する判断によって大きく変わることになるでしょう。そこで，本講義では，受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え，判断できるようになることを目指し，財政に関する基本的な概念や理論，そして日本の財政の制度，実態，抱えている課題について理解を深めることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第　2回　財政とは何か：財政の定義，政府に対する評価の揺れ，市場の失敗，政府の機能等 第　3回　予算(1)：定義，役割，予算原則等 第　4回　予算(2)：日本の制度，その抱えている課題，改革の方向等 第　5回　経費(1)：定義，経費を分析する意味，経費の分類等 第　6回　経費(2)：経費膨張の法則・転位効果，小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第　7回　租税(1)：定義，租税の根拠，代表的な租税原則等 第　8回　租税(2)：公平の基準，望ましい税制とは等 第　9回　公債(1)：定義，民間債務との対比，租税との対比，公債の種類等 第 10 回　公債(2)：日本の国債発行における原則，制度，「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11 回　財政投融資(1)：定義，運用対象，批判等 第 12 回　財政投融資(2)：2001 年度の改革，今後の展望等 第 13 回　財政の国際化：国際公共財，グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回　財政改革を考える：社会の変化と財政，本当の財政危機とは，財政改革で求められる視点等 第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等，詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**農業経済論**	担当者	田中　史朗
	〔履修年次〕　１，２年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	後期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界の中の日本農業―日本農業の針路― 【概要】世界および日本の農業動向と課題を分析・摘出し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、いかに日本農業の再建を図り、地域社会再生に繋げていったらよいのかを、多角的に検証し解明していく。 【到達目標】世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本農業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本農業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　1回　世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第　2回　農産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農産物貿易の特徴とフードマイレージ 第　3回　マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第　4回　農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第　5回　ヨーロッパ、新大陸、日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第　6回　途上国における「緑の革命」の功罪と限界について：緑の革命とは 第　7回　農業開発と環境問題：途上国の人口爆発と環境破壊 第　8回　食の安全と農業：遺伝子組み換え作物とＢＳＥ問題 第　9回　農業組織論：農業経営組織の種類と特徴 第10回　映像でみる戦後日本農業の歩み 第11回　戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第12回　日本農業の現状と課題（1）：国民経済に占める農業の地位と食料自給率の推移 第13回　日本農業の現状と課題（2）：農業の近代化と担い手問題 第14回　農業の再生への道標：六次産業化と都市との交流 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(４０%)＋期末試験（６０%）		

授業科目	**金融論**	担当者	内田　昌廣
	〔履修年次〕　１，２，３年いずれでも履修可 〔単位〕　２単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】金融に関する基礎知識を習得するとともに，金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。 【概要】金融の役割や金融機関が果たしている機能から，金融業界が直面している課題や金融危機の原因まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済との関わりを幅広く学習することによって，社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身に付けます。 【到達目標】金融の基本的な知識を習得し，金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　川西諭・山﨑福寿『金融のエッセンス』有斐閣，杉山敏啓編『実務入門　改訂版　金融の基本教科書』日本能率協会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ，滝田洋一『金利を読む』日経文庫，慎泰俊『ソーシャルファイナンス革命―世界を変えるお金の集め方』技術評論社		
授業スケジュール	第　1回　概要説明：　講義の目的・進め方 ／ 序論：金融が果たす役割とは何だろう？ 第　2回　銀行の役割（1）：　決済の仕組み（内国為替，手形，外国為替） 第　3回　銀行の役割（2）：　預金と貸出の関係，預金金利・貸出金利の決定方法，銀行の信用創造機能 第　4回　銀行の役割（3）：　貸出形態，貸出審査，信用補完（担保・保証） 第　5回　銀行の役割（4）：　新しい貸出手法（動産担保融資，知的財産担保融資，リバースモーゲージ） 第　6回　銀行の役割（5）：　地域金融機関の取り組み（リレーションシップ・バンキング） 第　7回　銀行の役割（6）：　金融機関に対する規制，預金者保護のための制度 第　8回　証券会社の役割（1）：　株式の仕組み，株式市場の仕組み，株式上場の意義 第　9回　証券会社の役割（2）：　証券会社の役割，投資家保護のための制度 第10回　保険会社の役割（1）：　保険の仕組み，生命保険と損害保険，生命保険と損害保険の相互参入 第11回　保険会社の役割（2）：　保険会社の経営，機関投資家としての役割，保険会社に対する規制，契約者保護のための制度 第12回　日本銀行と金融政策：　日本銀行の金融政策（金融引き締め・金融緩和，量的緩和政策） 第13回　金融危機から学ぶこと：　金融危機を防ぐには 第14回　金融の新しい動き：　ソーシャル・ファイナンス（社会的課題を解決するための金融）の将来 第15回　まとめ （授業評価アンケートの実施，マイクロファイナンス・ビデオ視聴）		
成績評価の方法	筆記試験　(100%)		

授業科目	**経済学史**	担当者	篠田　剛
	〔履修年次〕　不問	〔学期〕	後期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】資本主義の歴史と経済学の発展 【概要】私たちの生活と経済は切っても切り離せない。それゆえ、現代に生きる私たちは、経済分析や経済政策の基礎理論を提供する経済学とも無関係でいることはできない。そもそも経済学は資本主義とともに誕生した。そして、経済学者たちは資本主義の抱える矛盾や謎と格闘してきた。その意味で経済学は観念の産物でも既に完成された学問でもなく、論争を繰り返しながら常にその時々の現実的課題に突き動かされて発展する生きた学問である。各時代を代表する理論を取り上げながらこれからの経済学の課題を考える。 【到達目標】代表的な経済理論の意義と限界をその時代の歴史的課題と関連づけながら理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業の中で指示する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　ケネー――重商主義批判と重農主義の経済学 第　3回　アダム・スミス（1）スミスの市民社会論 第　4回　アダム・スミス（2）古典派経済学の誕生 第　5回　リカードとマルサス――永遠のライバルによる古典派経済学の確立 第　6回　リスト――ドイツ歴史学派による古典派経済学批判 第　7回　マルクス（1）労働価値論の刷新 第　8回　マルクス（2）剰余価値の解明 第　9回　マルクス（3）資本主義の根本矛盾 第 10回　ジェボンズ、メンガー、ワルラス――限界革命 第 11回　ケインズ（1）大恐慌とケインズ革命 第 12回　ケインズ（2）有効需要の理論と経済政策 第 13回　ケインズ以後――ケインズへの挑戦 第 15回　経済学に残された課題 第14回　まとめ		
成績評価の方法	小レポート（30%）、筆記試験（70%）		

授業科目	**経済学特講**	担当者	蔵元　淳
	〔履修年次〕　１，２，３年いずれでも履修可	〔学期〕	後期
	〔単位〕　２単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 すべての人に関係する親族法と相続法と悪徳商法の手口について 【概要】 親族法（親子、兄弟姉妹、夫婦の各関係）と相続法について、弁護士経験にもとづき具体的に講義する。 また、経済的に苦しむ人々の救済手段たる消費者破産についてもふれる予定である。 加えて、悪徳商法にひっかからないためにとの時間を設け、ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について講義をする。 【到達目標】 司法書士のレベルに到達できるよう講義するつもりである。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　六法（小六法、模範六法その他何でも可）を持参願いたい。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　悪徳商法にひっかからないために。ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について 第　2回　婚姻（結婚）とは 第　3回　内縁について 第　4回　離婚とは 第　5回　離婚原因について 第　6回　離婚に伴う親権の指定、財産分与、慰謝料などについて 第　7回　親子（実子）について 第　8回　親子（養子）について 第　9回　相続とは 第10回　誰が相続するか 第11回　相続の割合はどうなるか 第12回　遺言書について 第13回　遺留分とは、どういうことか 第14回　個人破産とは、どういうことか 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（８０%）に授業での発言内容（２０%）を加味する。		

授業科目	**国際経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタの SPS と日系ブラジル人 【概要】グローバル化が加速する 21 世紀の世界経済について，その制度的な枠組みを WTO，FTA，EPA を中心に，バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで，日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに，海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で，国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。 【到達目標】21 世紀のグローバル化の現状を制度面と，その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂。 (2)		
授業スケジュール	第　1回　21 世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第　2回　WTO の仕組み：最恵国待遇，内国民待遇，数量制限の禁止，ドーハラウンド 第　3回　FTA とバラッサの 5 段階説：EU 第　4回　進展する FTA と EPA の限界：東アジア共同体か TPP か，NAFTA，メルコスル。日本の EPA 戦略の意義と限界 第　5回　海外工場から始まる最新のモノづくり（中国１）：広汽トヨタにおける SPS とリーン化の進展 第　6回　同上（中国２）： SPS と労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第　7回　同上（中国３）：サプライヤーパーク内専用道順引き：JIT から JIS への進化と負担転嫁 第　8回　同上（中国４）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第　9回　同上（中国５）：中国金型産業の発展と限界 第 10 回　同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式 SPS 第 11 回　同上（台湾）：国瑞汽車における AGV 牽引同期台車式 SPS 第 12 回　同上（インドネシア）：TMMIN におけるハンガー式 SPS 第 13 回　内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第 14 回　同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**アジア経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　１，２，３年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望 【概要】ヨーロッパ 27 カ国はヒト，モノ，カネの出入りが自由な共同体，EU を結成している。この 27 カ国は，地面の上には国境がなく，文字通り自由に出入りできる。アジアにも，こうした自由な共同体はできるのか？TPP と東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで，世界経済の成長を牽引する中国，インド，東南アジアの現状を概説する。以上の検討を踏まえて，アジア経済の未来を展望する。 【到達目標】アジア共同体への道を，各国の発展の現状から理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂 (2)		
授業スケジュール	第　1回　アジアとヨーロッパ：統合に向かう成長と統合による成長 第　2回　アジア経済への道（1）：経済統合の 5 段階 第　3回　同上（2）：TPP による完全自由化への道 第　4回　同上（3）：東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第　5回　中国経済（1）：経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第　6回　同上（2）：社会主義を目指す資本主義 第　7回　同上（3）：アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国～改革開放 30 年の成果～ 第　8回　インド経済（1）：インドの概況 第　9回　同上（2）：植民地から独立，管理経済を経て 91 年から自由化 第 10 回　同上（3）：民族資本として成長する TATA 第 11 回　東南アジアの経済（1）：タイとインドネシア 第 12 回　同上（2）：マレーシア，フィリピン，ベトナム 第 13 回　アジアの未来（1）：中国，インド，日本の役割 第 14 回　同上（2）：アジア共同体への展望 第 15 回　まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**国際関係論**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。その後，特に貧困問題，環境問題，人権，テロ，グローバルガバナンスについての説明と，問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣，2006 年）。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的，方法 第　2回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか 第　3回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化 第　4回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第　5回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１ 第　6回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２ 第　7回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争 第　8回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム 第　9回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序 第 10 回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回　国際社会における諸問題２：貧困と開発 第 12 回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題 第 13 回　国際社会における諸問題４：対テロ 第 14 回　国際社会における諸問題５：武器規制 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

授業科目	**アジア事情**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。 【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化，現代においては脱植民地化，国民国家建設，リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また，最近「東アジア共同体」ということがしきりに叫ばれている。これらの共通する事象を抽出し，分析する 【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　プリント		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的と方法 第　2回　「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第　3回　歴史的形成１：植民地以前のアジア 第　4回　歴史的形成２：植民地のようす 第　5回　歴史的形成３：植民地からの独立 第　6回　歴史的形成４：脱植民地化，国民国家建設，開発 第　7回　歴史的形成５：冷戦下のアジア 第　8回　東南アジア１：インドシナ三国 第　9回　東南アジア２： ベトナム戦争の影響 第 10 回　東南アジア３：タイ，ミャンマー，マレーシア 第 11 回　東南アジア４：メコン河流域開発 第 12 回　東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成 第 13 回　アジアにおける協力体制１：「東アジア共同体」について 第 14 回　アジアにおける協力体制２：「東アジア共同体」と日本 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	レポート（１００％）によって評価する。		

授業科目	**ヨーロッパ事情**	担当者	大重　康雄
	〔履修年次〕　1.2.3 年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】 ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ（EU）がもたらす世界経済への影響や内包する課題を考察する。 【概要】 ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）から通貨統合およびその後の金融財政危機に至る過程に重点を置き、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に EU 財政危機・景気低迷の影響が深刻化しており、ＥＵにおける雇用や財政問題・環境・エネルギー問題への対処を米国や日本と比較し、将来への展望を全員で考える。 【到達目標】 ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携協定が地域にどのような影響を与えるかが理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済　第４版』有斐閣アルマ　および講師作成プリント (2)　遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか		
授業スケジュール	第　1回　現在ヨーロッパで何が起こっているか 第　2回　ヨーロッパ統合前史 第　3回　ヨーロッパ統合の歴史 第　4回　統一通貨ユーロとは 第　5回　国際金融危機とＥＵ財政諸問題 第　6回　ＥＵ社会が抱える課題 第　7回　イギリスとＥＵ経済 第　8回　フランスとＥＵ経済 第　9回　ドイツとＥＵ経済 第 10 回　その他諸国とＥＵ経済 第 11 回　中・東欧諸国と EU 経済 第 12 回　ＥＵと対外通商関係 第 13 回　欧州通貨と国際金融システム 第 14 回　ヨーロッパ社会と統合の将来について　（まとめ） 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80　%）　＋　授業での発言内容（20　%）		

授業科目	**地域経済論**	担当者	田中　史朗
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　２単位　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】地域経済と第一次産業―地域再生の視角― 【概要】離島・半島など条件不利地域において（鹿児島県とてその例外ではなく，むしろ多く抱える），どのような問題を抱え，どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいのかを，事例分析を通して，多角的に解析し，考察していく。 【到達目標】農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて，それに対する政策的処方箋を導出するなど，地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　1回　地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（1） 第　2回　地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（2） 第　3回　内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展 第　4回　地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題 第　5回　農山漁村地域の活性化 実態編（1）：農山村地域での地域づくりとその手法 第　6回　農山漁村地域の活性化 実態編（2）：漁村地域での地域づくりとその手法 第　7回　資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織 第　8回　里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト 第　9回　第一次産業の担い手問題：後継者対策とＵ・Ｉターン者 第 10 回　地域リーダー論：地域リーダーの特徴，育成，そして役割 第 11 回　経営組織論：地域づくりと経営組織形態 第 12 回　農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック 第 13 回　農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み 第 14 回　地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第 15 回　まとめ 「農山漁村地域再生への道標」		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(４０%)+期末試験（６０%）		

授業科目	**地域産業政策**	担当者	田中　史朗
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】地域経済の再建と地域社会の再生 【概要】閉塞感の漂う条件不利地域にあって，地域の持続的な発展に何が必要なのか，事例分析を踏まえて解明していきたい。 【到達目標】地域のニーズを知る力，地域の課題や問題点を的確に捉えて，その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　1回　条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第　2回　日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第　3回　日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第　4回　日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第　5回　経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第　6回　内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第　7回　地域再生のための手法：六次産業化と異業種連携 第　8回　農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第　9回　山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第10回　漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第11回　地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティづくり 第12回　地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第13回　地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第14回　地域再生のための内発的発展モデル：人，組織，環境，産業 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(４０％)＋期末試験（６０％）		

授業科目	**地方自治論**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　１年，２年，３年いずれでも履修可　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】地方自治，地方行財政 【概要】地方自治とは何か，日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて，地方自治に関する基本的な理論や制度について講義するとともに，参考になると思われる海外の事例も取り上げます(下記，授業スケジュールを参照)。 【到達目標】近年，地方分権を求める声が高まっていますが，地方自治とは何か，なぜそれが尊重されるべきなのかといった根本的なことへの社会的な理解は必ずしも深まっていないように感じられます。この講義では，地方自治に関する基本的な理論，そして日本の地方自治に関する制度やその課題について理解を深め，地方自治，地方行財政について，自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　林健久編『地方財政読本　第５版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第　2回　地方自治：地方自治とは何か，地方政府の特徴，地方分権が求められる背景，グローバル化の影響等 第　3回　地方自治体の意思決定(1)：役所と議会の関係，国と地方自治体の関係等 第　4回　地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度，長の強い権限等 第　5回　地方自治体の財源(1)：三位一体の改革，地方債等 第　6回　地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法，地方債改革との関係等 第　7回　地方財政健全化法(2)：法律成立の背景，影響等 第　8回　地方自治体の財源(2)：地方交付税，国庫支出金等 第　9回　法定外税(1)：法定外税の定義，地方分権一括法での変更点，現在の傾向等 第10回　法定外税(2)：受益・原因と負担の関係，利点と問題点等 第11回　市町村合併：「平成の大合併」とその背景，望ましい合併とは，現在の状況等 第12回　市民参加・参画：歴史，求められている背景，小田原市の事例等 第13回　非営利組織：アメリカの非営利開発法人の事例等 第14回　住民自治：シアトル・メトロの事例について 第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等，詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**高齢者福祉**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000 年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。 【概要】本科目は，本科目は，専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。 【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『介護保険は老いを守るか』沖藤典子著、岩波新書 (2)　授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス　この授業のすすめ方 第　2回　（講義）福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策 第　3回　（講義）資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義 第　4回　（発表）テキスト「第１章　介護保険はなぜ創設されたのか」その１ 第　5回　（発表）テキスト「第１章　介護保険はなぜ創設されたのか」その２ 第　6回　（発表）テキスト「第２章　介護保険サービスの「適正化」」その１ 第　7回　（発表）テキスト「第２章　介護保険サービスの「適正化」」その２ 第　8回　（発表）テキスト「第２章　介護保険サービスの「適正化」」その３ 第　9回　（発表）テキスト「第３章　解決されるか、介護現場の危機」その１ 第10回　（発表）テキスト「第３章　解決されるか、介護現場の危機」その２ 第11回　（発表）テキスト「第４章　迷走した要介護認定」その１ 第12回　（発表）テキスト「第４章　迷走した要介護認定」その２ 第13回　（発表）テキスト「第５章　老いを守る介護保険への道」その１ 第14回　（発表）テキスト「第５章　老いを守る介護保険への道」その２ 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業中の発表　80%，授業中の発言 20%		

授業科目	**労働法**	担当者	疋田京子
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　後期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」実現のための基礎知識 【概要】労働法は憲法や民法の応用分野であり，憲法や民法・刑法・行政法といった基本的な法律の上になりたっている。その意味では全体像をつかむことは難しいかもしれない。しかし，1919 年に国際労働機関（ＩＬＯ）が結成されて以来，その法分野が目指したのは「ディーセント・ワーク」の実現なのだ。本講義では，就職するとき知っておくべき労働者の権利と義務，職場で問題が起こった場合の解決の手段に関する基本的なルールを講義する。 【到達目標】 １．働くときに知っておくべき労働者の権利と，使用者が守るべき義務とは何かを理解する。 ２．権利を主張するための法的根拠はどの法律にあるのかを理解する ３．権利の実現のために，どのような救済手段や機関があり、公的保障があるのかを知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業の時に紹介する (2)　授業の時に紹介する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：労働法の成立史 第　2回　労働法の全体像：憲法・民法と労働法の関係 第　3回　労働契約の成立：労働基準法と労働契約 第　4回　労働法上の「労働者」「使用者」概念：プロ野球選手は「労働者」？ 第　5回　就業規則・労働協約との関係：就業規則の不利益変更 第　6回　労働契約成立までの流れ：採用内定と試用期間の法的性格 第　7回　労働契約の内容：労働契約の基本的内容と使用者の労働条件明示義務 第　8回　労働契約の原則：雇用における男女平等と中間搾取の排除 第　9回　賃金についてのルール：賃金額の制限と賃金支払いのルール 第10回　労働時間の基本的ルール：所定労働時間と法定労働時間 第11回　労働時間制の多様化：変形労働時間制とフレックスタイム制 第12回　年次有給休暇：休日・休暇・休業はどう違う？ 第13回　労働契約の変更と終了：解雇に関する法規制 第14回　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて：育児・介護休業と雇用機会均等 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業時に提出してもらう小レポート（40%）＋　試験（60%）		

授業科目	**国際経済特講**	担当者	梅　允中
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも履修可 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】外国為替と貿易実務 【概要】経済のグローバル化の進展は著しく，消費者のニーズも多様化していることによって，貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで，これからは，輸出入取引の仕組みや外国為替，貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。 この講義では，貿易実務について広く習得し，貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また，貿易実務を学習しながら，貿易英語も勉強します。 【到達目標】貿易実務担当者レベル		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　最新版　貿易実務　ハンドブック　日本貿易実務検定協会　編　発行所　中央書院 (2)　必要に応じて資料を配布する		
授業スケジュール	第１回～　輸入編 第４回　・貿易とは，規制の確認，インコタームズ，輸入の流れ ・輸入採算，契約，海上貨物保険付保 ・決済方法，通関，貨物引取り 第５回～　輸出編 第７回　・取引準備・契約，輸出採算，輸出流れ， ・輸出信用状 ・輸出書類作成 第８回～　外国為替編 第９回　・外国為替の仕組み ・為替リスク ・外国為替と銀行取引 第10回　貨物海上保険，信用状の実務 第11回　輸出入通関と関税 第12回　仲介貿易 第13回　貿易実例紹介 第14回　貿易実例紹介 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験の成績（７０％）に，授業での発言内容及び予習の状況（３０％）を加味する。		

授業科目	**地域研究特講**	担当者	山本晃正
	〔履修年次〕　1年時 〔単位〕　2単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 消費者をめぐる法律問題の諸相 【概要】 常に新たな手口が登場する悪徳商法やワンクリック詐欺などの消費者被害はどのように規制されているのか，金融商品の規制はどうなっているのか，危険な製品で受けた消費者の被害はどのように賠償されるのか，サラ金への規制はどうなっているか，公正な競争や表示のための規制はどうなっているのかなど，われわれ消費者を取り巻く様々な法律問題を，消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として，最新の法律改正も交えながら，できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。 【到達目標】 消費者がどのような状態にあり，どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し、その上で，消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは』法律文化社 (2)		
授業スケジュール	第　1回　授業で扱う対象などの全体像の概説，消費者と契約：契約とは何か，契約の拘束力からの離脱 第　2回　消費者と契約：消費者契約法（目的，対象，取消権） 第　3回　消費者と契約：消費者契約法（不当条項の無効，適格消費者団体による差止請求権） 第　4回　消費者と契約：電子消費者契約法，特定商取引法（規制対象，ネガティブ・オプション，訪問販売の諸規制） 第　5回　消費者と契約：特定商取引法（訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度，クーリングオフの意味と制度概要） 第　6回　消費者と契約：特定商取引法（通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引＝マルチ） 第　7回　消費者と契約：無限連鎖講防止法（ねずみ講の禁止），復習のための第１回模擬演習テスト，製造物責任法（目的） 第　8回　消費者と安全：製造物責任法（製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由） 第　9回　消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など 第10回　消費者と信用取引：割賦販売法（割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん） 第11回　消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制） 第12回　消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（競争政策の意味，カルテル禁止と灯油裁判，共同の取引拒絶など） 第13回　消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（差別対価，不当廉売，抱合せ販売，再販売価格の拘束） 第14回　消費者と不当表示・景品提供：不当景品類及び不当表示防止法（景品表示法…改正法） 第15回　まとめ：消費者基本法，消費者の諸権利，復習のための第２回模擬演習テスト		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**地方自治法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕 不問	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】住民自治，団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で，地方公共団体の種類及び事務，住民の権利義務，条例と規則，議会，執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し，地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。 【概要】地方自治法は，国と地方自治公共団体の役割分担，機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設，普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与，国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では，地方自治法をわかりやすく解説することで，地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。 【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し，国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 井上正仁他編，ポケット六法，有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 地方自治の意義 ・住民自治，団体自治，伝来説，固有権説，地方自治の本旨 第 2回 地方公共団体の種類 ・地方公共団体の構成要素，都道府県，市町村 第 3回 地方公共団体の区域・事務 ・区域，機関委任事務，法手受託事務 第 4回 住民の権利義務(1) ・住民，条例の制定改廃の請求，事務監査の請求 第 5回 住民の権利義務(2) ・議会の解散請求，議員，長及び特定職員の解職請求，住民監査請求 第 6回 条例(1) ・条例制定権の範囲と限界，法令先占論，条例の効力 第 7回 条例(2) ・条例制定手続，条例と罰則，行政罰，規則の制定事項 第 8回 議会(1) ・議会の地位，町村総会，議会の組織，議会の権限，調査権 第 9回 議会(2) ・定例会，臨時会，議会の運営，定足数の原則，過半数議決の原則 第10回 執行機関(1) ・長の地位，長の権限，長の職務の代理，地方公共団体の事務所 第11回 執行機関(2) ・行政委員会の意義，長と行政委員会との関係，監査委員，教育委員会 第12回 議会と長との関係 ・再議制度，専決処分，長に対する不信任議決，議会の解散 第13回 地方公共団体と国の関係 ・国の関与の手続，法定受託事務の処理基準，国地方係争処理委員会 第14回 予算 ・予算事前議決の原則，予算公開の原則，予算単一主義の原則 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(90%)，授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	**簿記論Ⅱ**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕 不問	〔学期〕	後期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 簿記から会計へ 【概要】 本講義は，簿記の手続き一巡についての学習（簿記論Ⅰ）をふまえて，諸取引の処理と決算について学習します。 【到達目標】 財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部ほか『新検定　簿記講義　3級　商業簿記』（平成27年版），中央経済社。 渡部ほか『新検定　簿記ワークブック　3級　商業簿記』（平成27年版）中央経済社。 (2)		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス（履修登録の確認，講義計画についての説明等） 第 2回 受取手形と支払手形 第 3回 有価証券 第 4回 固定資産 第 5回 貸倒損失と貸倒引当金 第 6回 資本金と引出金 第 7回 収益と費用 第 8回 中間試験 第 9回 伝票 第10回 決算と財務諸表（1） 第11回 決算と財務諸表（2） 第12回 決算と財務諸表（3） 第13回 決算と財務諸表（4） 第14回 復習 第15回 まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	筆記試験（中間20%，期末80%）		

（注）2014年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も簿記論Ⅱを履修できます。

授業科目	**経営管理論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1，2、3年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】２人以上の個人が集団として活動する場合，そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり，その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは，財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。 したがって経営管理とは，経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり，このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では，彼らが，ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し，組織内部にいる関係者のみならず，組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち，対処しているのかを講義していきます。 【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない (2)　講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第　1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第　2回　経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第　3回　組織における人間（1）：企業で人を管理する際に重要となる、動機づけの問題について説明する。 第　4回　組織における人間（2）：人を働く気にさせる動機づけの種類ついて考える。 第　5回　組織における人間（3）：「組織における人間観」に基づく、様々な経営理論を紹介する。 第　6回　組織における人間（4）：人は何に満足し、何に不満を感じるのか考える。 第　7回　年功主義と成果主義を改めて考える：年功主義・成果主義、それぞれの長所と短所を説明する。 第　8回　企業理念と組織文化：企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。 第　9回　組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。 第10回　リーダーシップと人事管理：リーダーシップとは何か、人事管理との関連で考える。 第11回　上司と部下の関係：理想的な上司と部下の関係、現実の上司と部下の関係を考える。 第12回　リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。 第13回　リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。 第14回　企業とキャリア：今後のキャリアと企業で働くことの意味について考える。 第15回　まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定）詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営組織論**	担当者	朝日　吉太郎
	〔履修年次〕　1，2，3年　〔学期〕　前期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　資本主義企業の経営組織の発展と、ディーセントワーク（人間らしい労働）をめぐる問題の検討 【概要】　資本主義企業の経営組織の発展の法則的理解に基づいて、その下で労働の非人間化問題とその解決を健闘して、今日、ＩＬＯが課題としているディーセントワーク（人間らしい労働）がなぜ実現しにくいのか、その実現に何が必要かについて検討する。 【到達目標】人間らしい労働をどのように考えるべきか、その実現のために何が必要かを法則的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』文理閣 (2)　授業内で指示する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　労働の特質と近代労働観の分裂 第　3回　資本主義的経営と労働 第　4回　単純協業と分業 第　5回　機械制大工業に基づく分業が持つ意味 第　6回　機械制大工業と労働疎外 第　7回　科学的管理方法の登場 第　8回　フォーディズム 第　9回　労働の人間化要求と人間関係論 第10回　ボルボ・システム 第11回　トヨティズムとＴＱＣ 第12回　日本的経営論と制限 第13回　新日本的経営への転換 第14回　ブラック企業とディーセントワーク 第15回　ディーセントワーク論の問題点		
成績評価の方法	学期末試験		

授業科目	**管理会計論**	担当者	北村浩一
	〔履修年次〕 1，2，3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する 【概要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。 【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 講義ガイダンス・講義の進め方や評価について 第 2回 予算管理（1） 第 3回 予算管理（2） 第 4回 利益管理（1） 第 5回 利益管理（2） 第 6回 CVP 分析（1） 第 7回 CVP 分析（2） 第 8回 管理会計とは 第 9回 分権的組織の管理会計（1） 第10回 分権的組織の管理会計（2） 第11回 原価概念 第12回 原価計算と原価管理 第13回 標準原価管理 第14回 原価企画と ABC 原価計算 第15回 講義のまとめ （＊ 講義の進度によって予定を変更する場合があります）		
成績評価の方法	小テスト(計２回、各 10%) と期末定期試験（60%）の総計で評価します。		

授業科目	**原価計算**	担当者	岡村 雄輝
	〔履修年次〕 不問 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 原価計算入門 【概要】 本講義は，モノづくりに要した原価を正確に把握する手続きについて学びます。まずは製造業のビジネスゲームをプレイし，経営意思決定における原価計算の重要性を確認します（第 4 回まで）。以降は，製造業における様々な取引についての解説を受けて，実際に記帳の練習に取り組みます。「事例の解説→演習問題」を繰り返すことによって，工業簿記に特有の手続きに親しみ，原価計算の基本的な素養を身につけることになります。 【到達目標】 製造業における取引を記帳する能力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス（履修登録の確認，講義計画の説明等） 第 2回 経営意思決定と原価計算（1） 第 3回 経営意思決定と原価計算（2） 第 4回 原価計算のあらましと工業簿記 第 5回 材料費の計算と記帳（1） 第 6回 材料費の計算と記帳（2） 第 7回 労務費の計算と記帳（1） 第 8回 労務費の計算と記帳（2） 第 9回 経費の計算と記帳 第10回 製造間接費の計算（1） 第11回 製造間接費の計算（2） 第12回 個別原価計算（1） 第13回 個別原価計算（2） 第14回 個別原価計算（3） 第15回 まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**国際経営論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】自動車産業における企業間関係と企業経営～日本と中国の比較～ 【概要】この講義では、自動車産業における企業間関係と企業経営について日中を比較しながら説明する。 【到達目標】自動車産業における親会社と子会社との関係をサプライヤーシステムとして把握し，自動車メーカーから見た効率性と自動車メーカーが効率化した分だけ部品メーカーに負担が転嫁されている仕組みを学ぶ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車IMV』文眞堂 (2)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的、方法 第　2回　第1章　中国自動車市場の現状とサプライヤーシステム 第　3回　第2章　広汽トヨタのＪＩＴにおけるＳＰＳと順引きの意味（1回目） 第　4回　同上（2回目） 第　5回　同上（3回目） 第　6回　第3章　中国市場における日系自動車産業と金型供給構造（1回目） 第　7回　同上（2回目） 第　8回　第4章　日本における自動車部品サプライヤーシステムの現状 第　9回　第5章　北海道・東北地域におけるメーカー・サプライヤーの生産, 部品調達と地域企業による自動車産業への参入 第10回　第6章　九州地域における自動車部品サプライヤーシステムの展開過程 第11回　第7章　本田技研の二輪車事業の変遷とサプライヤーの対応 第12回　第8章　トヨタ・グループの需要変動対応能力 第13回　同上（2回目） 第14回　偽装請負のもとでのトヨタ的労使関係の変容 第15回　まとめと試験		
成績評価の方法	試験によって評価する。		

授業科目	**比較経営論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1、2、3年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】経営システムの多様性を知る。 【概要】本講義では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行います。まず、日本の経営について詳しく解説した後、アメリカの経営、欧州の経営と進み、アジア各国の経営を見ていきます。各国の経営を説明する際に、歴史的な要素を扱いますので、歴史が好きでなくとも歴史的な解説を苦にしない学生さんの出席を望みます。 【到達目標】各国の経営システム間に共通性と相違性があることを発見し、それがなぜ異なるのかについて考える。また、システムの多様性や経路依存性について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等 第　2回　日本の経営（1）：日本的経営の歴史、日本企業の統治構造 第　3回　日本の経営（2）：日本企業における戦略と組織の特徴 第　4回　日本の経営（3）：日本企業の生産方式、労使関係 第　5回　日本の経営（4）：日本における企業間構造、中小企業 第　6回　アメリカの経営（1）：アメリカ企業の歴史と統治構造 第　7回　アメリカの経営（2）：アメリカ企業における戦略と組織の特徴 第　8回　イギリスの経営：イギリス企業の歴史と経営システム 第　9回　フランスの経営：フランス企業の歴史と経営システム 第10回　ドイツの経営：ドイツ企業の歴史と経営システム 第11回　中国の経営：中国企業の歴史と経営システム 第12回　韓国の経営：韓国企業の歴史と経営システム 第13回　アジア各国の経営：台湾などその他アジア各国の企業の特徴 第14回　その他各国の経営：これまでに解説した国以外の経営システムについて 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80点）＋レポート（20点）		

授業科目	**経営分析**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　前期 〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 財務諸表から企業社会の諸相を読み解く 【概　要】 本講義は，会計というコトバの読み方・書き方を習得し，企業社会のあり様を読み解く力を養うことを目的としています。まずはビジネスゲームをプレイし，その内容を記録・計算することを通して，会計の重要性・有用性を確認します（書き方の学習：第 4 回まで）。次に，いくつかの企業の財務諸表を用いて，企業の戦略と事業の成果について分析し，財務諸表分析の全体像を把握します（読み方の学習：第 6 回まで）。さらに，第 7～12 回までは，財務諸表のより詳細な読み方を学習します。最後に，社会問題（公害等）の解消に向けた様々な取り組みにおいて，会計のコトバが利用されていることを学びます。 【到達目標】 ①財務諸表を読解し，企業の財政状態・経営成績について説明できるようになる ②社会問題の解消のために，会計情報が利用されていることを理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス（履修登録の確認，講義計画についての説明等） 第　2回　ビジネスと会計実践（1） 第　3回　ビジネスと会計実践（2） 第　4回　帳簿の締切と決算 第　5回　物語としての会計：アパレル産業の差別化戦略 第　6回　物語としての会計：自動車産業の差別化戦略 第　7回　貸借対照表の読み方（1） 第　8回　貸借対照表の読み方（2） 第　9回　損益計算書の読み方（1） 第 10 回　損益計算書の読み方（2） 第 11 回　キャッシュフロー計算書の読み方 第 12 回　決算の舞台裏：ある総合商社の決算対策委員会 第 13 回　社会問題と会計（1） 第 14 回　社会問題と会計（2） 第 15 回　まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**企業行動科学**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　不問　〔学期〕　後期 〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える 【概要】行動科学とは，個人や集団の形で人間が行う行動に関して，その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し，説明し，分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく，心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。 この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として，企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために，一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。 【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に触れる。主要な動機づけ理論を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第　1回　講義概要の説明：講義の概略を説明する 第　2回　意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第　3回　組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第　4回　集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第　5回　組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第　6回　意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第　7回　映画「12 人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える 第　8回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する 第　9回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点ついて説明する 第 10 回　リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する 第 11 回　リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する 第 12 回　上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する 第 13 回　上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 14 回　卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第 15 回　まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定）　詳細は 1 回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営戦略論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1、2、3年いずれでも履修可　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】経営戦略に関する基本的知識を習得する 【概要】経営戦略とは、企業が外部環境の変化に適応しながら、長期的な存続・成長を図るための意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説していきます。さらに、グローバル戦略や企業の社会的責任などの、現代の社会における経営戦略についても講義します。 【到達目標】経営戦略論の基本概念を知ると同時に、それぞれの概念がどのような関係にあるのかを考える。また、講義を通じて得た知識を基に、ニュースや新聞・雑誌記事をより深く理解できるようになることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。 第　2回　経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第　3回　経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業範囲）について解説する。 第　4回　規模の経済と範囲の経済、水平統合と垂直統合：規模の経済等の基本事項を説明する。 第　5回　多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。 第　6回　M&A と戦略的提携：M&A および戦略的提携について、それぞれの特徴や相違点を見ていく。 第　7回　経験曲線と PLC：PPM の基礎になる、経験曲線と PLC を解説する。 第　8回　PPM：全社的視点から、経営資源の配分方法について考える。 第　9回　経営戦略の事例について：DVD を鑑賞し、実際の企業においていかに経営戦略が重要であるかを再確認する。 第 10 回　競争戦略とは何か：競争戦略の概要や、競争戦略に４つのアプローチが存在することを説明する。 第 11 回　ポジショニング・アプローチ：M.ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチを解説する。 第 12 回　資源ベース・アプローチ：ポジショニング・アプローチと対比しながら、資源ベース・アプローチを解説する。 第 13 回　ゲーム論的アプローチ：経済学のゲーム論を基礎とした、ゲーム論的アプローチを解説する。 第 14 回　学習アプローチ：組織学習論を中心に、学習アプローチについて解説する。 第 15 回　経営戦略と現代社会：現代社会における経営戦略のあり方について考える。まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80 点）+レポート（20 点）		

授業科目	**企業論**	担当者	朝日　吉太郎
	〔履修年次〕　1，2，3年　〔学期〕　後期 〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】　巨大企業集団の形成とその運動形態の解明。 【概要】　世界各国には巨大な企業集団が存在し、その利益に基づいて経済活動が行われ、様々な問題を生み出している。そのような集団がなぜ生まれ、どういう構造を持ち、今後どのように発展するのか。その影響はどうかを理解する。 【到達目標】独占的巨大企業の形成と発展についての理解を深め、現代社会を理解する基本認識を高める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に定めない。 (2)　授業内で指示する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス　資本主義と企業 第　2回　イノベーションと競争 第　3回　資本の蓄積（1） 第　4回　資本の蓄積（2） 第　5回　相対的過剰人口と諸形態 第　6回　利潤と競争 第　7回　商業資本 第　8回　利子生み資本 第　9回　銀行と信用、株式会社 第 10 回　独占的巨大企業の形成と企業集団 第 11 回　企業集団と国家 第 12 回　恐慌と戦争 第 13 回　パクスアメリカーナと日本独占資本主義の復興 第 14 回　冷戦体制の崩壊とグローバル化の新ステージ 第 15 回　今日の企業社会と問題点，まとめ		
成績評価の方法	学期末試験		

授業科目	**経営工学**	担当者	倉重賢治
	〔履修年次〕 不問	〔学期〕	後期
	〔単位〕 ２単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化 【概要】 現在の企業活動においては，情報技術を有効に活用した情報収集，さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず，取引先も含めた情報も共有化されることで，より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では，企業活動において頻繁に行われる意思決定，例えば，生産スケジュールの立案や在庫管理など，その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。 【到達目標】 企業活動における，ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治，『生産マネジメントの手法』，朝倉書店		
授業スケジュール	第 1回 序論：経営工学とは 第 2回 生産スケジューリング１：どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3回 生産スケジューリング２：どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには 第 5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8回 作業分析：作業者の動作を分析する 第 9回 投資計画１：お金の現在価値と将来価値 第10回 投資計画２：プロジェクトの価値 第11回 在庫問題：在庫コストを少なくする 第12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第13回 最短経路：一番近い道を探す 第14回 配送計画：配達順序を決める 第15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**コンピュータ会計**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕 ２，３年	〔学期〕	前期
	〔単位〕 １単位 〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕	実習方式（一部，講義方式を含む。基本的にパソコン教室での講義。）
テーマ及び概要	【テーマ】パソコンを用いた財務諸表分析 【概要】この科目では，簿記一巡の手続きに関して理解しており，財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また，分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト（エクセル）の使用を予定していますので，エクセルの基本的な操作に関して説明します。上記の初歩的な説明を行った後，講義の後半では，各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：ＥＤＩＮＥＴ（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います 【到達目標】基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い，その結果の解釈を行うことができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 内藤文雄『会計学　エッセンス』，中央経済社，2013 年。 (2) 新井清光・川村義則『新版　現代会計学』，中央経済社，2014 年。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：履修登録確認，コース・パケット配布，会計の全体像 第 2回 会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINET の使い方） 第 3回 有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み 第 4回 会計学と財務情報について（テキスト第１，２章） 第 5回 会計学と財務情報について（テキスト第３，４章） 第 6回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROE など） 第 7回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第 8回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第 9回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第10回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点，収益性の視点など） 第11回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ･フロー分析①） 第12回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ･フロー分析②） 第13回 時系列分析（２社以上） 第14回 同業他社比較分析（２社以上） 第15回 まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施		
成績評価の方法	講義での発言内容，講義（毎回ではないが）で作成した資料（40%），および期末レポート（60%）で評価する。 第１回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。		

授業科目	**応用データ活用**		担当者	倉重賢治	
	〔履修年次〕	不問	〔学期〕	後期	
	〔単位〕	1 単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作 【概要】 実務でのコンピュータ利用において，データベース処理ソフトは，非常に重要な役割を果たしている。この演習では，まず，リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に，代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し，データベース設計に関する問題に取り組んでいく。 【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して，簡単なシステム開発を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし				
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：レコードの並べ替え 第 4 回 Access の操作：レコードの追加 第 5 回 Access の操作：フォームの作成 第 6 回 Access の操作：選択クエリの作成 第 7 回 Access の操作：さまざまなクエリ 第 8 回 Access の操作：アクションクエリ 第 9 回 Access の操作：データベースの設計 第 10 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 11 回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12 回 Access の操作：レポートの作成 第 13 回 Access の操作：レポートのアレンジ 第 14 回 Access の操作：マクロの利用 第 15 回 まとめ				
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）				

授業科目	**プログラミング**		担当者	倉重賢治	
	〔履修年次〕	不問	〔学期〕	前期	
	〔単位〕	1 単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング 【概要】 プログラミングとは，コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では，プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて，論理的な思考を身につけることはもちろんのこと，VBA の利用により，さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。 【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 七条達弘，『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング　第 5 版』，ソフトバンククリエイティブ (2) 特になし				
授業スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：関数と変数 第 3 回 VBA の利用：条件分岐 第 4 回 VBA の利用：オブジェクトの基本 第 5 回 VBA の利用：繰り返し操作 第 6 回 VBA の利用：マクロの登録と自作関数 第 7 回 VBA の利用：マクロの記録 第 8 回 VBA の利用：文字列と日付関数 第 9 回 VBA の利用：変数の型宣言と配列 第 10 回 VBA の利用：プロシージャとオブジェクト 第 11 回 VBA の利用：セル操作の詳細 第 12 回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 13 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 1 第 14 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 2 第 15 回 まとめ				
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）				

授業科目	**情報論特講**	担当者	岡村俊彦，倉重賢治
	〔履修年次〕 不問	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ICT（情報通信技術）について実用的，応用的な学習をおこなう。 【概要】 ハードウェア，ソフトウェア，ネットワークといったICTを学び，日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに，コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。 【到達目標】 実社会において，自らICT業務に携わり，効果的，効率的な活用ができるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) FOM出版「日商PC検定試験 知識科目 2級対策問題集」，プリント (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア，ソフトウェアの解説 第 3回 コンピュータのハードウェア1：PCの実物を分解し，ハードの構成と役割の学習 第 4回 コンピュータのハードウェア2：PCの実物によるインターフェイスの学習 第 5回 ソフトウェアの設定：アプリケーションやドライバなどソフトの導入と設定 第 6回 ネットワークの仕組みと設定：ネットワーク機器と各種設定 第 7回 ウェブ活用：さまざまなウェブサービスの利用と注意事項 第 8回 コンピュータが扱う数字1：2進数と16進数 第 9回 コンピュータが扱う数字2：負の数と実数 第10回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号 第11回 シミュレーション1：シミュレーションとは 第12回 シミュレーション2：エクセルを用いたシミュレーション 第13回 意思決定：エクセルのソルバー 第14回 データ分析：エクセルのデータ分析 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（75%）＋期末試験（25%）		

（注）「情報科学概論」（担当：岡村）を履修済みもしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする。

授業科目	**マーケティング論**	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1、2、3年いずれでも履修可	〔学期〕	前期
	〔単位〕 2単位	〔必修／選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ 【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための様々な「仕組みづくり」です。現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基礎を固めた後、応用として現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。 【到達目標】マーケティングに関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいは販売者としての視点を養うことを目標とする。すなわち、企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解し、「賢い消費者」になることであると同時に、顧客ニーズや顧客満足を満たすために、いかなる努力が必要であるかを知ることである。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。 第 2回 マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3回 標的市場の選択：STPについて解説する。 第 4回 市場・消費者行動分析：消費者行動論の知見を基に、消費者ついて理解を深める。 第 5回 競争分析：「ポジショニング」という概念を中心に、企業間の競争構造の分析方法を知る。 第 6回 製品戦略：製品ミックスや製品ライフサイクル、新製品開発プロセスなどの、製品戦略について解説する。 第 7回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 8回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択・管理の方法を説明する。 第 9回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスやメディア・ミックスなどを解説する。 第10回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。 第11回 関係性マーケティング：企業と消費者の長期的関係性の構築について考える。 第12回 グローバル・マーケティング：グローバル規模でのマーケティング戦略に関する知識を習得する。 第13回 ソーシャル・マーケティング（1）：企業の社会的責任に関するDVDを鑑賞する。 第14回 ソーシャル・マーケティング（2）：マーケティングと企業の社会的責任の関連性を解説する。 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60点）＋レポート（40点）		

18　商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

（経済専攻・経営情報専攻とも）

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備　　考
基礎演習	1 年	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演習 Ⅰ	1 年	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演習 Ⅱ	2 年	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2 年	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備　　考
基礎演習	1 年	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演習 Ⅰ	2 年 (1年)	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演習 Ⅱ	3 年 (2年)	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3 年 (2年)	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。

授業科目	（第一部･第二部） 基礎演習･演習Ⅰ･演習Ⅱ･卒業研究	担当者	学科教員全員

①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目

社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは（1）司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で，講義科目と異なり，参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また，担当教員と所属学生で構成する演習は，工場見学や研究のための合宿，国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして，（2）対話型であるために，参加学生各自の自発性が重要で，他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し，応用してゆく場です。そのため，（3）どの担当教員の演習に参加するかということが，その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので，加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して，受講登録に臨むようにして下さい。

②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか？

商経学科の「演習」系授業科目は，（1）すべて必修科目で，（2）これを順番に受講することで，社会学科的なものの考え方から出発して，自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。

③「演習」系科目の受講の流れ

（第一部）

１年生前期「基礎演習」

全員が基礎演習に所属し，ゼミナールの基本的な部分（運営・議論など）について，学びます。

１年生後期「演習Ⅰ」→２年生前期「演習Ⅱ」→２年生後期「卒業研究」

１年生後期から始まる演習は，卒業までの期間，自らが選択した教員と学んでいくことになります。

演習ごとの特色のあるテーマについて，教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。

２年後期に卒業論文を仕上げることによって，物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。

（第二部）

１年生前期「基礎演習」

全員が基礎演習に所属し，ゼミナールの基本的な部分（運営・議論など）について，学びます。

２年生後期「演習Ⅰ」→３年生前期「演習Ⅱ」→３年生後期「卒業研究」，もしくは

１年生後期「演習Ⅰ」→２年生前期「演習Ⅱ」→２年生後期「卒業研究」

２年生（１年生）後期から始まる演習は，卒業までの期間，自らが選択した教員と学んでいくことになります。

演習ごとの特色のあるテーマについて，教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。

３年生（２年生）後期に卒業論文を仕上げることによって，物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。

※　第二部の演習１は１年生後期から例外的に履修することも可能です。ゼミナール募集に関する掲示を５～６月に出しますので，よく見ておいてください。

④演習のテーマ及び概要・スケジュール

各演習には，担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして，「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし，最終的には，演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。

⑤成績評価の方法

演習ごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。

⑥受講登録上の注意

原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って，「演習Ⅰ」の選択が重要となります。

授業科目	**社会活動**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕年次指定なし　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は，非営利組織を中心とした研修先において，実際の現場での体験を得ることにより，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概　要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて，社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
（1）テキスト （2）参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心に研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	**企業研修**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕１年（第一部），２年（第二部）　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】この科目は，一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は，民間企業を中心に県庁，病院などの研修先において，現場で就業体験を行い，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概　要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて，社会人としての課題，企業運営，職務遂行に必要な知識・技術を理解し，働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
（1）テキスト （2）参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義，研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

19　教職に関する科目

授業科目	**教職入門**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義	
テーマ及び概要	【テーマ】教職の意義や役割について，実際の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し，あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。 【概要】本科目は，教員免許の取得に必要な科目であり，「教職の意義」について検討考察し，学校で働く教師の職務内容，すなわち教育活動と服務の関係，研修や身分とその保障について扱う。また近年，学校教育と実社会の繋がりが着目され，その際重要となる教職員の役割として進路選択を可能にする力の育成，すなわちキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが，必要に応じて資料に関連した文献，記事，VTR等を取り入れる。 【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解につきるが，教職の意義および教員の役割，教員の職務内容(研修，服務及び身分保障等を含む)関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版　2010年 (2)　授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 教育職員免許法における本科目の位置づけなど 第　2回　教える・教えられる関係の変遷1 古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について 第　3回　教える・教えられる関係の変遷2 江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師 第　4回　教える・教えられる関係の変遷3 教職の位置づけについて，戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ 第　5回　現代学校における教師の役割と仕事1 学校における教員の日常と職務内容 第　6回　現代学校における教師の役割と仕事2 学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談 第　7回　現代の教師の身分と地位1 教員養成制度と研修制度 第　8回　現代の教師の身分と地位2 教員の服務・身分と公務員制度 第　9回　学校における分業制の理解 学校での少数職種，校内分業体制と校務分掌，教職の全体性 第10回　学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割1 いじめ・不登校への地域と連携した対応，学校を取り巻く社会での連携，自然体験 第11回　学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割2 進路選択とキャリア教育，社会体験のコーディネーターとしての役割，職業観の涵養 第12回　教師の資質をめぐる動き1 戦後の教員政策の変遷 第13回　教師の資質をめぐる動き2 学校評価・教員評価・不適格教員・心の健康 第14回　これからの教師に求められるものは何か 生涯学習社会における教師の成長の意義 第15回　まとめ		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート（3回程度）30%，筆記試験70%		

(注)

授業科目	**教育原理**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修　〔授業形態〕　講義
テーマ及び概要	【テーマ】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 【概要】教員になるために必要な教育学の知識として，最低限身につけておくべき教育学の理論を踏まえつつ，実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史・制度に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には，現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践・学校経営の事例の紹介など，今日的なトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。 【到達目標】教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版　2010年 (2)　参考文献は随時紹介する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス この科目の位置づけと目的 第　2回　教育とは何か その目的と機能に関する教育思想の理解 第　3回　現代の学校と教育課題 今日の学校教育を取り巻く「問題行動」について理解する 第　4回　近代公教育思想1 ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する 第　5回　西洋での学校の出現 中世から近代にかけて簇生した学校や大学について理解する 第　6回　近代公教育思想2 ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する 第　7回　日本における学校の成立 明治5年の学制の意義と社会的役割について理解する 第　8回　近代公教育思想3 日本の教育の原型を創った森有礼と師範学校教育について理解する 第　9回　日本における学校教育の展開 大正期から昭和初期にかけての学校改革運動の発生とその結末について理解する 第10回　戦後日本の教育改革 戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する 第11回　戦後日本のカリキュラムの改革史 学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する 第12回　日本の1950年代～80年代の教育改革 中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する 第13回　世界の教育改革とPISA 1970年代から今日までの各国の教育改革とPISAについて理解する 第14回　新しい学習指導要領 平成24年度完全実施（中学校）の学習指導要領の改正点について理解する 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験と小レポート（８：２程度の比率）で評価する。		

授業科目	**教育心理学**	担当者	石川満佐育
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修（注）　〔授業形態〕　講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】&【概要】教育活動を行ううえで必要となる知識（理論や概念）を提供する科目として教育心理学がある。本講義では，教育心理学の主要テーマである「学習」，「発達」，「評価」，「性格」の4つについて学ぶ。 切な教育活動を行うには，学習に関する理論や概念を知る必要がある。また，教育の対象である子どもの発達過程や年齢に応じた心理的特性を知っておく必要がある。さらに，知識の習得だけでなく，その知識を教育活動にどのように活かしていくかを考えることを意識できるようにする。 【到達目標】切な教育活動を行うには，学習に関する理論や概念を知る必要がある。また，教育の対象である子どもの発達過程や年齢に応じた心理的特性を知っておく必要がある。さらに，知識の習得だけでなく，その知識を教育活動にどのように活かしていくかを考えることを意識できるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎時プリントによる資料を配布します。 (2)　参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション・教育心理学とは？ 第　2回　学習①：学習理論 第　3回　学習②：動機づけ 第　4回　学習③：学習指導法 第　5回　学習④：記憶のメカニズム 第　6回　学習⑤：効果的な学習法 第　7回　発達①：発達理論①（エリクソンの心理社会的発達理論） 第　8回　発達②：発達理論②（ピアジェの認知発達理論） 第　9回　発達③：乳幼児期の発達的特徴 第10回　発達④：児童期，青年期の発達的特徴 第11回　評価①：教育評価 第12回　評価②：知能検査 第13回　性格①：パーソナリティ理論 第14回　性格②：パーソナリティ検査 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋リアクションペーパー（30%）		

授業科目	**教育行政学概論**	担当者	岩橋　法雄
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期集中 必修（注）　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代日本の教育の行政・制度 【概要】日本の教育の管理運営は，誰(Who)が，誰(Whom)を，どのようなルール(which principles)で，行われているのか？その仕組みと今後考えるべき課題を，歴史的かつ比較的に考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関（文部科学省，教育委員会）であるが，まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは、教育委員会の理念の解説をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし，子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は，案外みなさんに関心を持たれていないが、学校で学び，生活する私たちに密接に関係している＜教育の法律に関すること＞である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に、そして構造的に概観する。 【到達目標】日本の教育行政・制度、公教育経営の基本的な事項について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 (2)　授業中に随時指示		
授業スケジュール	第　1回　教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型（Administration と Governance）の相違と特質 第　2回　学校，選ばれる学校とそうでない学校（unpopular と popular）の相克。　教育の制度と管理運営。 第　3回　戦後日本の教育行政の基本原理，その歴史的変遷 ・1945年教育基本法の「教育行政」観、教育委員会委員長と教育長（レイマン・コントロールの意味）、教育委員会の基本的性格 第　4回　変化する社会と教育委員会の改革論議と動向1 第　5回　新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関　・文部科学大臣・文部科学省，教育委員会（教育委員会の構成と権限） 第　6回　教育関連諸法規の概要 第　7回　教師と法 ・公務員としての教師は，何ができて何ができないか？（身分上の問題）、対生徒の関係において，何ができて何ができないか？（①体罰になること，ならないこと、②校長の権限，教諭の権限） 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	授業中に課すレポート並びに最終試験によって評価する		

授業科目	**教育課程論**	担当者	未定
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	**国語科教育法**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1年 〔単位〕　2単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し，授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また，模擬授業により，実践的な授業の能力を身につける。 【概要】中学校学習指導要領を読み解き，現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で，授業を計画し，指導案を作成し，授業を実施する流れを修得する。そのために，指導案を作成し，模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業，および模擬授業の振り返りを行うことで，授業を客観的にとらえる能力を修得し，授業研究の意義を理解する。 【到達目標】中学校国語科教育の意義を説明できる。 学習指導案を作成することができる。 模擬授業の振り返りを通して，客観的な観点から授業研究ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　文部科学省『中学校学習指導要領解説　国語編』，プリント。 (2)　授業中，適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：中学校国語科の目標と内容 第　2回　中学校学習指導要領 国語編について 第　3回　「話すこと・聞くこと」「書くこと」の目標と内容 第　4回　「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の目標と内容 第　5回　教材研究の方法（1） 第　6回　教材研究の方法（2） 第　7回　学習指導案の作成（1） 第　8回　学習指導案の作成（2） 第　9回　模擬授業の意義 第10回　模擬授業（1） 第11回　模擬授業（2） 第12回　模擬授業（3） 第13回　模擬授業（4） 第14回　教育実習について 第15回　まとめ		
成績評価の方法	学習指導案の作成（50%），模擬授業についてのレポート（50%）		

授業科目	**英語科教育法**	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】未来の英語教師に求められる英語教育指導法の理論について理解を深め、その実践能力を身につける。 【概要】英語教育を理論と実践の両面から捉え、中学校の英語教師にとって必要な知識と技能を身につけることを第一義としています。さらに、外国語教育の指針となる学習指導要領を理解し、実践的なコミュニケーション能力を育成するための英語の授業の構築と効果的な指導方法を模索していきます。また、これらを踏まえた上で、指導案の作成および模擬授業による実践力を習得していきます。 【到達目標】中学校学習指導要領に掲げられている目標と内容を理解する。 中学校の英語教育に必要な知識及び実践的な教育技法を身につける。 指導案を作成する力を養い、教育実習で実際に授業が行えるよう模擬授業を行う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岡秀夫編著　『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』　成美堂 文部科学省　『中学校学習指導要領解説　外国語編』、『小学校学習指導要領解説　外国語活動編』　開隆堂 (2)　参考文献は授業時に随時紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　英語科教育の目的　/　英語の国際化と日本の英語教 第　2回　学習指導要領　/　小学校における外国語活動 第　3回　英語教授法の種類と史的変遷 第　4回　第二言語習得　/　コミュニケーション能力の育成 第　5回　4技能の実践的指導法（1）リスング活動とスピーキング活動 第　6回　4技能の実践的指導法（2）リーディング活動とライティング活動 第　7回　英語教師論　/　学習者論 第　8回　授業展開　（1）教科書と教材研究　/　教材・教具　/　授業公開ビデオ視聴 第　9回　授業展開（2）指導手順　/　公開授業ビデオ視聴 第10回　授業展開（3）学習指導案作成　/　公開授業ビデオ視聴 第11回　授業展開（4）学習指導案作成　/　公開授業ビデオ視聴 第12回　模擬授業（1） 第13回　模擬授業（2） 第14回　模擬授業（3） 第15回　まとめ		
成績評価の方法	リフレクションシート（30%）＋　課題のレポート（30%）＋　学習指導案の作成（20%）＋　模擬授業（20%）		

授業科目	**家庭科教育法**	担当者	冨山裕子
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。 【概要】小学校から高等学校まで連続して家庭科を学ぶという学習者の視点に立った指導を実現するために，中学校における家庭科教育に求められていることを理解し，家庭科教育の意義や家庭科のあゆみ，指導目標と評価，授業計画の実際についても理解する。具体的には，学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容について理解し，学習指導計画に基づいた指導案の作成および模擬授業による授業実践力の習得を目指す。 【到達目標】・家庭科教育の意義が理解できる。 ・学習指導要領の主旨を踏まえた小・中・高等学校における家庭科教育の系統性の大切さが理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　田部井恵美子・内野紀子　外　共著　「家庭科教育」　学文社 (2)　文部科学省　「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」 筒井恭子　編著「中学校　技術・家庭科　家庭分野の授業づくりと評価」　明治図書		
授業スケジュール	第　1回　家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力 第　2回　家庭科教育のあゆみと今日的課題 第　3回　教科教育としての家庭科教育の理念と特徴 第　4回　家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題 第　5回　小・中・高等学校の指導目標と内容 第　6回　小・中・高等学校の家庭科教育の学習指導 第　7回　小・中・高等学校各発達段階における家庭科教育の課題 第　8回　中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容 第　9回　中学校「技術・家庭（家庭分野）」の教材と学習指導計画 第10回　中学校「技術・家庭（家庭分野）」における評価 第11回　中学校「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案作成 第12回　中学校「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）に基づいた授業の展開（模擬授業） 第13回　模擬授業の振り返りと相互評価 第14回　家庭科における学習環境（人的・物的）の整備 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（６０%），提出物（学習指導案２０%，模擬授業についてのレポート２０%）で評価する		

授業科目	**道徳教育の研究**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義	
テーマ及び概要	【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業での指導 【概要】2006年改正された教育基本法の中でも，「自律」や「規範意識」など，「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が，数多くの場面で強調されている。こうした現状について，一方的に指弾するのではなく，状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には，学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる，消費者教育，法教育，シティズンシップ教育，環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。 【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と，道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2)　随時，指示する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 授業のねらいと目標，道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する 第　2回　「道徳教育」とは何か， 道徳教育と道徳の時間の特質，道徳教育の構造や役割について学ぶ 第　3回　道徳の目標及び内容 －道徳性や内容項目，現代社会と「道徳」の関係について理解する 第　4回　「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画，年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第　5回　「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画，指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第　6回　評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第　7回　新たな「道徳教育」の課題 人権教育，法教育，シティズンシップ教育，環境教育，消費者教育など 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（２回程度）30%，試験70%		

※　7.5回

授業科目	**道徳教育論**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　2年（栄養教諭課程履修者） 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義	
テーマ及び概要	【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業での指導 【概要】2006年改正された教育基本法の中でも，「自律」や「規範意識」など，「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が，数多くの場面で強調されている。こうした現状について，一方的に指弾するのではなく，状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には，学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方，目標，内容，指導計画，授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる，消費者教育，法教育，シティズンシップ教育，環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。 【到達目標】栄養教諭として必要な道徳教育に関する基本的な知識を習得すること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『小学校学習指導要領解説　道徳編』『中学校学習指導要領解説　道徳編』文部科学省 (2)　)随時，指示する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 授業のねらいと目標，道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する 第　2回　「道徳教育」とは何か， 道徳教育と道徳の時間の特質，道徳教育の構造や役割について学ぶ 第　3回　道徳の目標及び内容 －道徳性や内容項目，現代社会と「道徳」の関係について理解する 第　4回　「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画，年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第　5回　「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画，指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第　6回　評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第　7回　新たな「道徳教育」の課題 人権教育，法教育，シティズンシップ教育，環境教育，消費者教育など 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（２回程度）30%，試験70%		

※　7.5回

授業科目	**特別活動の研究**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修（注）　〔授業形態〕　講義
テーマ及び概要	【テーマ】中学校における「特別活動」の理解 【概要】入学式，全校朝礼，運動会などさまざまな「学校行事」，学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」，生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」，これらによって構成されるのが，「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が，諸外国の学校に比して，量的にも質的にも「充実」していることが，歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり，今日でもその占める位置は大きい。本講義では，新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し，その歴史，国際比較，近年の動向などを取り上げて，特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて，受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが，随時グループ討議などを加えていきたい。 【到達目標】中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　文科省 『中学校学習指導要領解説　特別活動編』 (2)		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス－授業のねらいと目標 第　2回　「特別活動」とは何か 第　3回　「学級活動」の目標と内容 第　4回　「生徒会活動」の目標と内容 第　5回　「学校行事」の目標と内容 第　6回　「特別活動」の現代的な意義 第　7回　「体験的活動」「キャリア教育」など 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）および，最後のレポート等を総合して評価する。		

※　7.5回

授業科目	**特別活動論**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　2年（栄養教諭課程履修者） 〔単位〕　1単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修（注）　〔授業形態〕　講義
テーマ及び概要	【テーマ】小・中学校における「特別活動」の理解 【概要】学式，全校朝礼，運動会などさまざまな「学校行事」，学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」，生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」，これらによって構成されるのが，「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が，諸外国の学校に比して，量的にも質的にも「充実」していることが，歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり，今日でもその占める位置は大きい。本講義では，新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し，その歴史，国際比較，近年の動向などを取り上げて，特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて，受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが，随時グループ討議などを加えていきたい。 【到達目標】小・中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『小学校学習指導要領解説　特別活動編』 『中学校学習指導要領解説　特別活動編』文科省 (2)　授業において紹介する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス－授業のねらいと目標 第　2回　「特別活動」とは何か 第　3回　「学級活動」の目標と内容 第　4回　「生徒会活動」の目標と内容 第　5回　「学校行事」の目標と内容 第　6回　「特別活動」の現代的な意義 第　7回　「体験的活動」「キャリア教育」など 第　8回　まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）および，最後のレポート等を総合して評価する。		

※ 7.5回

授業科目	**教育方法学概論**	担当者	未定
	〔履修年次〕 〔単位〕	〔学期〕 〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回 第　2回 第　3回 第　4回 第　5回 第　6回 第　7回 第　8回 第　9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	**教育相談**	担当者	石川満佐育
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　1単位	〔学期〕　前期 〔必修／選択〕　必修（注）	〔授業形態〕　講義形式
テーマ及び概要	【テーマ&概要】童生徒の不適応等は多様化しており，いじめ，不登校，暴力行為をはじめとした問題行動，児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では，教師という立場から援助者として生徒に関わるうえで必要となる知識やスキル等を，「カウンセリング心理学」，「発達臨床心理学」，「学校心理学」の観点から学ぶ。 【到達目標】①教育相談について学校現場で必要な知識を習得する。 ②相手と状況に応じて，どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎時プリントによる資料を配布します。 (2)　参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション・教育相談とは？ 第　2回　オリエンテーション・教育相談とは？ 第　3回　教育相談の必要性と重要性 第　4回　校内支援体制①：役割について 第　5回　校内支援体制②：連携について 第　6回　生徒理解の方法①：アセスメントについて 第　7回　生徒理解の方法②：アセスメントの実際 第　8回　教師に求められるカウンセリング理論 第　9回　教師が行うカウンセリング技法Ⅰ 第10回　教師が行うカウンセリング技法Ⅱ 第11回　心理教育プログラム 第12回　教育相談の実際①：不登校のケース 第13回　教育相談の実際②：いじめのケース 第14回　教育相談の実際③：発達障害のケース 第15回　まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋リアクションペーパー（30%）		

授業科目	**生徒指導論**	担当者	石川満佐育
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 講義形式	
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており，いじめ，不登校，暴力行為をはじめとした問題行動，児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では，不適応を起こしている生徒，支援が必要な生徒の実態を理解し，そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。 【到達目標】①生徒指導上の「問題」の背景を多面的，多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて，どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション・生徒指導とは? 第 2回 学校心理学的アプローチ 第 3回 教師と児童生徒の関係 第 4回 児童生徒の仲間関係 第 5回 児童生徒における諸問題①：不登校 第 6回 児童生徒における諸問題②：いじめ 第 7回 児童生徒における諸問題③：暴力 第 8回 児童生徒における諸問題④：学校ストレス 第 9回 心理教育①：ソーシャルスキルトレーニング 第10回 心理教育②：構成的グループエンカウンター 第11回 特別支援教育① 第12回 特別支援教育② 第13回 進路指導について① 第14回 進路指導について② 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋リアクションペーパー（30%）		

授業科目	**生徒指導原論**	担当者	石川満佐育
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 後期 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 講義形式	
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており，いじめ，不登校，暴力行為をはじめとした問題行動，児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では，不適応を起こしている生徒，支援が必要な生徒の実態を理解し，そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。 【概要】 【到達目標】①生徒指導上の「問題」の背景を多面的，多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて，どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション・生徒指導とは？（学校心理学的アプローチ） 第 2回 教師と生徒との関係・教師と児童生徒の関係 第 3回 児童生徒の仲間関係 第 4回 児童生徒における諸問題①：不登校 第 5回 児童生徒における諸問題②：いじめ・暴力 第 6回 特別支援教育 第 7回 進路指導について 第 8回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋リアクションペーパー（30%）		

※ 7.5回

授業科目	**教職実践演習（中学校教諭）**	担当者	田口康明，石川満佐育，竹本寛秋，土持かおり 坂上ちえ子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習	
テーマ及び概要	【テーマ】教職課程の授業科目の履修や，介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，教師になるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。 【到達目標】①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており，子どもの状況に応じて，授業計画や学習形態等を工夫することができる。 授業の概要：　短大の２年間で学んだ教職に関する知識と，教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際，使命感や責任感，教育的な愛情など，教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するともに，社会性や対人関係能力，幼児児童生徒理解や学級経営力，教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し，教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。すべての回について，教職課程専任教員が中心になって行う。ただし，第 11 回と第 14 回は教科に関する教員が中心になって行う。		
⑴テキスト ⑵参考文献	⑴　視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 ⑵　学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　１回　[ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明，履修カルテの活用の説明を行う。 第　２回　[イントロダクション]2 年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第　３回　[ロールプレイ(１)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第　４回　[ロールプレイ(２)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第　５回　[グループ討論（１）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。 第　６回　[教育委員会から講師を招いての講演]　教育現場で求められている，子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。 第　７回　[振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第　８回　[グループ討論（２）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。 第　９回　[学校見学]（11 月中旬を予定。ただし，この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。）教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第 10 回　[グループ討論（３）]学校見学についての省察 第 11 回　[模擬授業（１）]　教科に関する科目担当教員による指導の下，教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第 12 回　[模擬授業（２）]　教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第 13 回　[模擬授業（３）]　道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第 14 回　[グループ討論（４）]　教科に関する科目担当教員による指導の下，教科等の指導の重点について討論活動を行い，授業計画や学習形態の工夫を定着させる。 第 15 回　[レポートの作成と発表]　テーマ「これからの教師に求められること」を発表する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	**教職実践演習（栄養教諭）**	担当者	町田和恵・木場幸子・田口康明・石川満佐育
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】教職課程の授業科目の履修や，栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，栄養教諭となるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。 【概要】①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて，児童生徒の状況に応じて，学習活動，体験活動等を工夫することができる。 【到達目標】短大の２年間で学んだ栄養管理並びに教職に関する知識と，教育実習などで獲得した給食管理と食育指導などの実践体験を統合する。その際，使命感や責任感，教育的な愛情など，栄養教諭として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するともに，社会性や対人関係能力，幼児児童生徒理解や学級経営力，教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し，教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。すべての回について，教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし，第 11 回と第 14 回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。		
⑴テキスト ⑵参考文献	⑴　文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』，文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） ⑵　適宜紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　[ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明。 第　2回　[イントロダクション]2 年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第　3回　[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第　4回　[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第　5回　[グループ討論（1）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。 第　6回　[教育委員会から講師を招いての講演]　教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎，生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし，時期は未定。 第　7回　[振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第　8回　[グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。 第　9回　[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。時間は 8:20～12:50 までを予定している。 第 10 回　[グループ討論（3）]学校見学についての省察を行う。 第 11 回　[模擬授業（1）]教室の場面を想定した食育の指導に関する実践的な指導力を身につける。 第 12 回　[模擬授業（2）] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第 13 回　[模擬授業（3）]　道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第 14 回　[グループ討論（4）]　給食の時間における食に関する指導の重点について，模擬授業や討論活動を行い，学習形態の工夫を定着させる。 第 15 回　[レポートの作成と発表]　テーマ「これからの栄養教諭に求められること」を発表。		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	**教育実習（事前・事後指導を含む）**	担当者	田口康明	
	〔履修年次〕　2年 〔単位〕　5単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修	〔授業形態〕　実習
テーマ及び概要	【テーマ】中学校における教育実習 【概要】教育実習は，教員免許状を取得するための必修科目であり，単なる体験ではなく，大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用，実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は，「目の前」に生徒のいない学習であったが，実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や，先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい，という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ，教育への愛着，生徒たちとの相互理解があってこそ，はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では，教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し，実習に臨み，実習後は，実習体験から得られた多くの事柄を定着させ，社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。 【到達目標】事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し，実際に教育実習を行い，事後においては，実習において習得した知識技能を定着させる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2)　学習指導案資料など適宜紹介する。			
授業スケジュール	事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし，適宜講義を加える。 第　1回　教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性 第　2回　教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。 第　3回　模擬授業（1） 第　4回　模擬授業（2） 第　5回　模擬授業（3） 第　6回　教育実習に関わる実務について 第　7回　教育実習の反省と総括，　採用試験に向けて 教育実習：中学校という教育現場の協力を得て３週間の実習活動を行う。 この他，「人権教育」に関する講演会を事前又は事後に実施。			
成績評価の方法	実習先の評価，実習日誌，事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上，遅刻，欠席は原則として一切認めない。			

授業科目	**栄養教育実習**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期集中 必修　〔授業形態〕　実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】　教育現場において求められている栄養教育実践力 【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を学校給食を生きた教材として有効に活用することなどによって，子どもに正しい食習慣を身につけさせる指導と，給食の栄養や衛生の管理を柱とした職務内容を学習することを目的とし，実践の教育現場での授業技術や生徒理解の方法について直接的，体験的に学習する。 【到達目標】学校教育全般の組織・運営を理解し，栄養教諭職務の全体像を把握する。また，栄養教諭としての基礎的能力の修得をめざし，作成した学習指導案に基づいて授業を行い，食に関する実践的な指導力を身につけるとともに，児童・生徒の理解，定着度を評価する力を培う。		
(1)テキスト (2)参考文献 授業スケジュール	(1)　プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2)　文部科学省「食生活学習教材」 各施設により異なる １，指導教諭等からの説明 ・学校経営 ・校務分掌の理解 ・服務　等 ２，児童及び生徒への個別的相談，指導の実習 ・指導，相談の場の参観，補助　等 ３，児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・学級活動及び給食の時間における指導の参観，補助 ・教科等における教科担任等と連携した指導の参観，補助 ・給食放送指導，配膳指導，後片付け指導の参観，補助 ・児童生徒会，委員会活動，クラブ活動における指導の参観，補助 ・指導計画案，指導案の立案作成，教材研究　等 ４，食に関する指導の連携・調整の実習 ・校内における連携・調整（学級担任，研究授業の企画立案，校内研修等）の参観，補助 ・家庭・地域との連携・調整の参観，補助　等 ５，学校給食の管理を一体的に担う方法		
成績評価の方法	実習先評価（60%）＋実習ノート・実習への取り組み態度（40%）		

授業科目	**栄養教育実習の事前事後の指導**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　１単位	〔学期〕 〔必修／選択〕	前期 必修　〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。 【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく，指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために，栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として，実習の事前事後の指導を行う。 【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能，及び実習後の反省と総括，今後に向けての展望を持つことをねらいとする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2)　文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	第　１回　栄養教育実習のオリエンテーション　意義や目的，心構えなど 第　２回　実習の評価の方法，実習後の提出物（実習ノート，学習指導案など），実習中の短大との連絡方法などの指導 第　３回　指導計画案，指導案の立案作成，教材研究 第　４回　模擬授業の実施（１） 第　５回　模擬授業の実施（２） 第　６回　栄養教育実習の報告・発表（１）　栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第　７回　栄養教育実習の報告・発表（２）　栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第　８回　相互評価，実習の反省，問題点の整理，今後の課題		
成績評価の方法	発表・提出物（80%）＋取り組み態度（20%） 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。		

※ 7.5 回

２０　司書教諭に関する科目

授業科目	**学校経営と学校図書館**	担当者	岩下雅子
	〔履修年次〕　１年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】従来の学校図書館から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する 【概要】学校図書館はいつ頃、どのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのでしょう。現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域と積極的に相互協力・連携するようになったのはなぜでしょう。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。 【到達目標】 学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第　１回　学校図書館の理念と教育的意義、 第　２回　世界・日本の学校図書館史 第　３回　鹿児県の学校図書館史 第　４回　鹿児島県の学校図書館の現状 第　５回　学校図書館法 第　６回　学校経営の中の学校図書館 第　７回　学校図書館の運営（１）－小学校の事例を中心に 第　８回　学校図書館の運営（２）－中学校の事例を中心に 第　９回　学校図書館の運営（３）－高校の事例を中心に 第 10 回　学校図書館とネットワーク（１）　ＰＴＡ、地域との連携 第 11 回　学校図書館とネットワーク（２）公共図書館との連携 第 12 回　学校図書館の施設・設備 第 13 回　学校図書館をデザインする 第 14 回　学校図書館と司教諭の役割 第 15 回　学校図書館の課題と展望		
成績評価の方法	筆記試験（７０％）授業ごとに実施するレポート（３０％）		

（注）

授業科目	**学習指導と学校図書館**	担当者	岩下雅子
	〔履修年次〕　１・２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 学校図書館が「授業の展開に寄与する」（学校図書館法）とはどういうことだろう 【概要】多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業（教科指導）にとどまらず、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館を理解する。 【到達目標】 学習指導（授業）と学校図書館をうまくコーディネイトするために、司書教諭が果たす役割を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　堀川照代「学習指導と学校図書館」ＮＨＫ出版		
授業スケジュール	第　１回　教育課程と学校図書館 第　２回　学校図書館利用指導 第　３回　小学校における学校図書館と学習指導（１） 第　４回　小学校における学校図書館と学習指導（２） 第　５回　小学校における学校図書館と学習指導（３） 第　６回　中学校における学校図書館と学習指導（１） 第　７回　中学校における学校図書館と学習指導（２） 第　８回　中学校における学校図書館と学習指導（３） 第　９回　高校における学校図書館と学習指導（１） 第 10 回　高校における学校図書館と学習指導（２） 第 11 回　高校における学校図書館と学習指導（３） 第 12 回　パスファインダーを作成しよう（１） 第 13 回　パスファインダーを作成しよう（２） 第 14 回　学校図書館における情報リテラシー教育 第 15 回　学習・教育活動を支援する情報サービス		
成績評価の方法	筆記試験７０％　授業ごとに実施するレポート３０％		

授業科目	**読書と豊かな人間性**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。 【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。受講生は、積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにすること。 【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。 児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。 様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトーク、アニマシオンなど）の方法を知る。 自分のこれまでの読書活動について振り返る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布 (2)　小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニマシオン」全国学校図書館協議会、村中李衣「絵本の読みあいからみえてくるもの」ぶどう社　その他は授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　子どもと読書：読書教育とは 第　2回　本と出版：本が読者に届くまで 第　3回　子どもの本（1）：絵本・児童文学・伝記・まんが 第　4回　子どもの本（2）：古典に親しむ 第　5回　学校図書館と読書（1）：図書館の役割 第　6回　学校図書館と読書（2）：読書活動 第　7回　読書活動（1）：読書案内 第　8回　読書活動（2）：読み聞かせと読みあい 第　9回　読書活動（3）：ストーリーテリング 第10回　読書活動（4）：ブックトーク 第11回　読書活動（5）：アニマシオン 第12回　読書の記録と交流：読書感想文・感想画、読書会など 第13回　大人と読書：生涯学習・サークル活動 第14回　実演（1）：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニマシオンなど 第15回　実演（2）：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニマシオンなど		
成績評価の方法	課題提出（50%）と、授業第14回、15回での実演（50%）		

授業科目	**情報メディアの活用**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　２年 〔単位〕　２単位	〔学期〕　後期 〔必修／選択〕	〔授業形態〕　講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。 【概要】テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。 【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。 学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。 (2)　なし		
授業スケジュール	第　1回　高度情報化社会と人間　：情報化社会と司書教諭の役割 第　2回　情報メディアの歴史的変遷 第　3回　学校教育と情報メディア 第　4回　情報メディアの種類と特性 第　5回　情報メディアの選択　：状況に応じた選択の必要と留意点 第　6回　視聴覚メディアの活用 第　7回　情報メディアの活用１：コンピュータの活用と運用 第　8回　教育メディアの活用２：教育用ソフトウェアの活用 第　9回　情報メディアの活用３：データベースと情報検索 第10回　情報メディアの活用４：インターネットと情報検索 第11回　情報メディアの活用５：インターネットによる情報発信 第12回　情報セキュリティ 第13回　ネットワーク環境と学校教育 第14回　学校図書館メディアと著作権 第15回　まとめ：情報メディア活用の課題と将来		
成績評価の方法	毎回の授業での課題（40%）、期末試験（60%）		